令和８年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調　査　報　告　書

長　野　市

目　次

Ⅰ　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
　１　調査の目的
　２　調査の対象
　３　抽出方法
　４　調査の方法
　５　調査時期
　６　送付・回収状況
　７　調査事項
　８　調査票の集計
　　報告書の見方

Ⅱ　回答者の属性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

Ⅲ　結果の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

Ⅳ　調査の結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
　一般的なこと　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　職場における「女性活躍と就労」に関することについて　・・・・・・５７
　仕事と生活の調和に関することについて　・・・・・・・・・・・・・１１５
　地域社会に関することについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・１４９
　男女の人権に関することについて　・・・・・・・・・・・・・・・・１５９
　「健康」に関することについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・１７１
　男女共同参画施策に関することについて　・・・・・・・・・・・・・１７７

資　　料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８１

　　単純集計　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８３
　　調 査 票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０９

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

市民の男女共同参画・女性活躍等の推進に関する意識と実態を統計的手法によって把握・分析し、長野市の男女共同参画施策の基礎資料を得るとともに、今後の施策に反映することを目的とする。

２　調査の対象

令和８年５月１日現在で長野市に在住する 18 歳以上 75 歳未満の男女各 1,000 人
（計：2,000 人）

３　抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

４　調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒（料金受取人払）により調査票を返送してもらう郵送調査法による（調査票は別紙のとおり）。

５　調査時期

令和８年６月１日（月）　～　令和８年６月３０日（火）

６　送付・回収状況

送付数：2,000 票
回収数：　695 票　（回収率：34.8%）
【男性票：　290 票、女性票：　391 票　性別無回答他：　14 票】

７　調査事項

●　回答者の属性
Ｆ１性別　Ｆ２年齢　Ｆ３職業　Ｆ４家族　Ｆ５配偶者の有無
Ｆ６子の有無　Ｆ７配偶者またはパートナーの就業の有無
（１）一般的な質問
（２）職場における女性活躍と就労に関する質問
（３）仕事と生活の調和に関する質問
（４）地域社会に関する質問
（５）男女の人権に関する質問
（６）健康に関する質問
（７）男女共同参画施策に関する質問
（８）自由記入

８　調査票の集計

電子計算機による集計（委託）

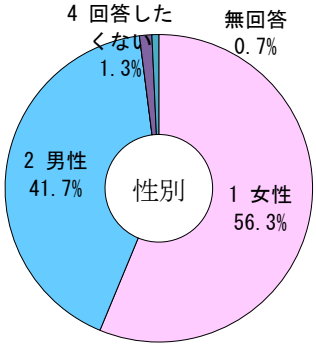
報告書の見方

①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表記している。従って、内訳を合計しても 100%に合致しない場合がある。
②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を上回る場合がある。
③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。

Ⅱ　回答者の属性

Ｆ１　性別

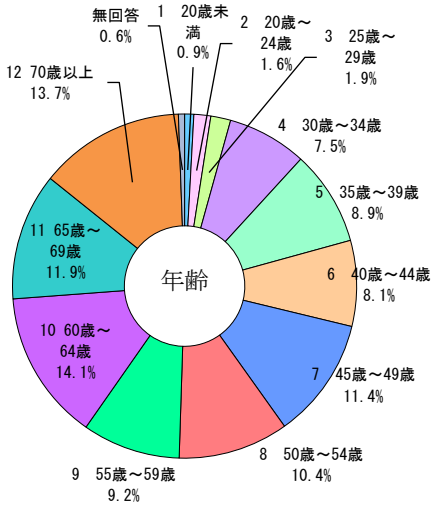
	回答者数（人）	割合（%）
1 女性	391	56.3%
2 男性	290	41.7%
3 その他	0	0.0%
4 回答したくない	9	1.3%
無回答	5	0.7%
合計	695	100.0%



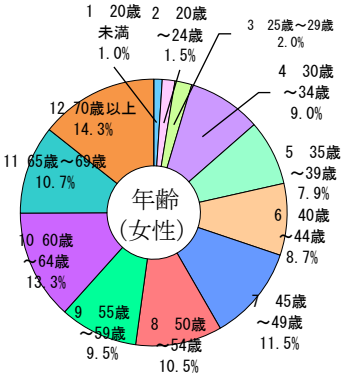
Ｆ２　年齢

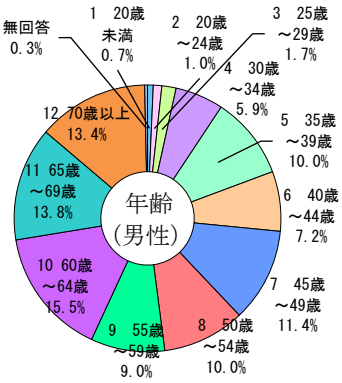
	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	回答したくない	全体	女性	男性	回答したくない
1　20歳未満	6	4	2	0	0.9	1.0	0.7	0.0
2　20歳～24歳	11	6	3	2	1.6	1.5	1.0	22.2
3　25歳～29歳	13	8	5	0	1.9	2.0	1.7	0.0
4　30歳～34歳	52	35	17	0	7.5	9.0	5.9	0.0
5　35歳～39歳	62	31	29	2	8.9	7.9	10.0	22.2
6　40歳～44歳	56	34	21	1	8.1	8.7	7.2	11.1
7　45歳～49歳	79	45	33	1	11.4	11.5	11.4	11.1
8　50歳～54歳	72	41	29	2	10.4	10.5	10.0	22.2
9　55歳～59歳	64	37	26	0	9.2	9.5	9.0	0.0
10　60歳～64歳	98	52	45	0	14.1	13.3	15.5	0.0
11　65歳～69歳	83	42	40	1	11.9	10.7	13.8	11.1
12　70歳以上	95	56	39	0	13.7	14.3	13.4	0.0
無回答	4	0	1	0	0.6	0.0	0.3	0.0
合計	695	391	290	9	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



【男女別】

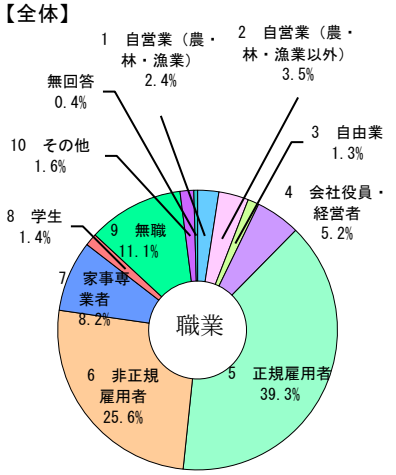




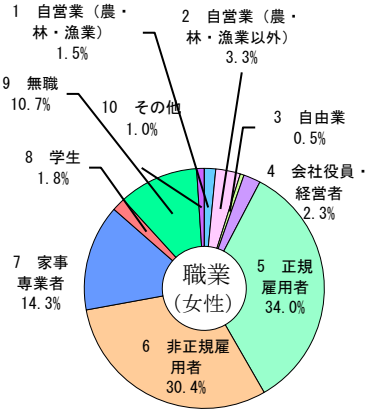
Ｆ３　職業

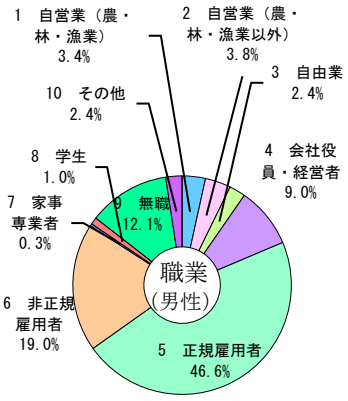
	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	回答したくない	全体	女性	男性	回答したくない
1　自営業（農・林・漁業）	17	6	10	1	2.4	1.5	3.4	11.1
2　自営業（農・林・漁業以外）	24	13	11	0	3.5	3.3	3.8	0.0
3　自由業	9	2	7	0	1.3	0.5	2.4	0.0
4　会社役員・経営者	36	9	26	1	5.2	2.3	9.0	11.1
5　正規雇用者	273	133	135	4	39.3	34.0	46.6	44.4
6　非正規雇用者	178	119	55	3	25.6	30.4	19.0	33.3
7　家事専業者	57	56	1	0	8.2	14.3	0.3	0.0
8　学生	10	7	3	0	1.4	1.8	1.0	0.0
9　無職	77	42	35	0	11.1	10.7	12.1	0.0
10 その他	11	4	7	0	1.6	1.0	2.4	0.0
無回答	3	0	0	0	0.4	0.0	0.0	0.0
合計	695	391	290	9	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

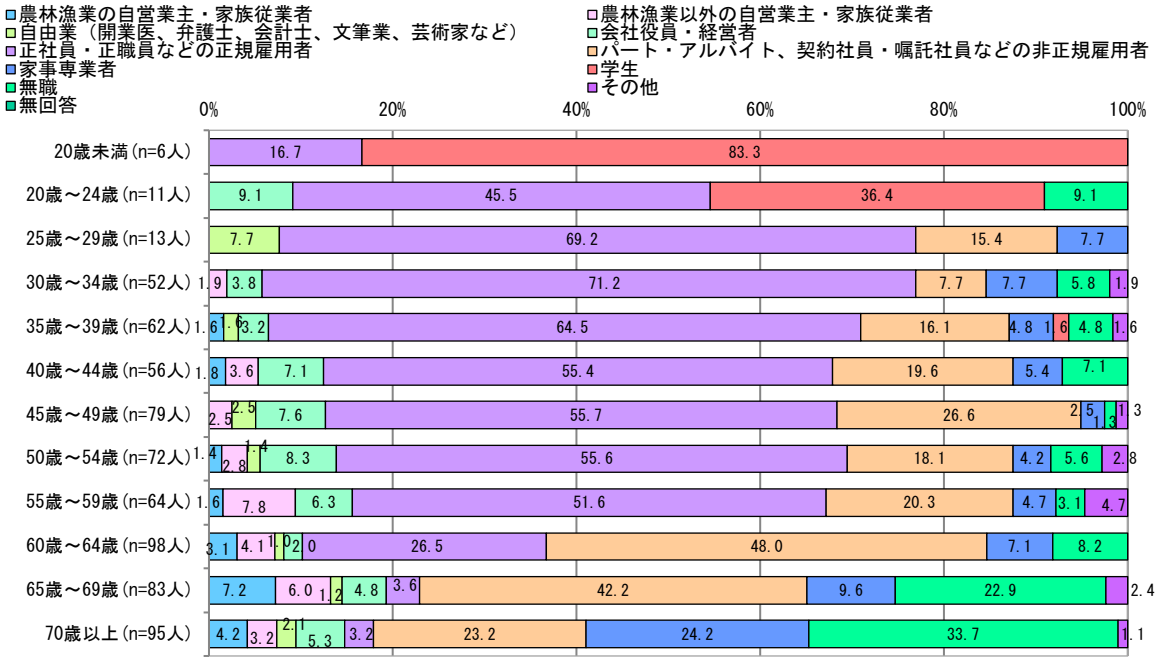


【男女別】





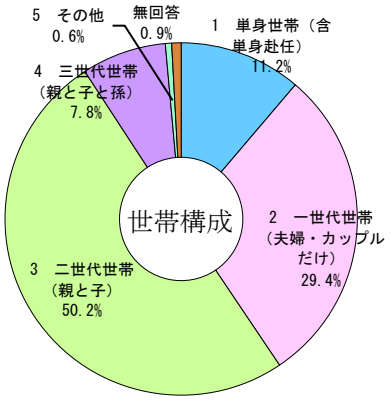
【年代別】



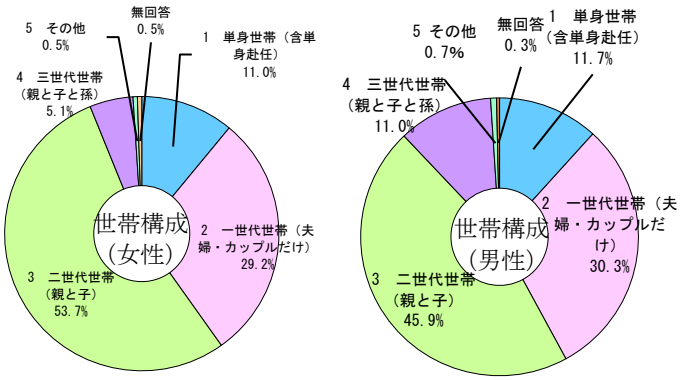
Ｆ４　あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。（○は１つ）

	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	回答したくない	全体	女性	男性	回答したくない
1　単身世帯（含単身赴任）	78	43	34	1	11.2	11.0	11.7	11.1
2　一世代世帯（夫婦・カップルだけ）	204	114	88	1	29.4	29.2	30.3	11.1
3　二世代世帯（親と子）	349	210	133	5	50.2	53.7	45.9	55.6
4　三世代世帯（親と子と孫）	54	20	32	2	7.8	5.1	11.0	22.2
5　その他	4	2	2	0	0.6	0.5	0.7	0.0
無回答	6	2	1	0	0.9	0.5	0.3	0.0
合計	695	391	290	9	100.0	100.0	100.0	100.0

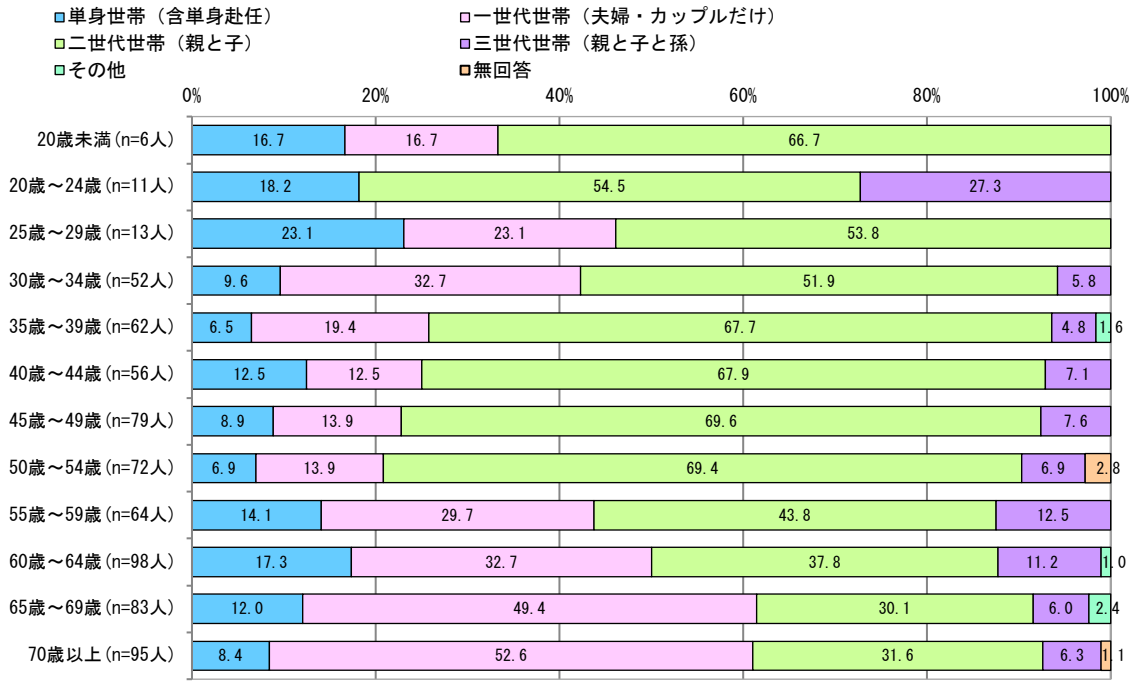
【全体】



【男女別】



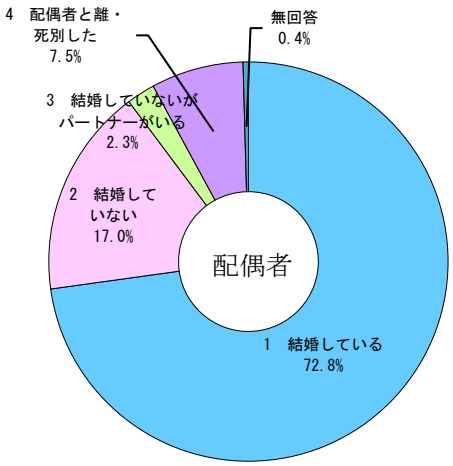
【年代別】



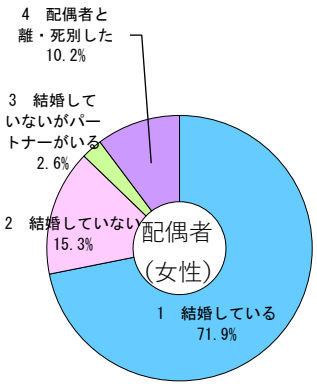
Ｆ５　あなたは現在、結婚していますか。（○は１つ）

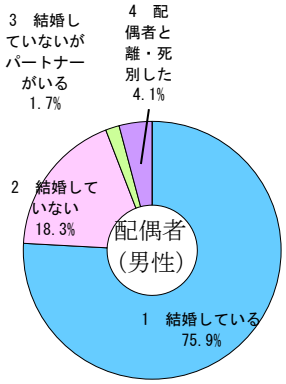
	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	回答したくない	全体	女性	男性	回答したくない
1　結婚している	506	281	220	3	72.8	71.9	75.9	33.3
2　結婚していない	118	60	53	5	17.0	15.3	18.3	55.6
3　結婚していないがパートナーがいる	16	10	5	1	2.3	2.6	1.7	11.1
4　配偶者と離・死別した	52	40	12	0	7.5	10.2	4.1	0.0
無回答	3	0	0	0	0.4	0.0	0.0	0.0
合計	695	391	290	9	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

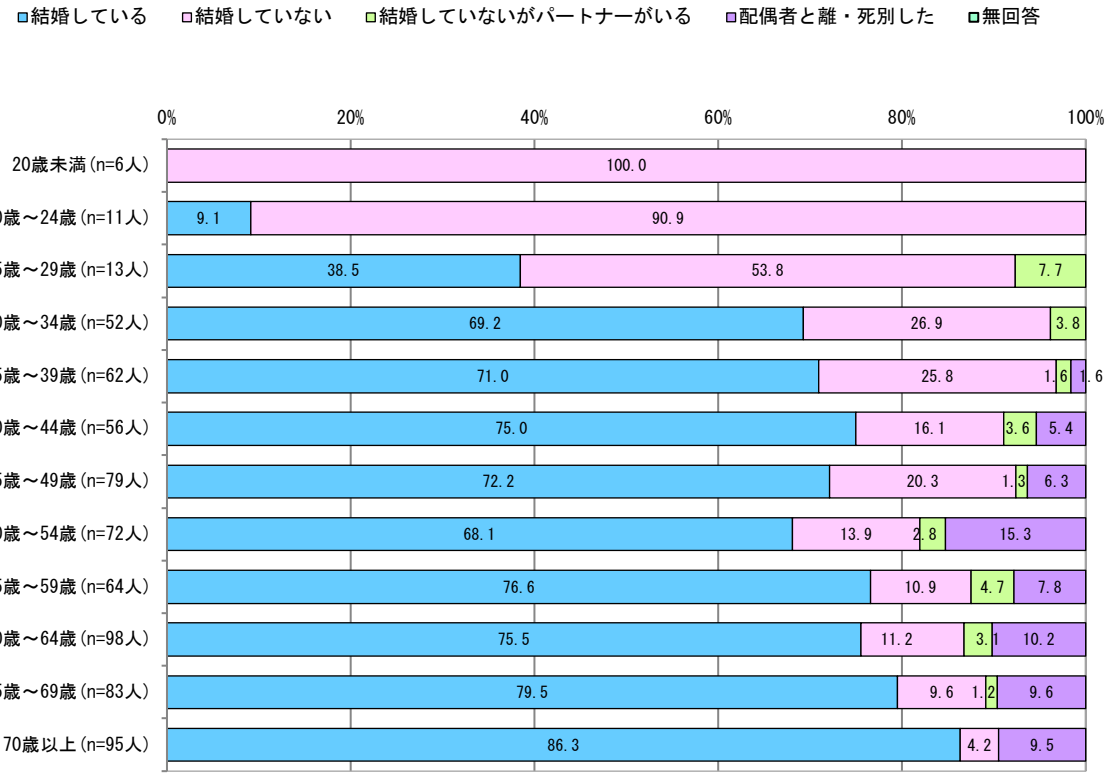


【男女別】





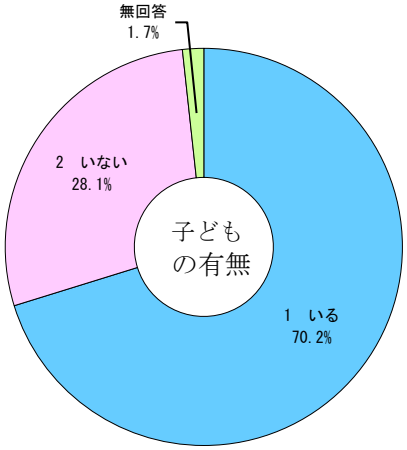
【年代別】



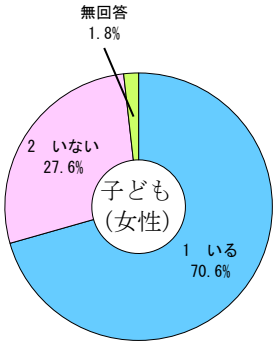
Ｆ６　あなたにお子さんはいらっしゃいますか。（○は１つ）

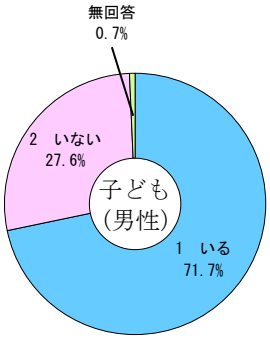
	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	回答したくない	全体	女性	男性	回答したくない
1　いる	488	276	208	3	70.2	70.6	71.7	33.3
2　いない	195	108	80	6	28.1	27.6	27.6	66.7
3　無回答	12	7	2	0	1.7	1.8	0.7	0.0
合計	695	391	290	9	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

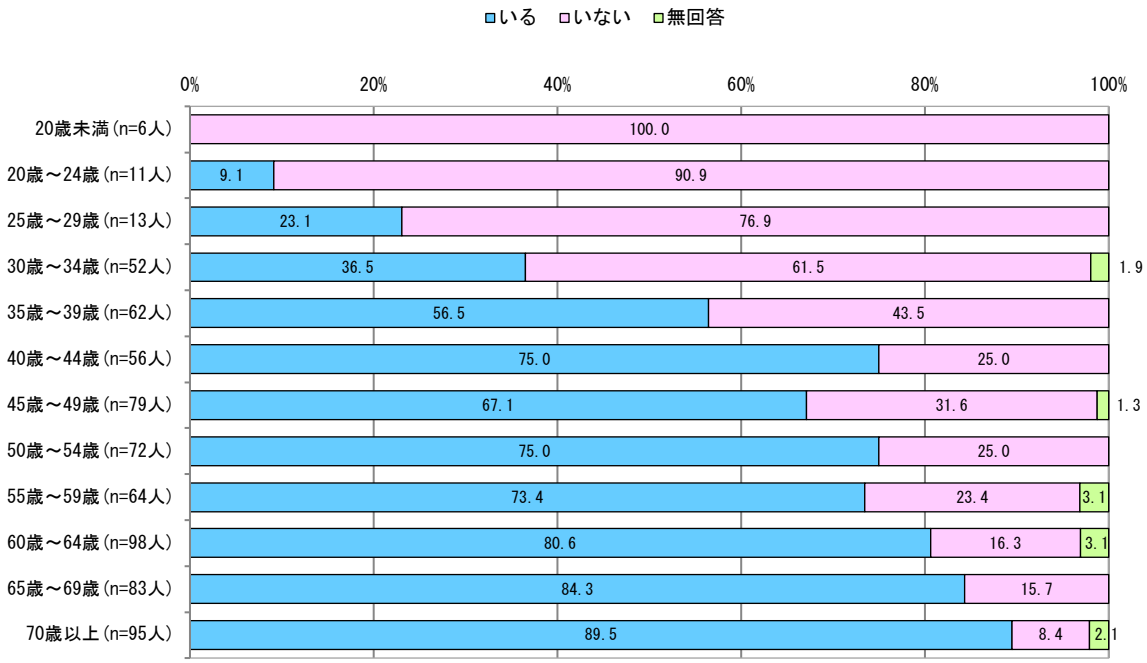


【男女別】





【年代別】

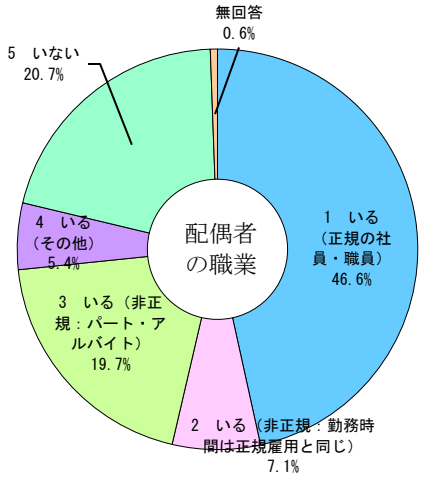


結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

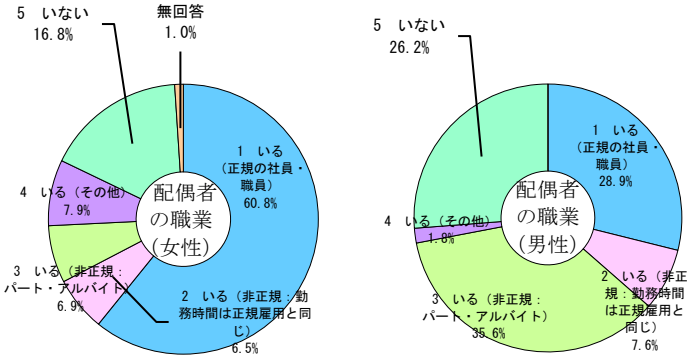
Ｆ７　配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。（○は１つ）

	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	回答したくない	全体	女性	男性	回答したくない
1　いる（正規の社員・職員）	243	177	65	1	46.6	60.8	28.9	25.0
2　いる（非正規：勤務時間は正規雇用と同じ）	37	19	17	1	7.1	6.5	7.6	25.0
3　いる（非正規：パート・アルバイト）	103	20	80	1	19.7	6.9	35.6	25.0
4　いる（その他）	28	23	4	1	5.4	7.9	1.8	25.0
5　いない	108	49	59	0	20.7	16.8	26.2	0.0
無回答	3	3	0	0	0.6	1.0	0.0	0.0
合計	522	291	225	4	100.0	100.0	100.0	100.0

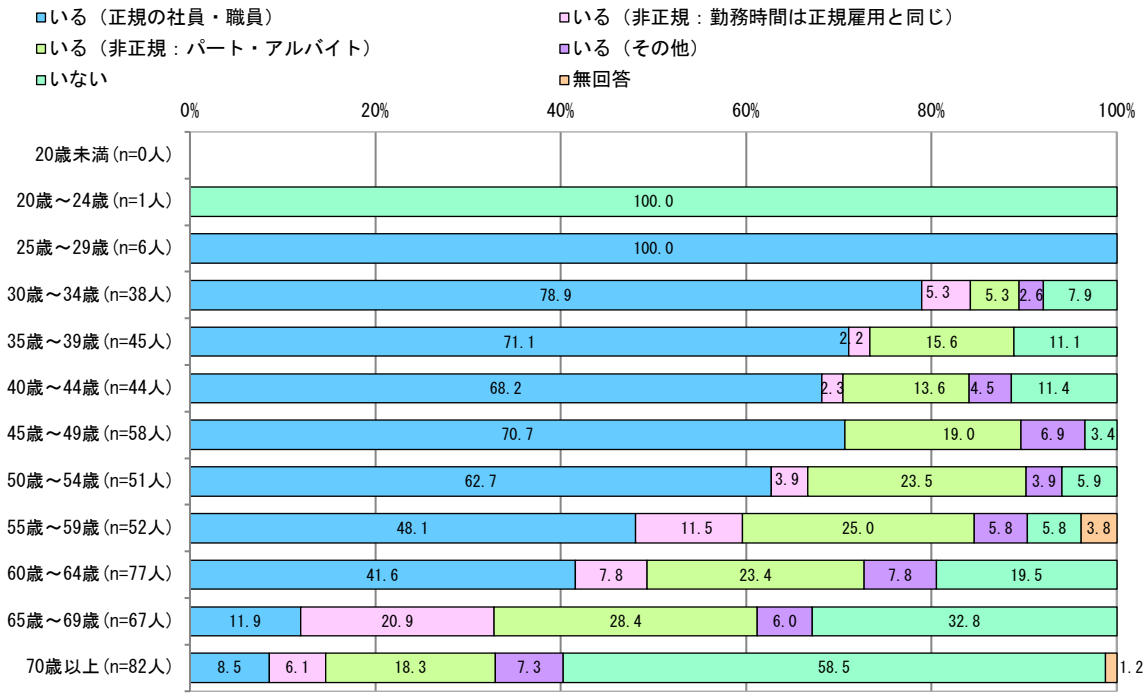
【全体】



【男女別】



【年代別】



Ⅲ　結果の概要

１　一般的なこと

（１）社会における男女の扱いについて

「家庭生活」、「学校教育の場」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度の上」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」、「社会全体」の８つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」（58.8％）の１分野であった。それ以外の分野では「非常に男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（以下「男性の方が優遇されている」と表記）という回答割合の合計が最も多くなっている。特に「社会通念・慣習・しきたり」では、「男性の方が優遇」という回答割合の合計が75.6％となっている。

分野別でみると、「家庭生活」においては、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、女性が 65.5％に対し、男性が 36.9％となり、男女の意識に差がある。同様に、「法律や制度の上」においても、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、女性は51.9％なのに対し、男性が 29.7％となっている。また、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」、「社会全体」といった分野でも、「男性の方が優遇」という回答割合の合計が多く、男女とも約５割～８割となっている。

（２）男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画」に関する７つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「ジェンダー」（94.5％）、「DV 防止法」（92.4％）、「男女共同参画社会基本法」（77.1％）となっている。また、「女性活躍推進法」（64.8％）、「長野市男女共同参画推進条例」（51.7％）も、５割以上となっている。それ以外の４つの用語の認知度は、４割を下回っている。

（３）固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は 15.4％、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は 72.9％となっている。前年に比べ、前者は 0.1 ポイント増加し、後者は 2.3 ポイント減少した。平成 22 年調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答割合の合計が、半数を上回っている。性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、女性が 79.5％、男性が 64.5％となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。

（４）「女らしさ・男らしさ」などを言われたり、期待されることについて

「たまにある」という回答が、男女とも５割を超えている。20 歳～24 歳の女性、25 歳～29 歳の男性、55 歳～59 歳の男性で、「よくある」、「たまにある」の回答割合の合計が８割以上となっている。

言われる場としては、「家庭」、「職場」、「地域・近隣」、「親族関係」がそれぞれ４割以上となる。男性では、「職場」、「地域・近隣」、女性では「家庭」、「親族関係」が多い傾向にある。内容としては、「家事・育児・介護」、「行動の仕方」、「働き方や仕事内容」が４割以上となっている。

（５）女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が約５割と、最も多くなっている。世代別性別でみても同じ傾向となっている。しかしながら、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という回答が、女性は 14.3％だが、男性は 22.4％と、8.1 ポイントの差が生じている。

２　職場における「女性活躍と就労」に関することについて

（１）方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性に関しては、「必要だと思う」という回答が 63.0%と最も多い回答となっており、男女ともに 60%を超えている。また、「必要ないと思う」という回答は 3.2%となっている。

（２）職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の５つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」に関しては、「非常に男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（以下「男性の方が優遇されている」と表記）という回答割合の合計は、45%となっている。「仕事の内容」に関しては、「女性の方が優遇されている」という回答割合の合計は全体では 13.2%だが、男性では 19.9%、女性では 7.3%となっている。

（３）就労意識について

職業に就いている方に今の職場について尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が 20%を超えるのは、「女性も管理職として活躍している」（27.2%）、「あなた自身は活躍したい」（26.3%）、「女性が社会で働くには不利な点が多い」（21.4%）、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」（21.2%）の４分野であった。「思わない」と考えている割合が 30%を超えるのは、「女性の管理職の部下には、なりたくない」（53.5%）、「退職して仕事に就かない」（42.5%）、「管理職への打診があれば受けてみたい」（33.0%）の３分野であった。

（４）職場における女性の雇用や登用の推進について

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が 40%を超えるのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」（56.2%）、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」（49.6%）、「女性特有の健康課題への配慮」（49.1%）、「企業内託児所や学童保育所などの設置」（46.2%）の４分野であった。

（５）再就職について

離職されている方に、再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」という回答が最も多くなっている。が、女性は 46.9%、男性は 25.0%であり、また「正規の社員・職員」の希望は男性は 22.2%であるのに対し、女性は 7.1%となっている。

「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」、「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」を回答した理由を尋ねたところ、女性は、「仕事より家庭生活を優先したいから」、男性は、「積極的に仕事に就くつもりがないから」が最も多い回答となっている。

（６）離職の原因（理由）について

離職の原因（理由）について尋ねたところ、「出産」という回答が全体で 26.1%、「結婚」が 24.9%となっているが、「出産」では男性が 4.9%なのに対し、女性は 35.6%、「結婚」では男性が 4.1%なのに対し、女性は 33.8%となり、性別により差がある。

（７）女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（81.9%）という回答が最も多くなっており、次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（53.2%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（36.7%）となっている。

女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「家族の理解や協力」（39.9%）が最も多い回答となっており、次いで、「育児・介護に関する制度の充実」（37.6%）、「職場の理解や協力」（36.8%）、「働き方改革の推進」（30.8%）と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」（82.2%）が最も多い回答となっており、次いで、「保育所などの保育施設の充実」（59.0%）、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」（53.5%）と続いている。

3　仕事と生活の調和に関することについて

（1）ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の 56.0%となっている。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が 64.5%と女性の 49.9%より多くなっている。

（2）理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活、現実の生活ともに、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。

（3）家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の６つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」（47.2%）、女性では、「食事のしたく」（77.0%）であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」（31.4%）で、女性では、「ごみ捨て」（12.8%）であった。

家事従事時間に関しては、平日では「０～１時間未満」という回答は、女性 9.5%、男性 47.6%と差が大きくなっている。休日では「０～１時間未満」という回答が女性 4.1%、男性 28.6%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、女性は 48.0%、男性は 21.9%と差が大きいが、介護に関しては女性が 15.4%、男性が 13.7%と男女差に大きな開きはない。

「育児・介護休業制度」に男性の利用が進まない理由として、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（57.6%）、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（52.4%）、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（52.1%）、「昇給、昇格に影響すると考えるから」（21.4%）と回答している。

4　地域社会に関することについて

（1）自治会やＰＴＡなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やＰＴＡなど、地域での活動における事例について尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やＰＴＡの責任ある役職は、ほとんどが男性である」で、44.0%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」（40.6%）、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」（37.6%）、「自治会やＰＴＡの会長は、男性と決まっている」（37.3%）となっているが、それぞれ４割以上が「わからない」と回答している。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、30.2%となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（18.6%）と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（13.2%）と続いている。

（２）平時の防災体制や災害発生後の対応における男女共同参画の視点について

男女共同参画の視点から、災害に備えるために、どのような施策が必要か尋ねたところ、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」及び「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(55.7%)という回答が最も多くなっている。次いで、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」（48.1%）、「日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」（35.8%）と続いている。男性は、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（60.3%）が最も多くなっている。一方、女性は、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」（61.1%）が最も多くなっている。

５　男女の人権に関することについて

（１）ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について

ＤＶを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、女性は 42.5%、男性は 43.4%となっている。

ＤＶにあったときの相談窓口として、「知っている」という回答が最も多かったのは、「県警（警察安全相談窓口）」で 42.3%となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」（38.8%）、「長野県児童虐待・ＤＶ２４時間ホットライン」（14.7%）、「長野県女性相談センター」（12.7%）、「みんなの人権 110 番」（12.4%）、「長野市福祉事務所」（9.2%）の順となっている。「相談できる窓口は知らない」という回答は 38.8%となっており、女性は最も多くなっている。

ＤＶに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、54.5%となっているが、「人権侵害にあたる場合もそうでない場合もあると思う」という回答割合の合計は男性では、20.3%となっている。

６「健康」に関することについて

（１）ご自身の健康について

健康だと思うかどうか尋ねたところ、「健康だと思う」（22.7%）という回答は、女性は 25.6%で男性の 19.0%より多い回答となっている。

（２）体調が悪い日の頻度について

体調が悪い日がどのくらいの割合であるかどうか尋ねたところ、「体調が悪い日は基本的にはない」という回答は、男性が 33.1%、女性は 23.0%となっており、「週に１～２回程度」は男性は 5.9%に対し、女性は 10.2%となっている。

健康だと思うか尋ねた際には「健康だと思う」と回答した割合は女性のほうが男性に比べて６％多かったにも関わらず、体調が悪い日の頻度については「体調が悪い日は基本的にはない」は、女性は男性と比べて 10.1 ポイント少なく、「体調の悪い日が１日以上ある」と回答した割合が、「週の半分以上」を除くすべての項目で女性のほうが男性よりも多い結果となった。

７　男女共同参画施策に関することについて

（１）男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

長野市が重点をおいて取り組むべきものを尋ねたところ、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（60.4%）が最も多くなっている。次いで、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（59.7%）、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（53.2%）の順となっている。

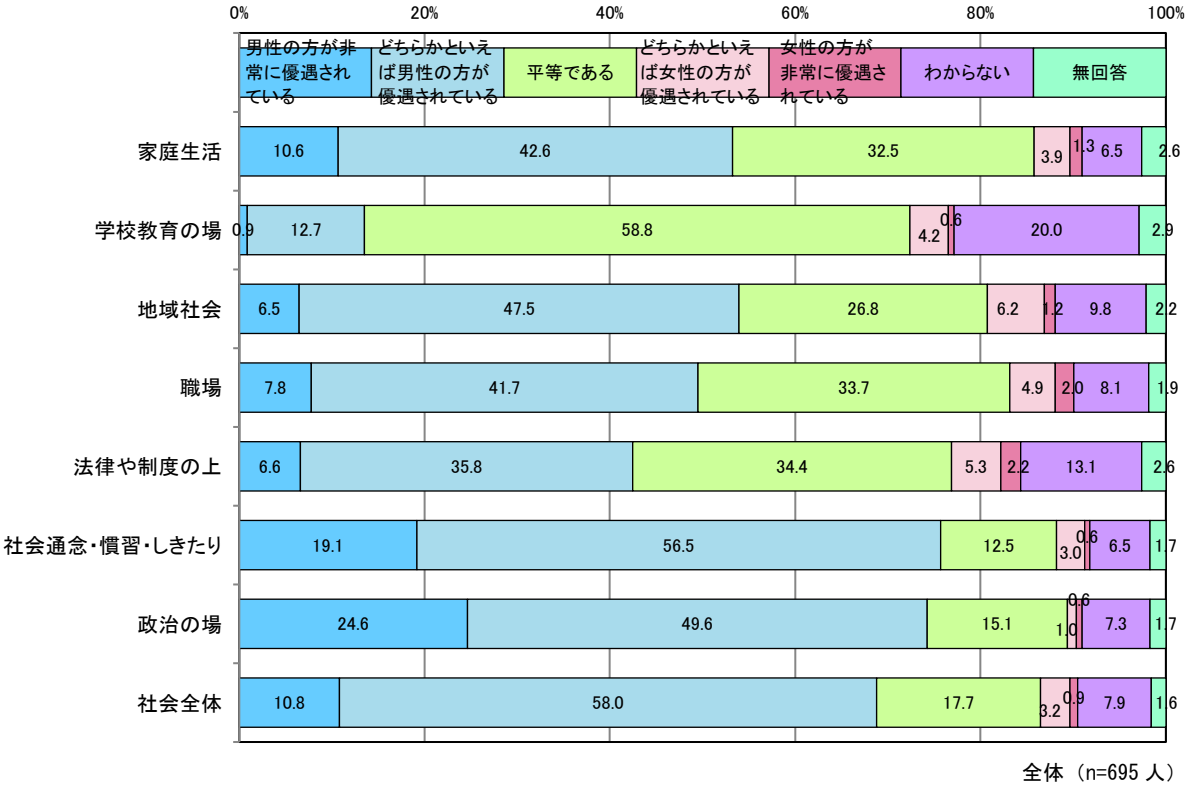
Ⅳ　調査の結果

一般的なこと

問１　あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。（それぞれ○は １ つ）

・７項目中「平等である」と考えている割合が５割を超えているのは、「学校教育の場」（58.8%）のみであった。
・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が多いのは、「社会通念・慣習・しきたり」75.6%、「政治の場」74.2%と、いずれも７割を超えている。一方、「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答割合の合計はいずれの項目でも１割以下であった。

【全分野】

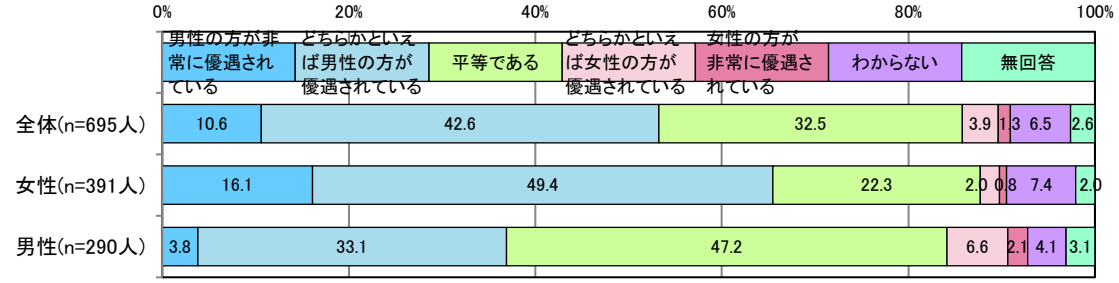


全体（n=695 人）

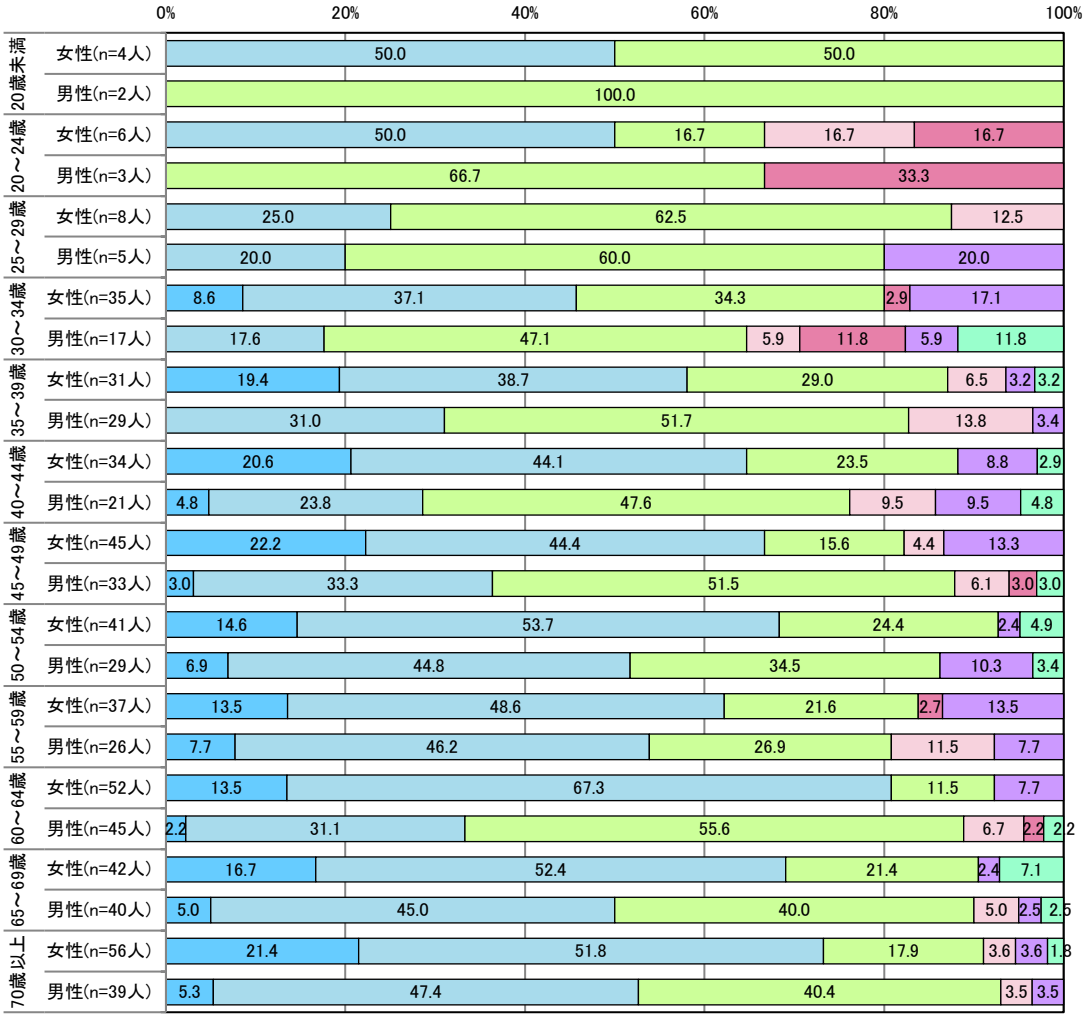
１．家庭生活

・性別でみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（49.4%）が約５割となっている。男性は、「平等である」（47.2%）という回答が最も多く、約５割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、女性では約７割（65.5%）となっているが、男性では約４割（36.9%）となっている。
・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、女性では 40 歳以上で６割以上となっている。男性でも、50 歳～59 歳、65 歳以上で５割を超えている。

【性別】



【世代別性別】

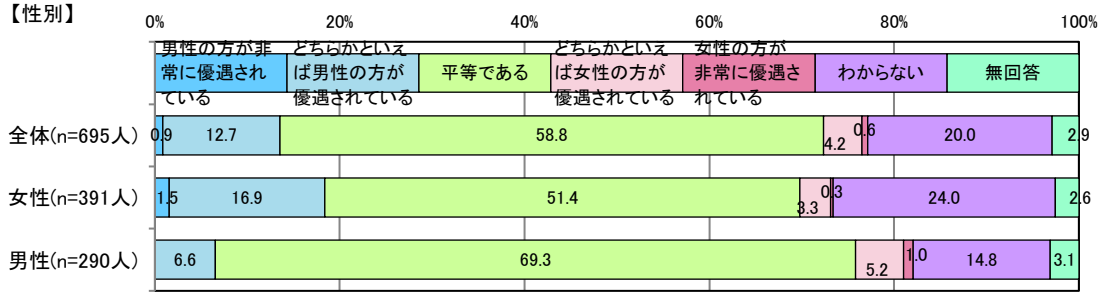


２．学校教育の場

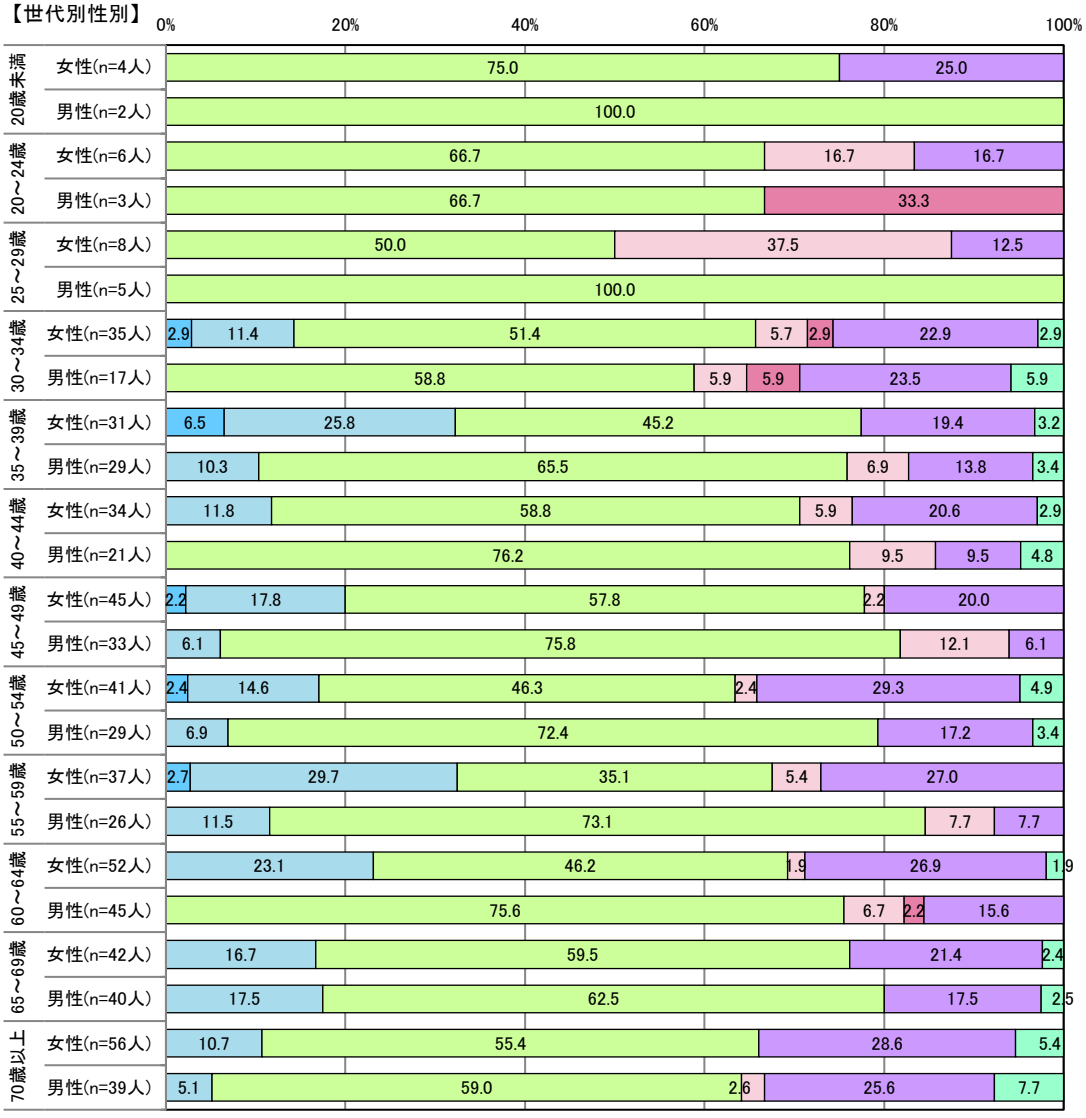
・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、女性は 51.4%、男性は 69.3%となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、男性よりも女性の方が多くなっている。

・世代別性別でみると、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。35 歳～39 歳、55 歳～59 歳の女性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が約３割となっている。

【性別】



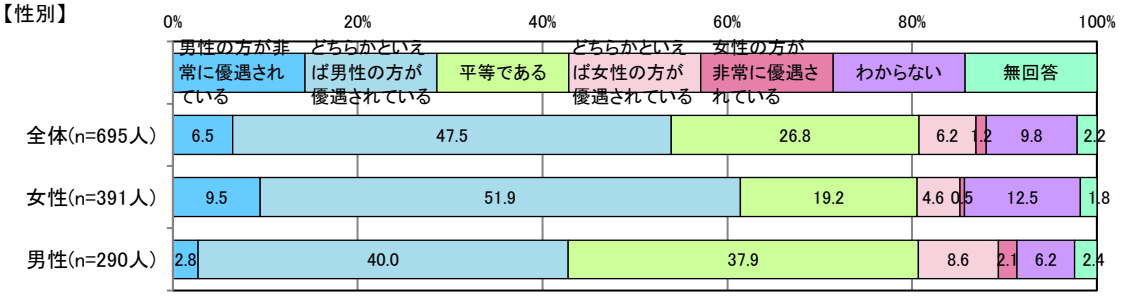
【世代別性別】



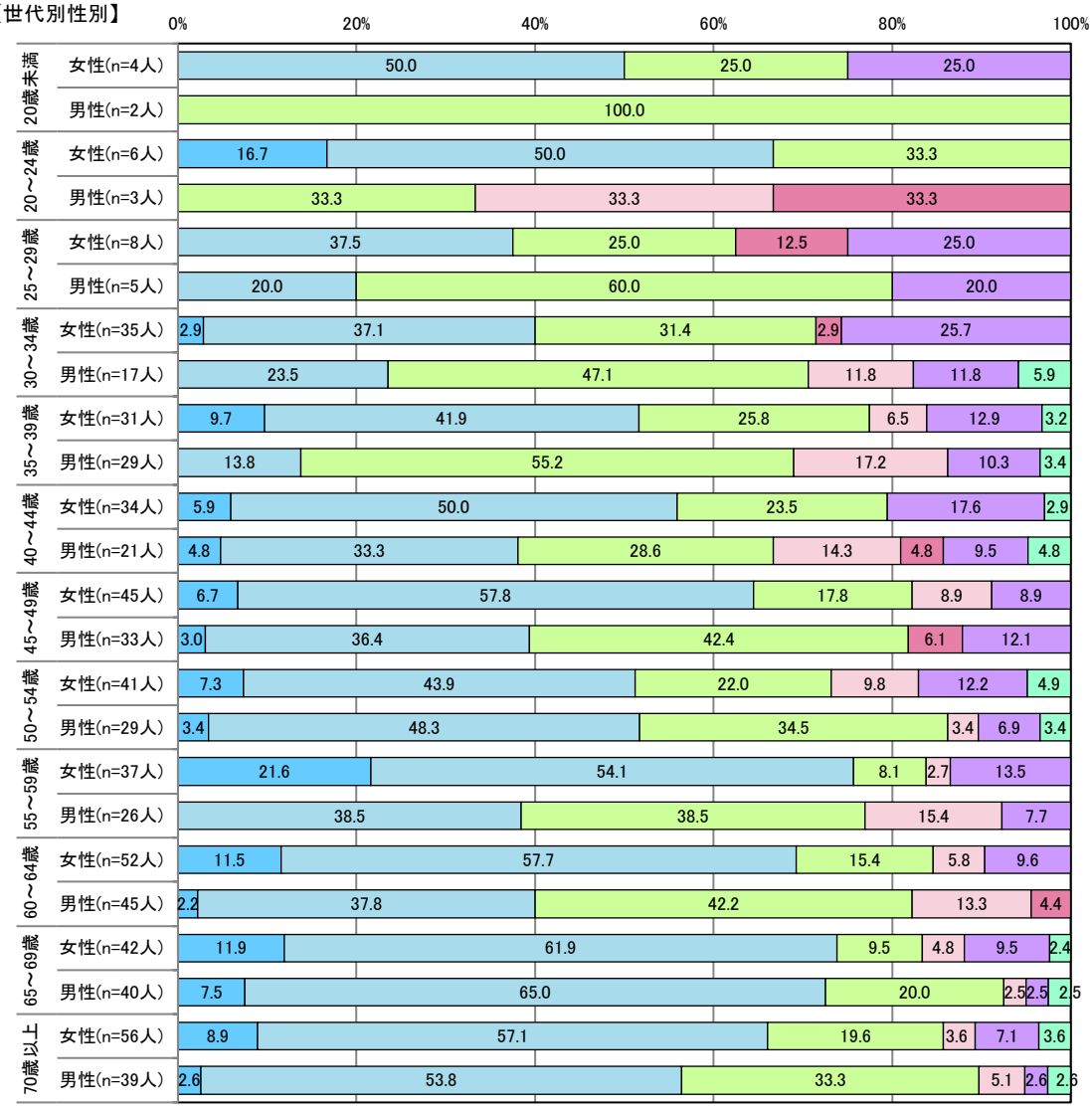
３. 地域社会

・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は 51.9%、男性は 40.0%となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約４割（37.9%）であるのに対し、女性は約２割（19.2%）となっている。
・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が６割以上となる世代は、20 歳～24 歳の女性、45 歳～49 歳の女性、55 歳以上の女性、65 歳～69 歳の男性となっている。

【性別】



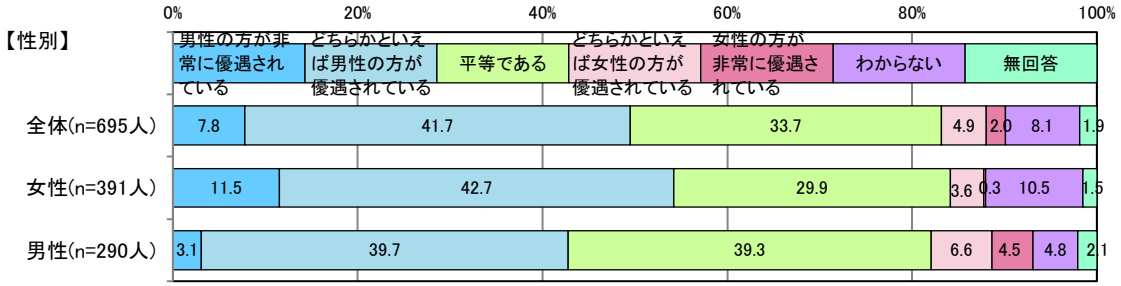
【世代別性別】



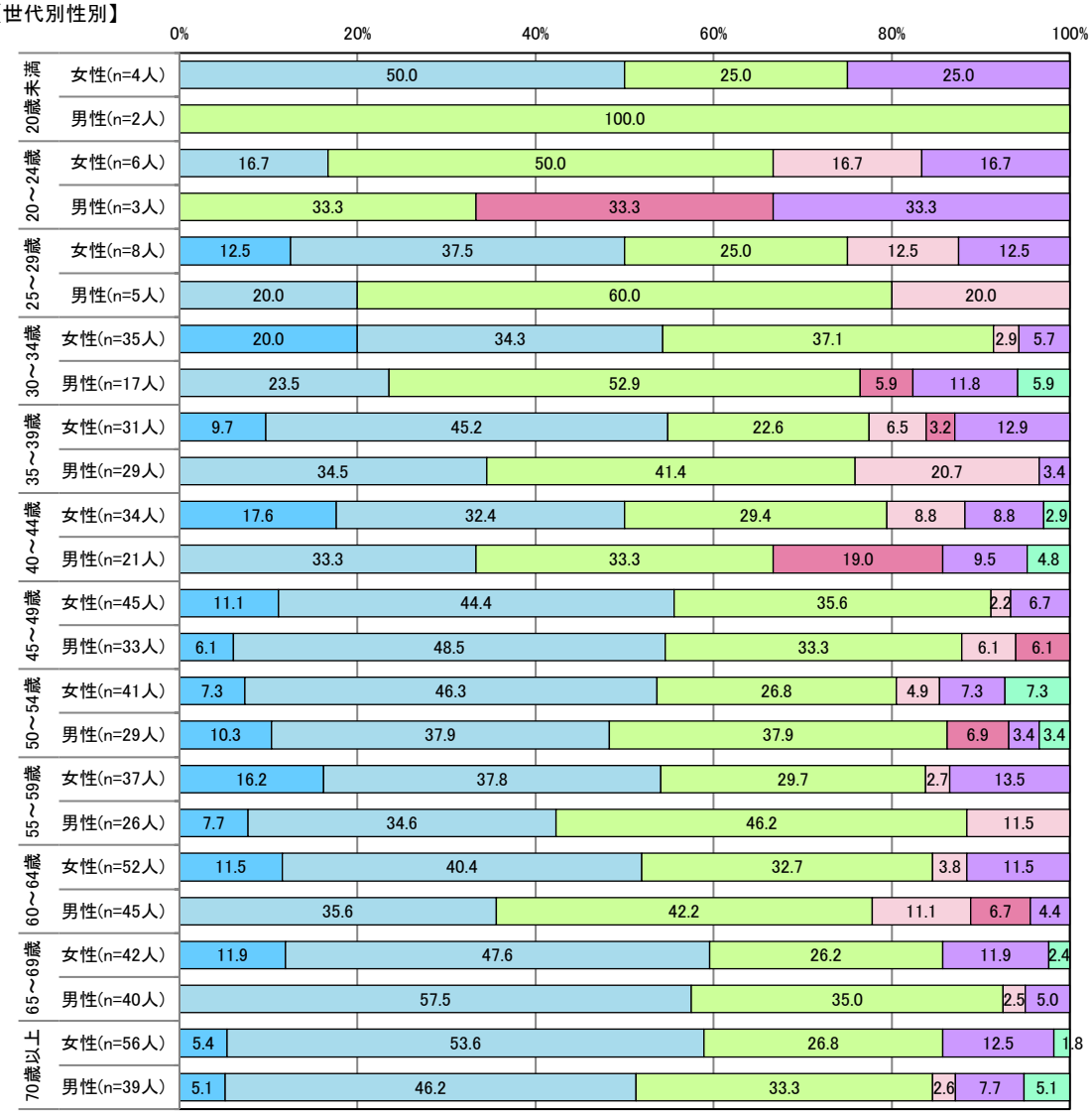
４. 職場

・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は 42.7%、男性は 39.7%となっている。
・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が約６割となる世代は、45 歳～49 歳の女性、65 歳～69 歳の男性、65 歳以上の女性となっている。

【性別】



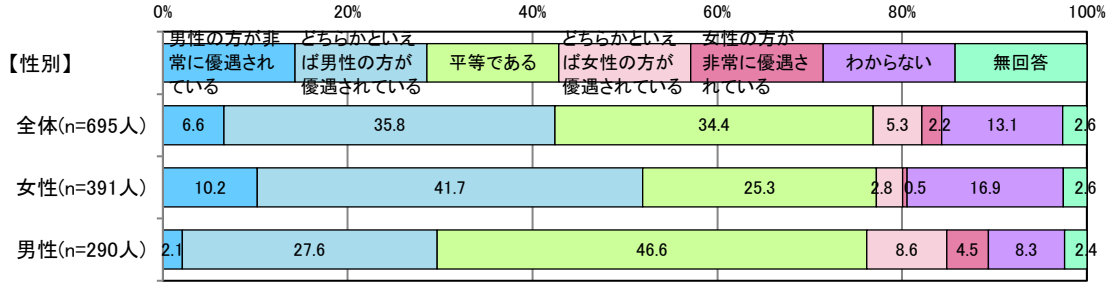
【世代別性別】

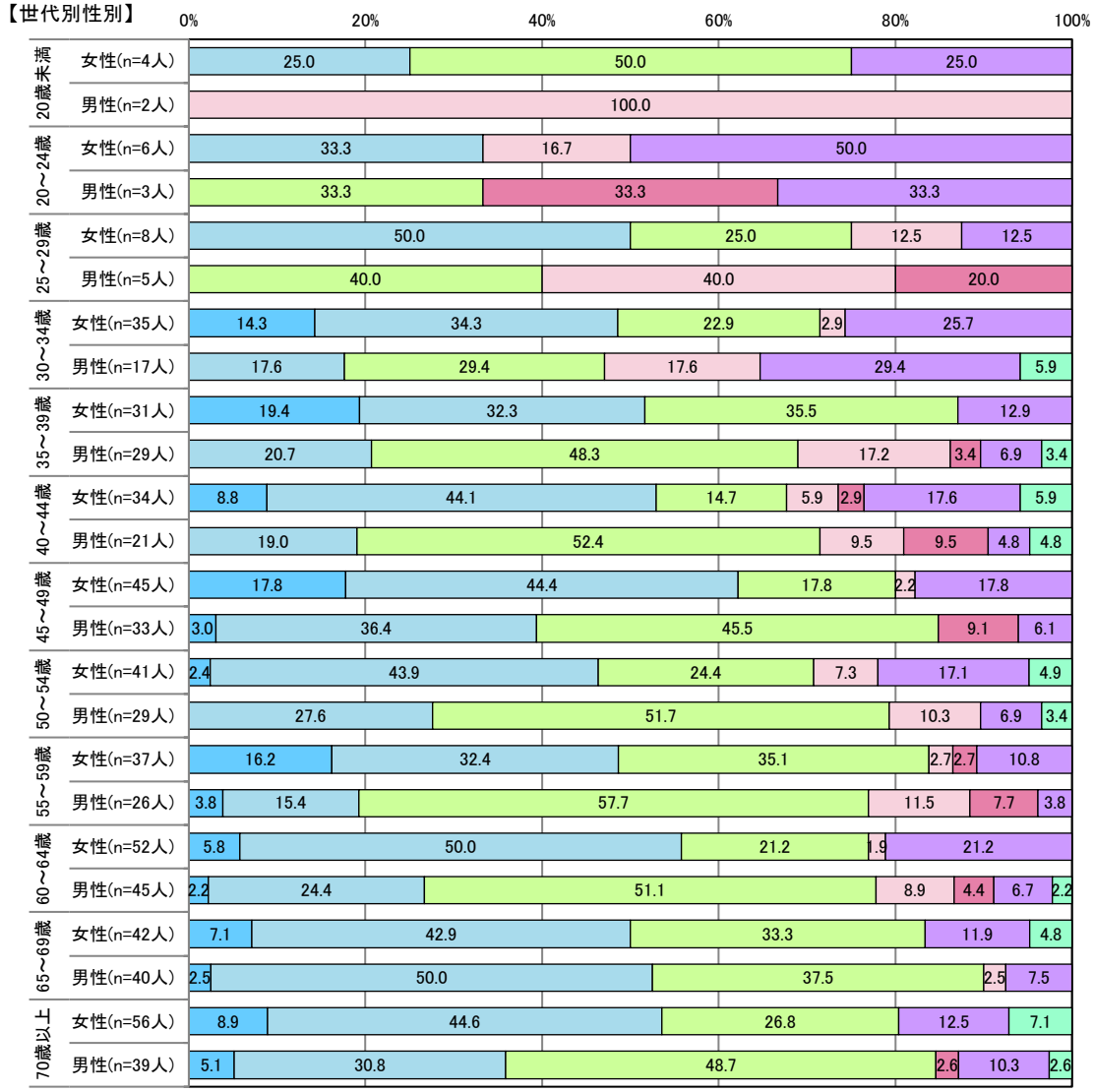


５. 法律や制度の上

・性別でみると、女性は、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（41.7%）という回答が最も多くなっている。一方、男性では、「平等である」という回答が最も多く、約５割（46.6%）と、法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。

・世代別性別でみると、女性では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が６割以上となる世代は、45歳～49歳となっている。男性では、55歳～59歳の世代で、「平等である」という回答が約６割となっている。

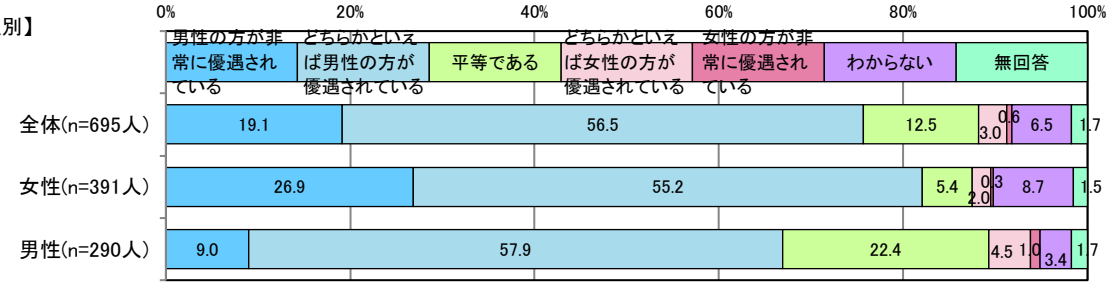




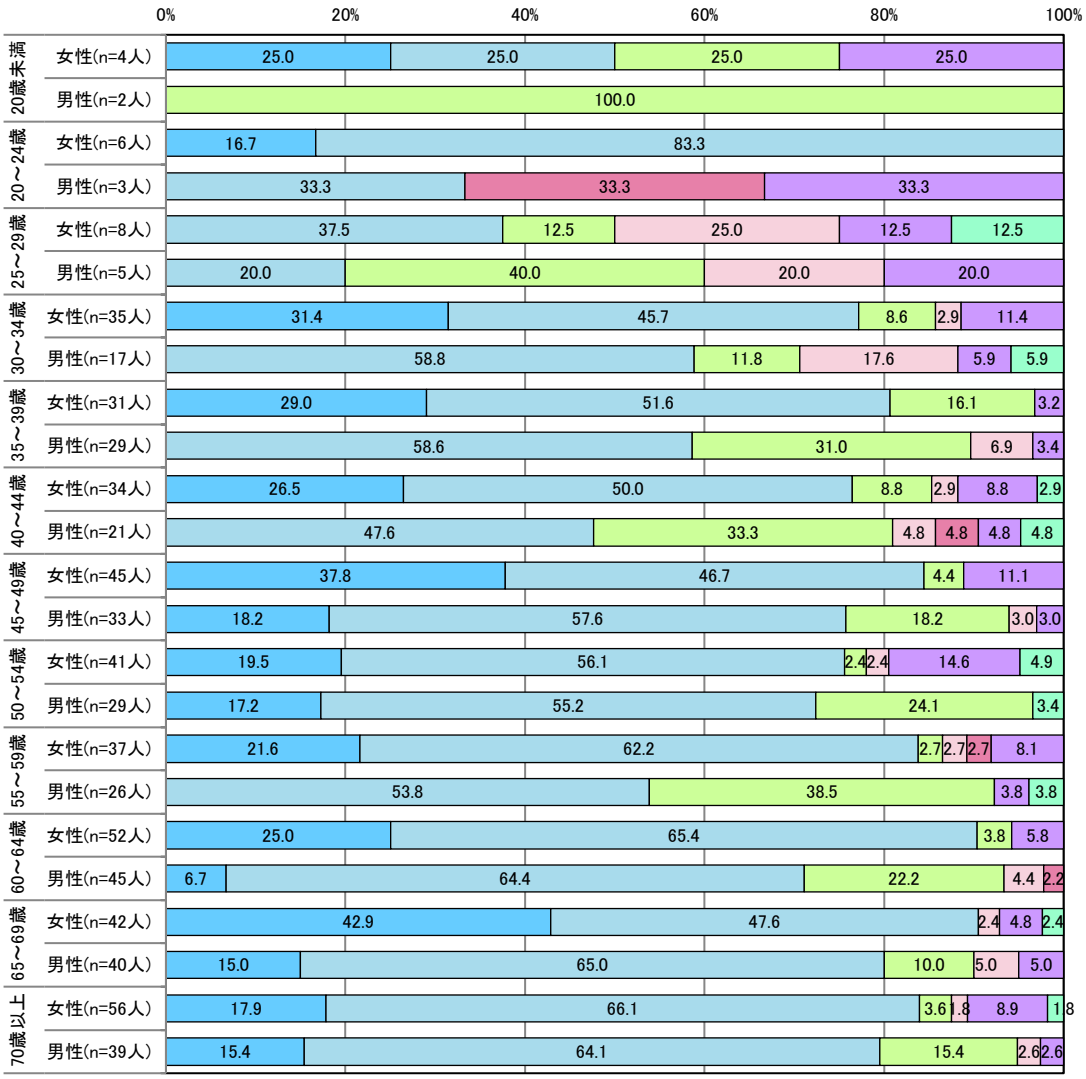
６. 社会通念・慣習・しきたり

・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は 55.2%、男性は 57.9%となっている。
・世代別性別でみると 20 歳未満の男女、20 歳～24 歳の男性、25 歳～29 歳の男女、30 歳～44 歳の男性、55 歳～59 歳の男性の世代を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が６割以上となっている。
・特に女性では、20 歳未満、25 歳～29 歳を除いて、回答割合の合計が７割以上となっている。

【性別】



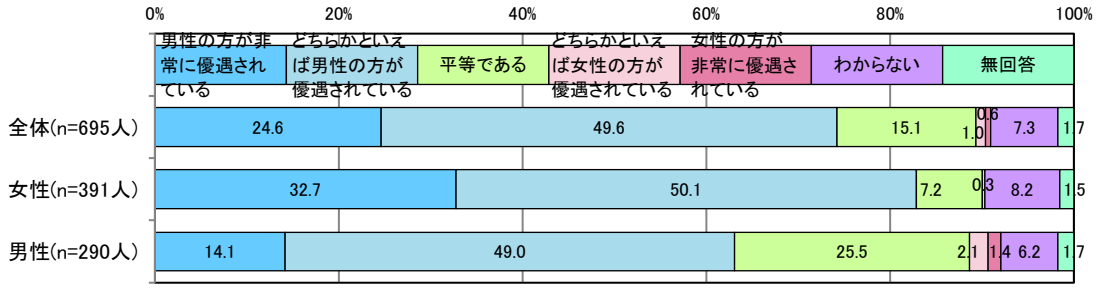
【世代別性別】



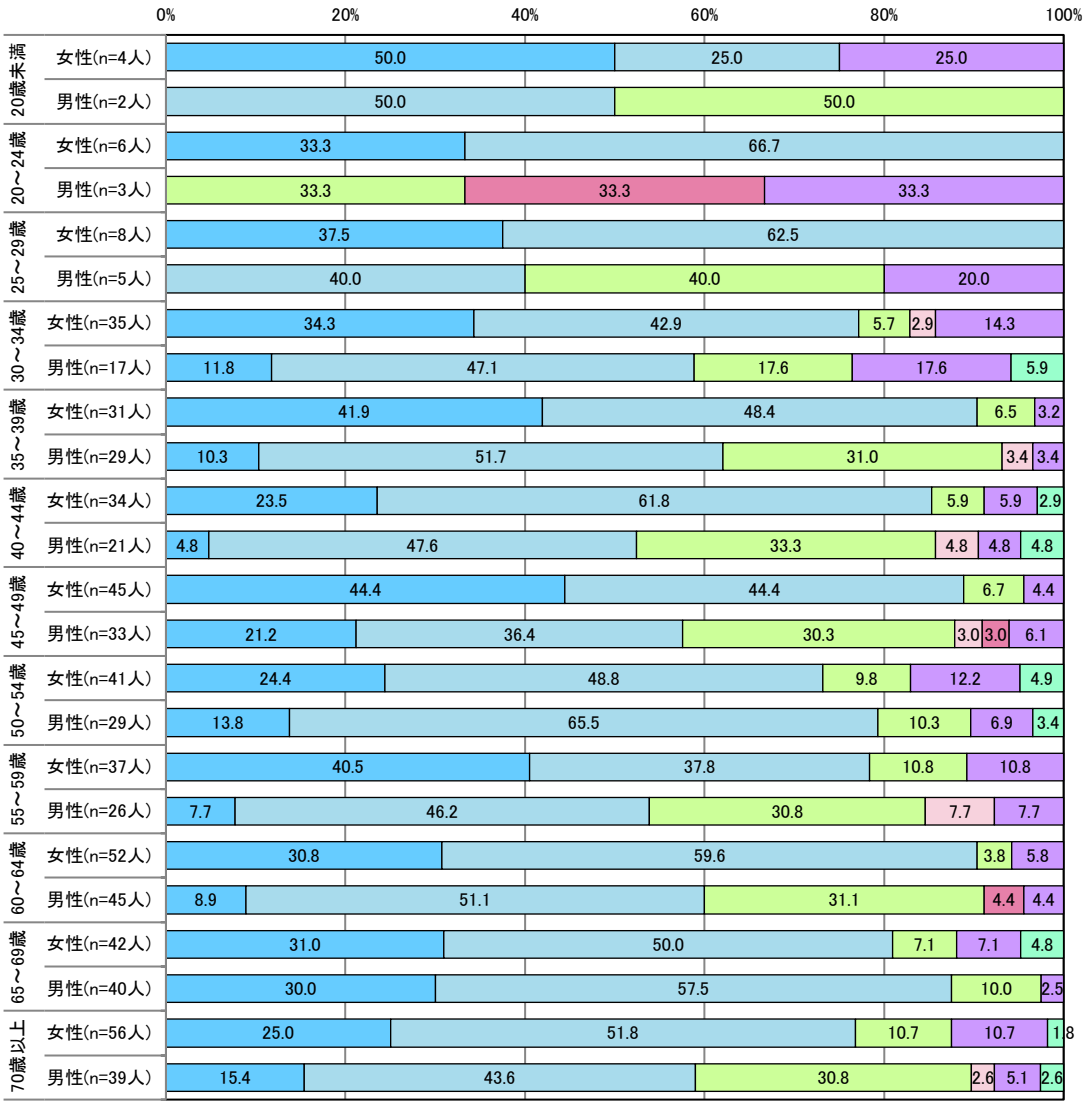
7. 政治の場

・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は 50.1%、男性は 49.0%となっている。
・世代別性別でみると、20 歳～29 歳の男性の世代を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が５割以上となっている。

【性別】



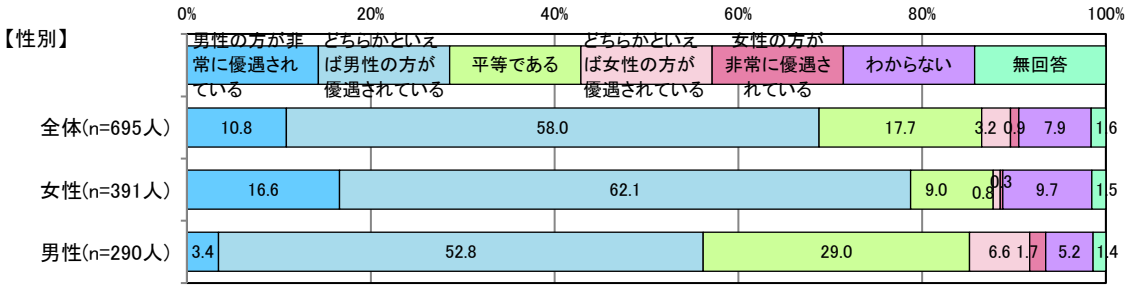
【世代別性別】



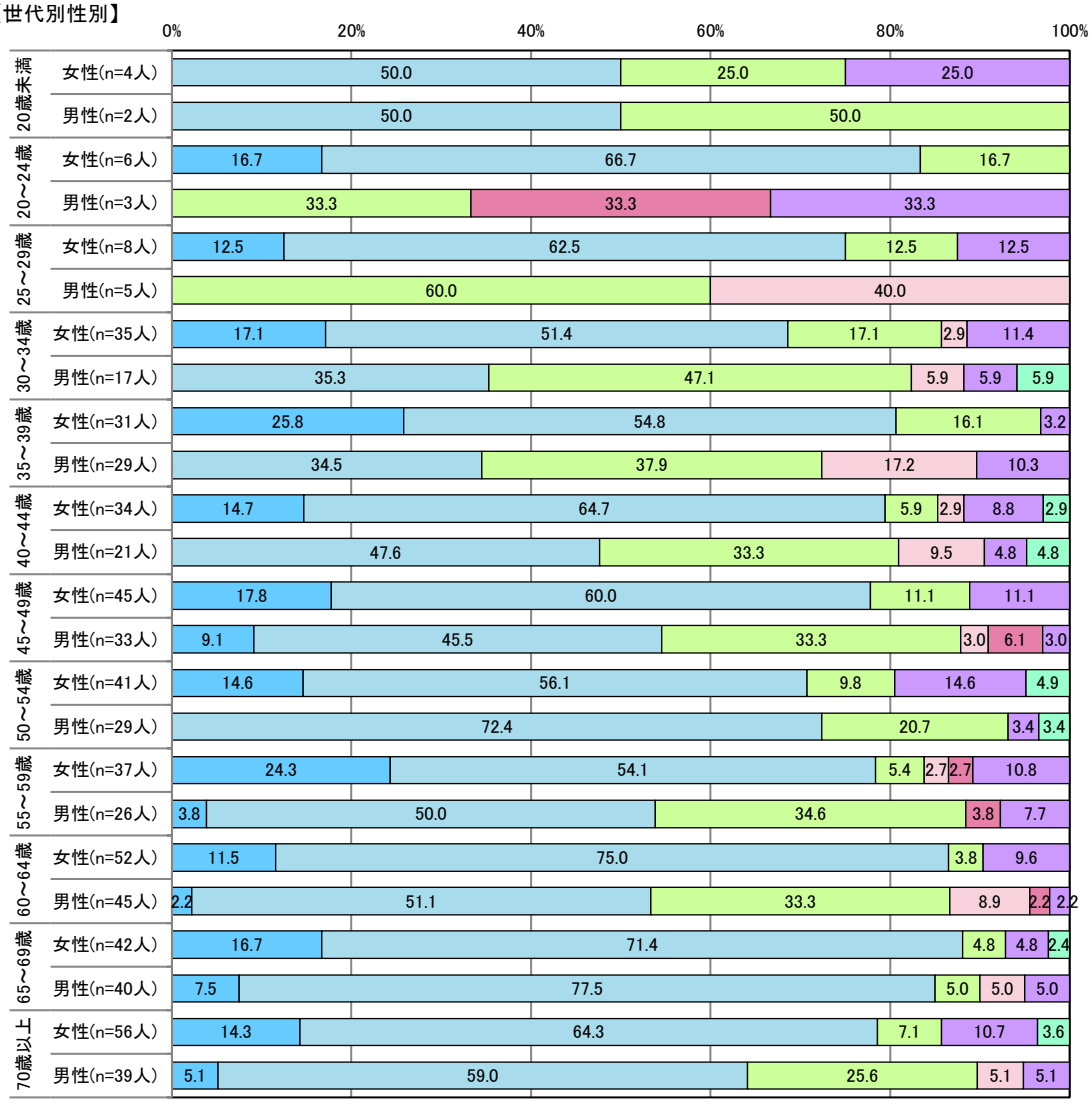
８. 社会全体

・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、女性は 62.1%、男性は 52.8%となっている。
・「平等である」という回答は、男性が約３割（29.0%）、女性が約１割（9.0%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳～44 歳の男性を除き、いずれの世代においても「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が５割以上となっている。

【性別】

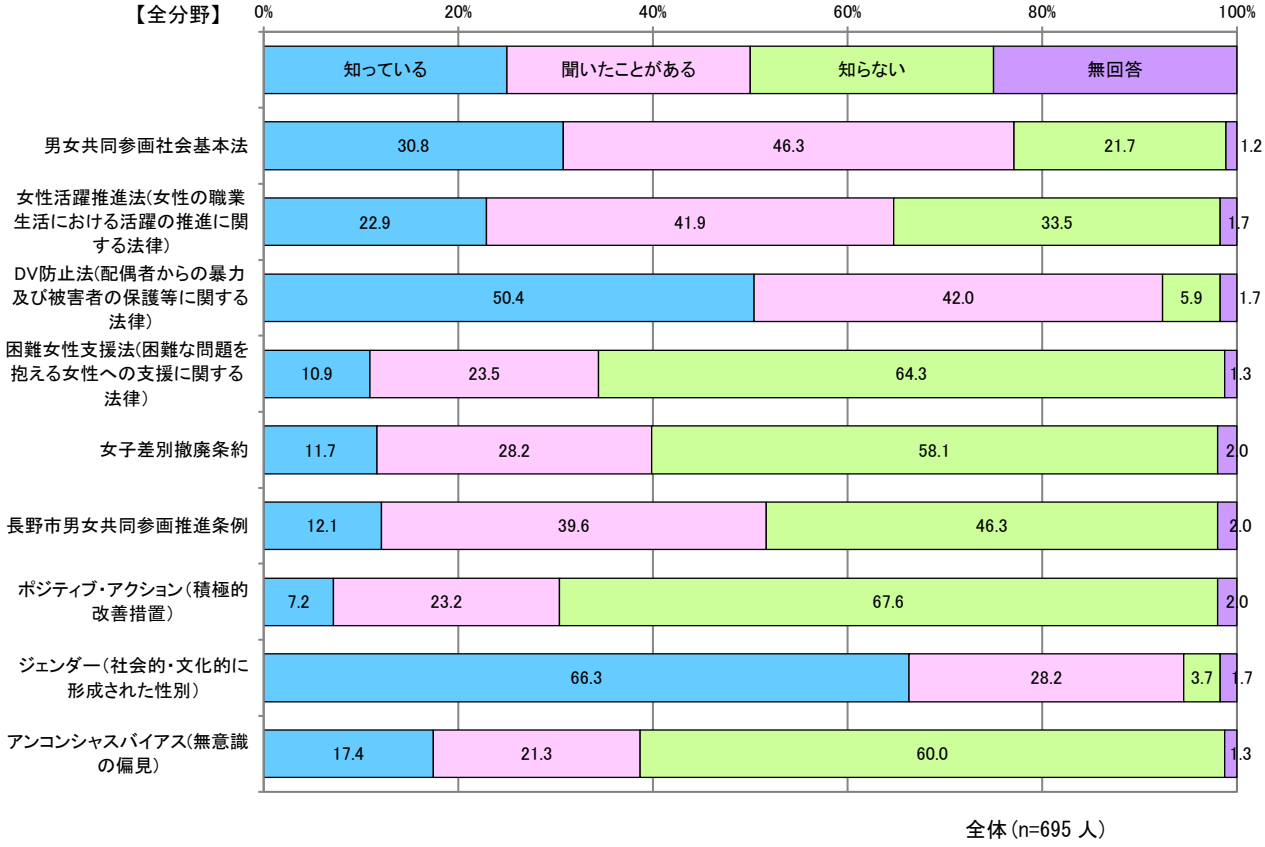


【世代別性別】



問２　次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
（それぞれ○は１つ）

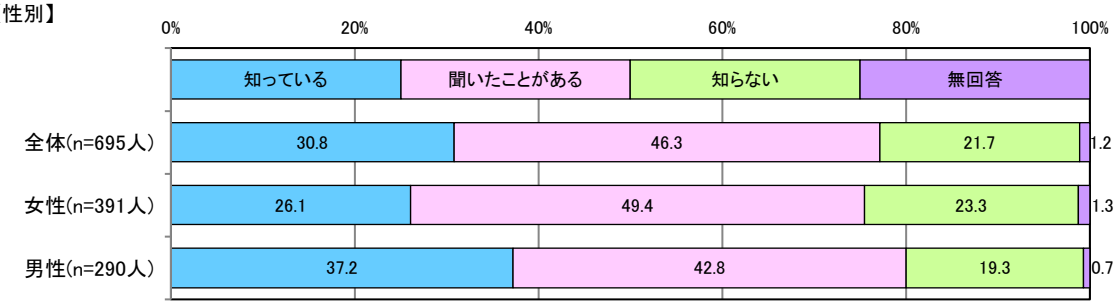
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」（94.5%）、「DV 防止法(配偶者からの暴力及び被害者の保護等に関する法律)」（92.4%）、「男女共同参画社会基本法」（77.1%）が７割以上と認知度が高い。次に、「女性活躍推進法」（64.8%）、「長野市男女共同参画推進条例」（51.7%）が５割以上、「女子差別撤廃条約」（39.9%）と続いている。



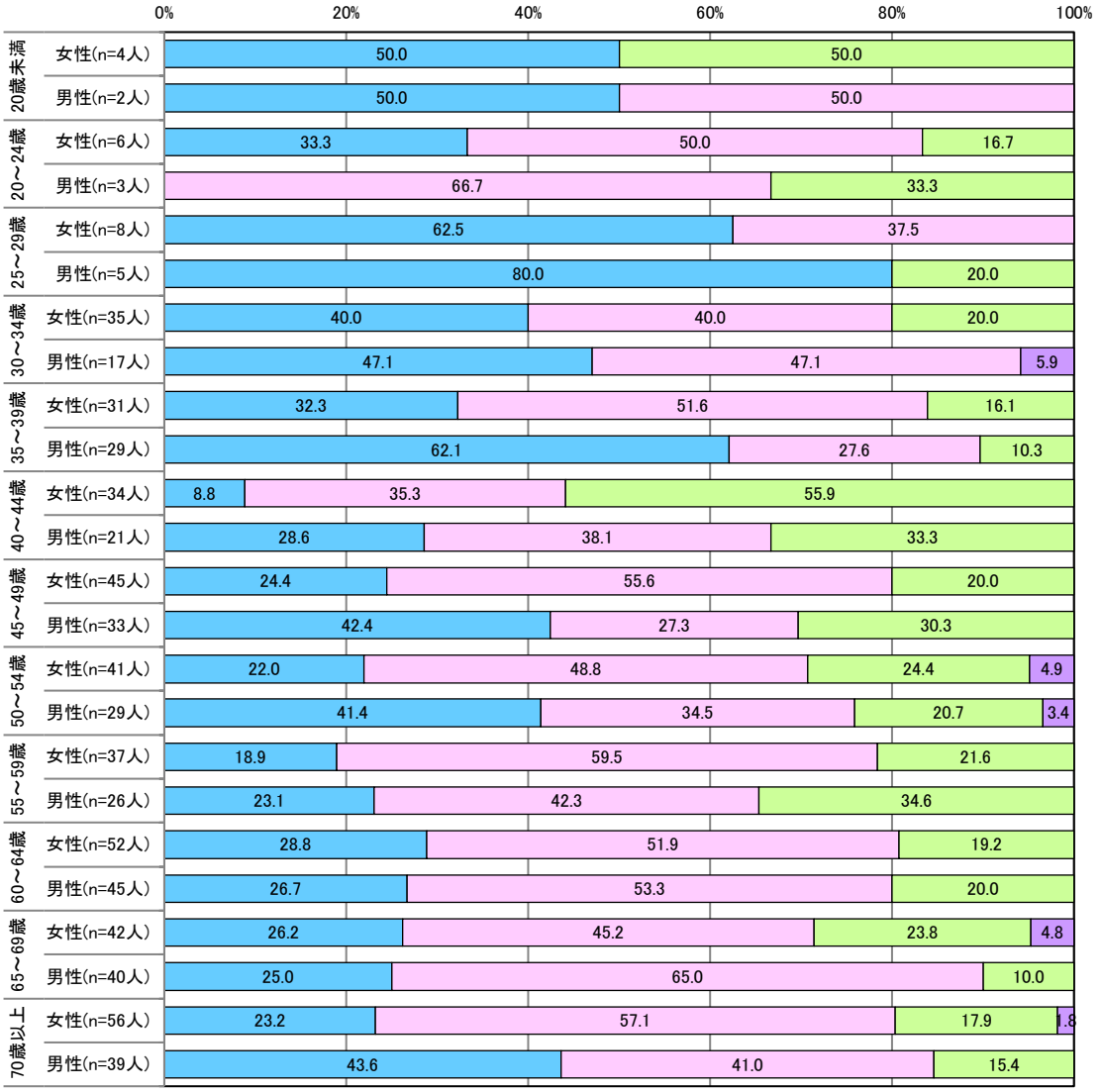
１．男女共同参画社会基本法

・性別でみると、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、７割を超えている。
・世代別性別でみると、女性では 20 歳未満、40 歳～44 歳で、「知らない」という回答が、５割以上となっている。一方、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が９割を超えているのは、男性では 30 歳～34 歳、65 歳～69 歳となっている。

【性別】



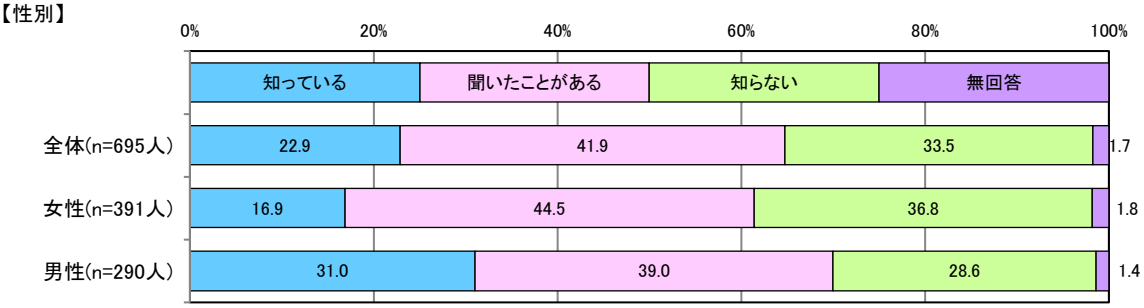
【世代別性別】



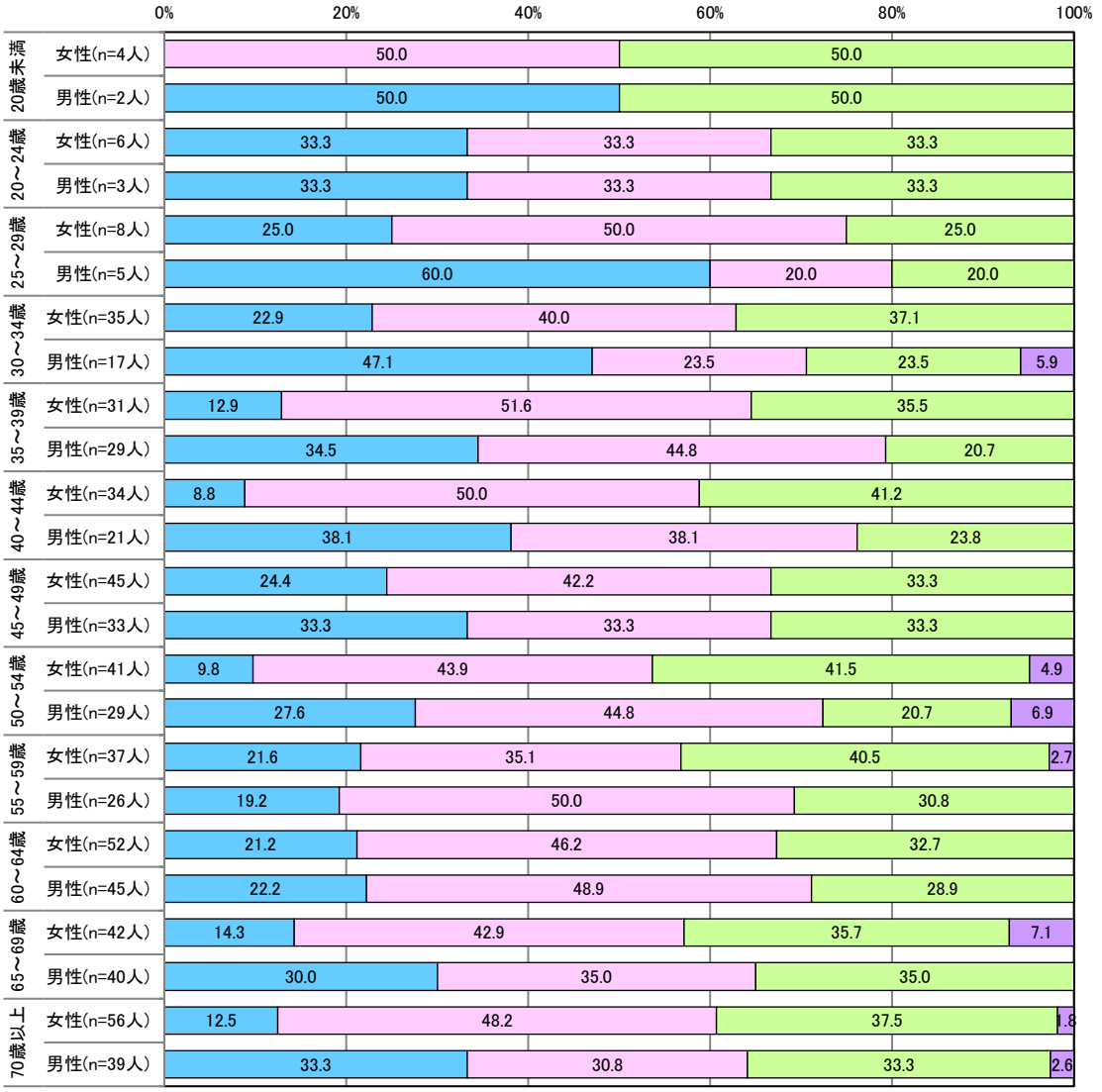
２．女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）

・性別でみると、男女ともに「聞いたことがある」が、女性は 44.5%、男性は 39.0%で最も多くなっている。
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 61.4%、男性が 70.0%、となっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男女、40 歳～44 歳の女性、50 歳～59 歳の女性で、「知らない」という回答が４割以上となっている。

【性別】



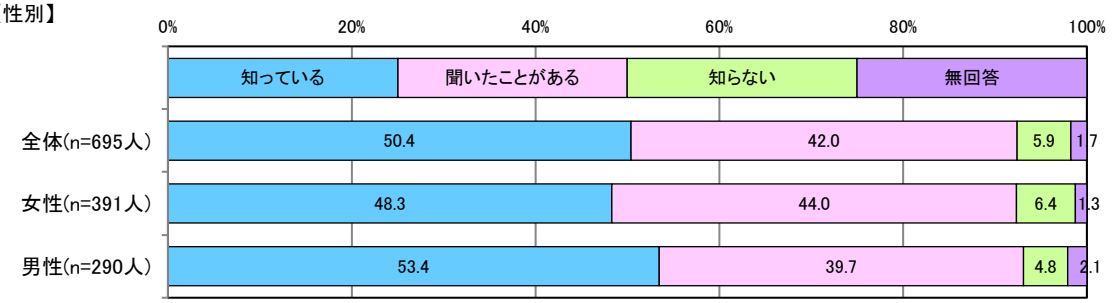
【世代別性別】



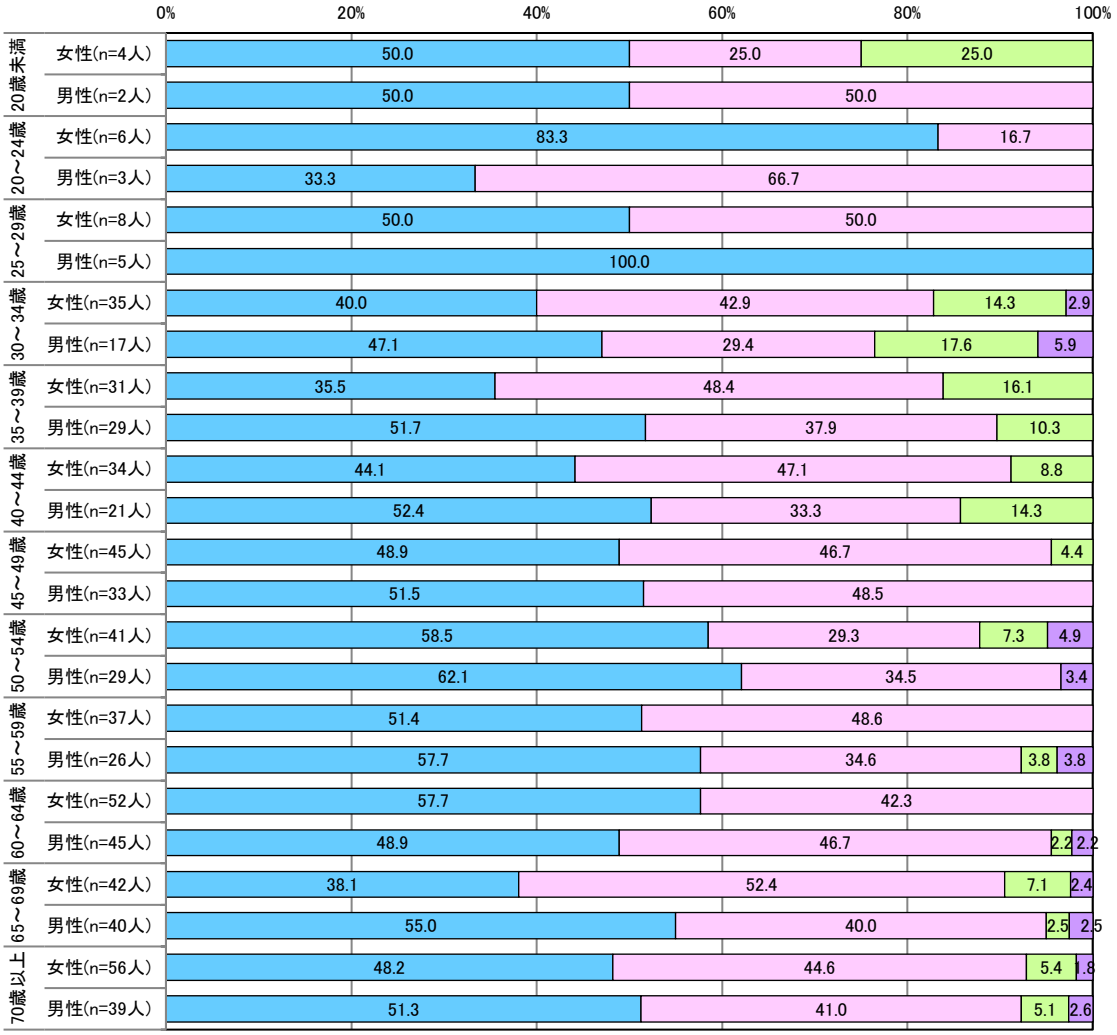
３.DV 防止法(配偶者からの暴力及び被害者の保護等に関する法律)

・性別でみると、「知っている」という回答が男女とも最も多く、女性が 48.3%、男性が 53.4%となっている。
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 92.3%、男性が 93.1%となっている。
・世代別性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が９割以上は、20 歳未満の男性、20 歳～29 歳の男女、40 歳～44 歳の女性、45 歳～49 歳の男女、50 歳～54 歳の男性、55 歳以上の男女となっている。

【性別】



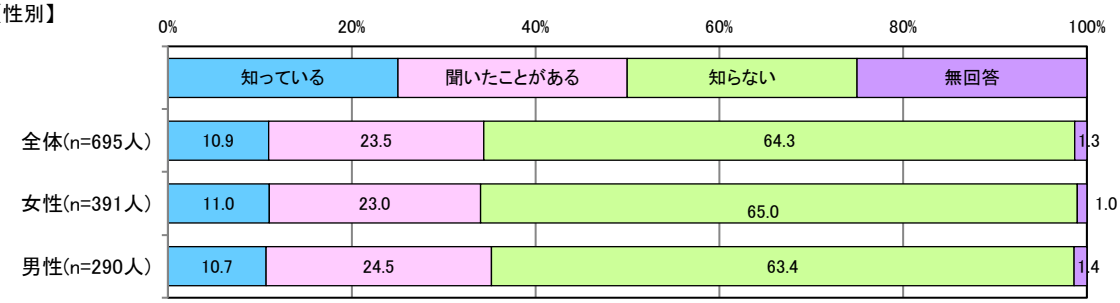
【世代別性別】



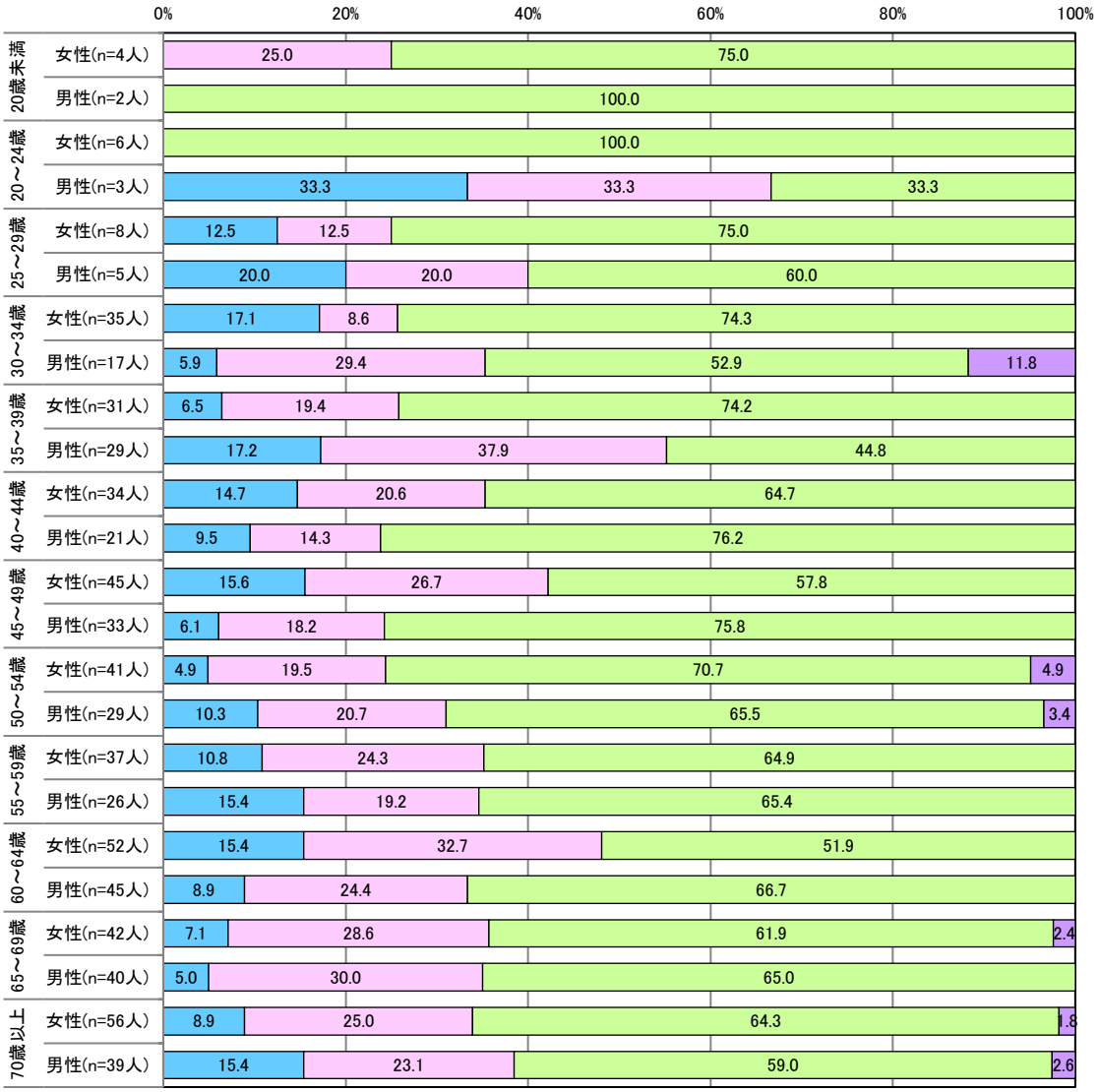
４. 困難女性支援法（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）

・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、女性は 65.0%、男性は 63.4%となっている。
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 34.0%、男性が 35.2%となっている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性、30 歳～39 歳の男性、45 歳～49 歳の女性、60 歳～64 歳の女性、70 歳以上の男性の世代を除いて、「知らない」という回答が６割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】



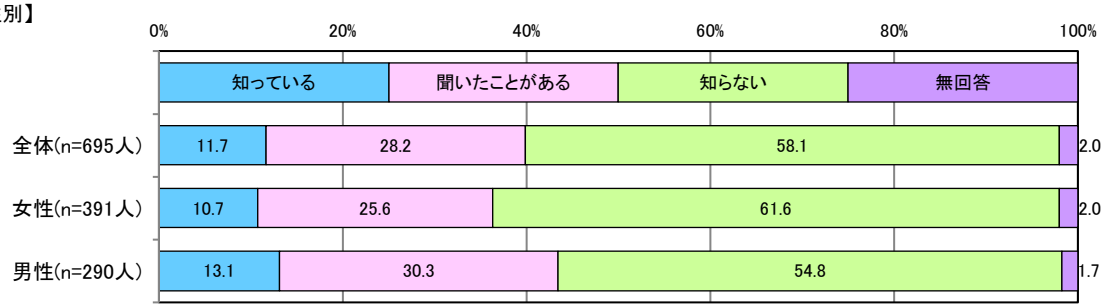
５．女子差別撤廃条約

・性別でみると、男女ともに「知らない」が、女性は 61.6%、男性は 54.8%で最も多くなっている。

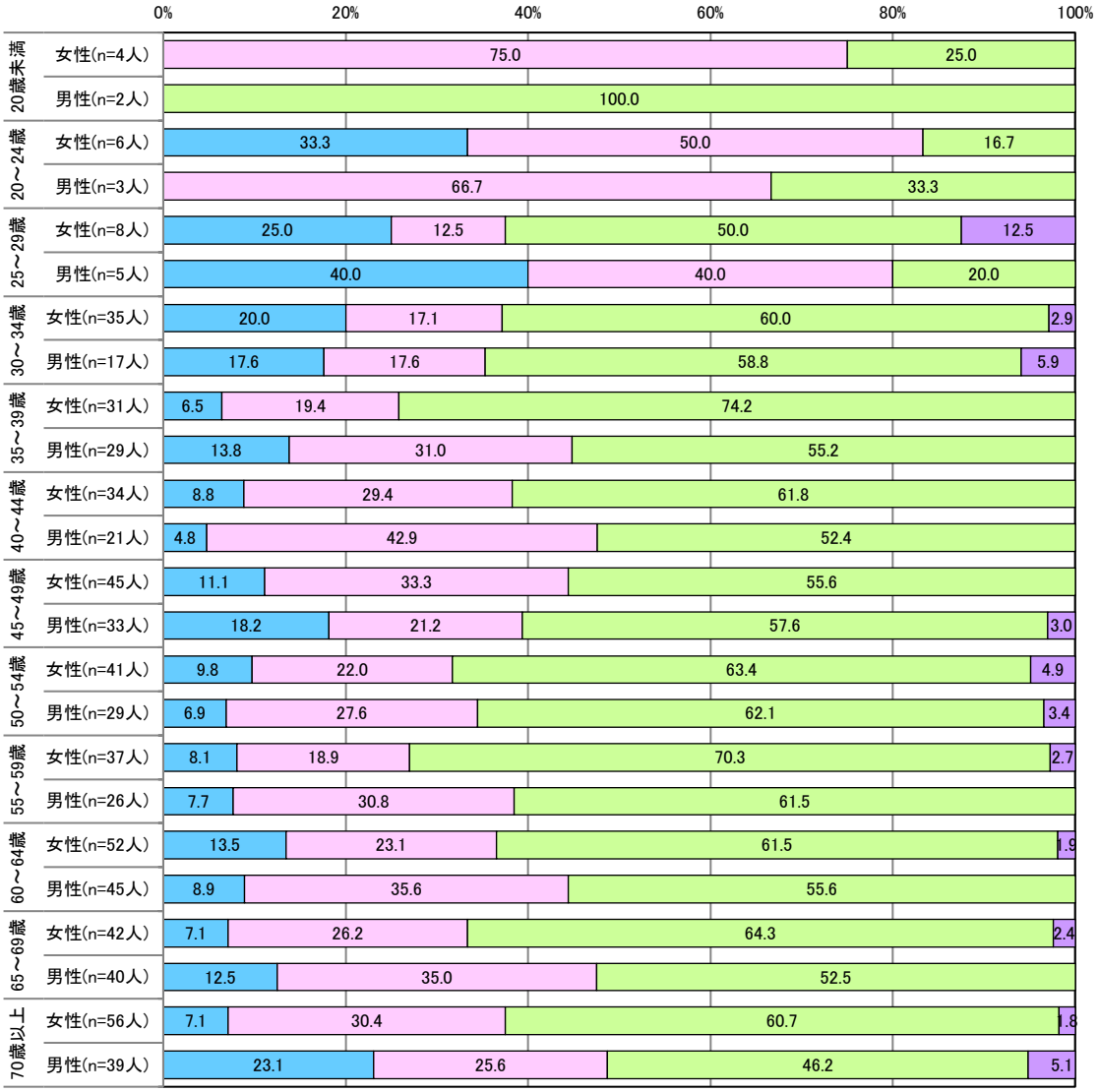
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 36.3%、男性が 43.4%となっている。

・世代別性別でみると、20 歳未満の女性、20 歳～24 歳の男女、25 歳～29 歳の男性で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が５割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】



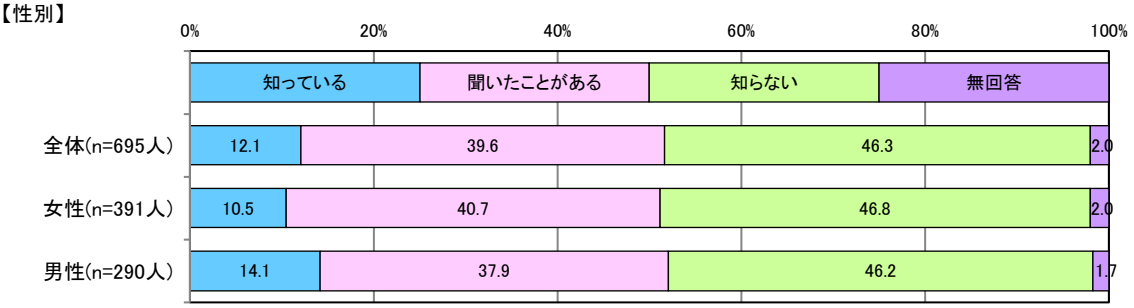
６．長野市男女共同参画推進条例

・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、女性は 46.8%、男性は 46.2%となっている。

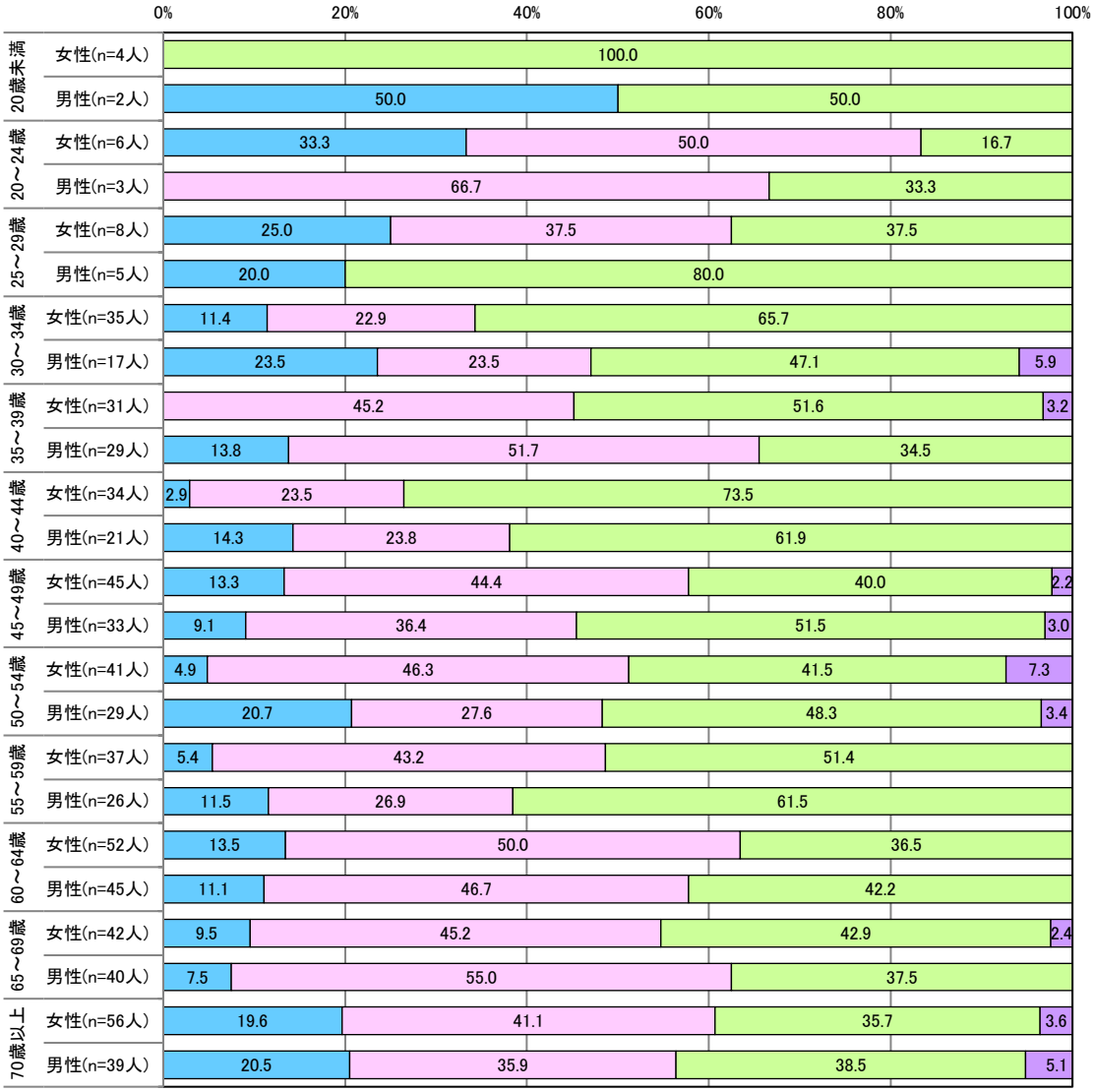
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 51.2%、男性が 52.0%となっている。

・世代別性別でみると、20 歳未満の女性、25 歳～29 歳の男性、30 歳～34 歳の女性、40 歳～44 歳の男女、55 歳～59 歳の男性で、「知らない」という回答が６割以上となっている。

【性別】



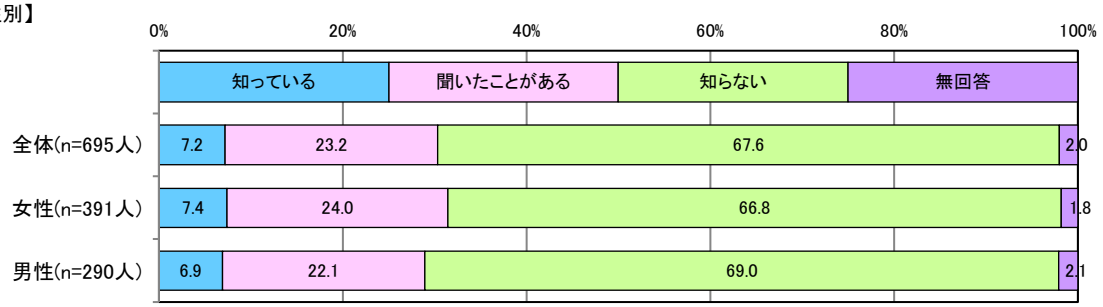
【世代別性別】



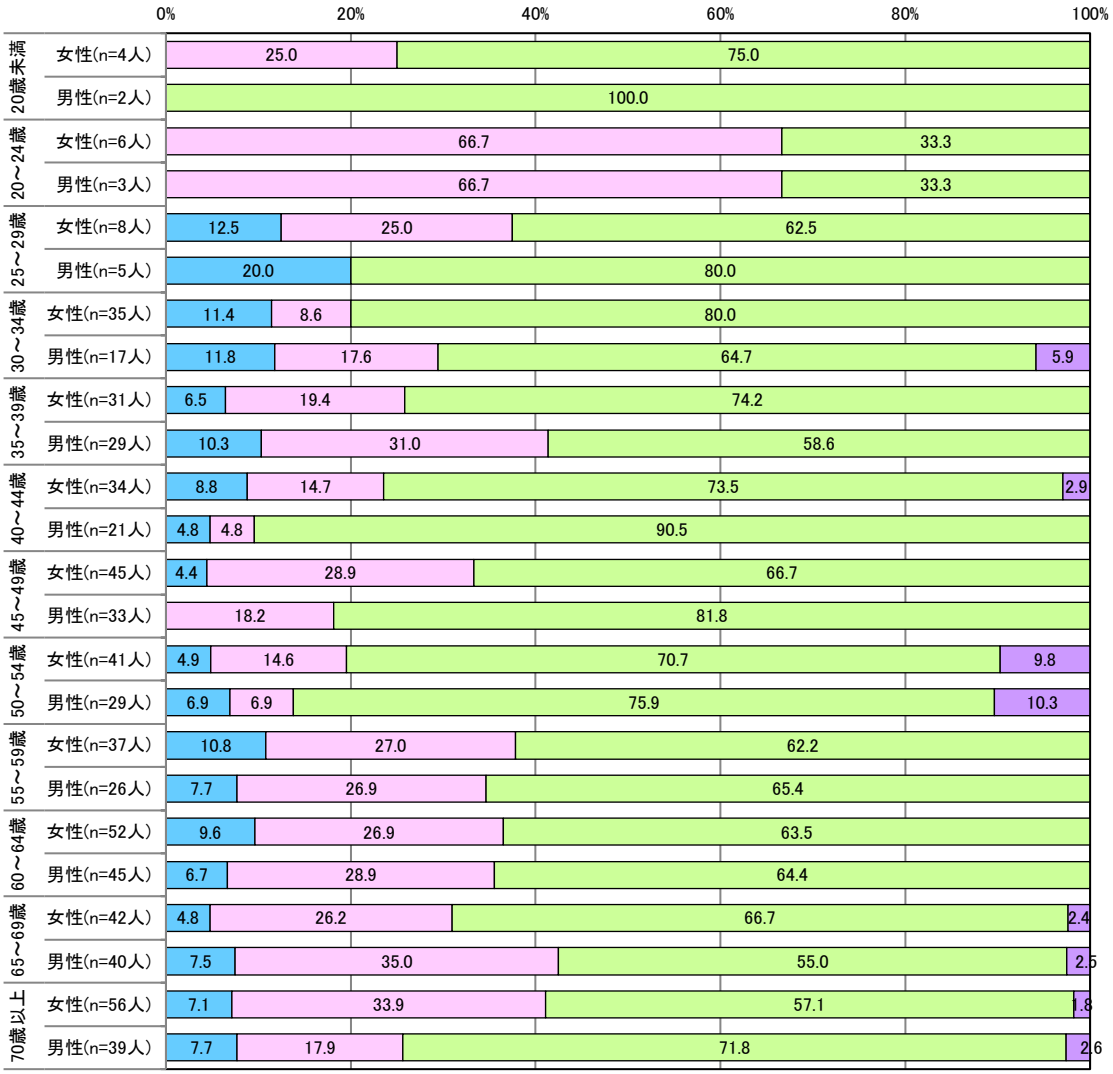
7. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、女性が 66.8%、男性が 69.0%となっている。
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 31.4%、男性が 29.0%となっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、25 歳～29 歳の男性、30 歳～34 歳の女性、40 歳～49 歳の男性の世代で、「知らない」という回答割合が８割以上となっている。「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が５割以上は、20 歳～24 歳の男女となっている。

【性別】



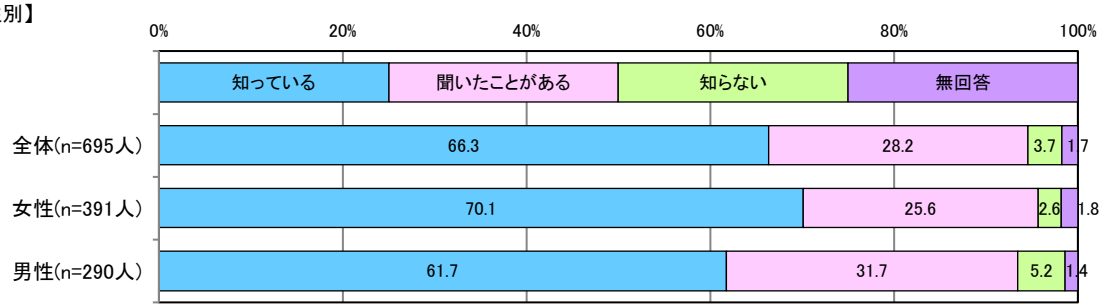
【世代別性別】



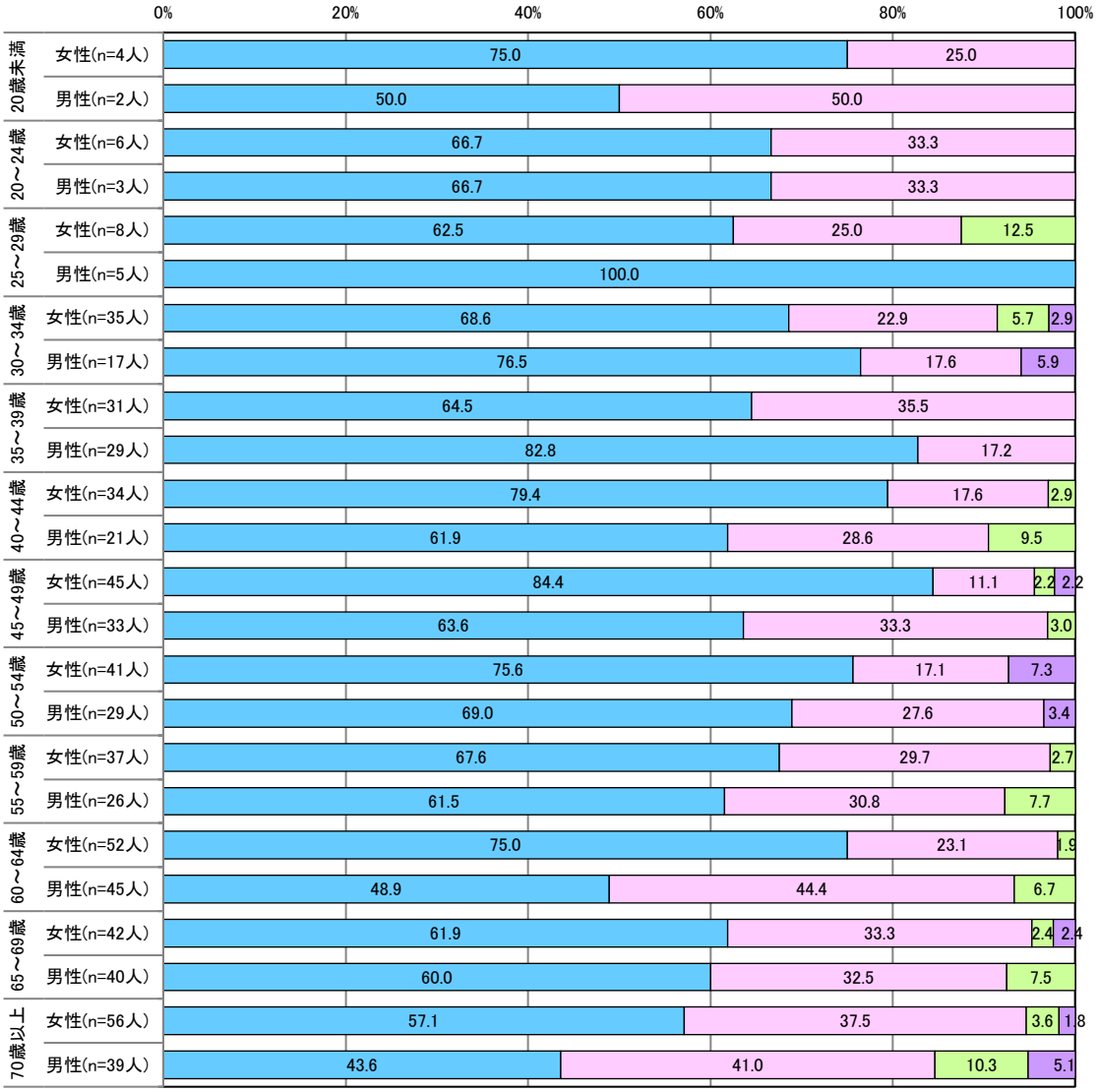
８．ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

・性別でみると、「知っている」という回答が男女とも最も多く、女性は 70.1%、男性は 61.7%となっている。
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 95.7%、男性が 93.4%となっている。
・世代別性別でみると、「知っている」という回答割合が８割を超えているのは、25 歳～29 歳の男性、35 歳～39 歳の男性、45 歳～49 歳の女性となっている。

【性別】



【世代別性別】



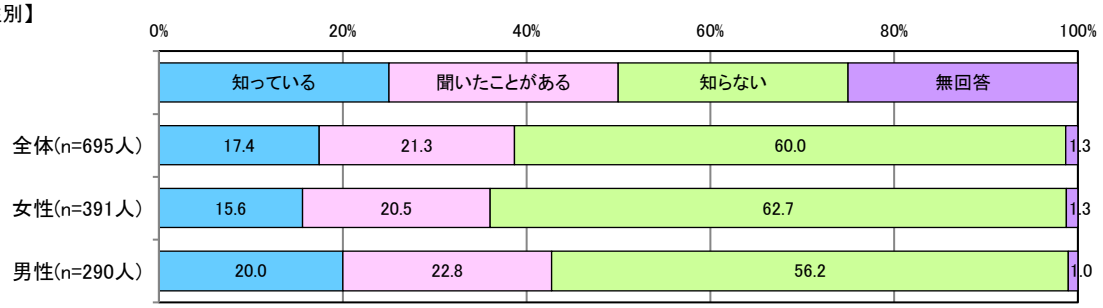
９．アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）

・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、女性は 62.7%、男性は 56.2%となっている。

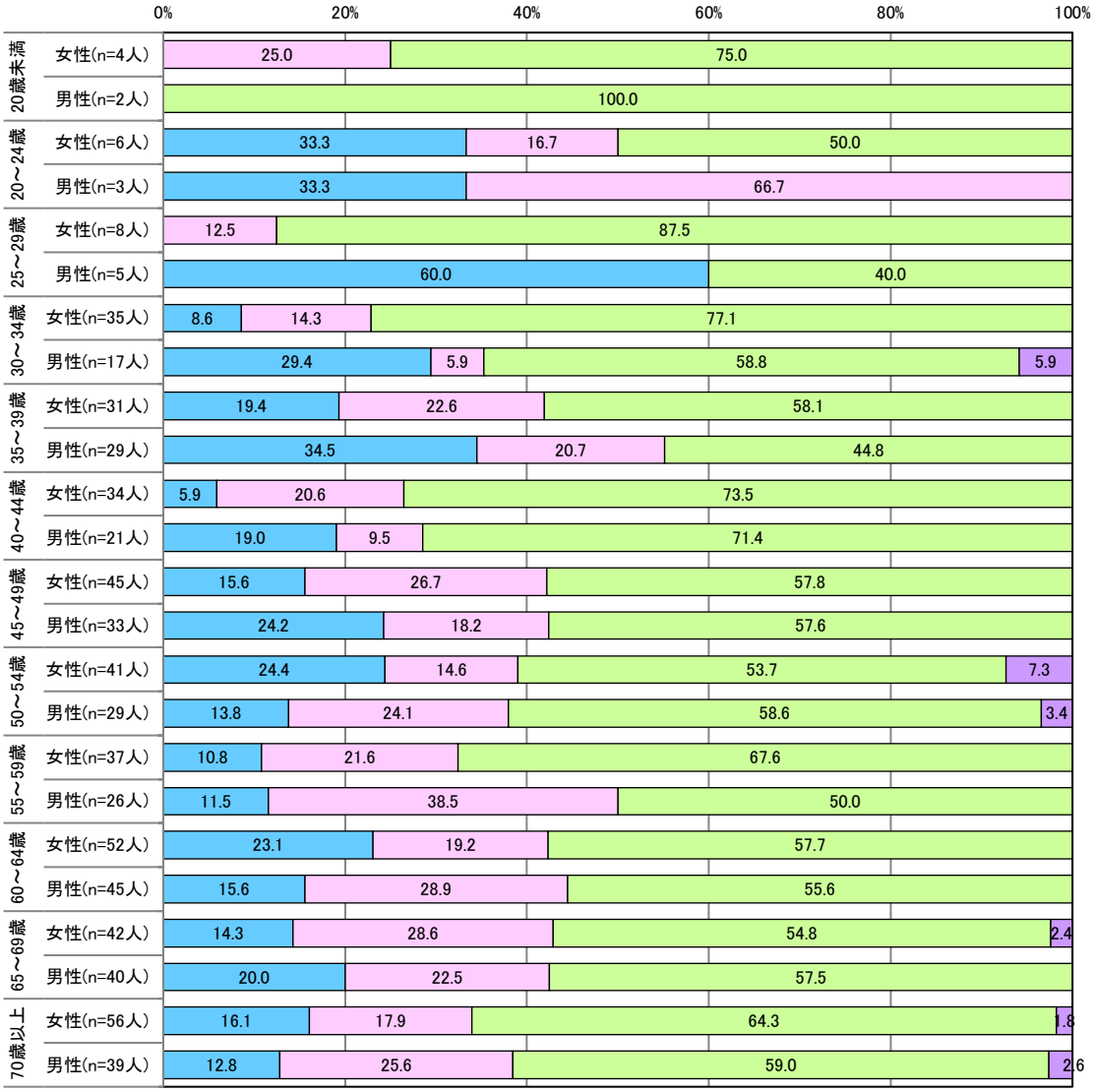
・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 36.1%、男性が 42.8%となっている。

・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男女、25 歳～29 歳の男性、35 歳～39 歳の男性、55 歳～59 歳の男性で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が５割以上となっている。

【性別】

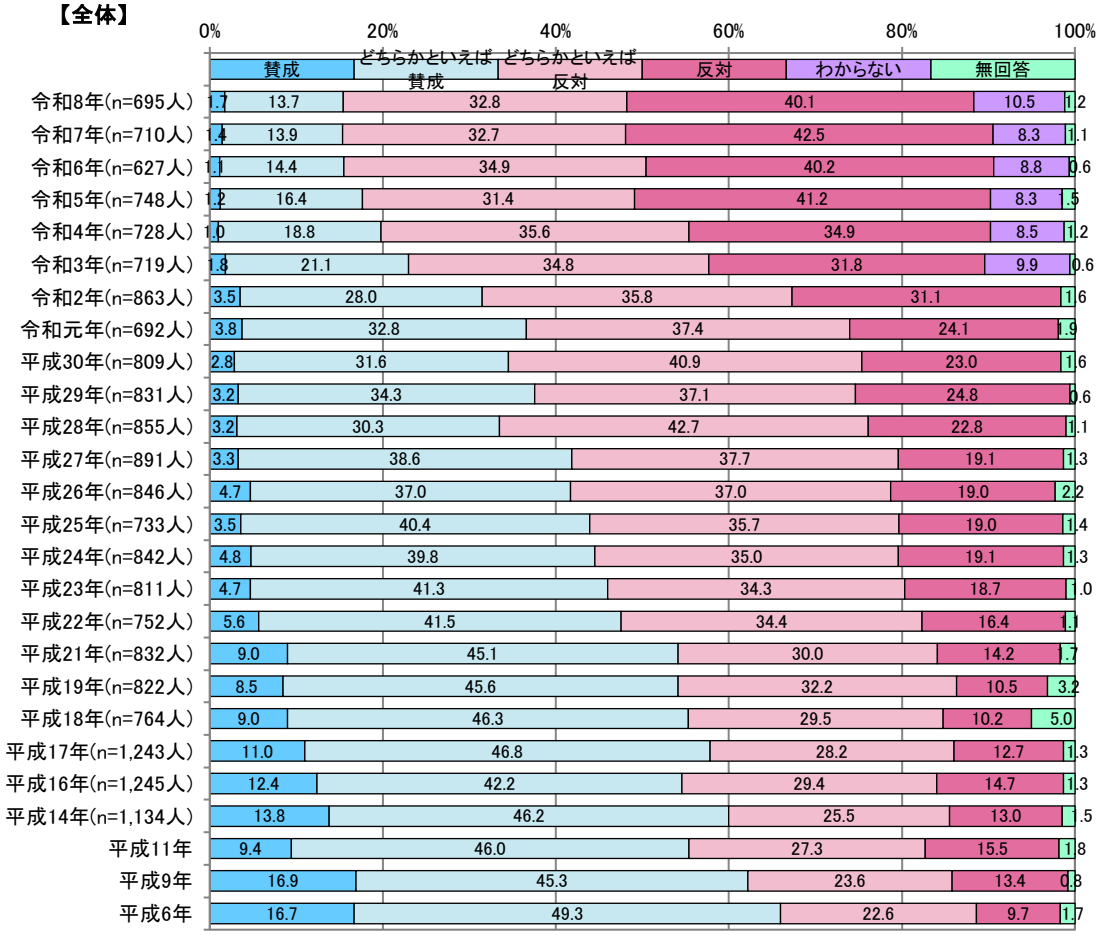


【世代別性別】



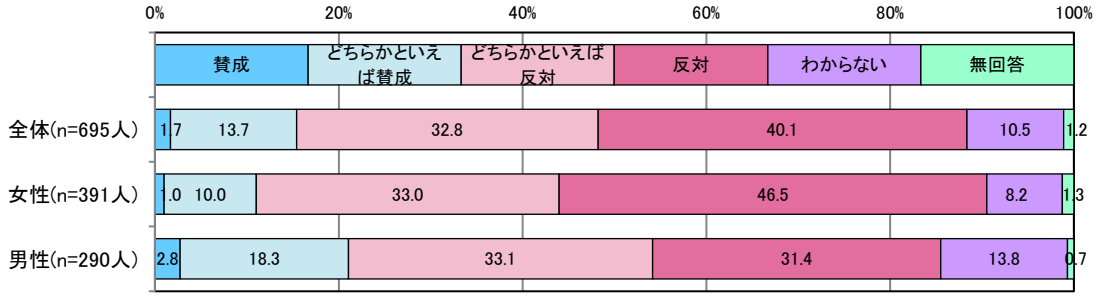
問３　「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。（○は１つ）

・令和８年の調査結果は、「賛成」が 1.7%「どちらかといえば賛成」が 13.7%、「どちらかといえば反対」が 32.8%、「反対」が 40.1%となった。
・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成 28 年以降は横ばい傾向となっていたものの、令和元年以降、再度減少傾向にある。令和８年は令和７年と比べて、「どちらかといえば賛成」は 0.2 ポイント、「反対」は 2.4 ポイント減少となった。一方、「賛成」が 0.3 ポイント、「どちらかといえば反対」は 0.1 ポイント、「わからない」が 2.2 ポイント増加となった。

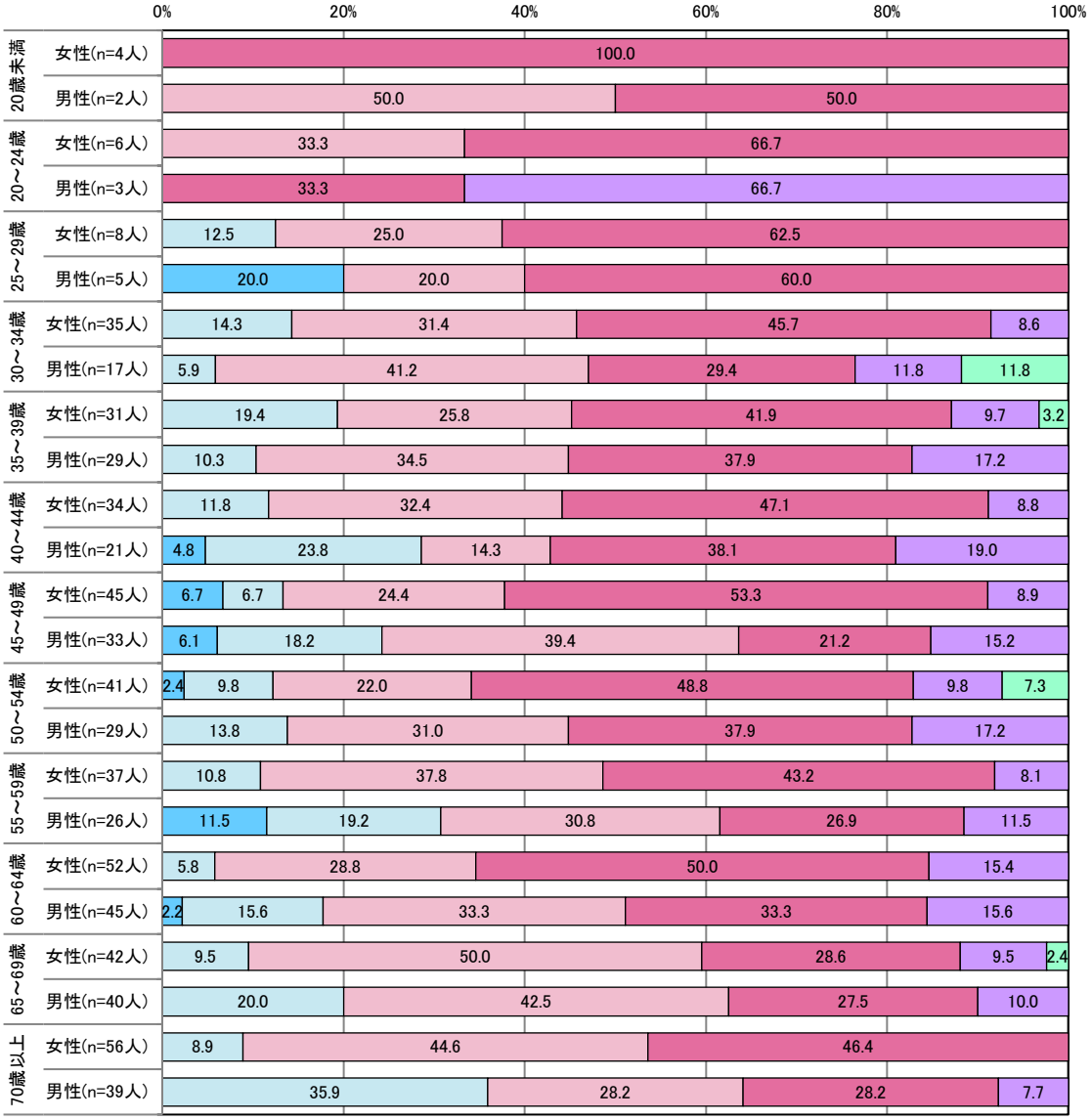


・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、女性が 79.5%、男性が 64.5%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は 20 歳～24 歳の男性を除いて、いずれの世代も５割以上となっている。

【性別】



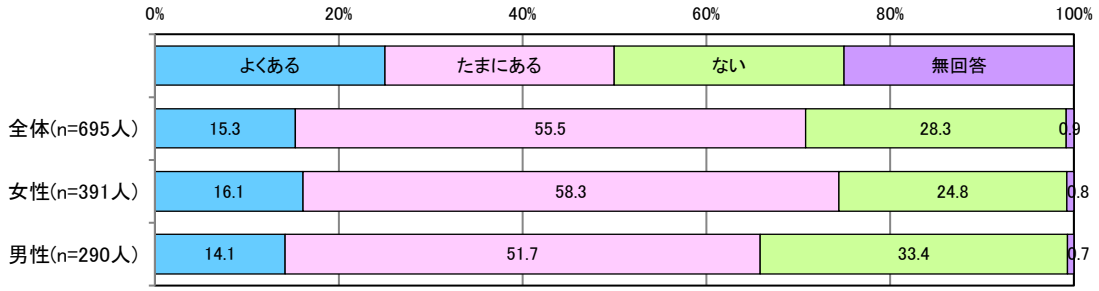
【世代別性別】



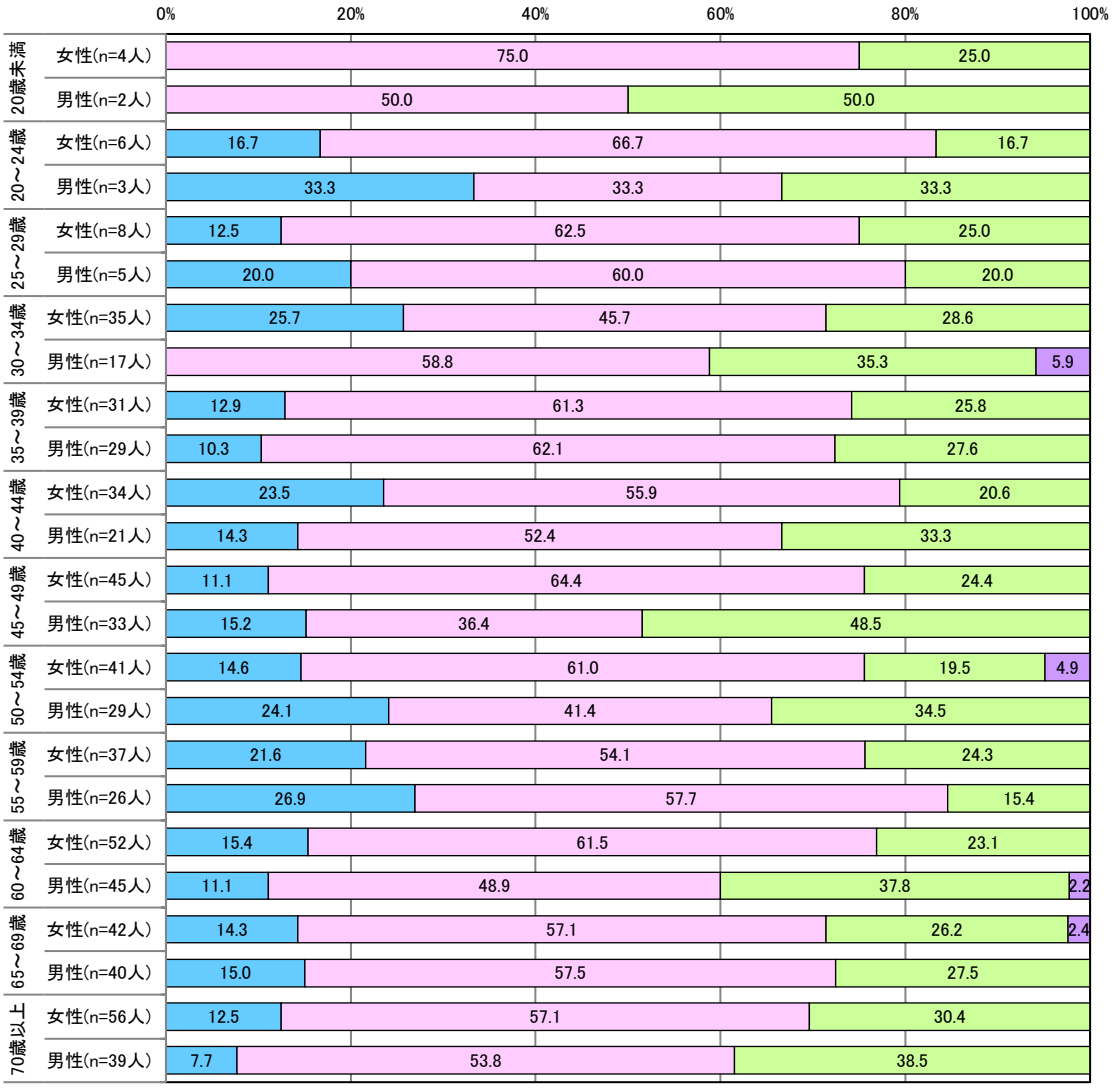
問４　日常の生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。（○は１つ）

・性別でみると、「たまにある」が５割以上と最も多い。女性は 58.3%、男性は 51.7%と、男性より女性の方が、性別によって役割を期待される方が多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、25 歳～29 歳の男性、55 歳～59 歳の男性で、「よくある」、「たまにある」の回答割合の合計が８割以上となっている。

【性別】



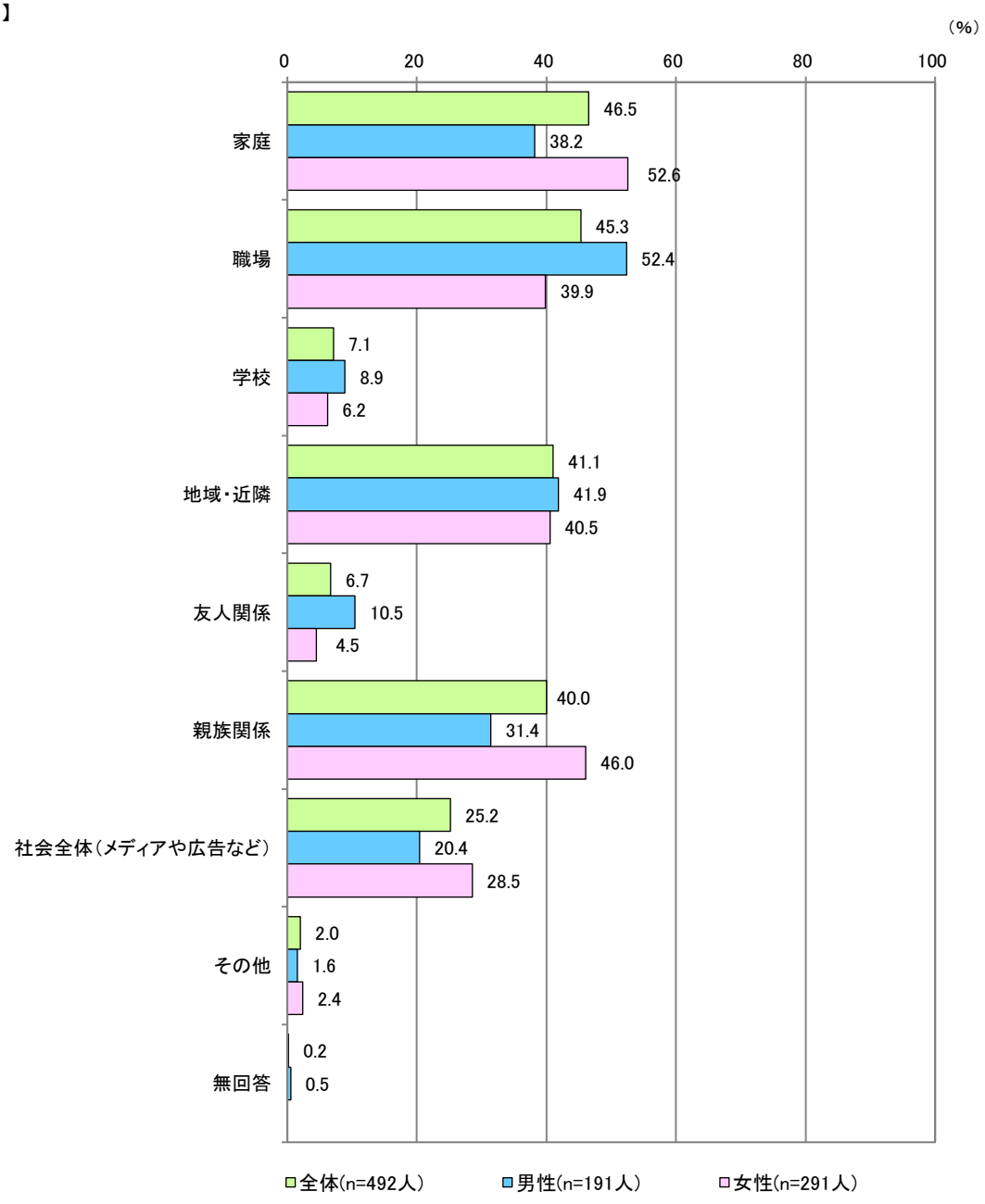
【世代別性別】



問４で「 1. よくある」または「 2. たまにある」を選ばれた方におたずねします。
問５どのような場で言われたり、期待されたりしますか。（○はいくつでも）

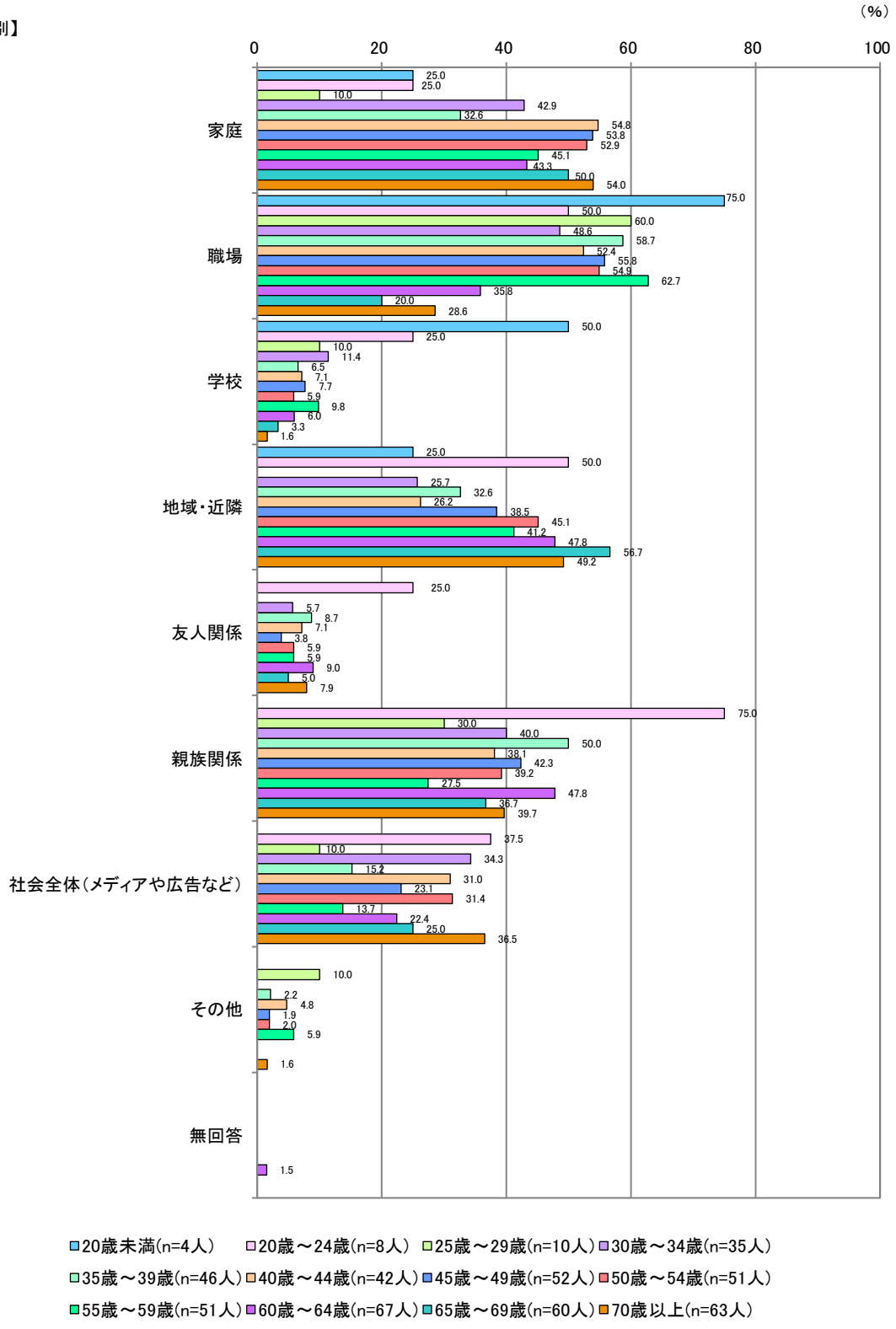
・性別でみると、男性では、「職場」（52.4%）が５割を超え最も多く、次に、「地域・近隣」（41.9%）となる。一方、女性では、「家庭」（52.6%）が５割を超え最も多く、次いで、「親族関係」（46.0%）となっている。

【性別】



・世代別でみると、20 歳未満、25 歳～39 歳、45 歳～59 歳では、「職場」が約５割以上と最も多い。20 歳～24 歳では、「親族関係」が約８割と最も多く、40 歳～44 歳では、「家庭」が最も多くなっている。60 歳～64 歳では、「親族関係」、「地域・近隣」が同率で最も多くなっている。65 歳以上では、「地域・近隣」が最も多くなっている。

【世代別】

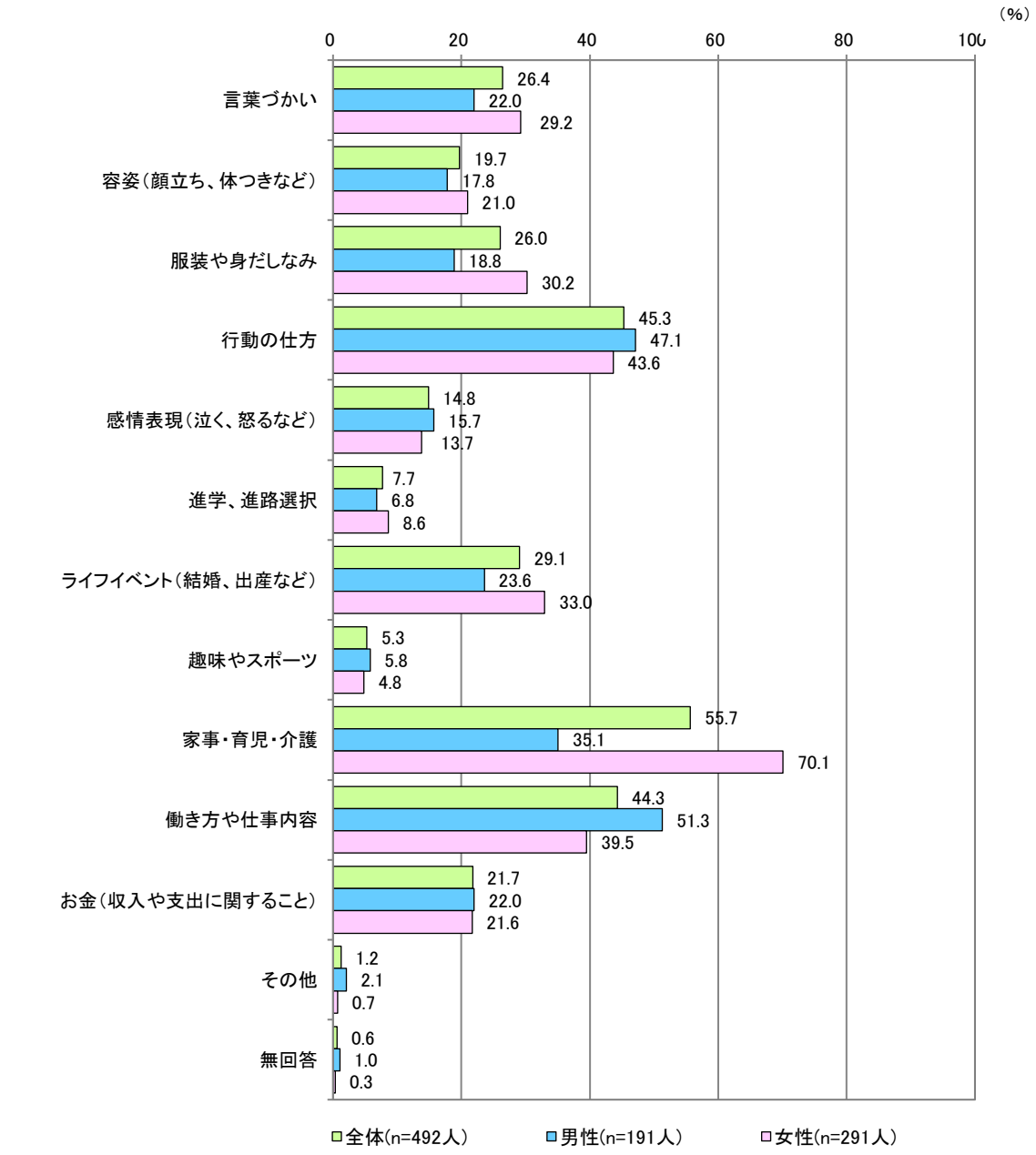


問６　それは、どのような内容に関することですか。（○はいくつでも）

・性別でみると、男性では、「働き方や仕事内容」（51.3%）が５割以上と最も多く、次いで、「行動の仕方」（47.1%）となる。一方、女性では、「家事・育児・介護」（70.1%）が７割以上と最も多く、次いで、「行動の仕方」（43.6%）、「働き方や仕事内容」（39.5%）となっている。

・「家事・育児・介護」、「ライフイベント（結婚、出産など）」、「服装や身だしなみ」、「言葉づかい」、「容姿（顔立ち、体つきなど）」、「進学、進路選択」では、女性の回答割合が男性よりも高くなっている。

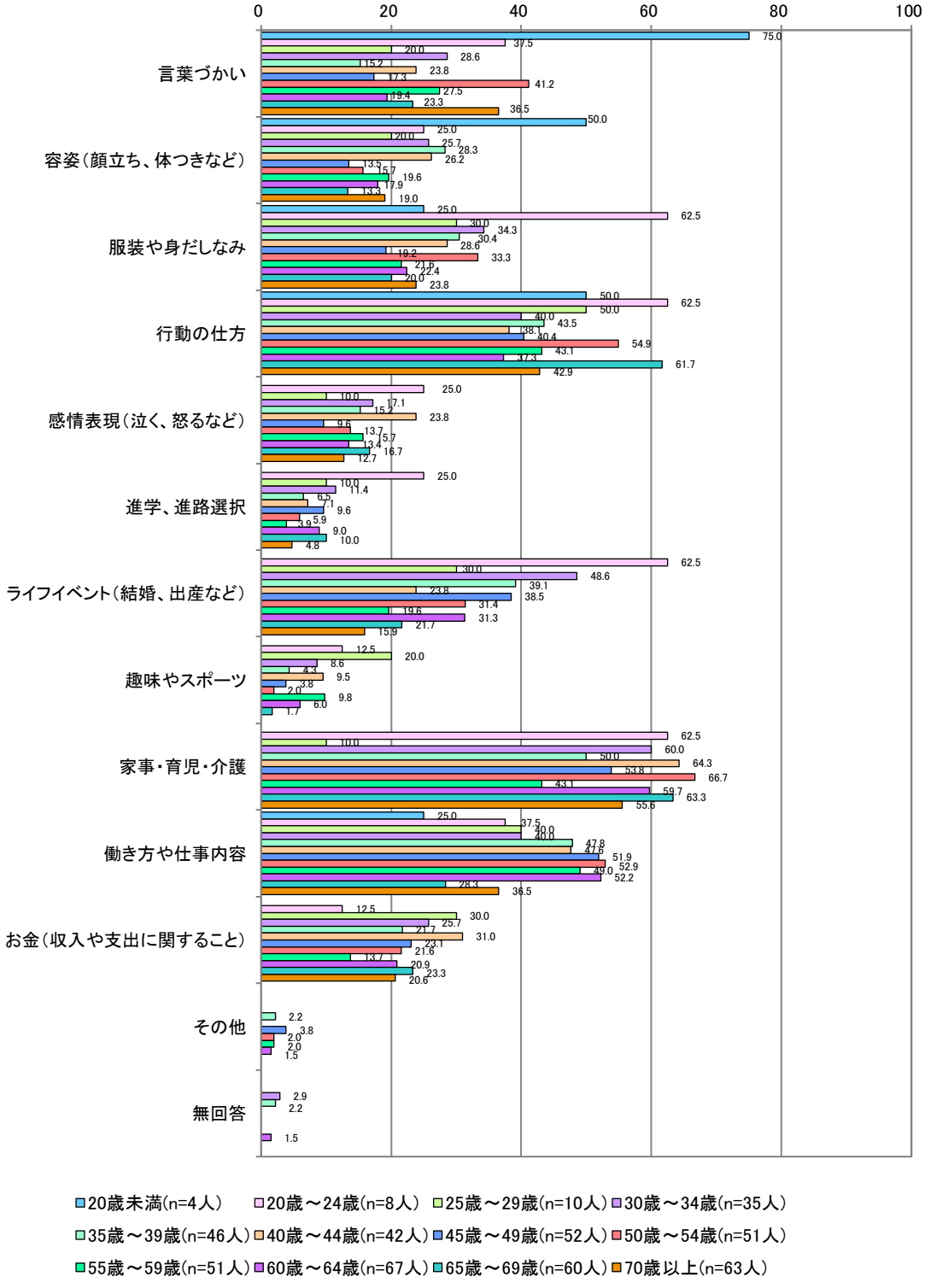
【性別】



・世代別でみると、20 歳未満では、「言葉づかい」が最も多くなっている。20 歳～24 歳では、「服装や身だしなみ」、「行動の仕方」、「ライフイベント（結婚、出産など）」、「家事・育児・介護」が同率で最も多くなっている。25 歳～29 歳では、「行動の仕方」が最も多い回答となる。30 歳～54 歳、60 歳以上では、「家事・育児・介護」が最も多くなっている。55 歳～59 歳は、「働き方や仕事内容」が最も多くなっている。

（%）

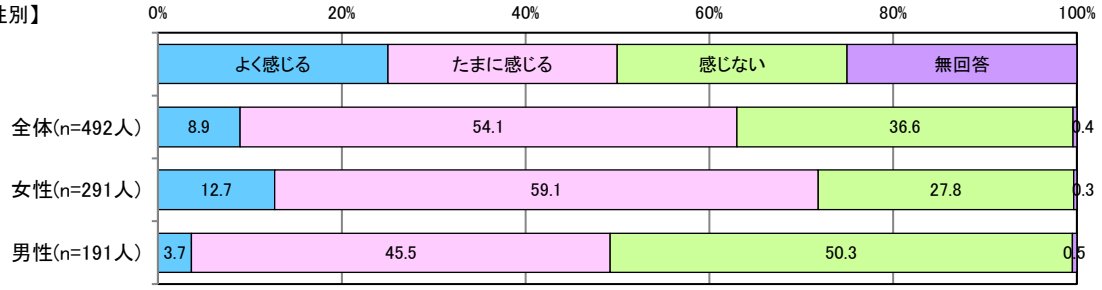
【世代別】



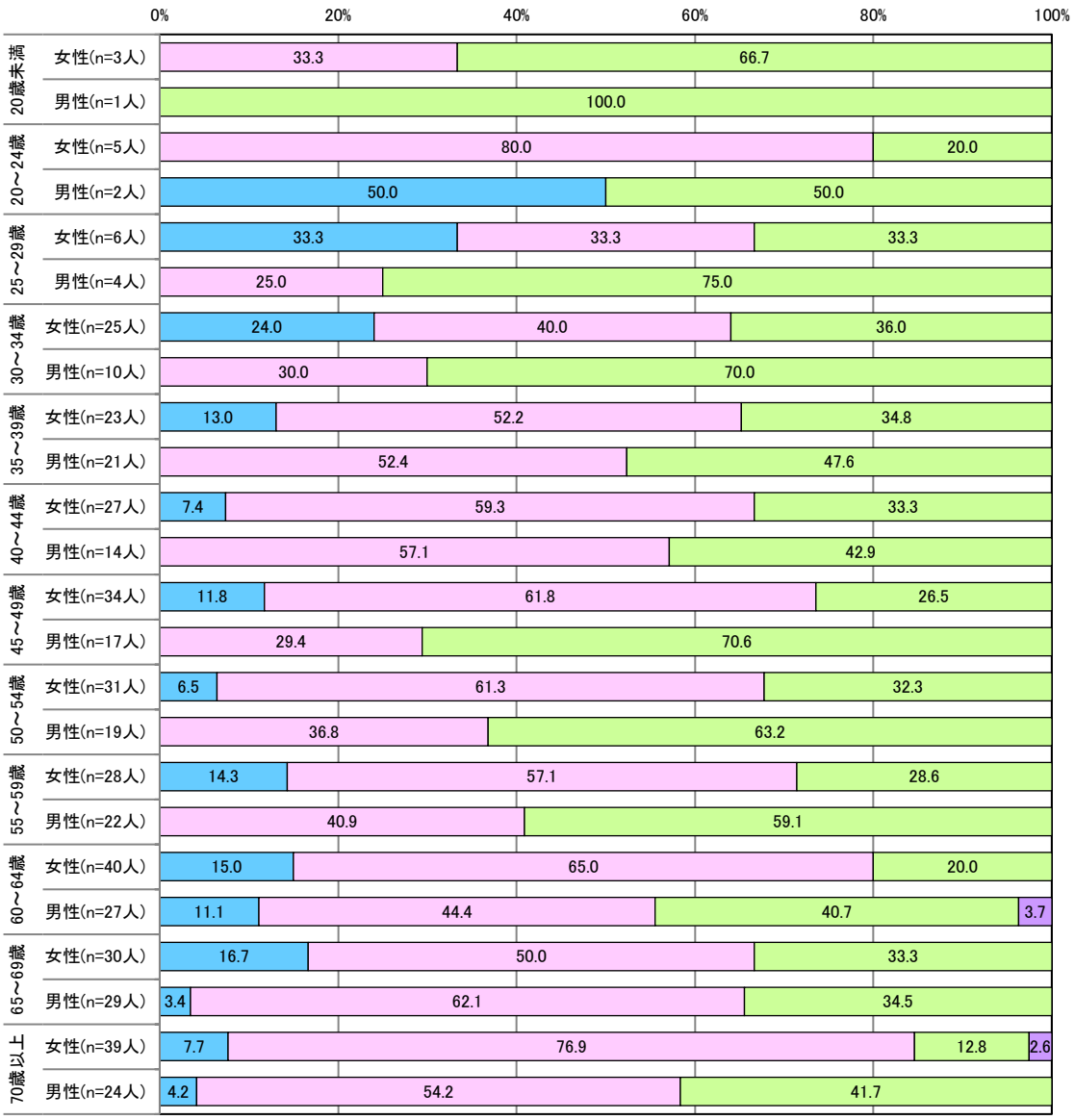
問７　日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。（○は１つ）

・性別でみると、女性では、「たまに感じる」（59.1%）が約６割と最も多い。一方、男性では、「感じない」（50.3%）が約５割と最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、70 歳以上の女性が約８割、60 歳～64 歳の女性で、「たまに感じる」が約７割となっている。

【性別】



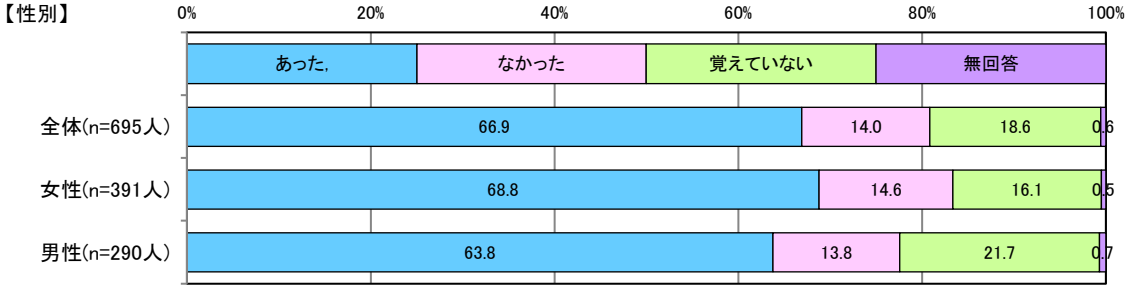
【世代別性別】



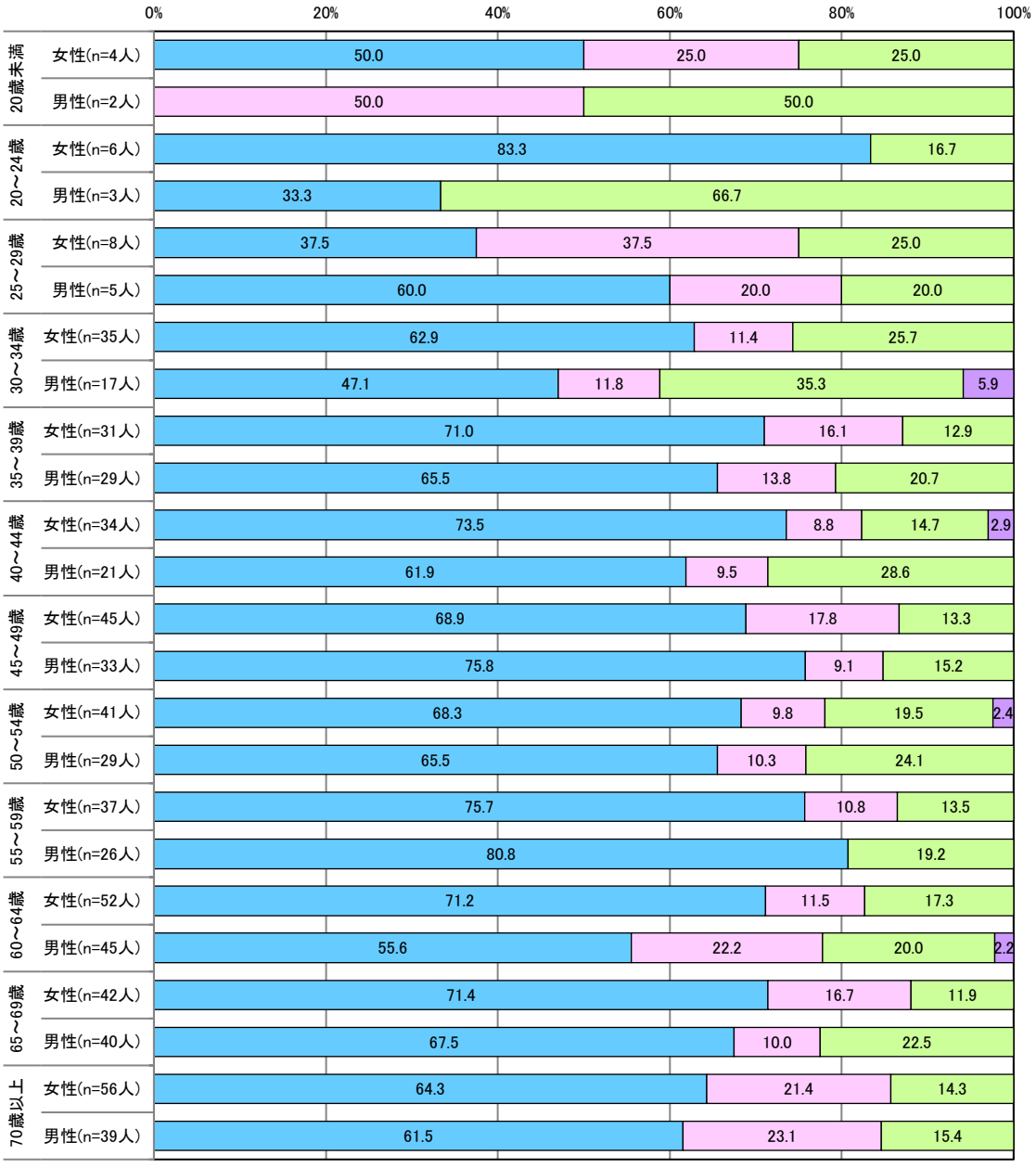
問８　子ども時代に「女の子／男の子だから○○しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。（○は１つ）

・性別でみると、男女とも「あった」が６割を超え最も多い。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、55 歳～59 歳の男性で「あった」が８割以上となっている。

【性別】



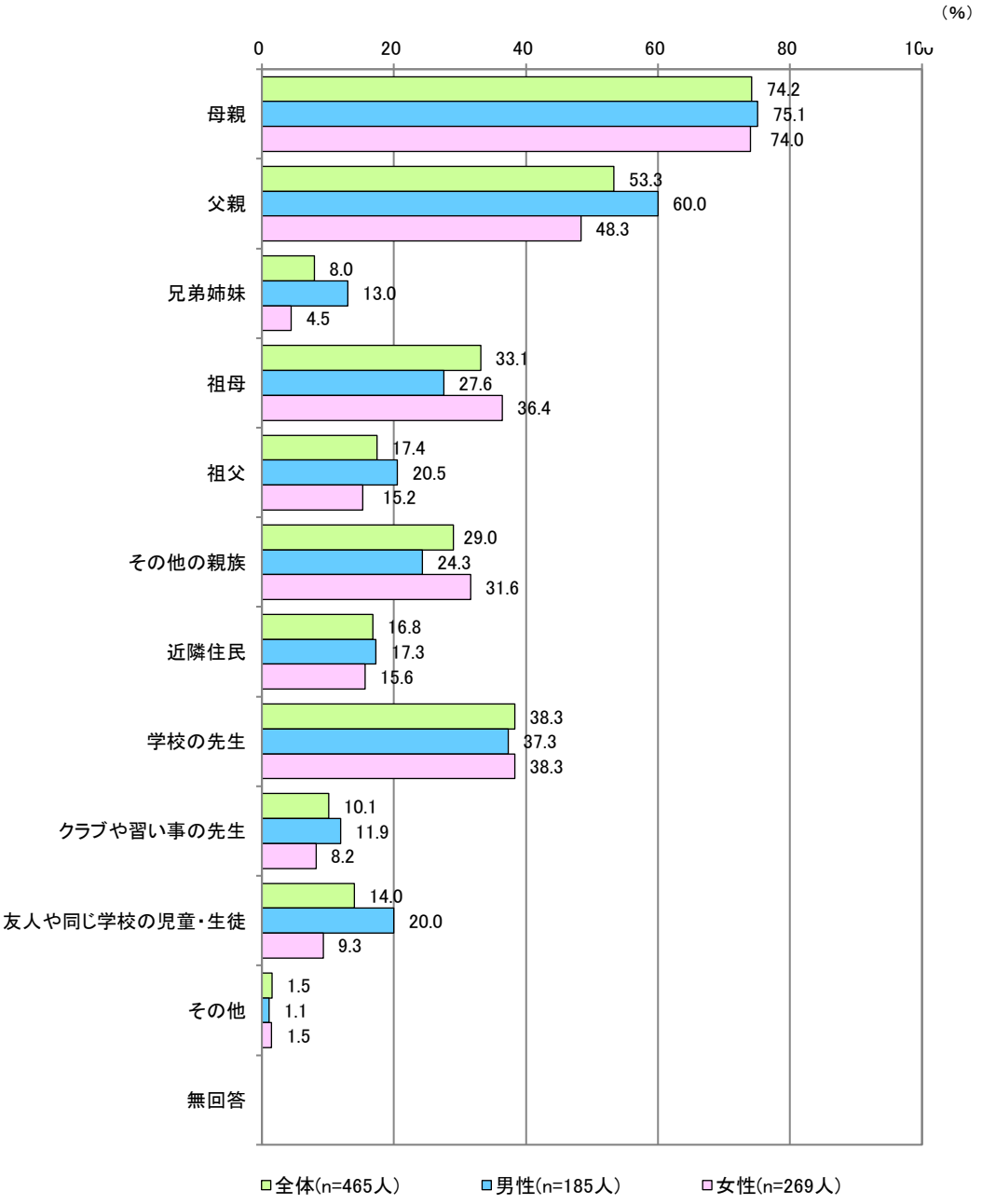
【世代別性別】



問８ で「 1. あった」を選ばれた方におたずねします。
問９それは、誰に言われましたか。（○はいくつでも）

・性別でみると、男女ともに「母親」が男性（75.1%）、女性(74.0%)で７割を超えて最も多く、次いで、「父親」、「学校の先生」と続いている。
・「学校の先生」、「祖母」、「その他の親族」、「その他」では、男性よりも女性の回答割合が多くなっている。

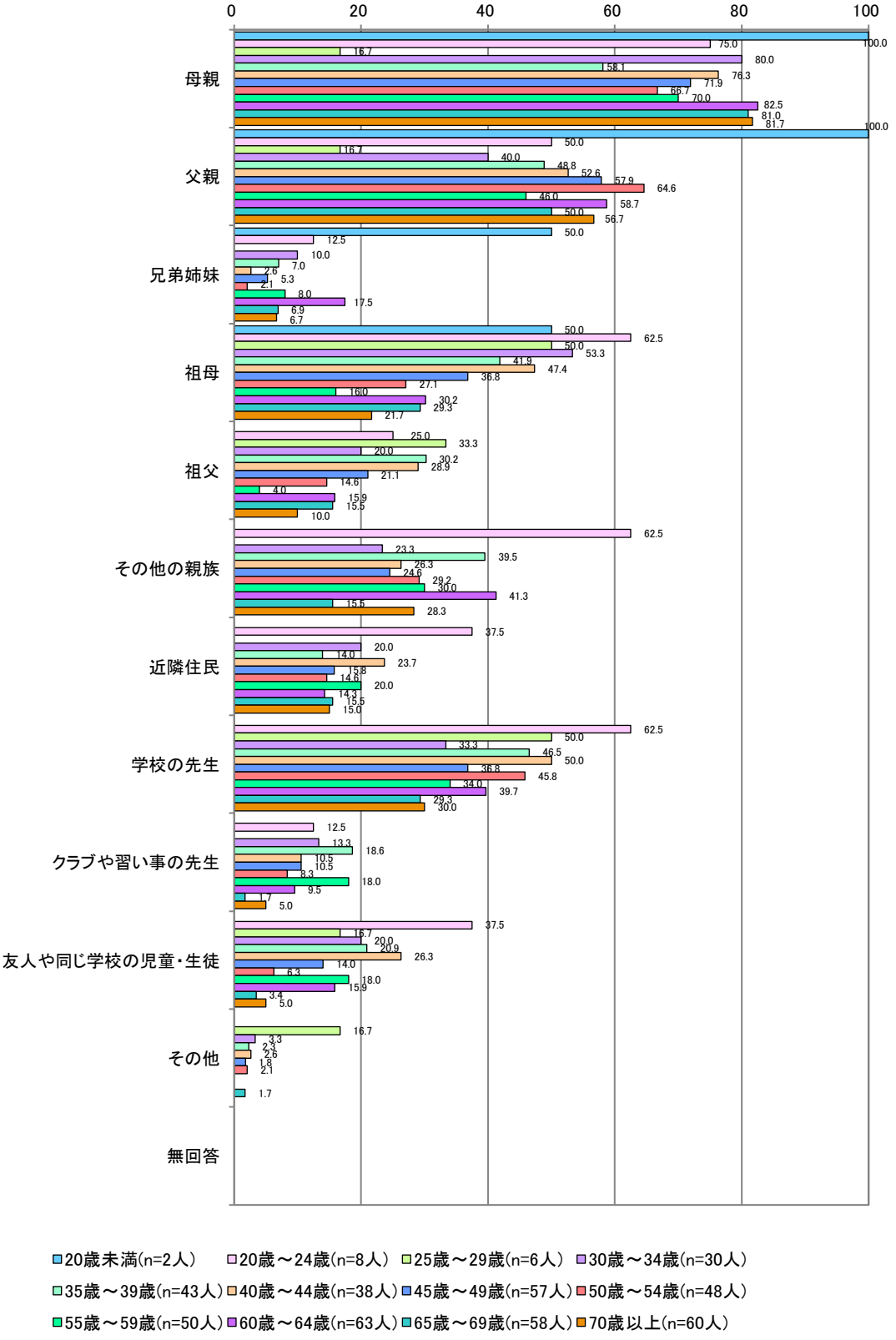
【性別】



・世代別でみると、25 歳～29 歳を除く世代では、「母親」が最も多くなっている。25 歳～29 歳では、「祖母」、「学校の先生」が同率で最も多くなっている。

（%）

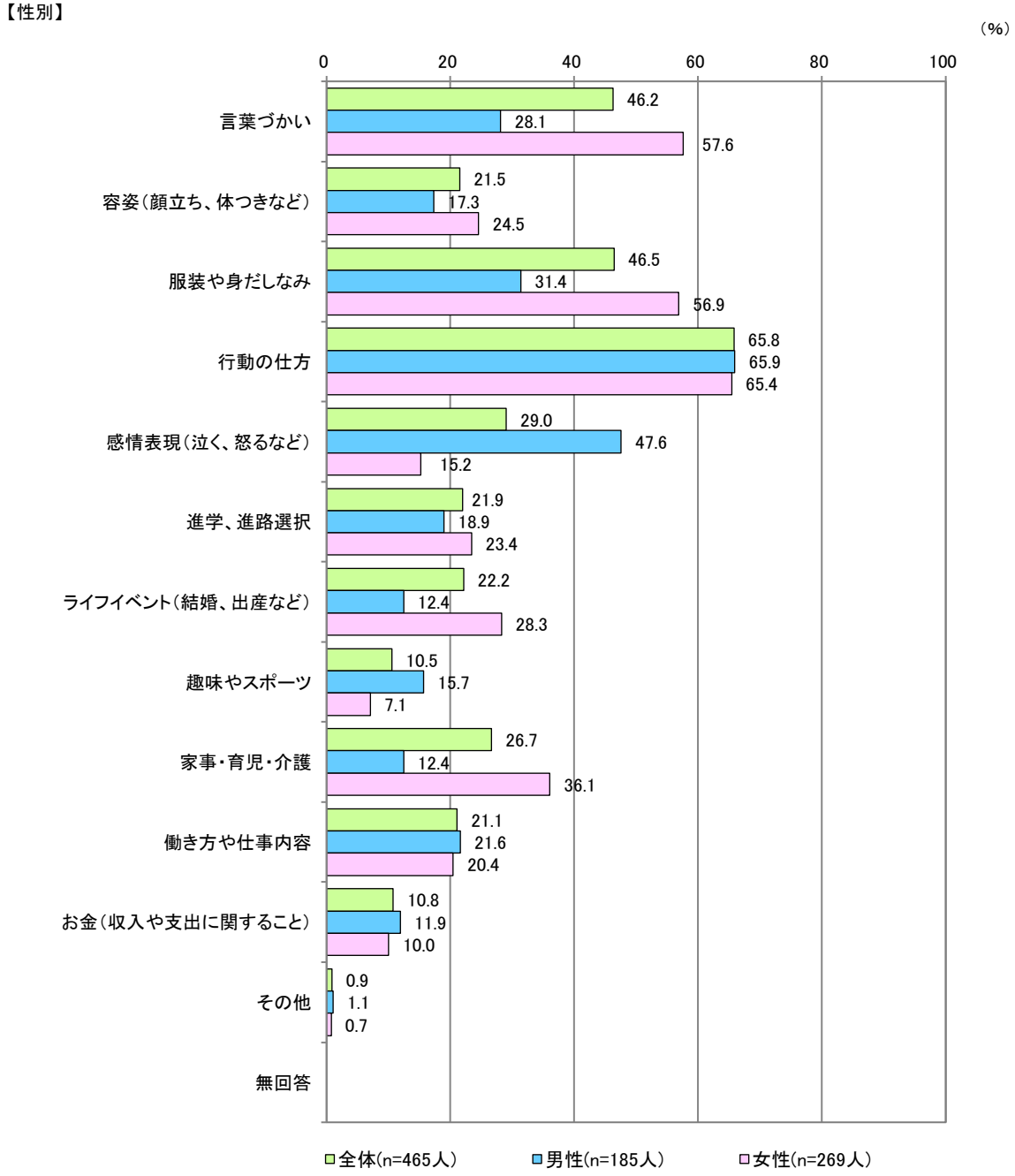
【世代別】



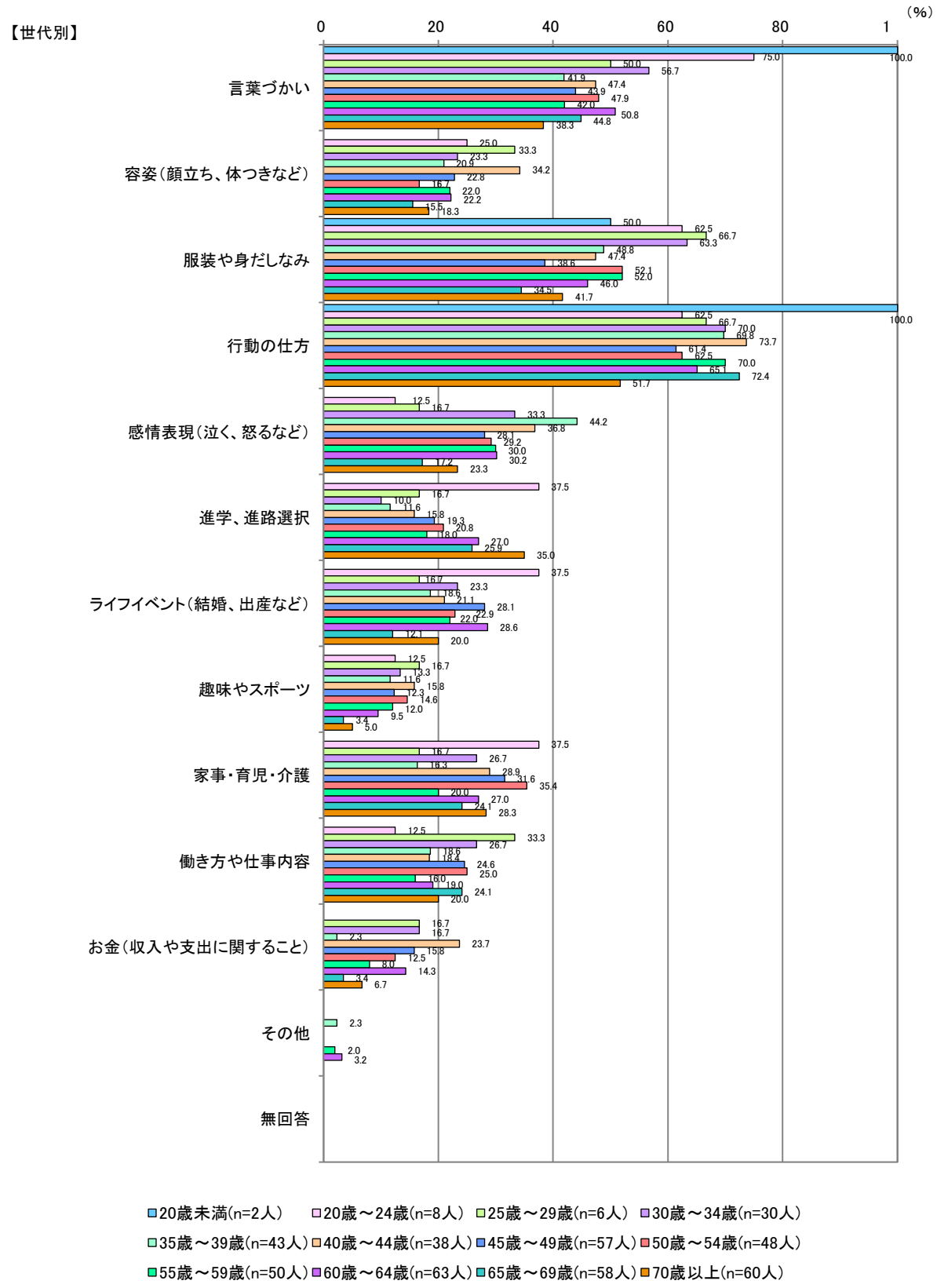
問 10 それは、どのような内容に関することですか。（○はいくつでも）

・性別でみると、男女ともに「行動の仕方」が男性（65.9%）、女性(65.4%)で約７割と最も多い。男性は、次いで、「感情表現（泣く、怒るなど）」（47.6%）、「服装や身だしなみ」（31.4%）、「言葉づかい」（28.1%）と続いている。一方、女性は、次いで、「言葉づかい」（57.6%）、「服装や身だしなみ」（56.9%）と続いている。

【性別】



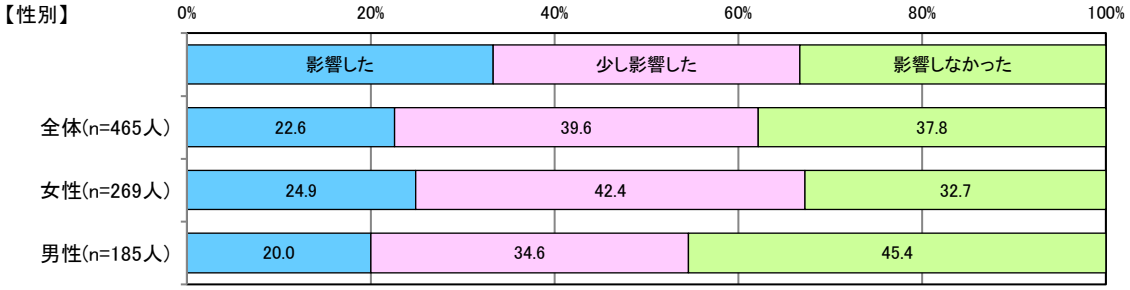
・世代別でみると、20 歳～24 歳を除く、いずれの世代も「行動の仕方」が最も多くなっている。



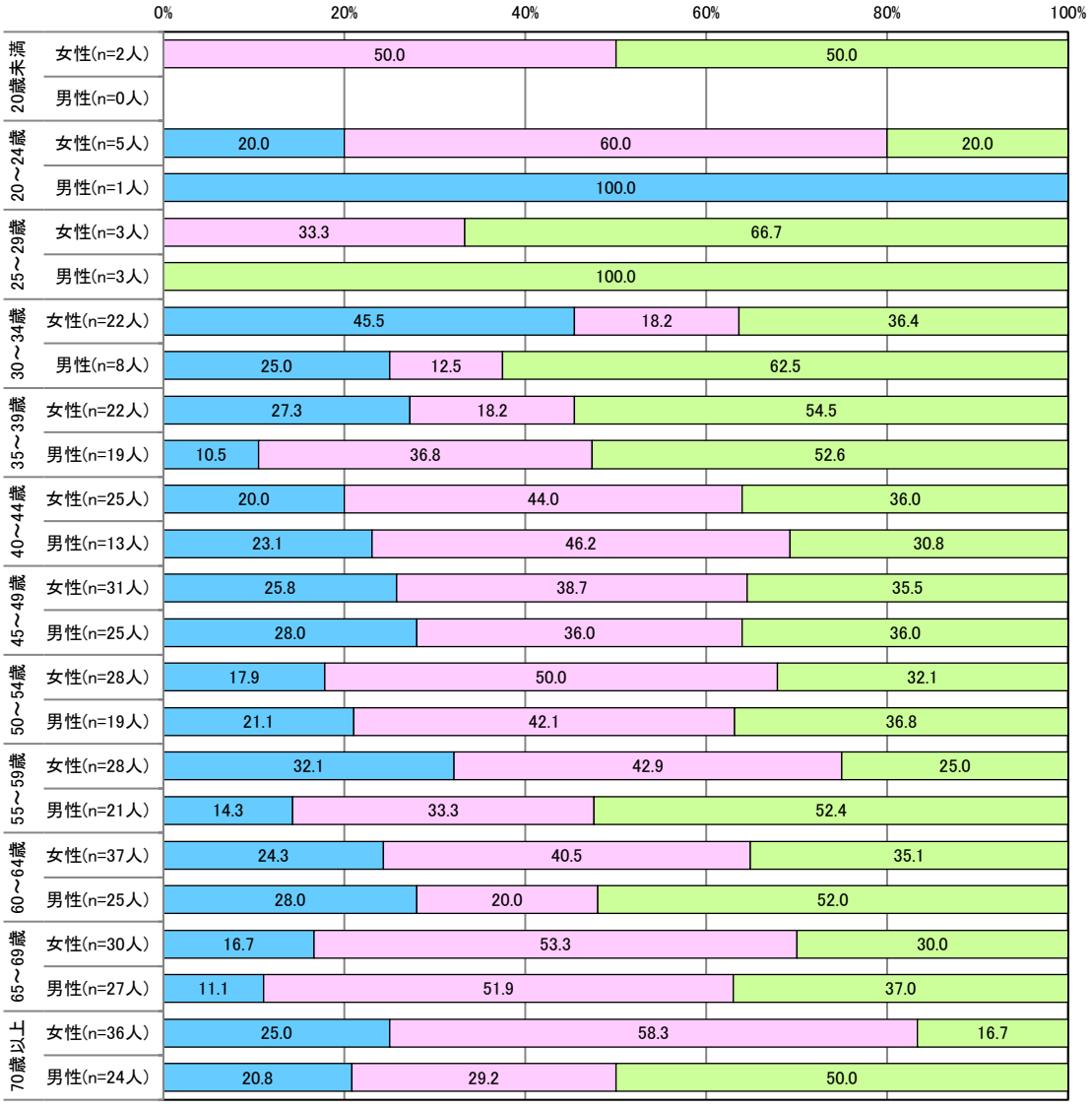
問 11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。（○は１つ）

・性別でみると、女性では、「少し影響した」（42.4%）が４割を超えて最も多い。一方、男性では、「影響しなかった」（45.4%）が約５割と最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男女、30 歳～34 歳の女性、40 歳～54 歳の男女、55 歳～64 歳の女性、65 歳～69 歳の男女、70 歳以上の女性で「影響した」、「少し影響した」の回答割合の合計が６割以上となっている。

【性別】



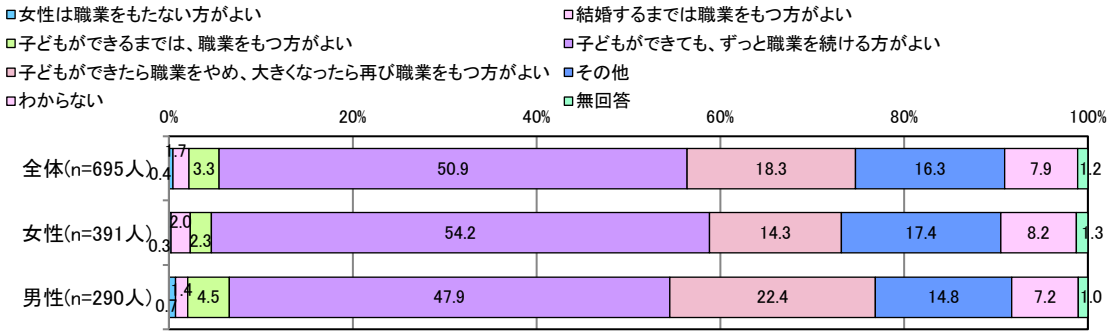
【世代別性別】



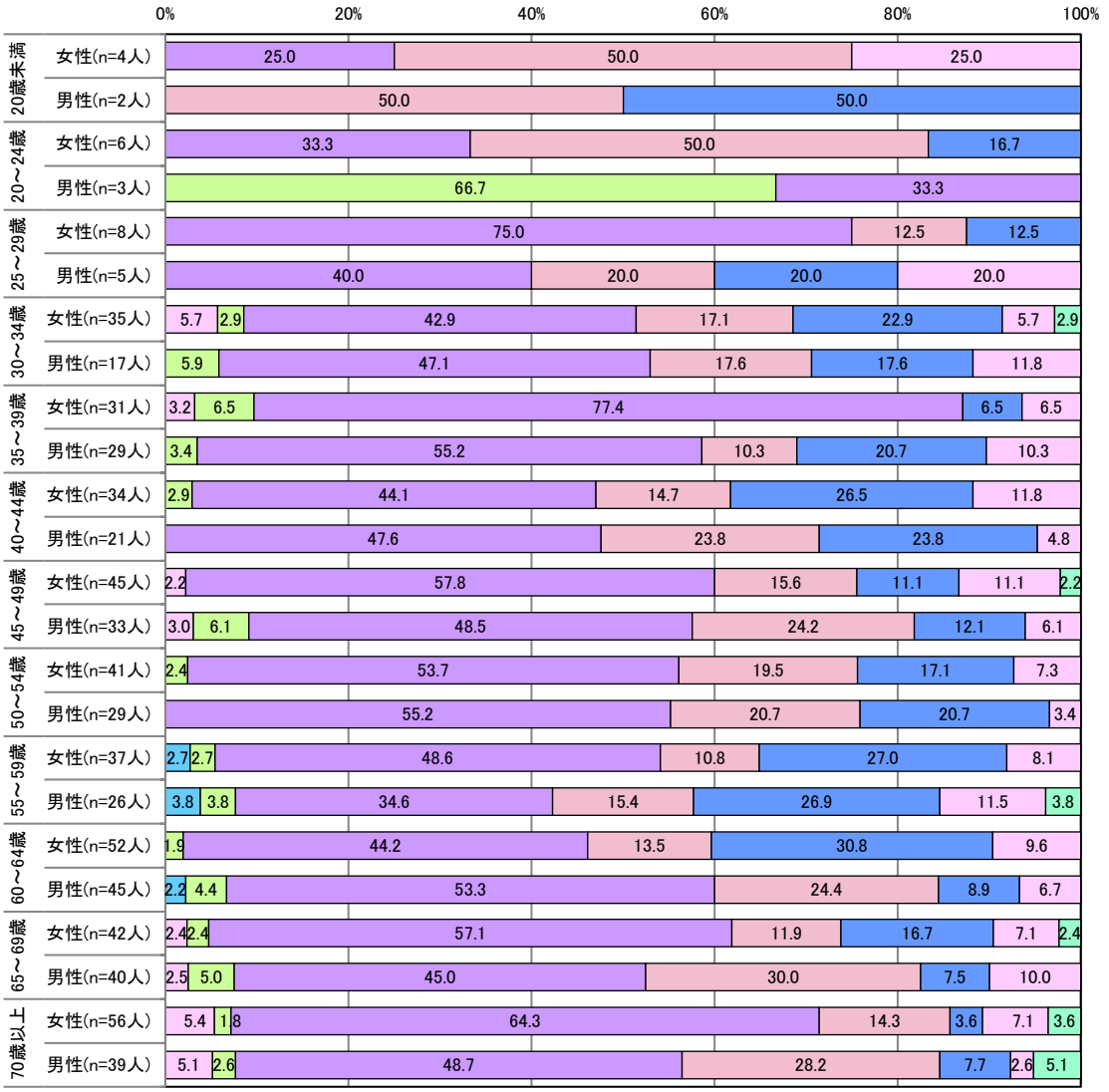
問 12　一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（○は１つ）

・性別でみると、男女ともに、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、男性は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男女、20 歳～24 歳の男女を除く世代では、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。

【性別】



【世代別性別】

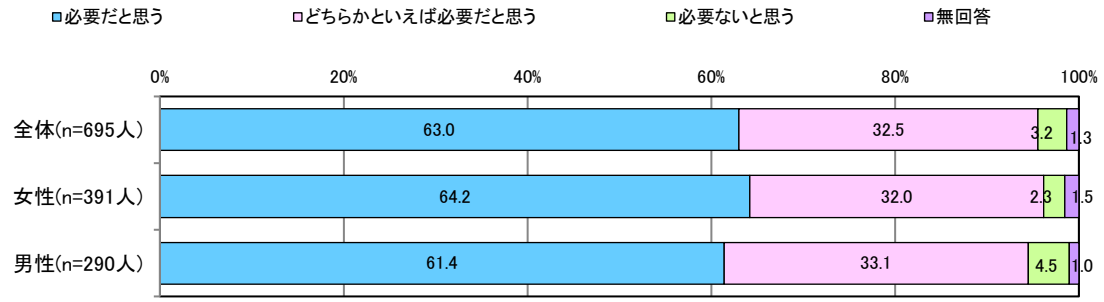


職場における「女性活躍と就労」に関することについて

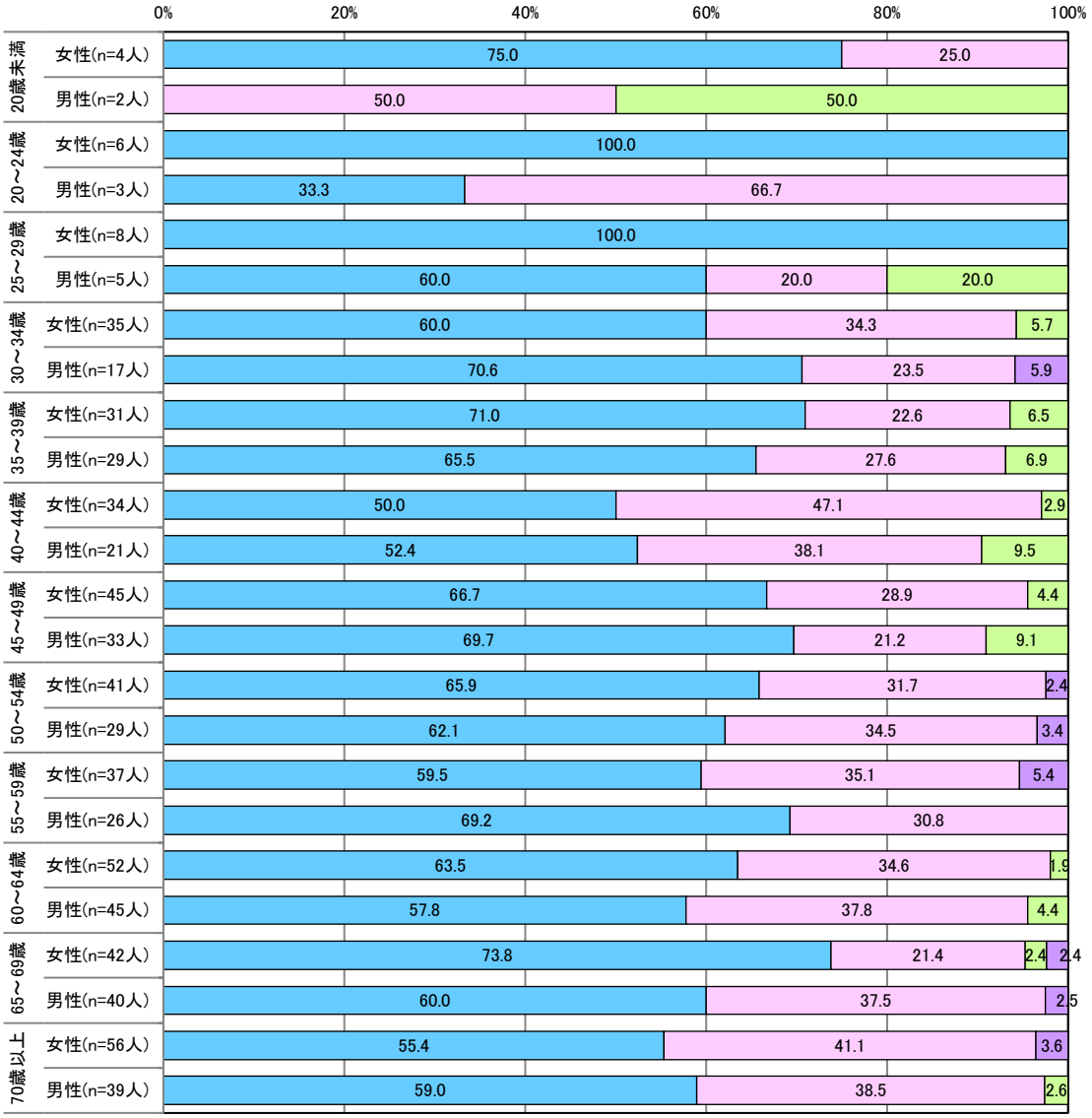
問 13　方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。（○は１つ）

・性別でみると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、20 歳～24 歳の男性を除き、いずれの世代でも「必要だと思う」が最も多くなっている。

【性別】



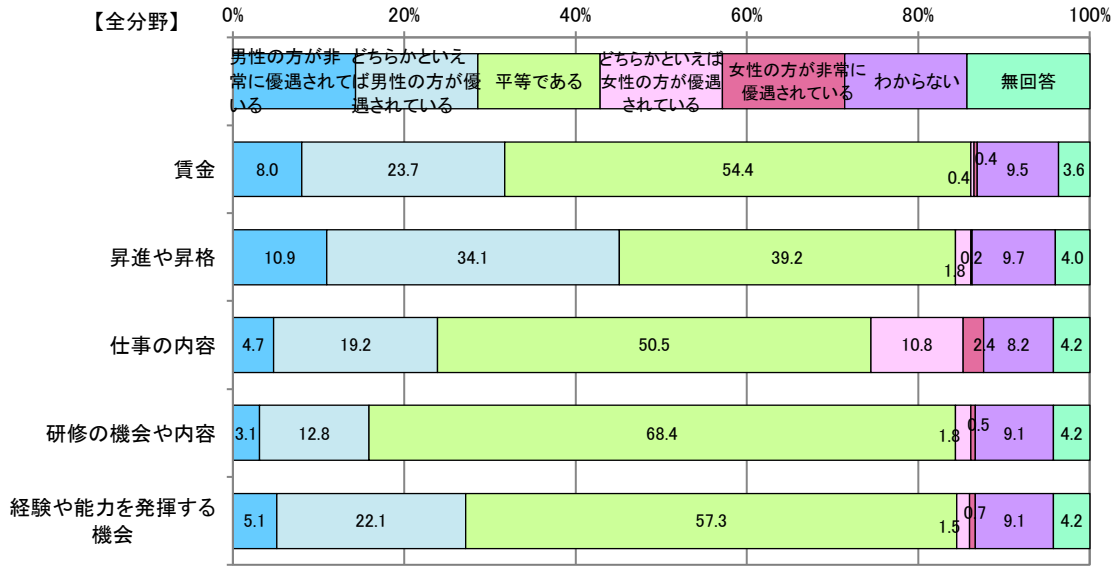
【世代別性別】



現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問 14　あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。（それぞれ○は１つ）

・「平等である」という回答が最も多くなっている。
・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計でみると、「昇進や昇格」が約５割（45.0%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」（31.7%）、「経験や能力を発揮する機会」（27.2%）、「仕事の内容」（23.9%）、「研修の機会や内容」（15.9%）の順に続いている。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約１割（10.8%）となっている。それ以外の分野では、１割未満となっている。

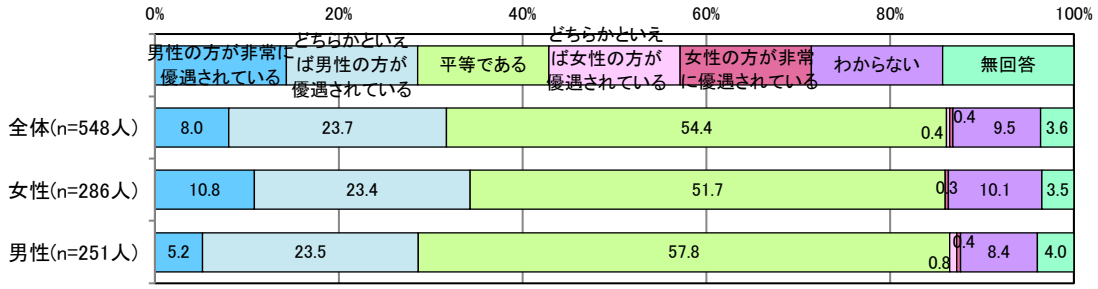


（全体 n=548 人）

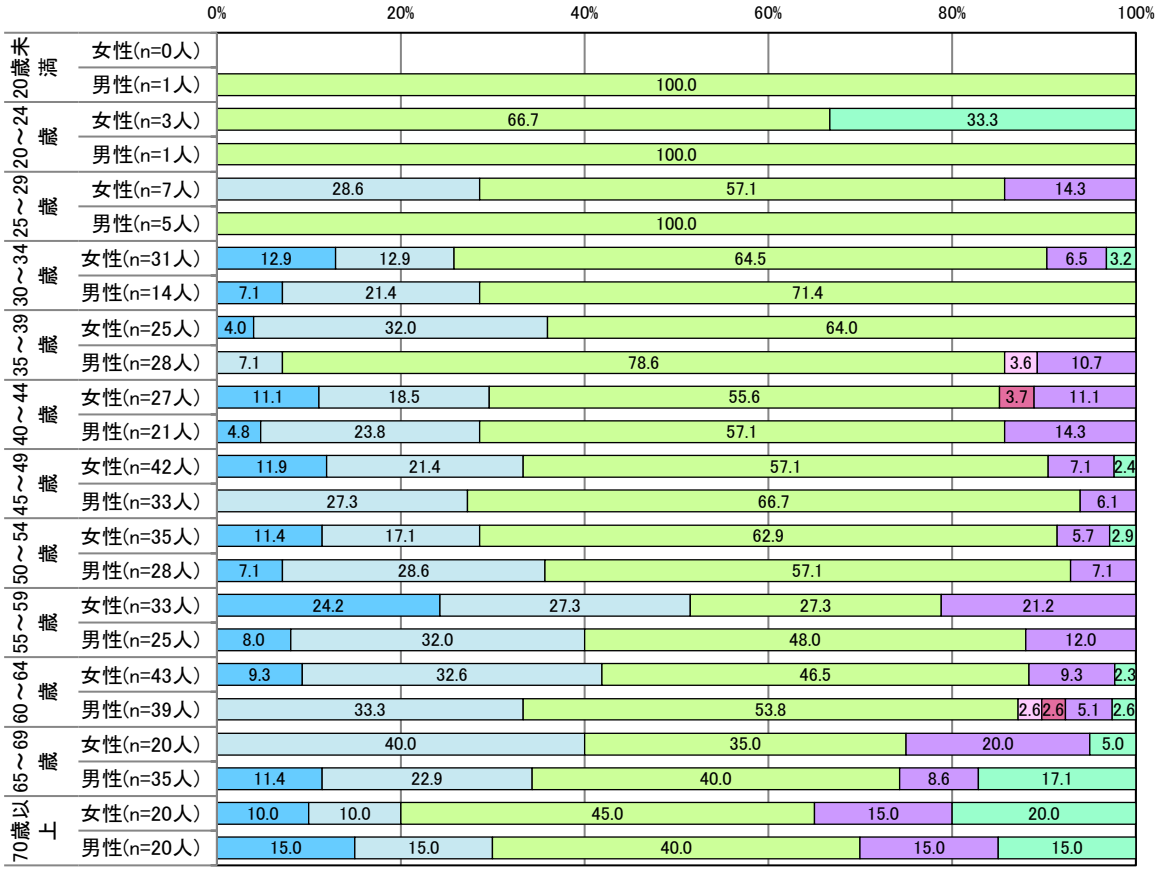
1. 賃金

・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、女性は 51.7%、男性は 57.8%となっている。
・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計では、女性は 34.2%、男性は 28.7%となっている。
・世代別性別でみると、65 歳～69 歳の女性を除き、いずれも「平等である」という回答の割合が最も多くなっている。

【性別】

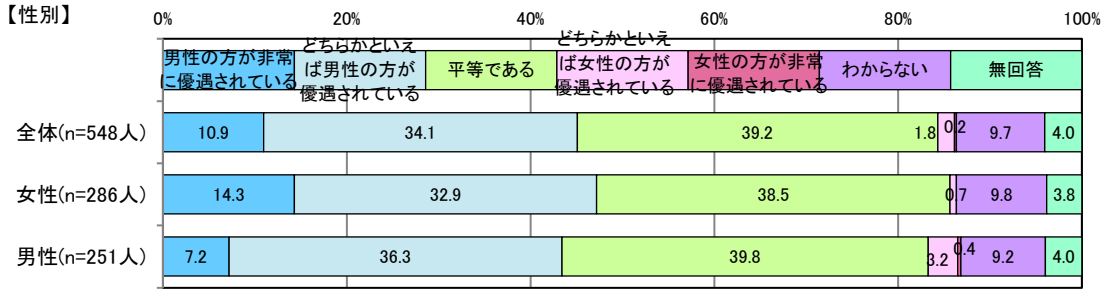


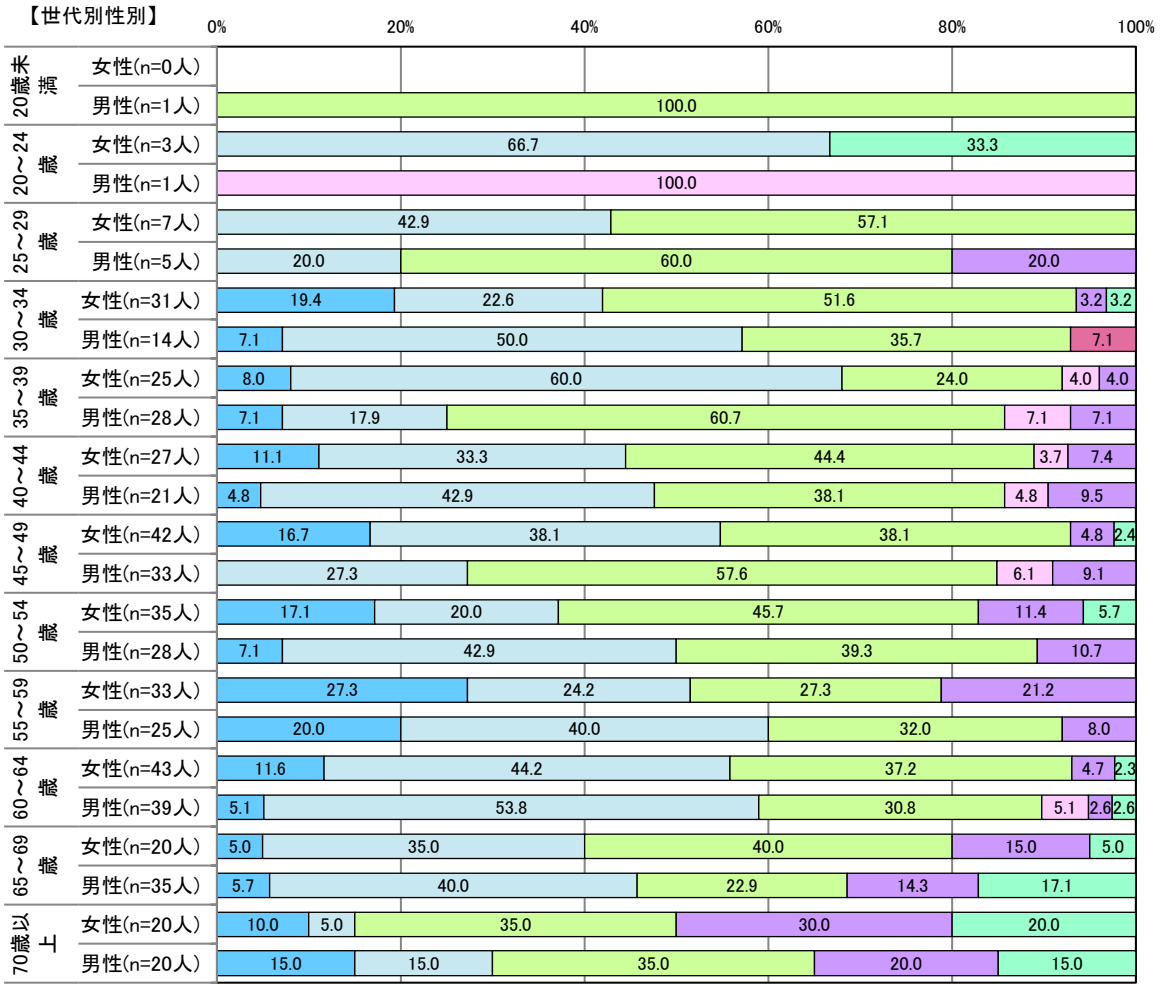
【世代別性別】



２．昇進や昇格

・性別でみると、男女とも、「平等である」という回答が最も多く、女性は 38.5%、男性は 39.8%となっている。
・一方で「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計では、女性は 47.2%、男性は 43.5%となっている。
・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合の合計が５割以上となる世代は、20 歳～24 歳の女性、30 歳～34 歳の男性、35 歳～39 歳の女性、45 歳～49 歳の女性、50 歳～54 歳の男性、55 歳～64 歳の男女となっている。一方、20 歳未満の男性、25 歳～29 歳の男女、30 歳～34 歳の女性、35 歳～39 歳の男性、45 歳～49 歳の男性では、「平等である」が５割以上と、最も多くなっている。

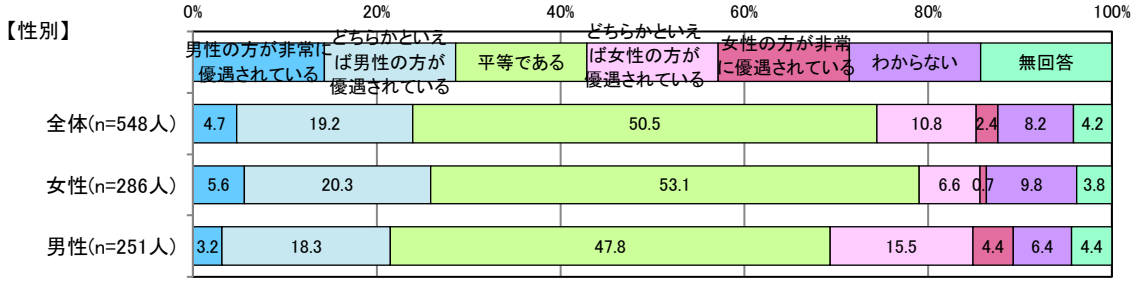




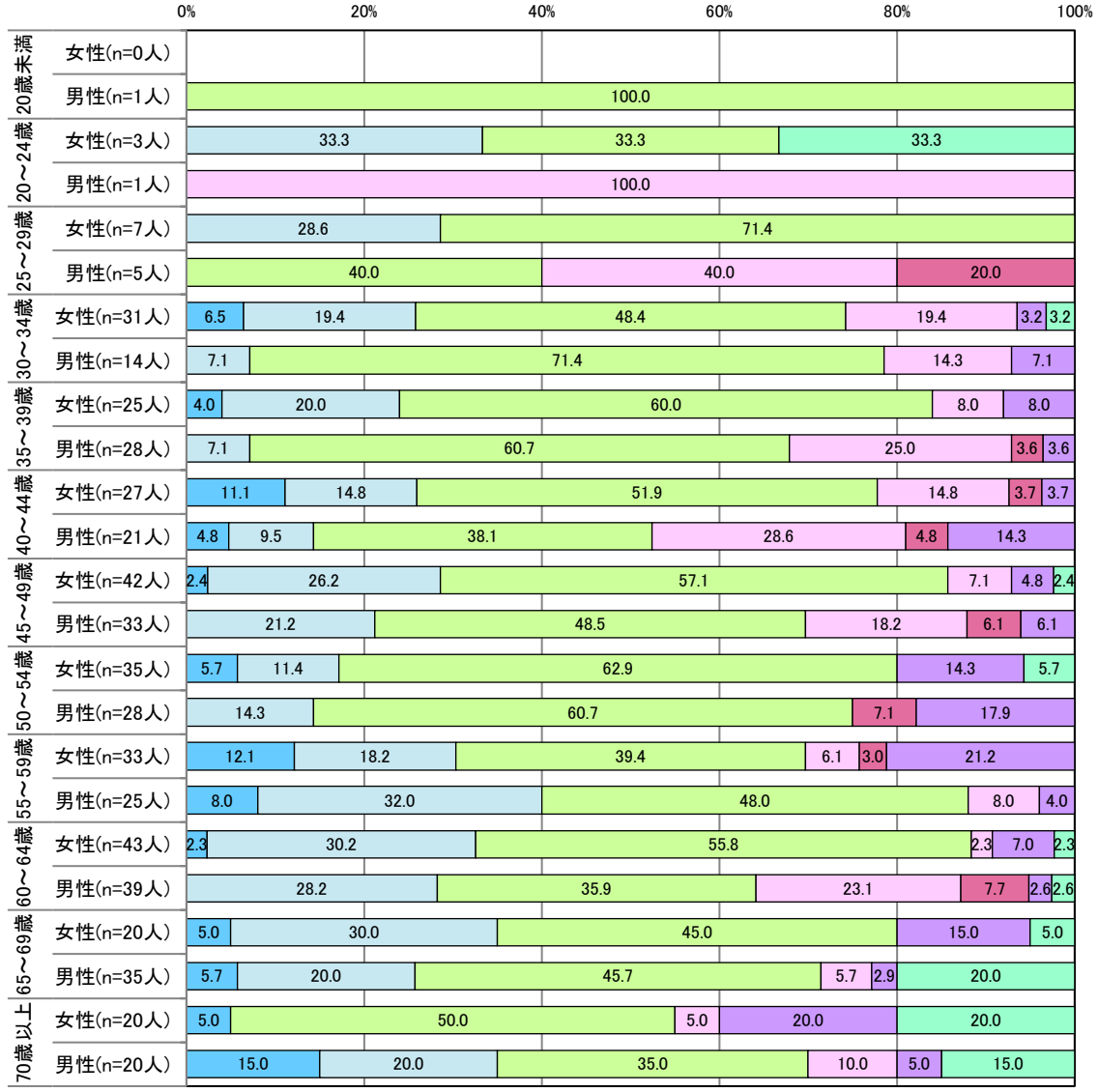
３．仕事の内容

・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、女性が 53.1%、男性が 47.8%となっている。
・「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答は、女性が 6.6%、男性が 15.5%で、男女間で感じ方に差が生じている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性を除く、いずれの世代も、「平等である」という回答が最も多くなっている。

【性別】

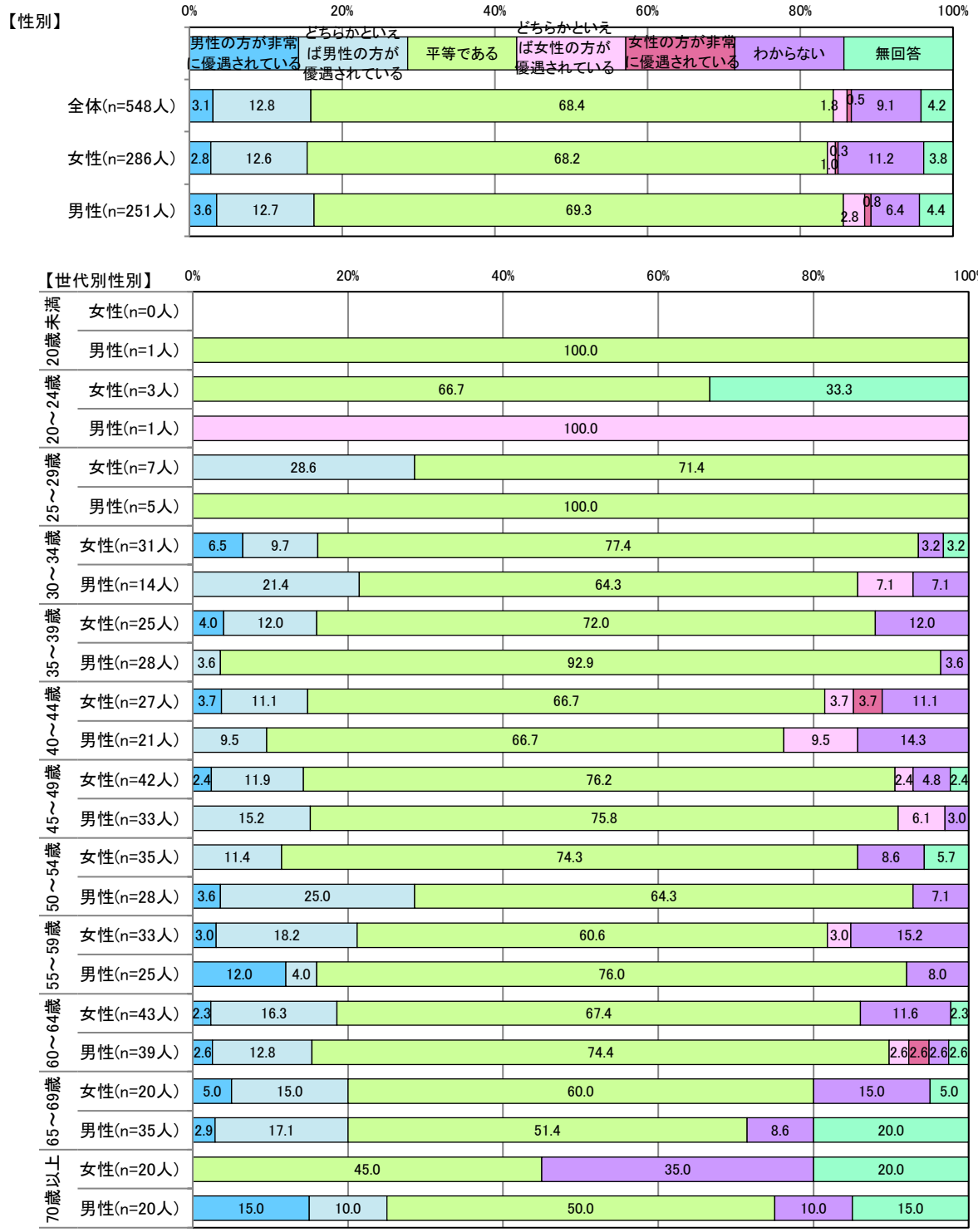


【世代別性別】



４. 研修の機会や内容

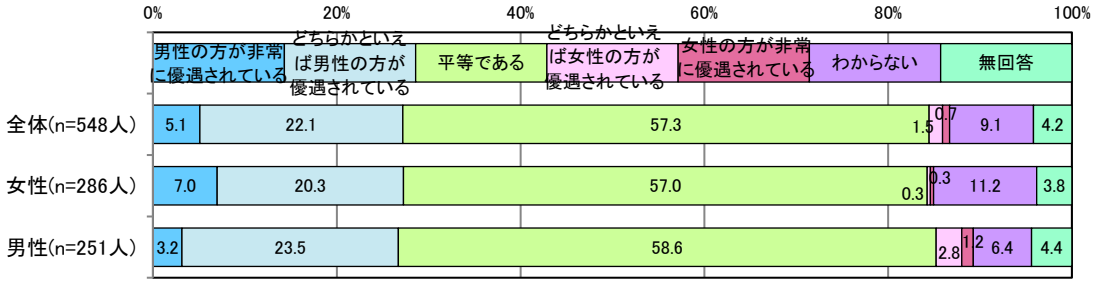
・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が 68.2%、男性が 69.3%となっている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性を除く、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



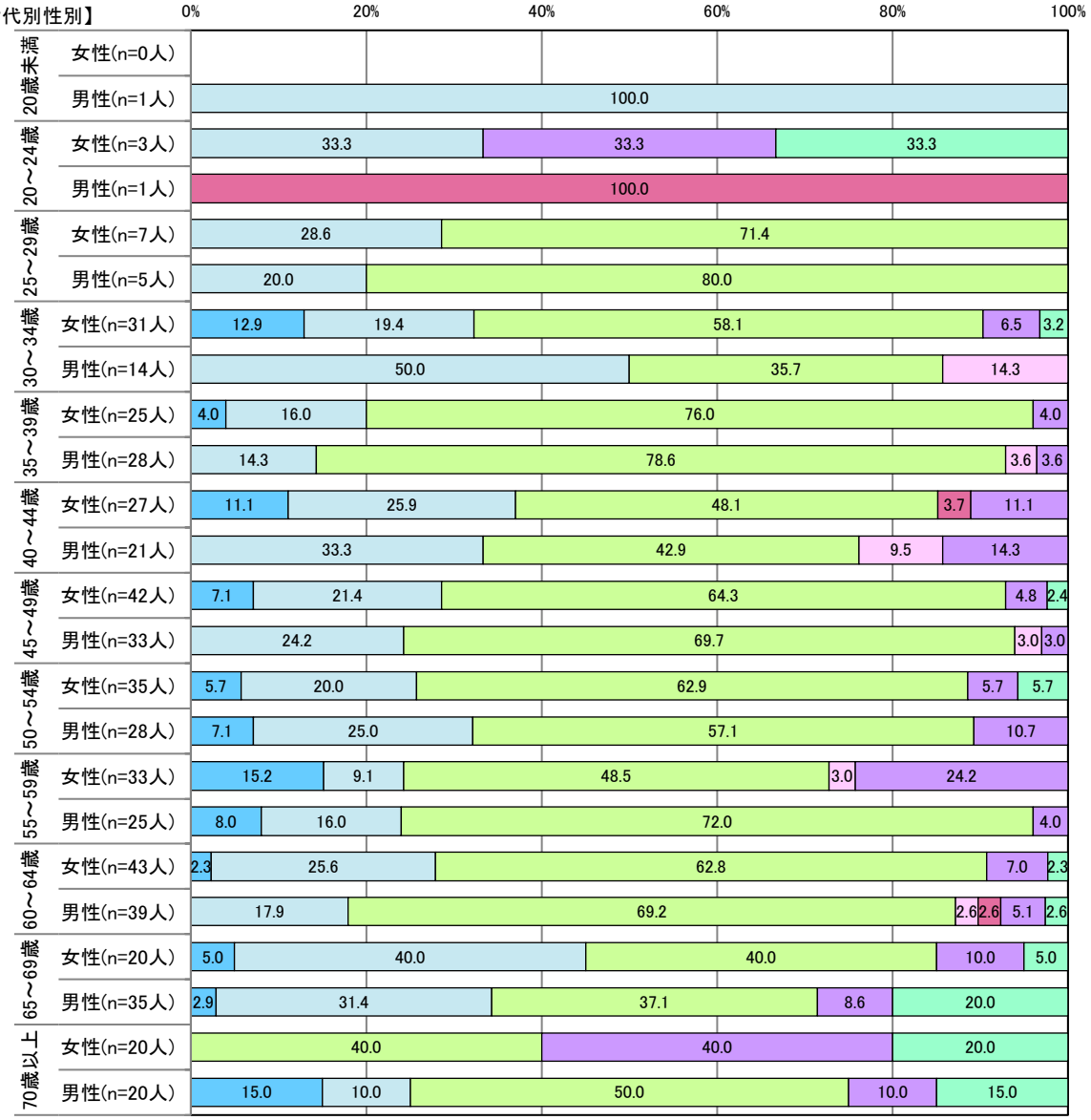
５．経験や能力を発揮する機会

・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が 57.0%、男性が 58.6%となっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、20 歳～24 歳の男女、30 歳～34 歳の男性を除く、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

【性別】



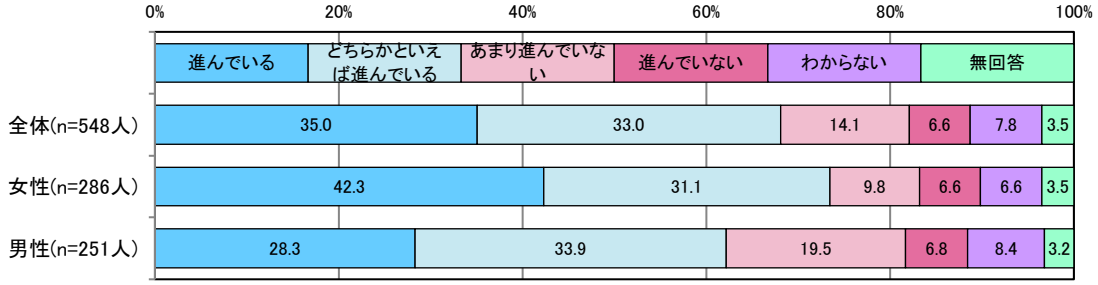
【世代別性別】



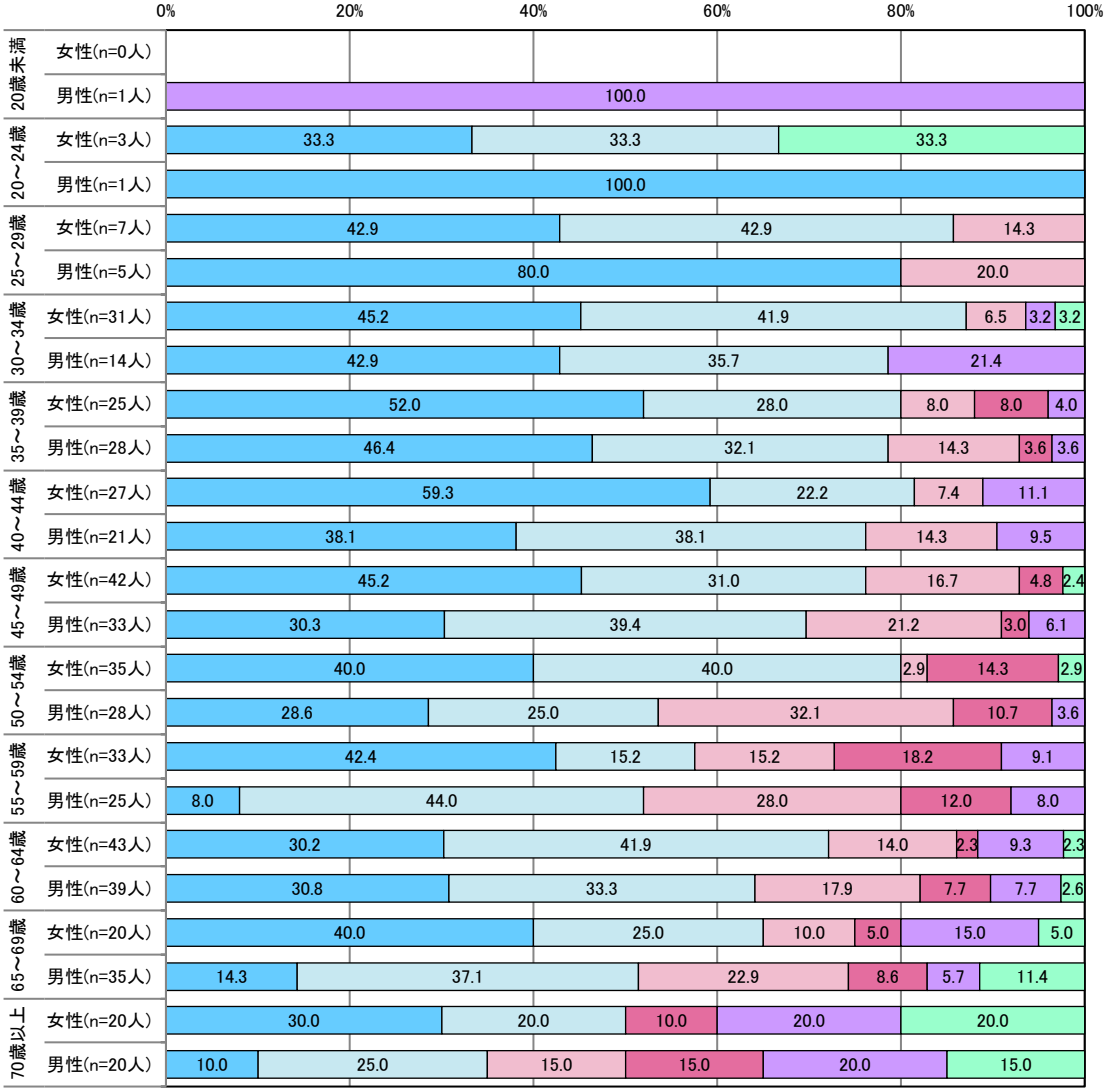
問 15　あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。
（○は 1 つ）

・性別でみると、女性では、「進んでいる」（42.3%）が４割を超えて最も多い。一方、男性では、「どちらかといえば進んでいる」（33.9%）が約３割と最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、50 歳～54 歳の男性、55 歳～59 歳の男女、65 歳以上の男性、70 歳以上の女性を除く、いずれの世代においても「進んでいる」、「どちらかといえば進んでいる」の回答割合の合計が６割以上となっている。

【性別】



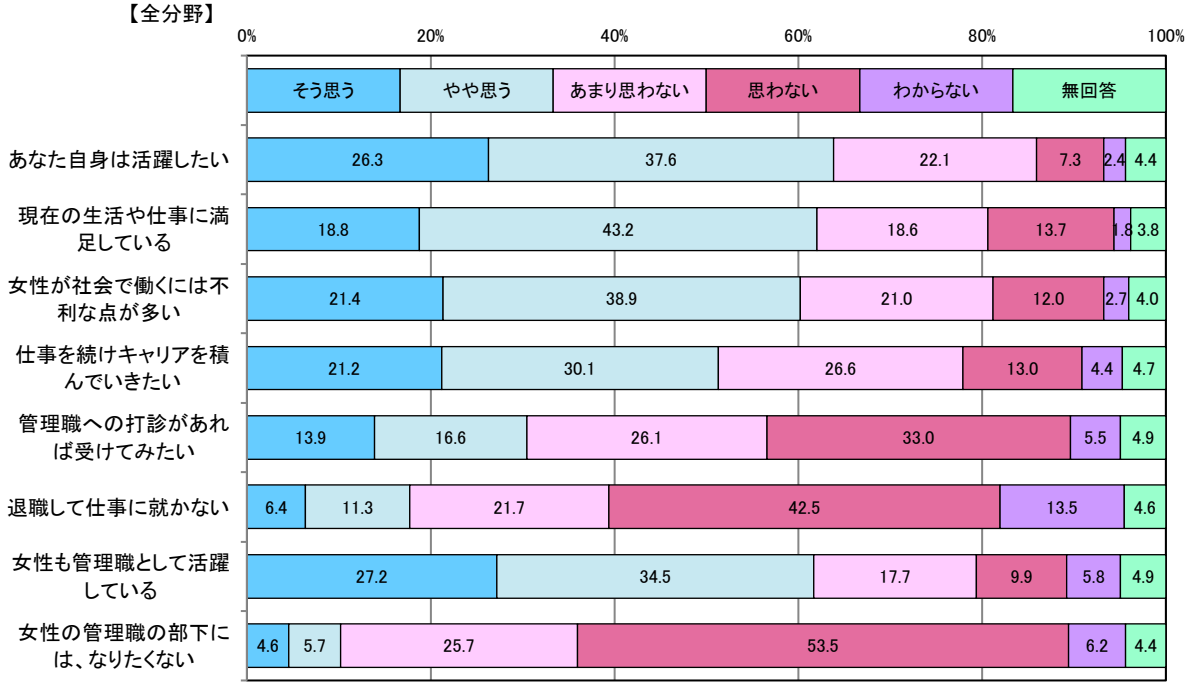
【世代別性別】



問 16　今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。（それぞれ○は１つ）

・「そう思う」という回答でみると、「女性も管理職として活躍している」（27.2%）が約３割で最も多くなっている。次いで、「あなた自身は活躍したい」（26.3%）、「女性が社会で働くには不利な点が多い」（21.4%）、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」（21.2%）、「現在の生活や仕事に満足している」（18.8%）の順に続いている。
・「思わない」という回答の割合は、「女性の管理職の部下には、なりたくない」（53.5%）が約５割と最も多くなっている。次いで、「退職して仕事に就かない」（42.5%）、「管理職への打診があれば受けてみたい」（33.0%）となっている。

【全分野】

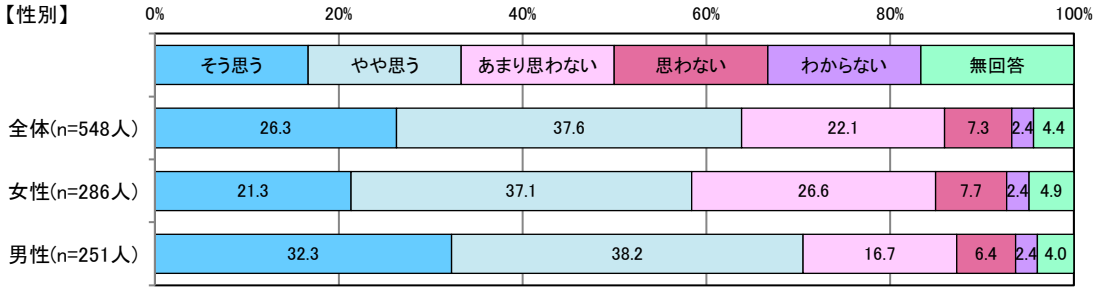


（全体 n=548）

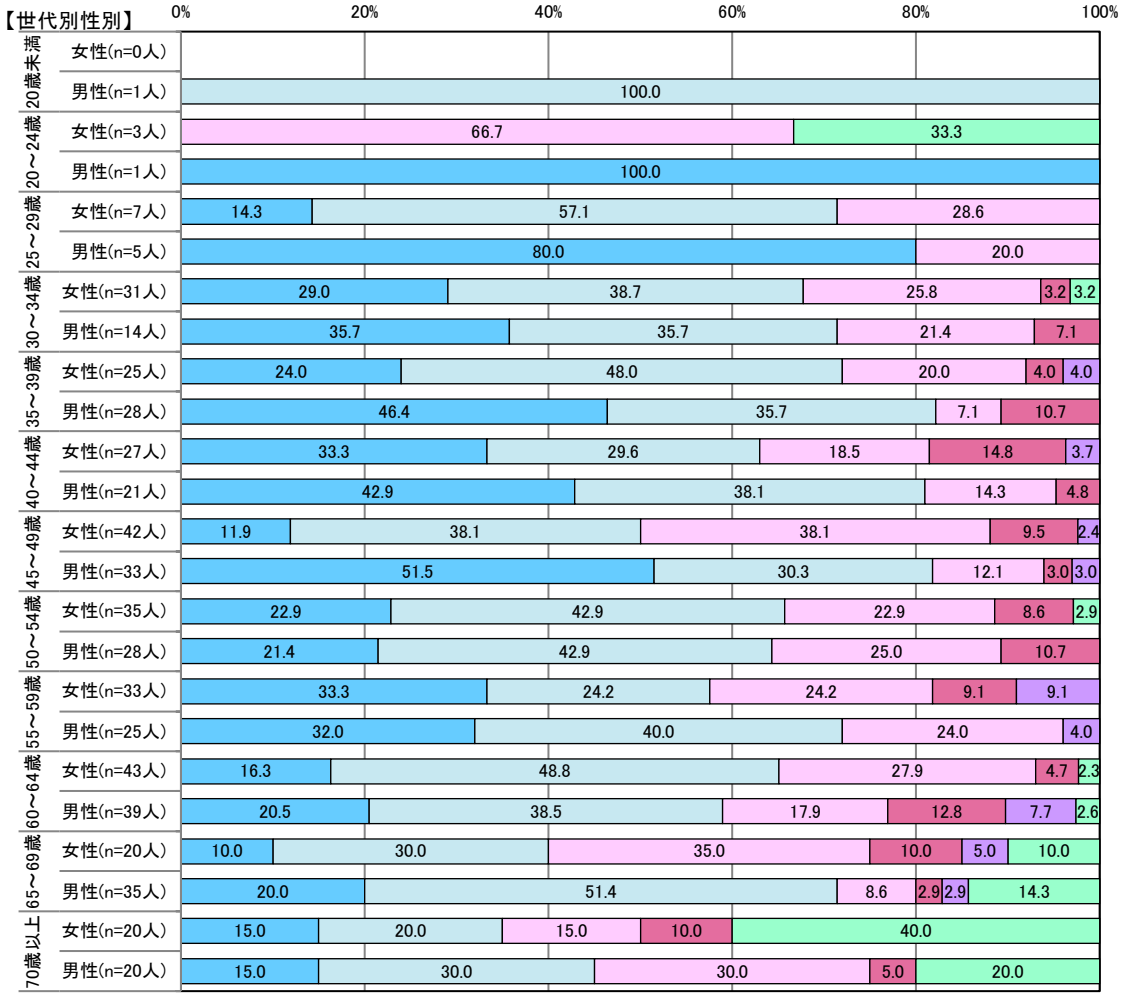
１．あなた自身は活躍したい

・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約４割（37.6%）となっている。
・性別でみると、男女とも「やや思う」が約４割と最も多くなっている。男女ともに、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、５割を超えている。
・世代別性別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計では、20 歳～24 歳の女性、65 歳～69 歳の女性を除く世代で５割を超えている。
・配偶者の有無別でみると、いずれも「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が５割を超えている。

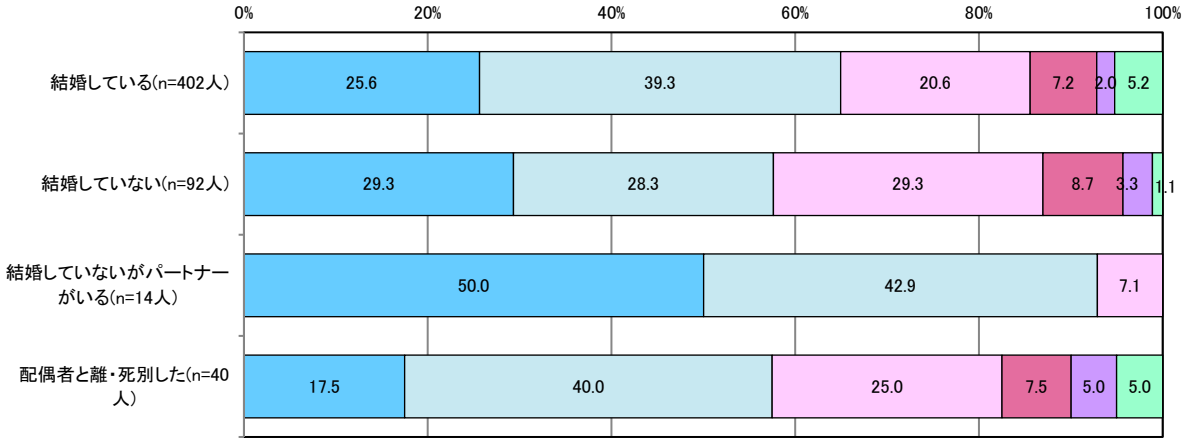
【性別】



【世代別性別】



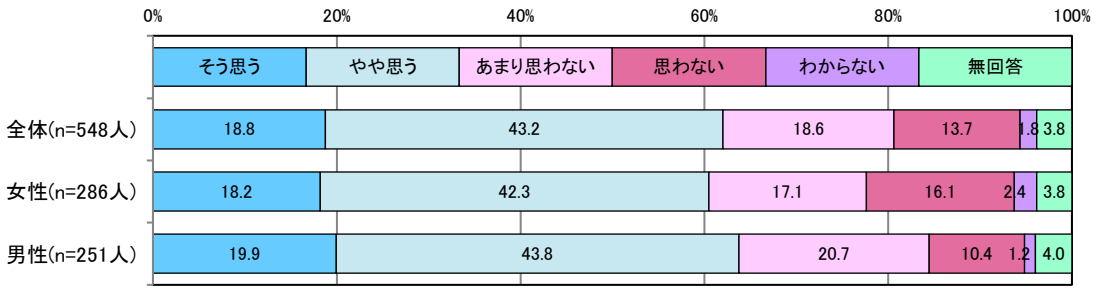
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
25.6
39.3
20.6
7.2
2.0
5.2
結婚していない(n=92人)
29.3
28.3
29.3
8.7
3.3
1.1
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
50.0
42.9
7.1
配偶者と離・死別した(n=40人)
17.5
40.0
25.0
7.5
5.0
5.0

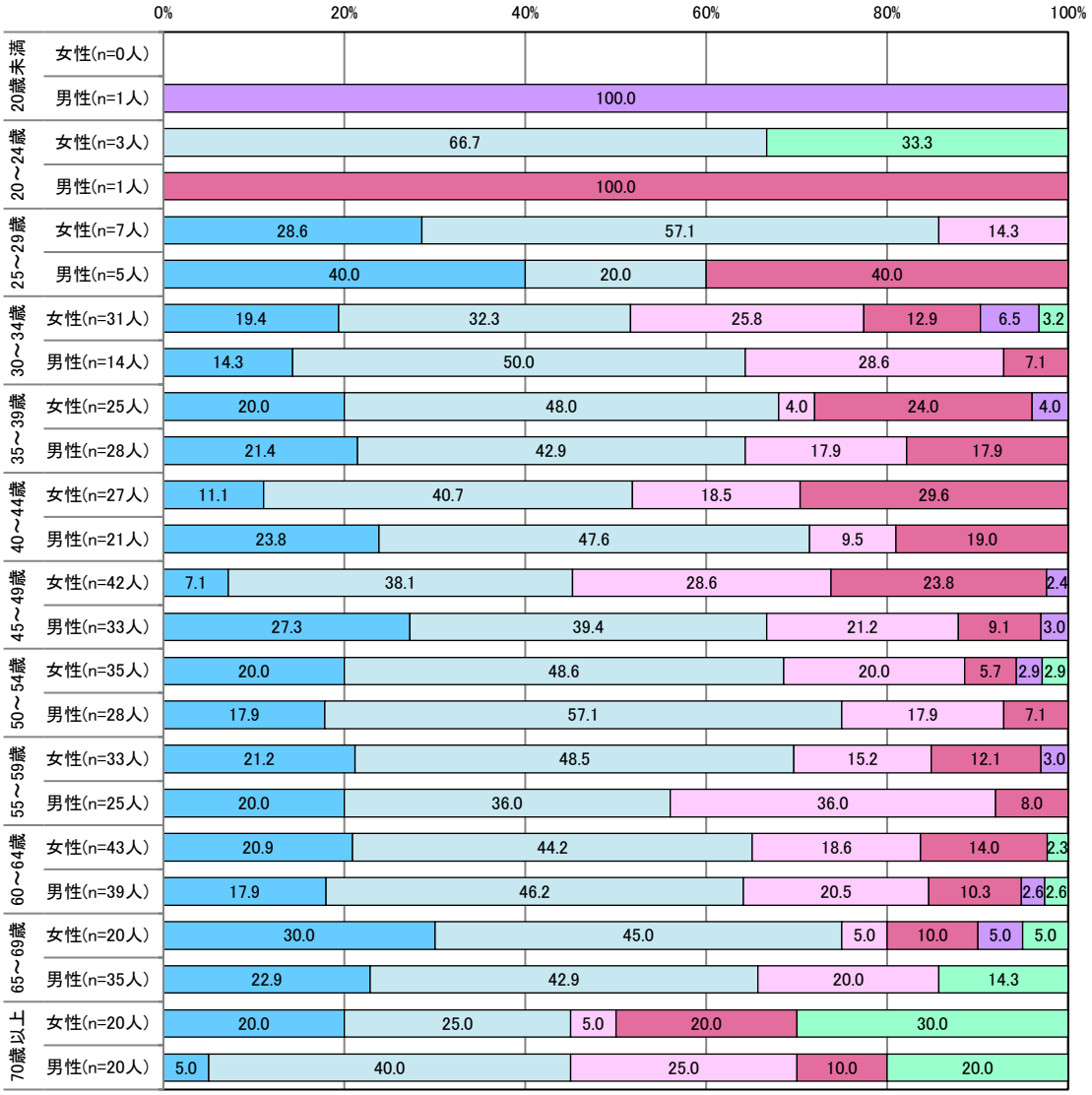
２．現在の生活や仕事に満足している

・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、43.2%となっている。
・性別でみると、男女とも「やや思う」が約４割と最も多くなっている。
・世代別性別でみると、25 歳～29 歳の女性、40 歳～44 歳の男性、50 歳～54 歳の男性、65 歳～69 歳の女性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が７割を超えている。
・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」で、「そう思わない」の回答が最も多くなっている。

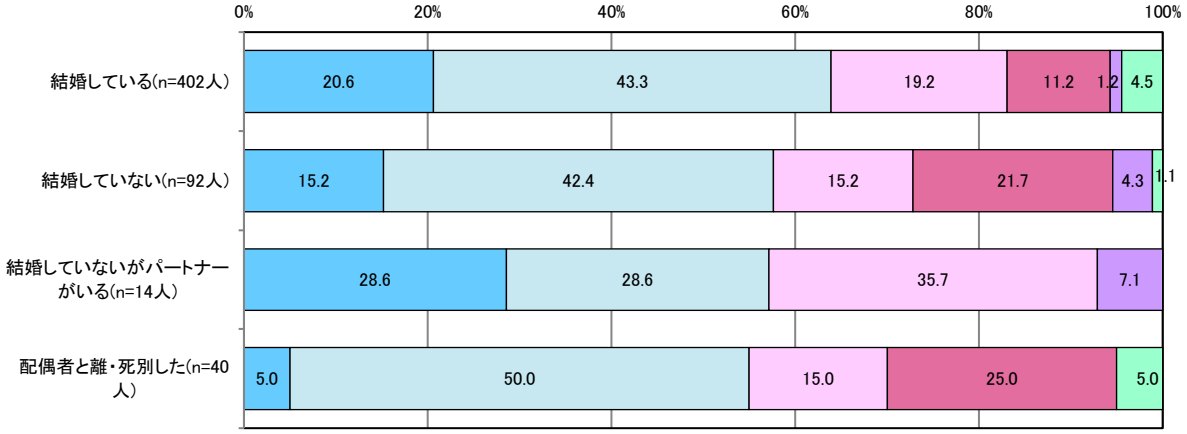
【性別】



【世代別性別】



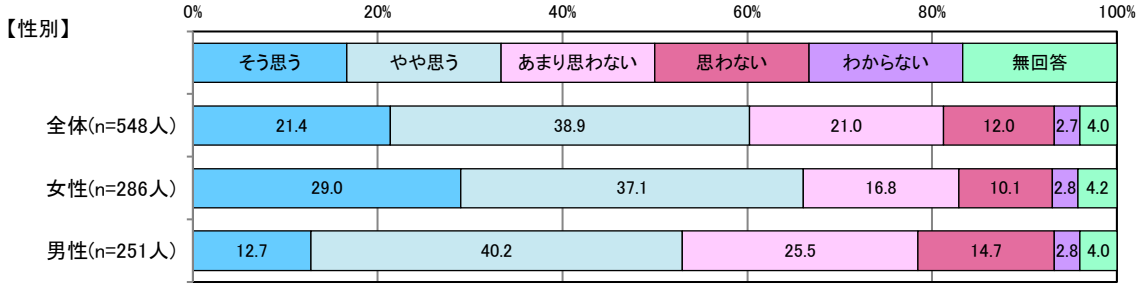
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
20.6
43.3
19.2
11.2
1.2
4.5
結婚していない(n=92人)
15.2
42.4
15.2
21.7
4.3
1.1
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
28.6
28.6
35.7
7.1
配偶者と離・死別した(n=40人)
5.0
50.0
15.0
25.0
5.0

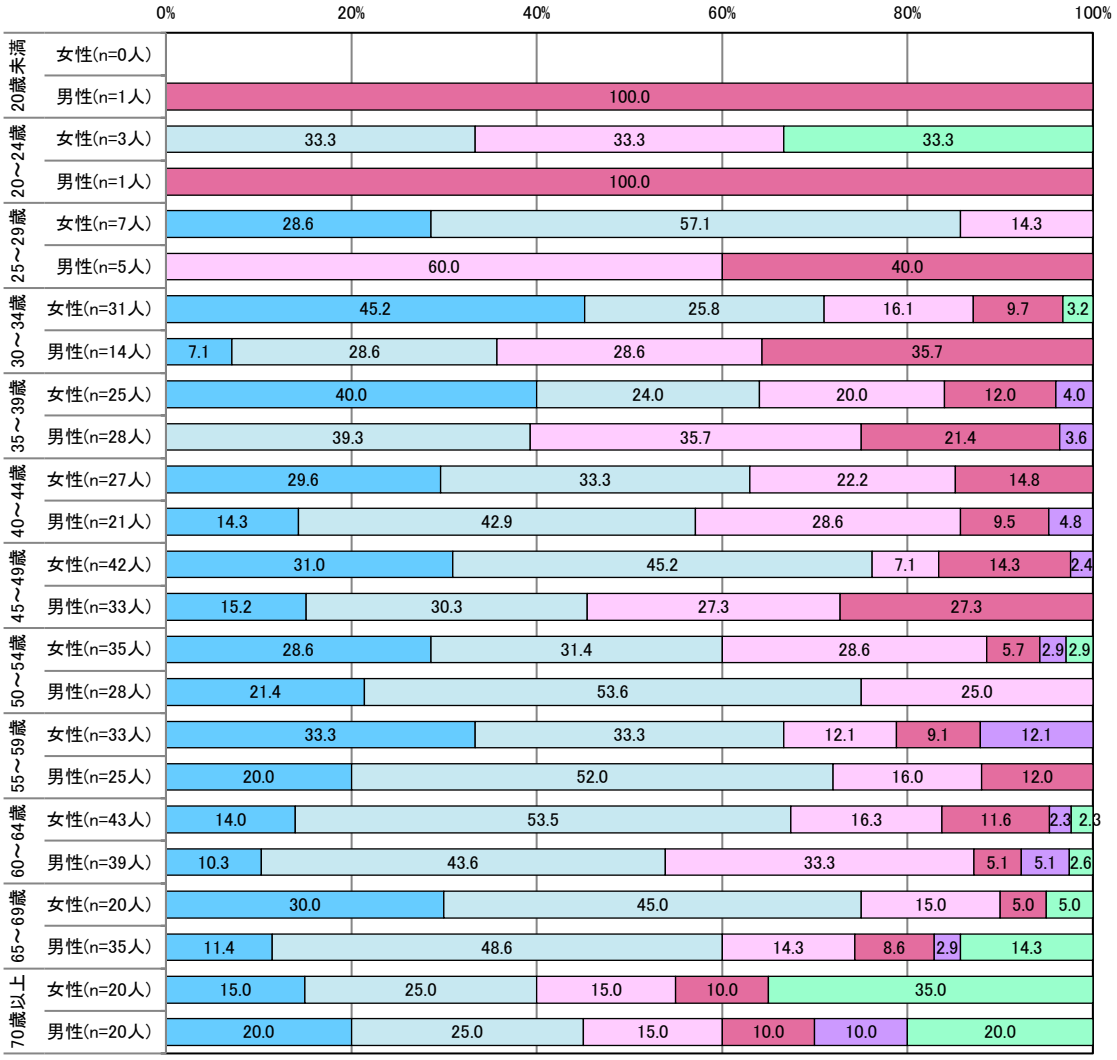
３．女性が社会で働くには不利な点が多い

・全体でみると、「やや思う」が 38.9％と最も多くなっている。
・性別でみると、男女とも「やや思う」が約４割と最も多い。「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計では、女性（66.1％）が男性（52.9％）よりもやや多くなる。
・世代別性別では、25 歳～34 歳の女性、45 歳～49 歳の女性、50 歳～59 歳の男性、65 歳～69 歳の女性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、７割以上となっている。
・配偶者の有無別でみると、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、「結婚していない」を除くいずれも、６割以上となっている。

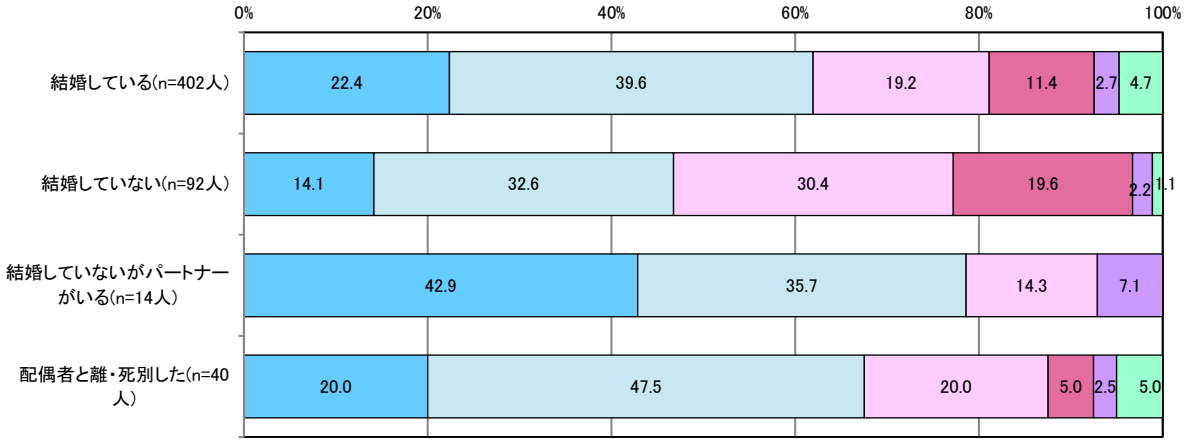
【性別】



【世代別性別】



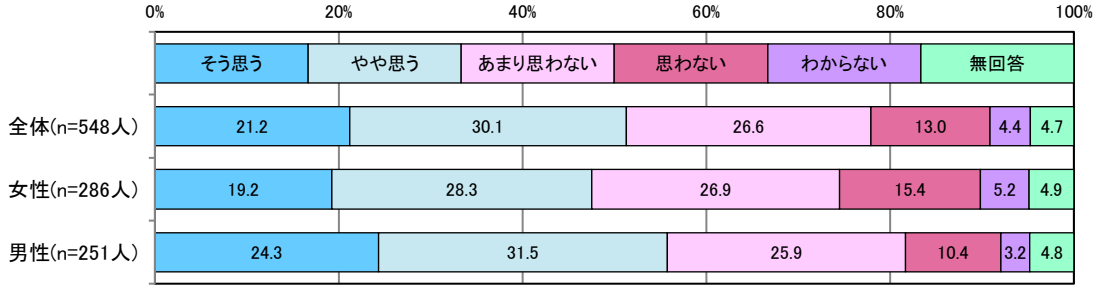
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
22.4
39.6
19.2
11.4
2.7
4.7
結婚していない(n=92人)
14.1
32.6
30.4
19.6
2.2
1.1
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
42.9
35.7
14.3
7.1
配偶者と離・死別した(n=40人)
20.0
47.5
20.0
5.0
2.5
5.0

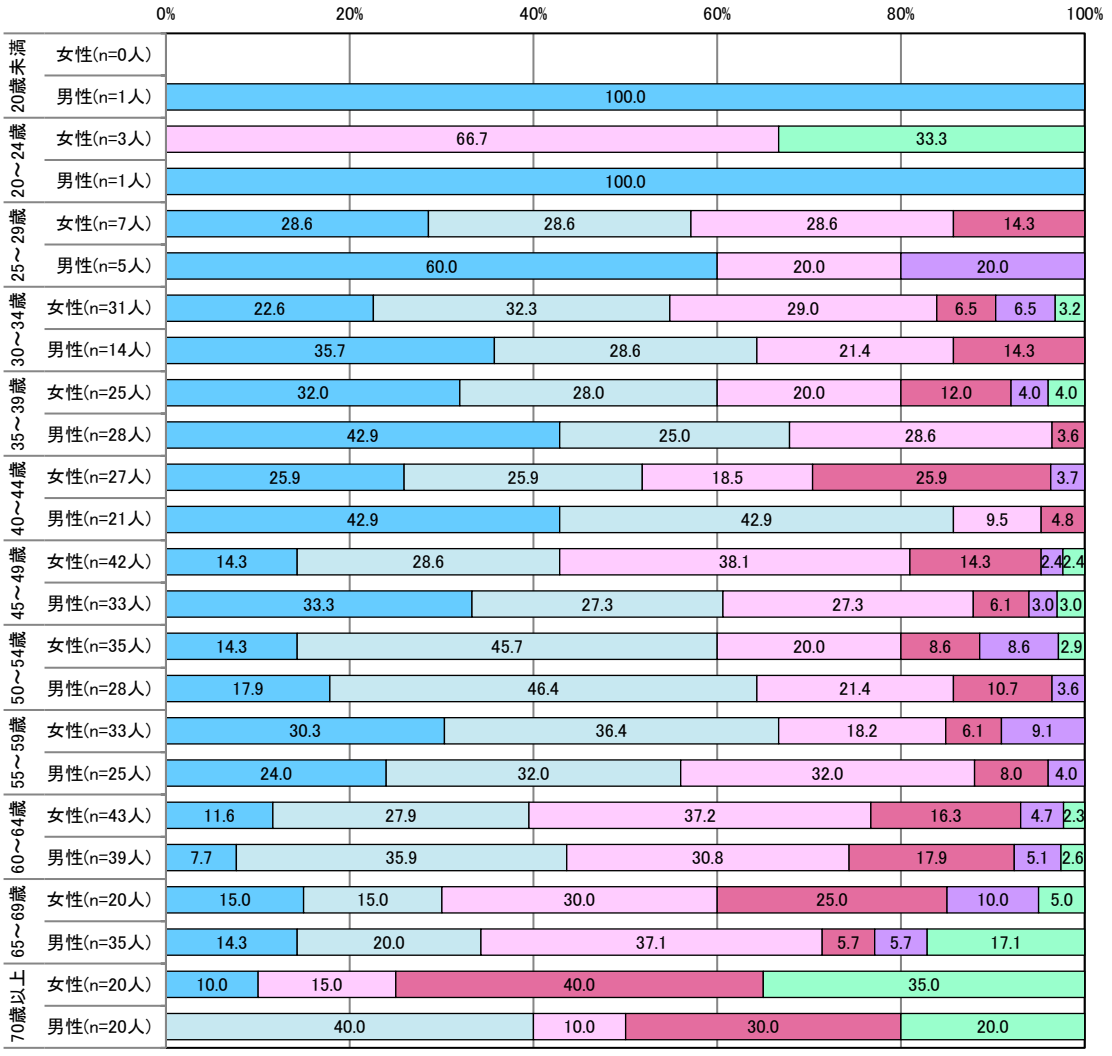
４. 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

・全体でみると、「やや思う」（30.1%）が約３割と最も多くなっている。
・性別でみると、女性では、「やや思う」（28.3%）が約３割と最も多い。一方、男性では、「やや思う」（31.5%）が約３割と最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、20 歳～34 歳の男性、35 歳～39 歳の男女、40 歳～49 歳の男性、50 歳～54 歳の男女、55 歳～59 歳の女性の世代で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が６割を超えている。
・配偶者の有無別でみると、「結婚していない」で「あまり思わない」が約３割となっている。

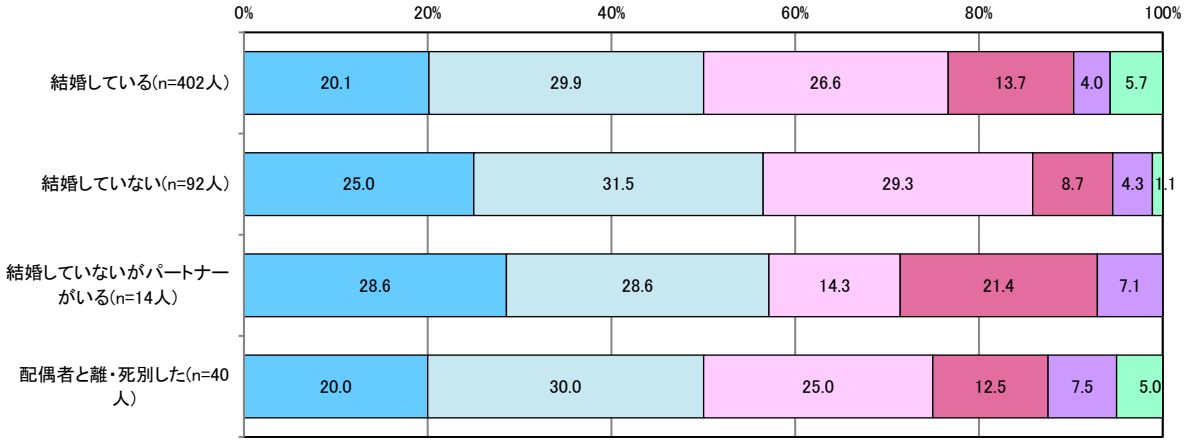
【性別】



【世代別性別】



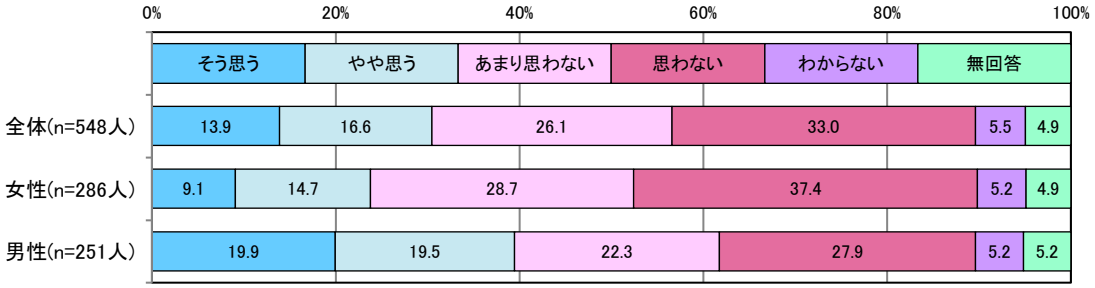
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
20.1
29.9
26.6
13.7
4.0
5.7
結婚していない(n=92人)
25.0
31.5
29.3
8.7
4.3
1.1
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
28.6
28.6
14.3
21.4
7.1
配偶者と離・死別した(n=40人)
20.0
30.0
25.0
12.5
7.5
5.0

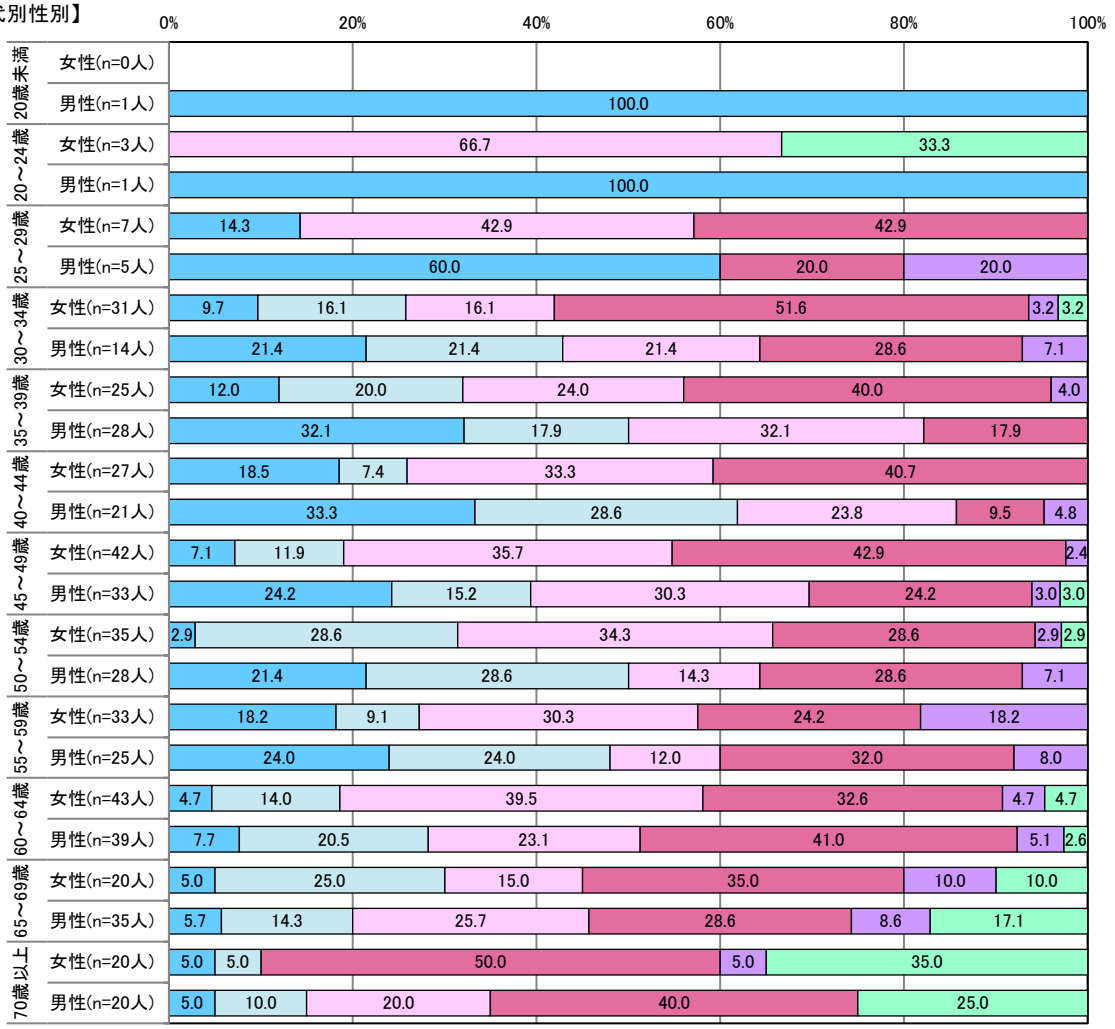
５．管理職への打診があれば受けてみたい

・全体でみると、「思わない」という回答が 33.0％で最も多くなっている。
・性別でみると、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計では、女性は 66.1％、男性は 50.2％となっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、20 歳～29 歳の男性、40 歳～44 歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が６割以上となっている。一方、20 歳未満の男性、20 歳～29 歳の男性、40 歳～44 歳の男性、50 歳～59 歳の男性を除く、いずれの世代においても、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が、５割以上となっている。
・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が５割を超えている。

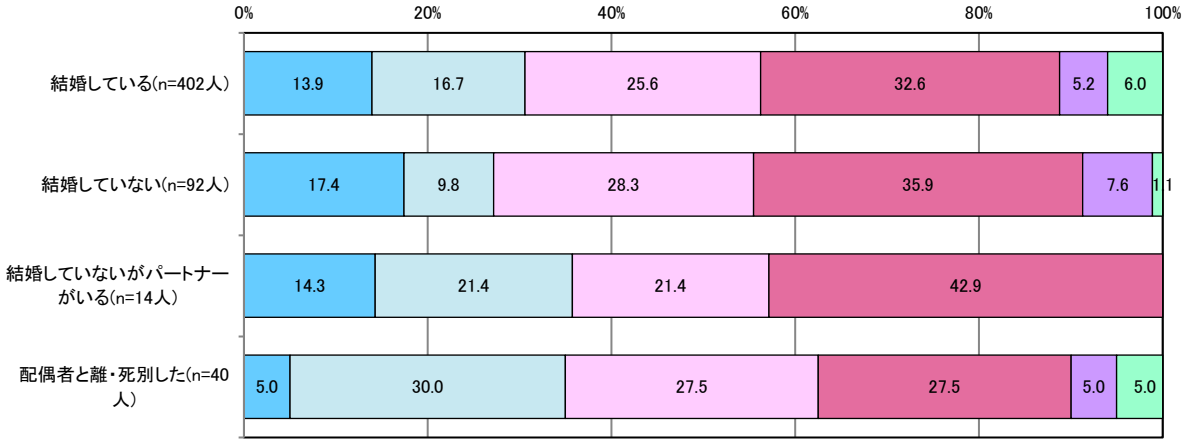
【性別】



【世代別性別】



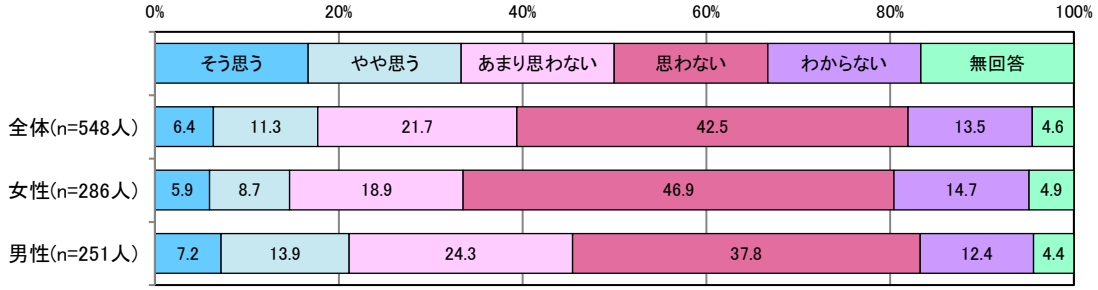
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
13.9
16.7
25.6
32.6
5.2
6.0
結婚していない(n=92人)
17.4
9.8
28.3
35.9
7.6
1.1
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
14.3
21.4
21.4
42.9
配偶者と離・死別した(n=40人)
5.0
30.0
27.5
27.5
5.0
5.0

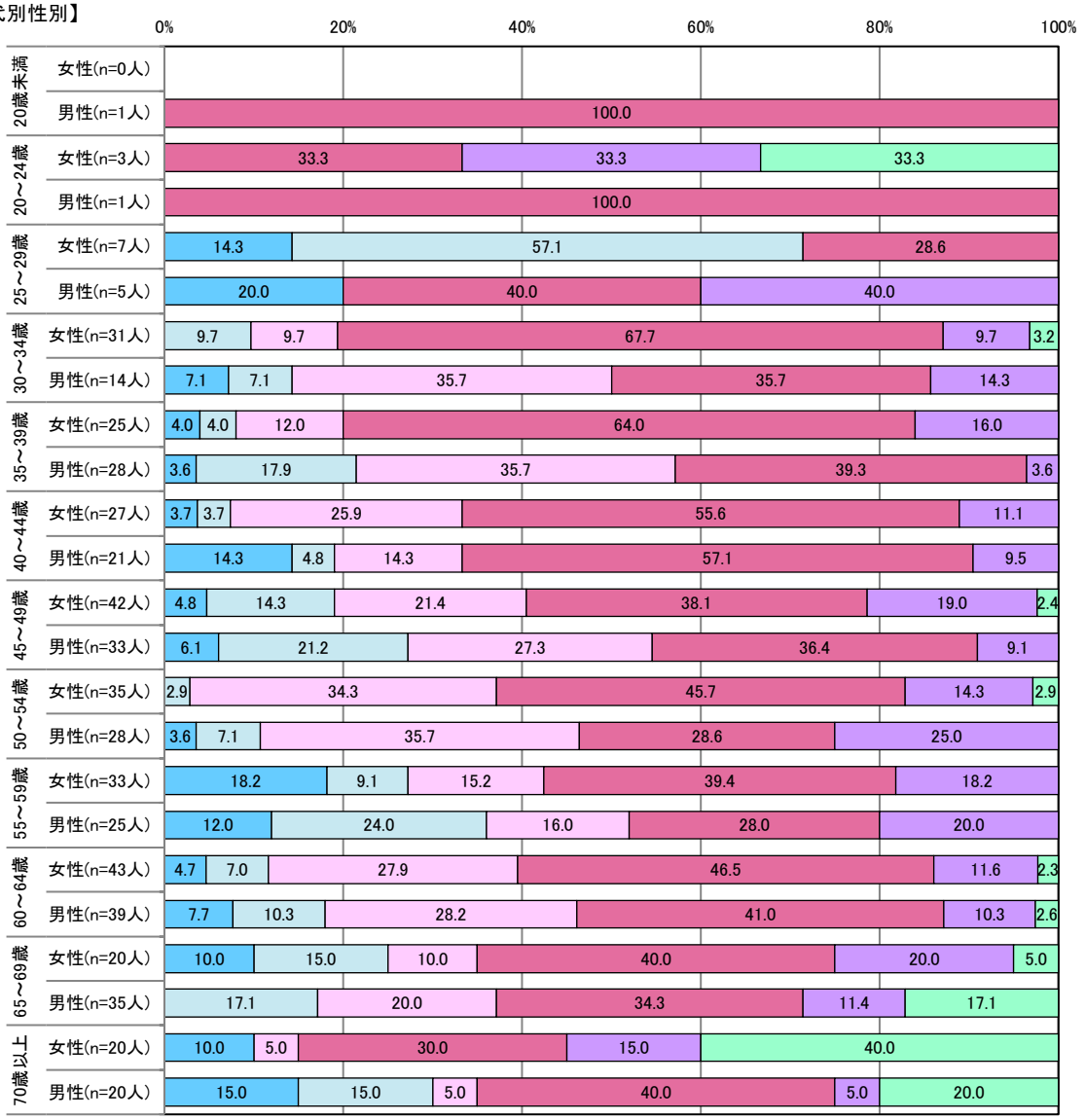
６. 退職して仕事に就かない

・全体でみると、「思わない」という回答が 42.5％と約４割となっている。
・性別でみると、男女とも「思わない」が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、25 歳～29 歳の男女、55 歳～59 歳の男性、70 歳以上の男女を除く、いずれの世代においても「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が５割以上となっている。
・配偶者の有無別でみると、いずれの世代においても、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が５割以上となっている

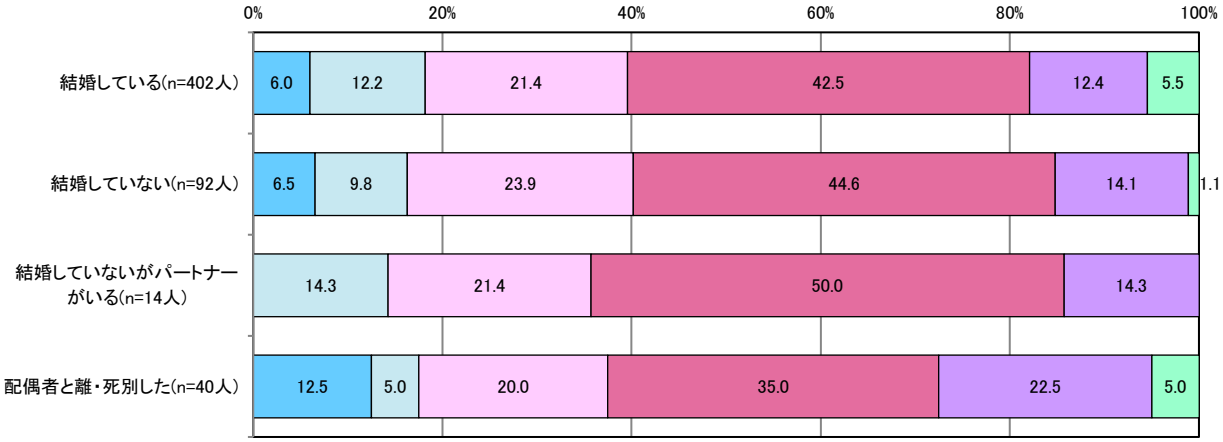
【性別】



【世代別性別】



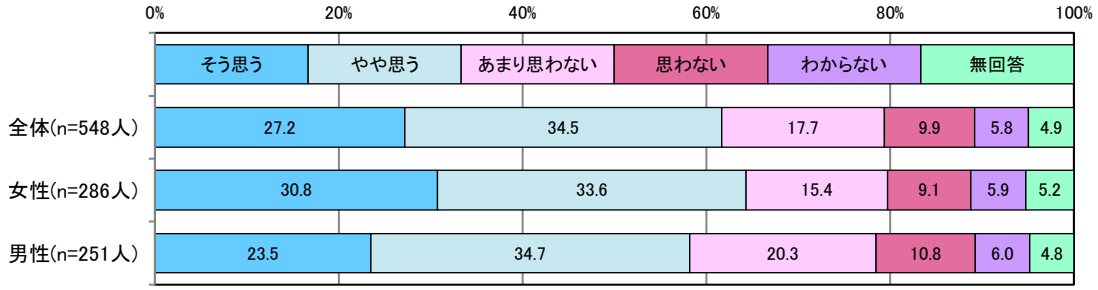
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
6.0
12.2
21.4
42.5
12.4
5.5
結婚していない(n=92人)
6.5
9.8
23.9
44.6
14.1
1.1
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
14.3
21.4
50.0
14.3
配偶者と離・死別した(n=40人)
12.5
5.0
20.0
35.0
22.5
5.0

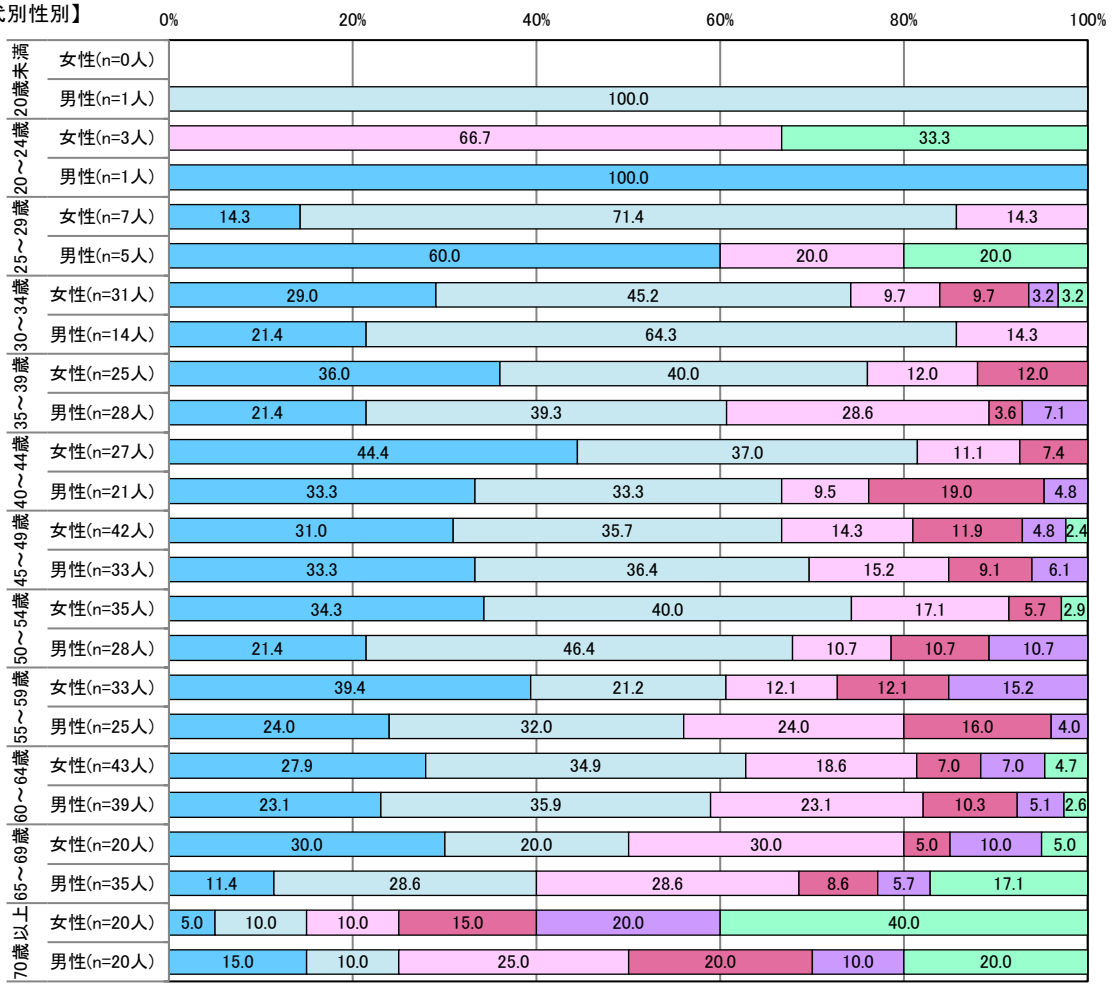
7. 女性も管理職として活躍している

・全体でみると、「やや思う」という回答が 34.5%と最も多く、次いで、「そう思う」が 27.2%と続いている。
・性別でみると、男女ともに、「やや思う」が約３割と最も多くなっている。「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計では、女性（64.4%）が男性（58.2%）よりもやや多くなる。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性、55 歳～64 歳の男性、65 歳以上の男女を除くいずれの世代で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、６割を超えている。一方、20 歳～24 歳の女性、55 歳～59 歳の男性、70 歳以上の男性の世代で、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が４割以上となっている。
・配偶者の有無別でみると、いずれも、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が５割を超えている。

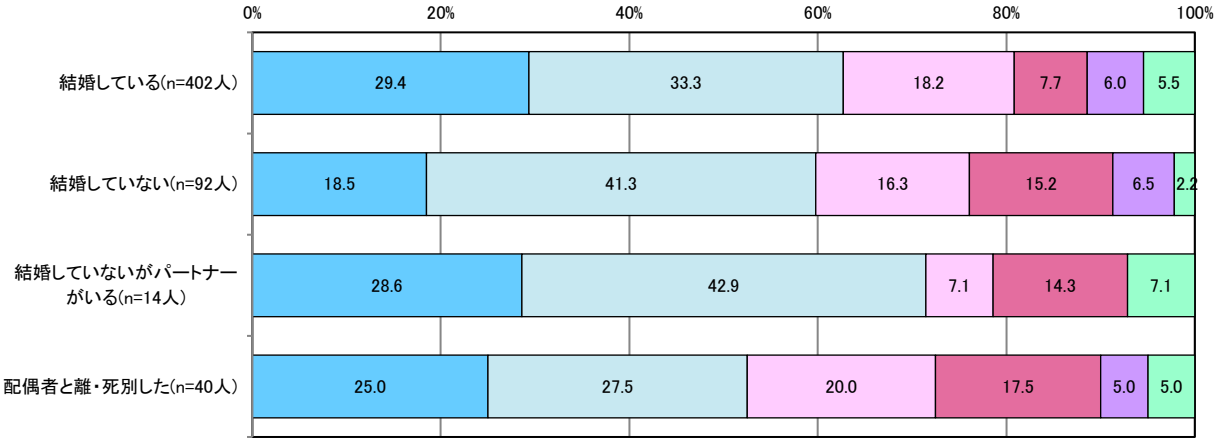
【性別】



【世代別性別】



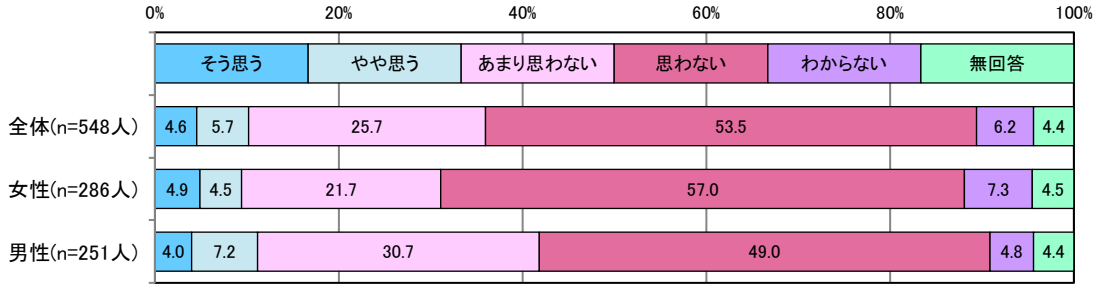
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
29.4
33.3
18.2
7.7
6.0
5.5
結婚していない(n=92人)
18.5
41.3
16.3
15.2
6.5
2.2
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
28.6
42.9
7.1
14.3
7.1
配偶者と離・死別した(n=40人)
25.0
27.5
20.0
17.5
5.0
5.0

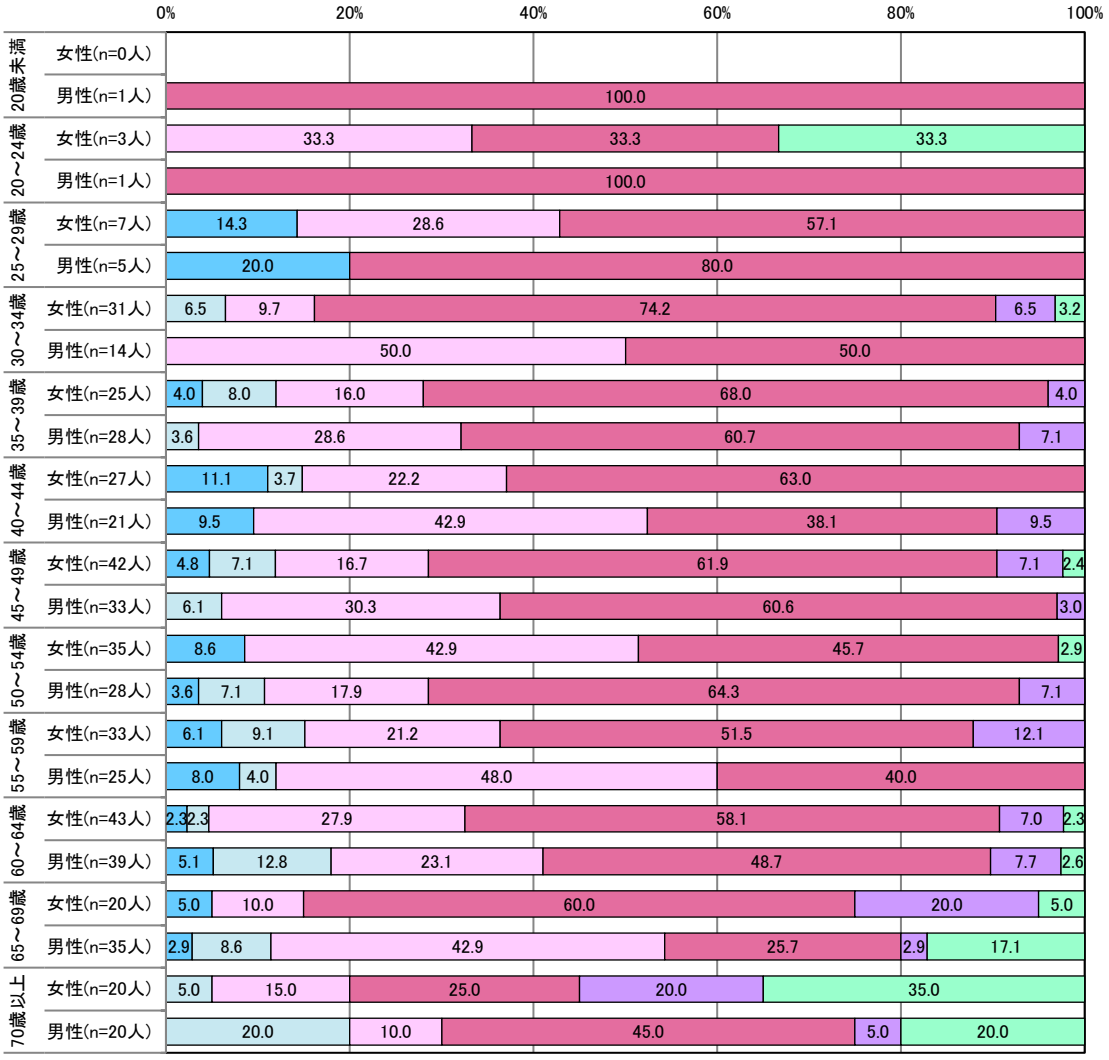
８. 女性の管理職の部下には、なりたくない

・全体でみると、「思わない」という回答が 53.5％と約５割となっている。
・性別でみると、男女とも「思わない」が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、70 歳以上の女性の世代を除き、いずれの世代でも、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が５割以上となっている。
・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が７割以上となっている。

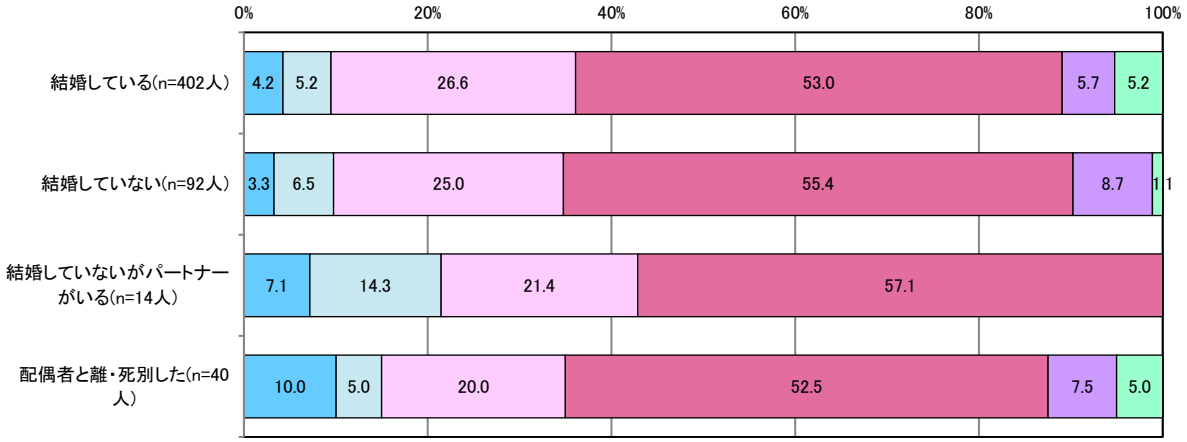
【性別】



【世代別性別】



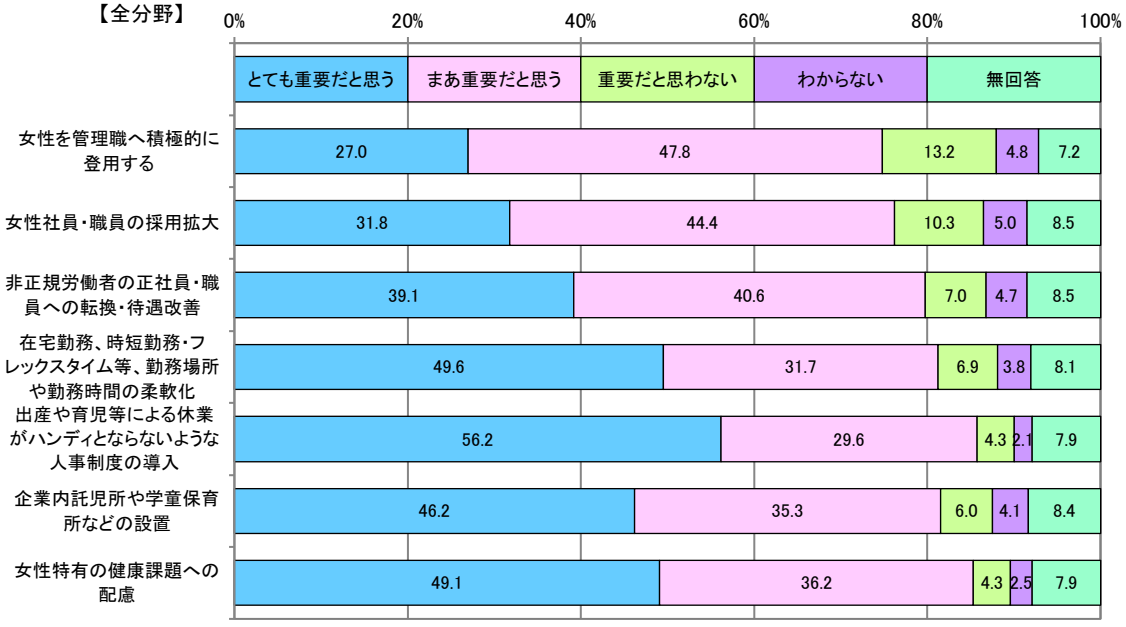
【配偶者の有無別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
結婚している(n=402人)
4.2
5.2
26.6
53.0
5.7
5.2
結婚していない(n=92人)
3.3
6.5
25.0
55.4
8.7
1.1
結婚していないがパートナーがいる(n=14人)
7.1
14.3
21.4
57.1
配偶者と離・死別した(n=40人)
10.0
5.0
20.0
52.5
7.5
5.0

現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問 17　女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。
（それぞれ○は１つ）

・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」（56.2%）が約６割と最も多くなっている。次いで、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」（49.6%）、「女性特有の健康課題への配慮」（49.1%）、「企業内託児所や学童保育所などの設置」（46.2%）、「非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善」（39.1%）と続いている。一方、「まあ重要だと思う」という回答は、「女性を管理職へ積極的に登用する」（47.8%）、「女性社員・職員の採用拡大」（44.4%）、「非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善」（40.6%）で、４割を超えている。

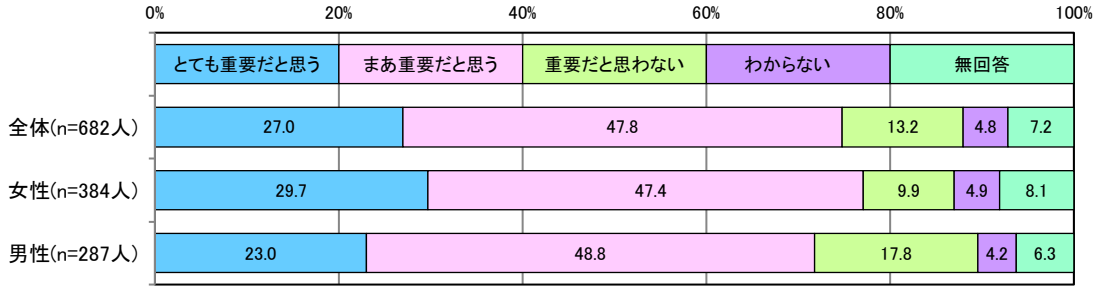


（全体 n=682 人）

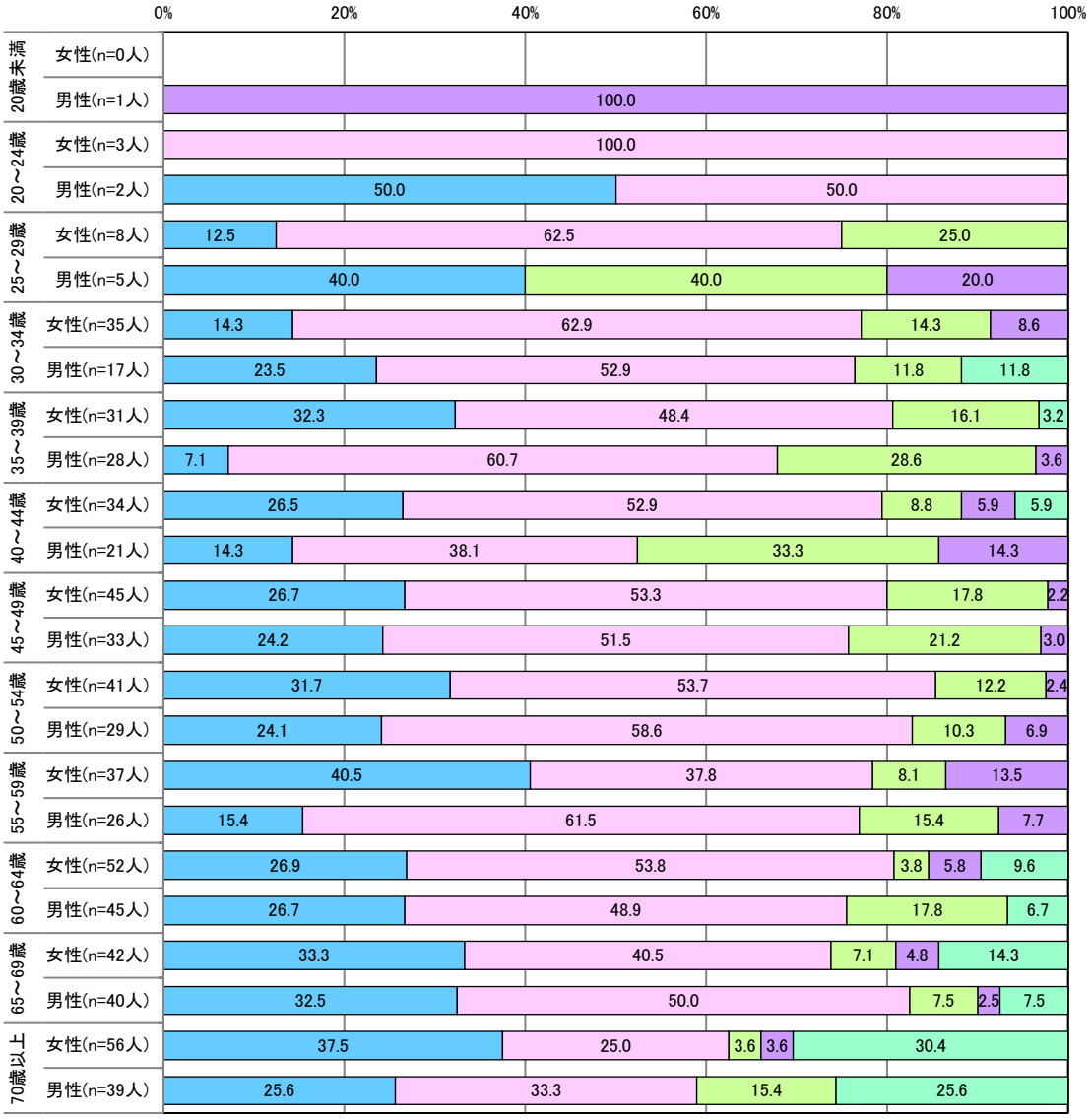
１．女性を管理職へ積極的に登用する

・性別でみると、男女とも「まあ重要だと思う」という回答が最も多くなっている。回答割合は、女性が 47.4%、男性が 48.8%となっている。
・世代別性別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、20 歳～24 歳の男女、35 歳～39 歳の女性、45 歳～49 歳の女性、50 歳～54 歳の男女、60 歳～64 歳の女性、65 歳～69 歳の男性の世代では８割以上と、他の世代に比べて多くなっている。

【性別】

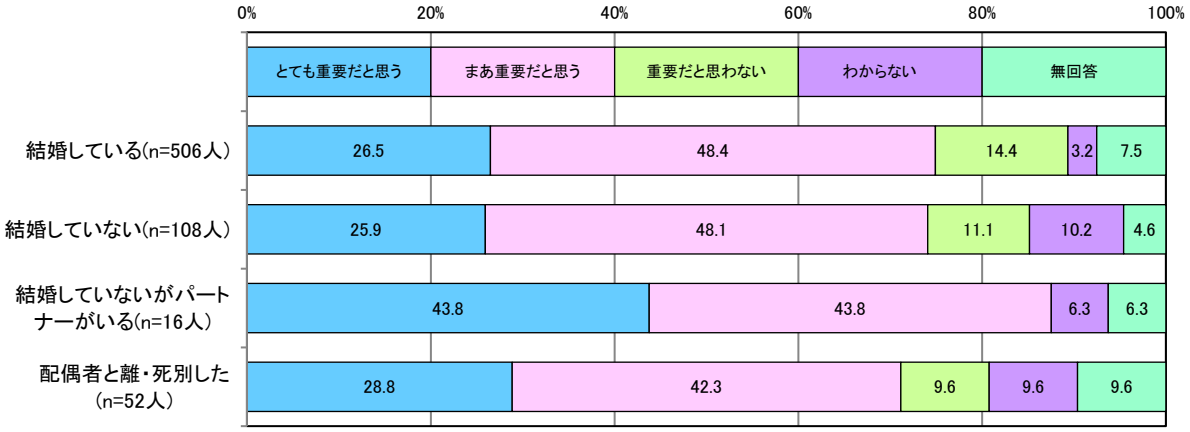


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、いずれもで７割以上となっている。

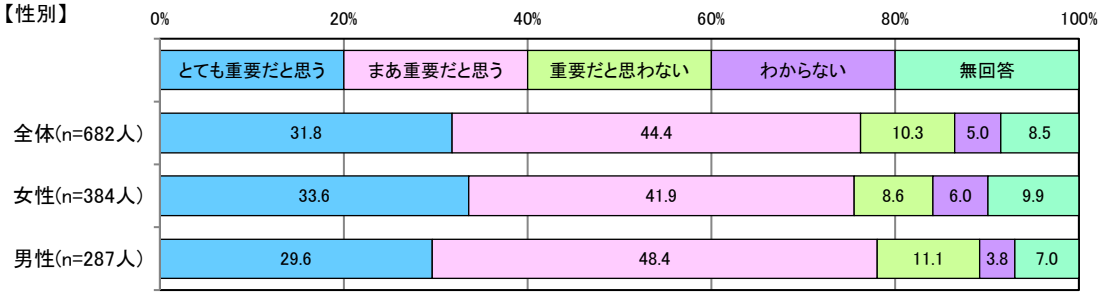
【配偶者の有無別】



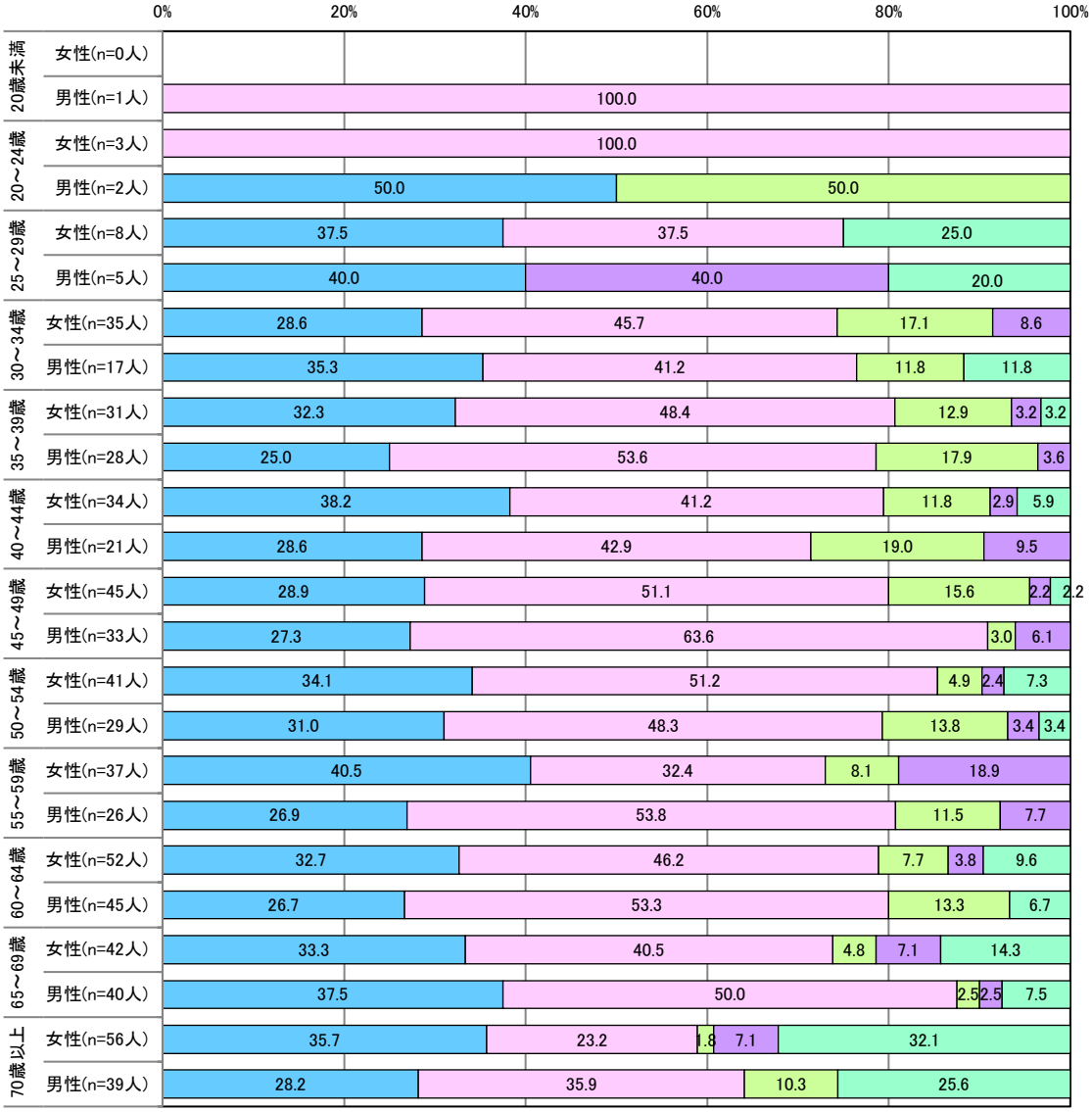
２．女性社員・職員の採用拡大

・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多くなっている。回答割合は、女性が 41.9%、男性が 48.4%となっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、20 歳～24 歳の女性、35 歳～39 歳の女性、45 歳～49 歳の男女、50 歳～54 歳の女性、55 歳～69 歳の男性の世代で、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、８割を超えている。

【性別】

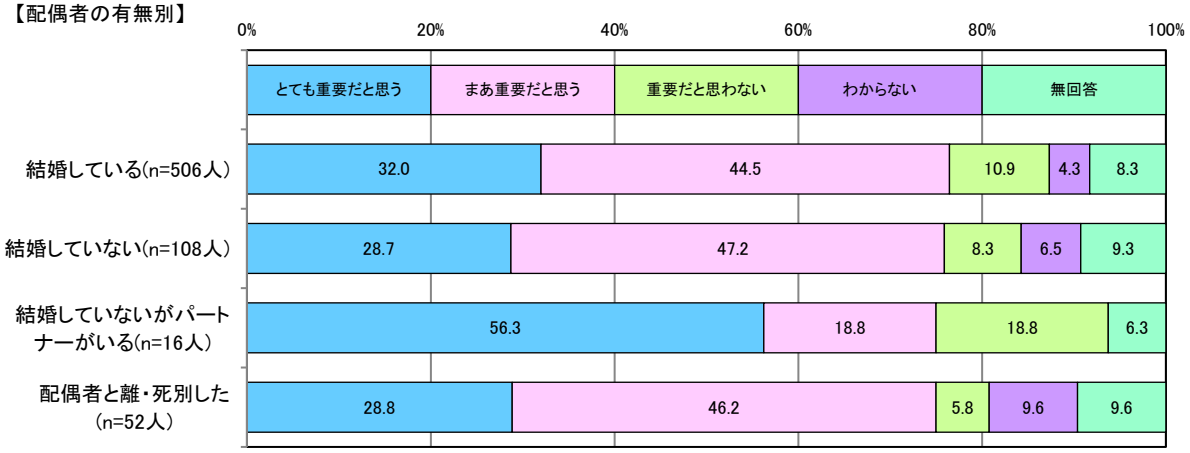


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、いずれも７割以上となっている。

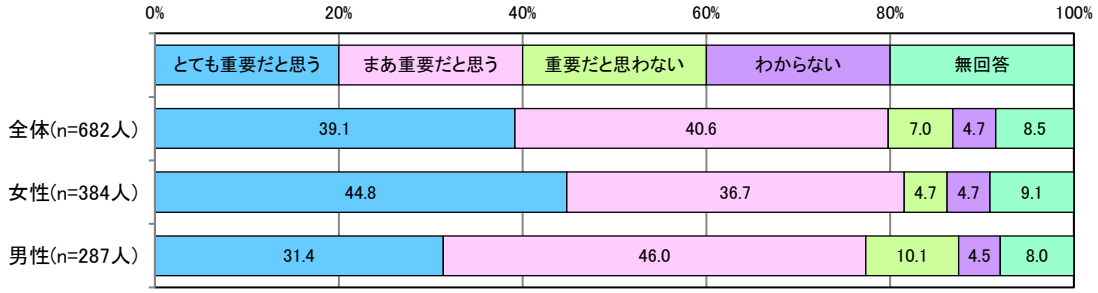
【配偶者の有無別】



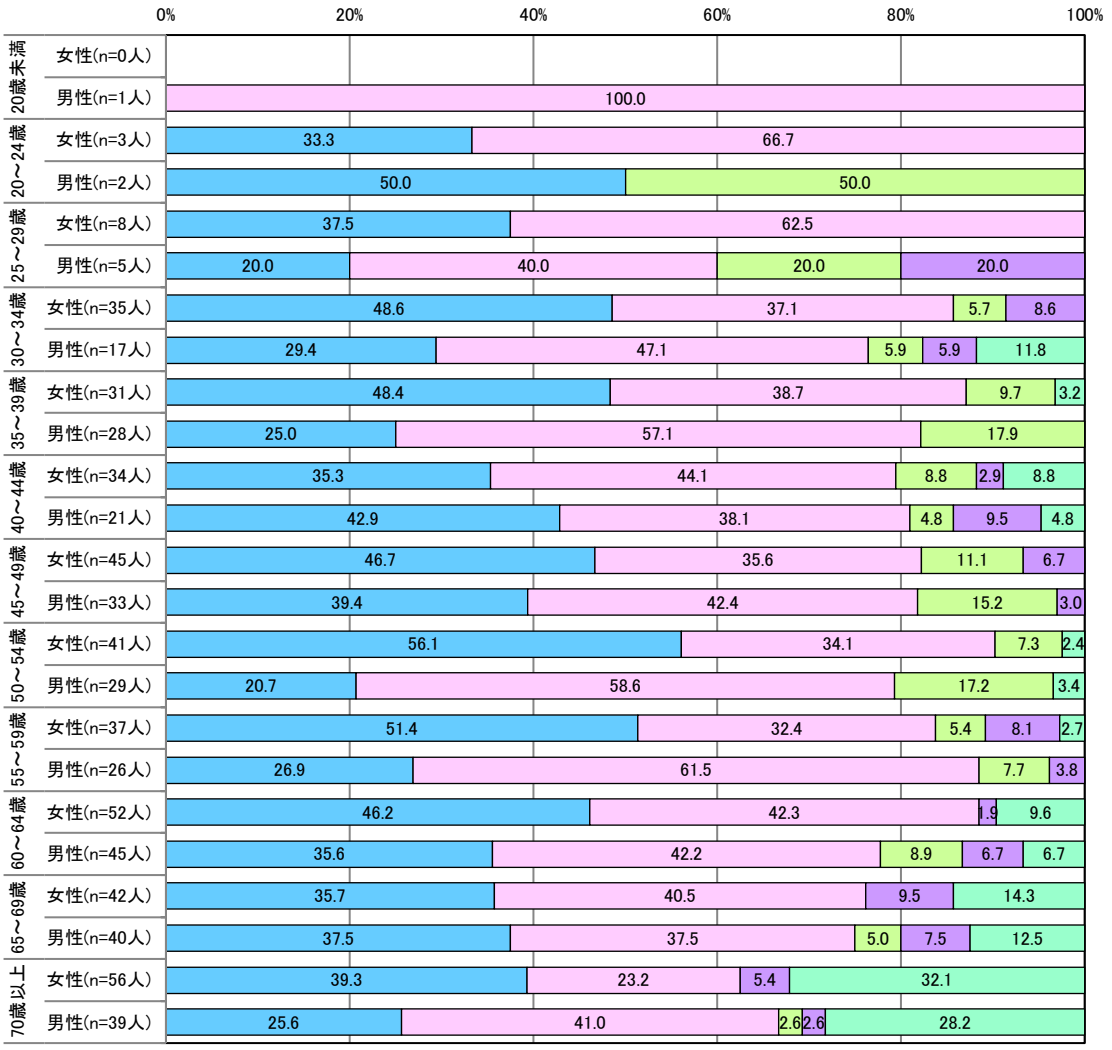
３. 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

・性別でみると、女性は「とても重要だと思う」が約４割(44.8%)と最も多い。一方、男性は、「まあ重要だと思う」が約５割(46.0%)と最も多くなっている。男女ともに、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」の回答割合の合計は、７割を超えている。
・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の男性を除く、いずれの世代においても、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、６割を超えている。

【性別】

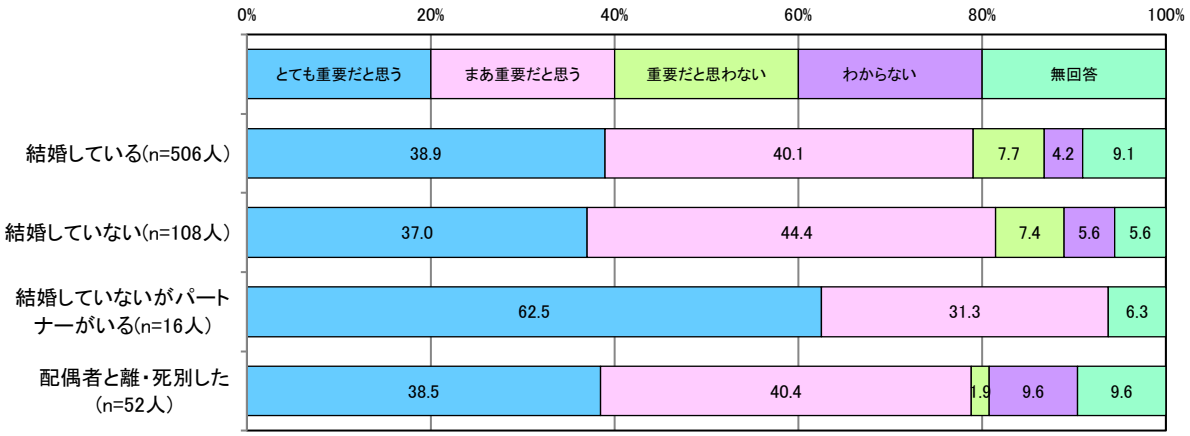


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、いずれも７割以上となっている。

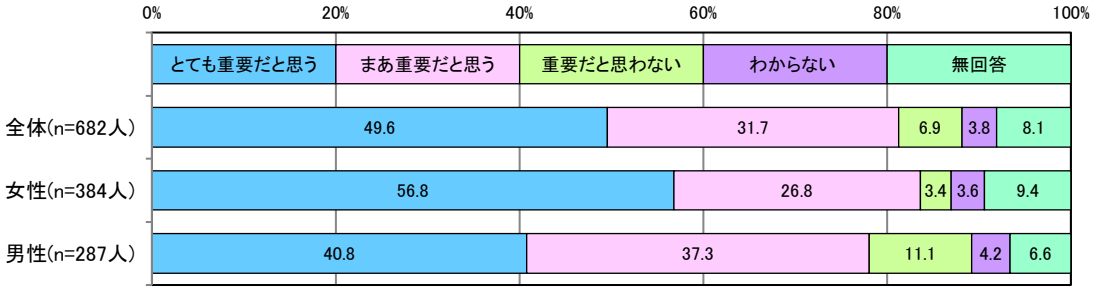
【配偶者の有無別】



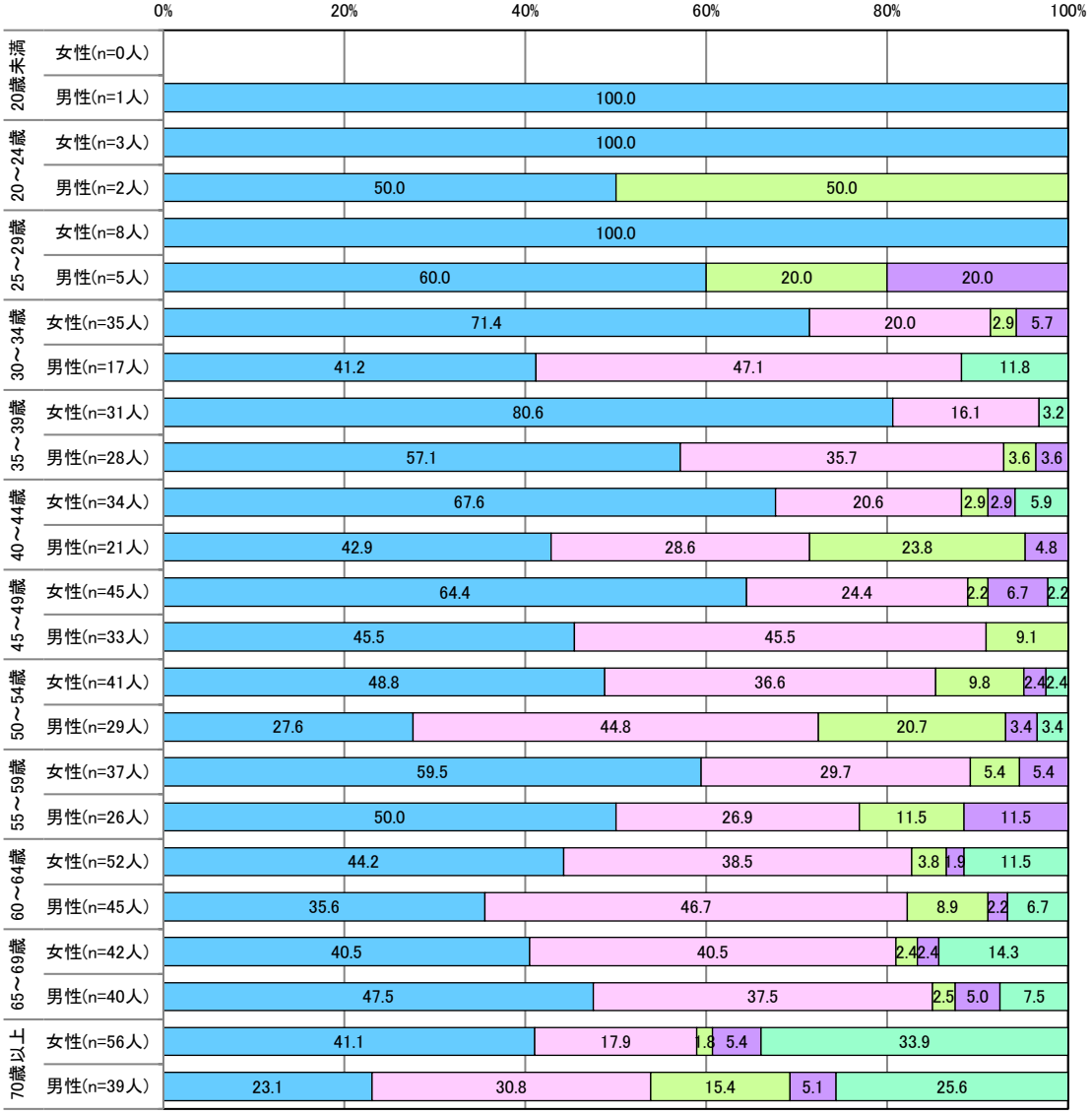
4. 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

・性別でみると、男女ともに、「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。回答割合は、女性が 56.8%、男性が 40.8%となっている。
・世代別性別でみると、20 歳～29 歳の男性、70 歳以上の男女を除き、いずれの世代でも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が 7 割を超えている。

【性別】

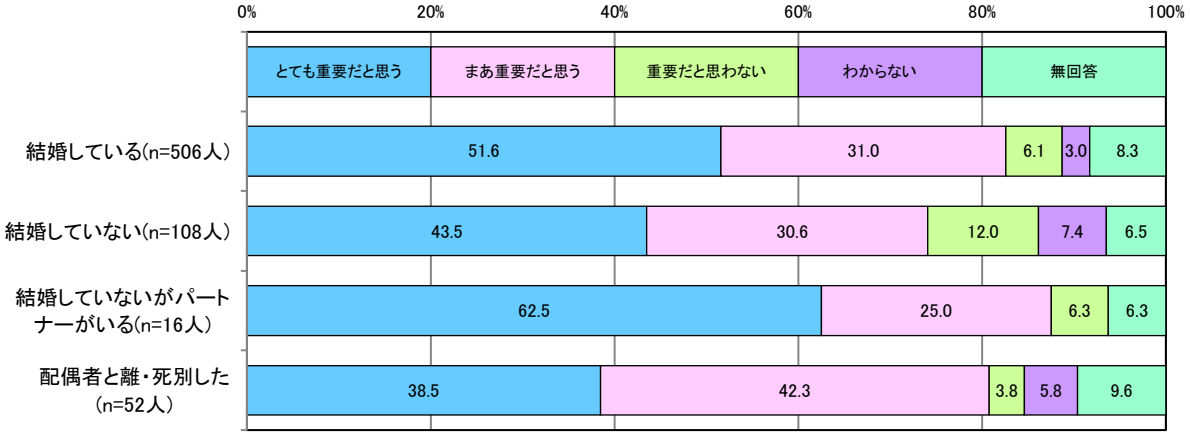


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が、いずれも７割以上となっている。

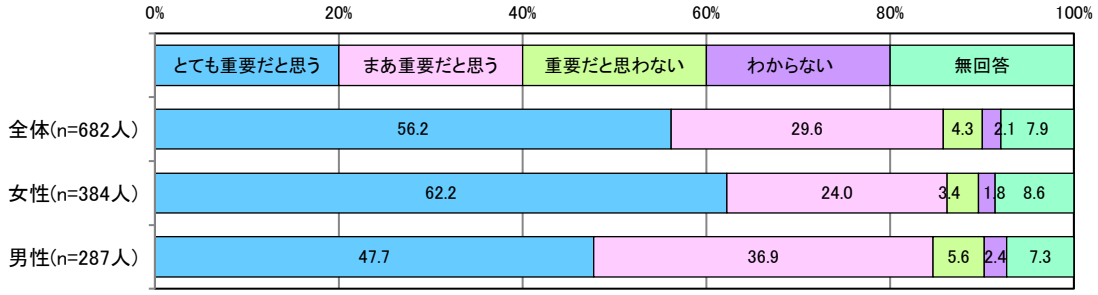
【配偶者の有無別】



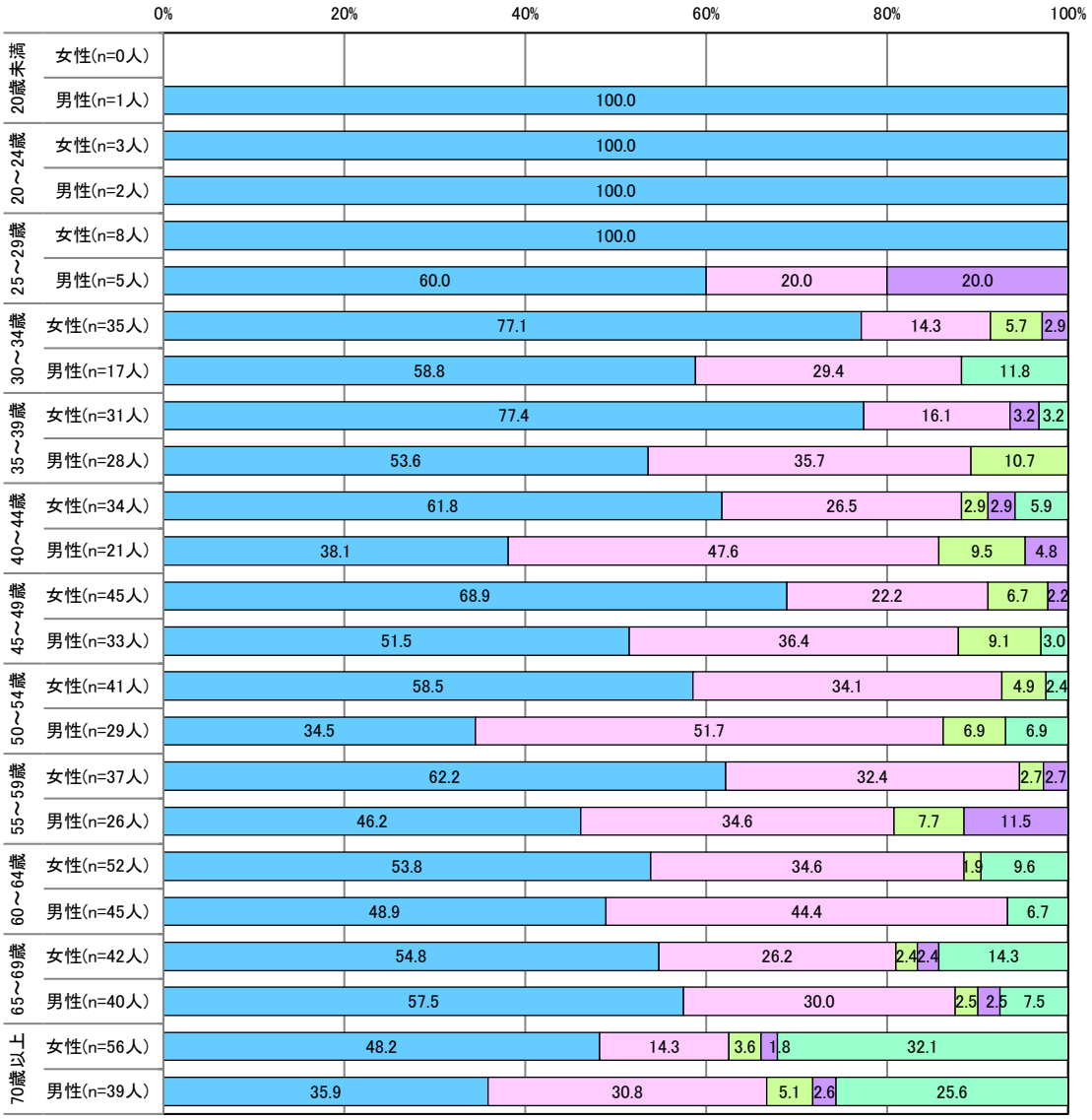
５. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が 62.2%、男性が 47.7%となっている。
・世代別性別でみると、70 歳以上の男女を除き、いずれの世代でも「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が８割以上となっている。

【性別】

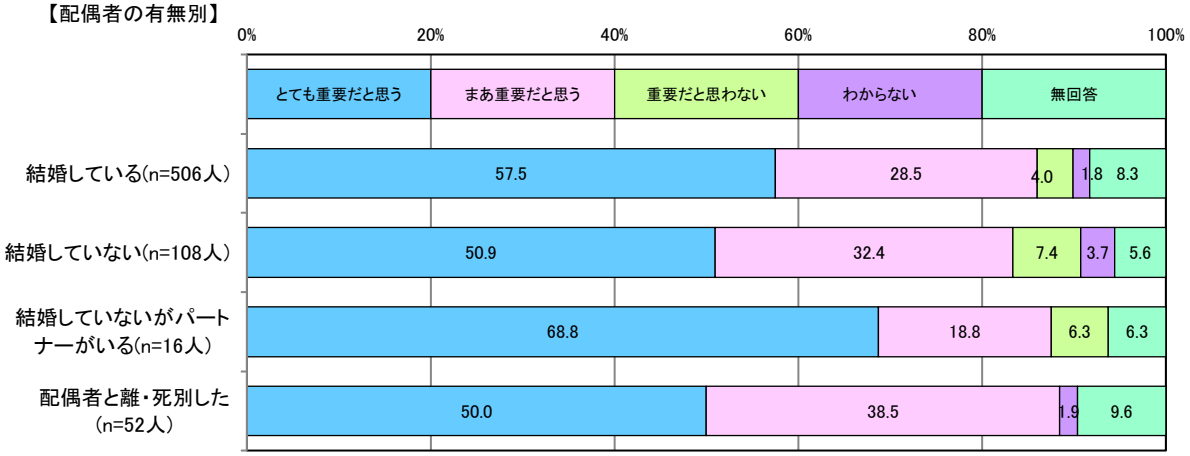


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が、いずれも８割以上となっている。

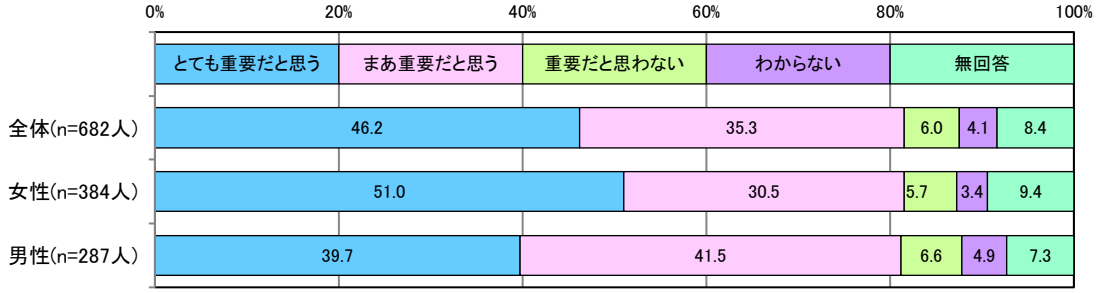
【配偶者の有無別】



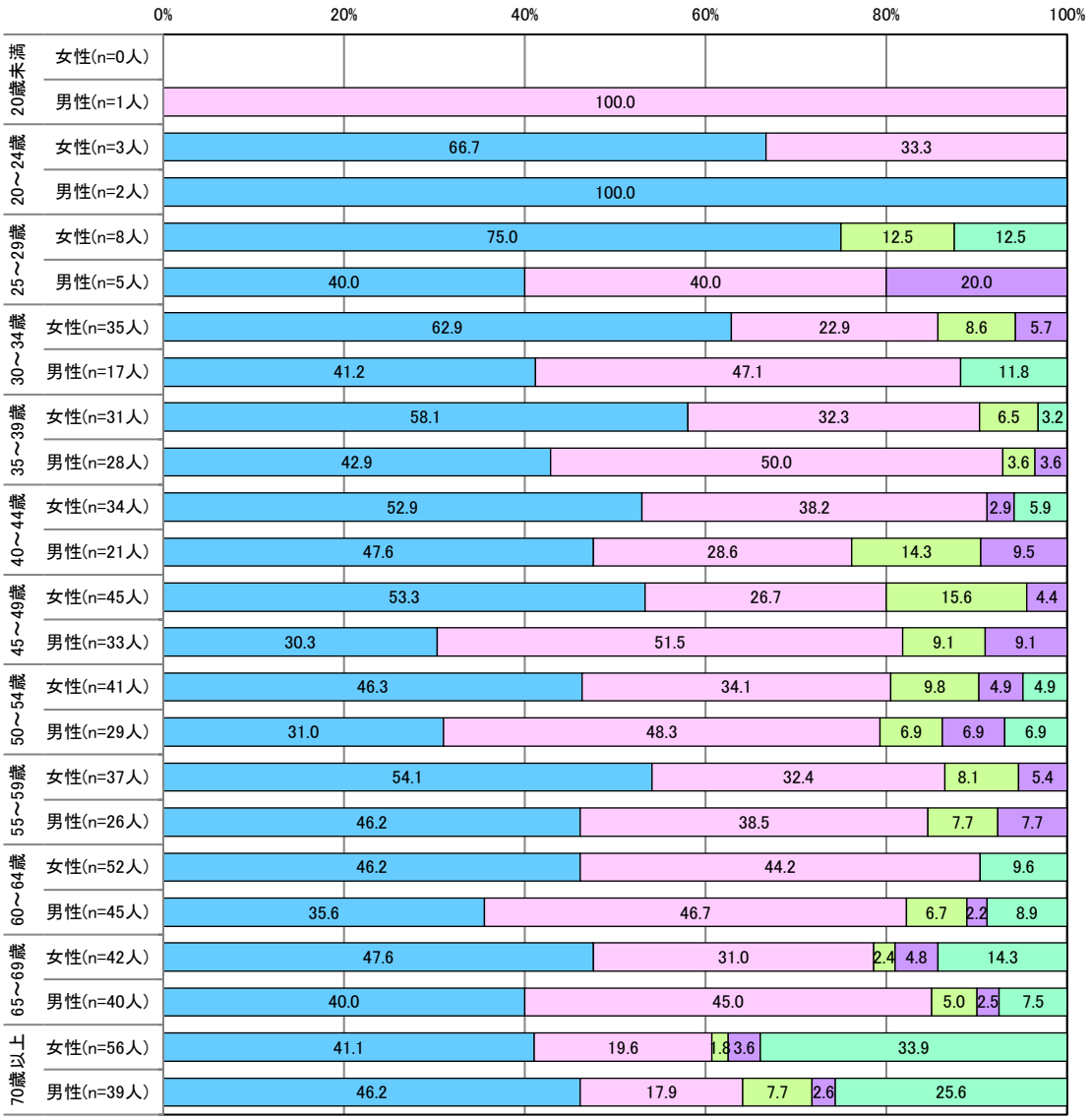
６. 企業内託児所や学童保育所などの設置

・性別でみると、女性は、「とても重要だと思う」が約５割(51.0%)と最も多い。一方、男性は、「まあ重要だと思う」が約４割(41.5%)と最も多くなっている。男女ともに、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」の回答割合の合計は、８割を超えている。
・世代別性別でみると、70 歳以上の男女を除き、いずれの世代においても「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が７割以上となっている。

【性別】

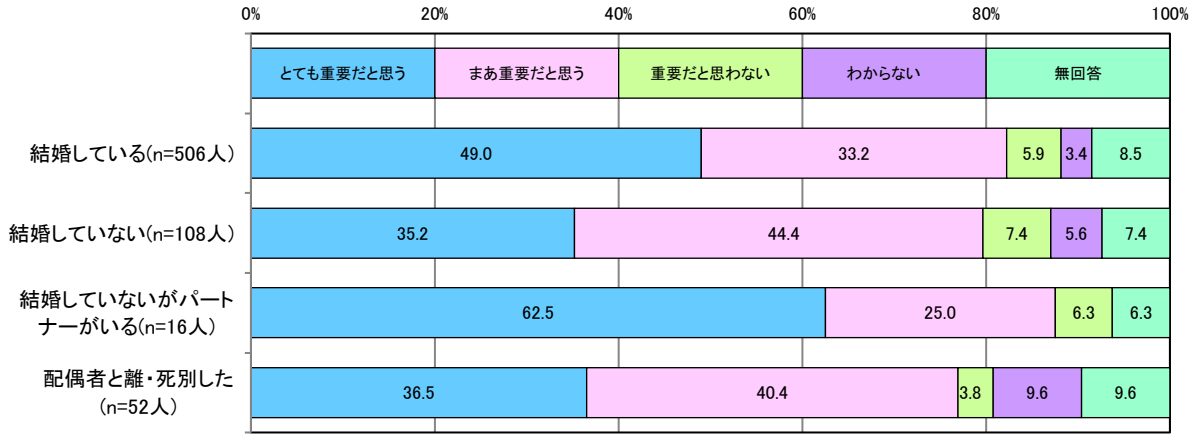


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が、いずれも７割以上となっている。

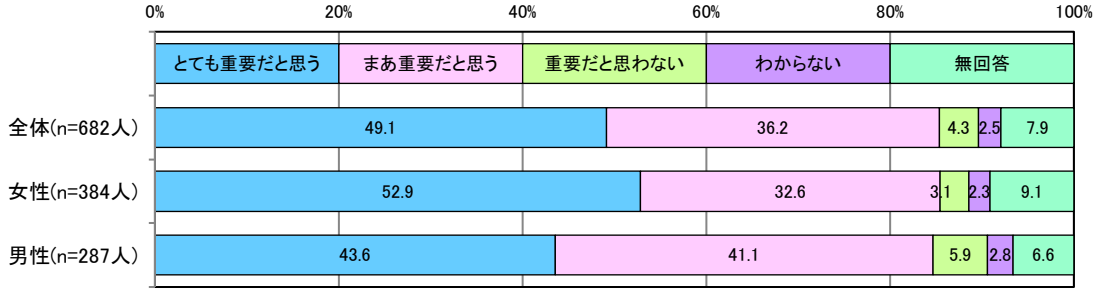
【配偶者の有無別】



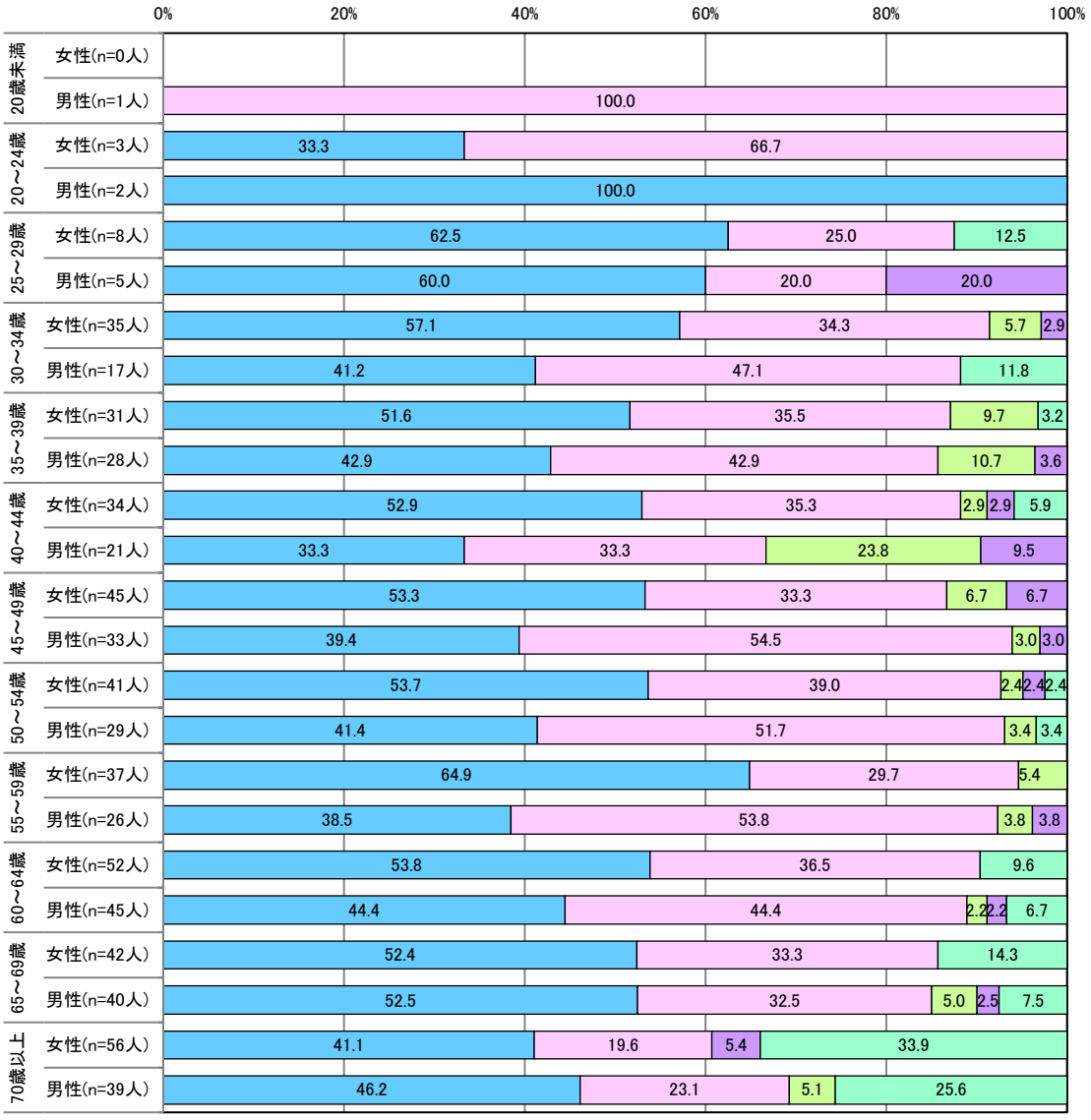
7. 女性特有の健康課題への配慮

・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、女性が 52.9%、男性が 43.6%となっている。
・世代別性別でみると、40 歳～44 歳の男性、70 歳以上の男女を除き、いずれの世代においても「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が８割以上となっている。

【性別】

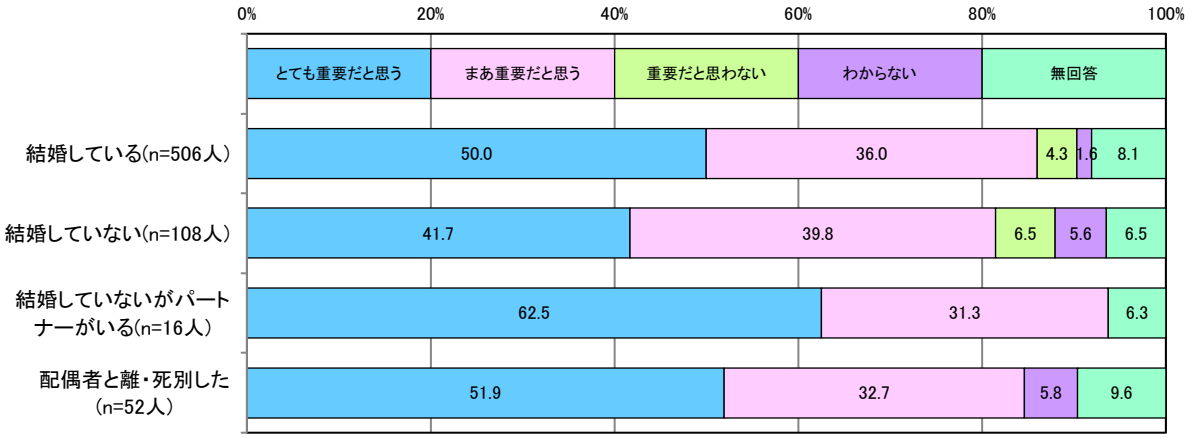


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が、いずれも８割以上となっている。

【配偶者の有無別】

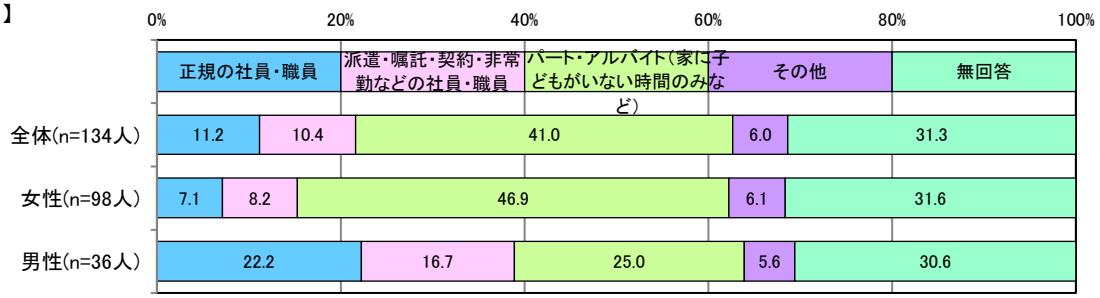


離職されている方におたずねします。

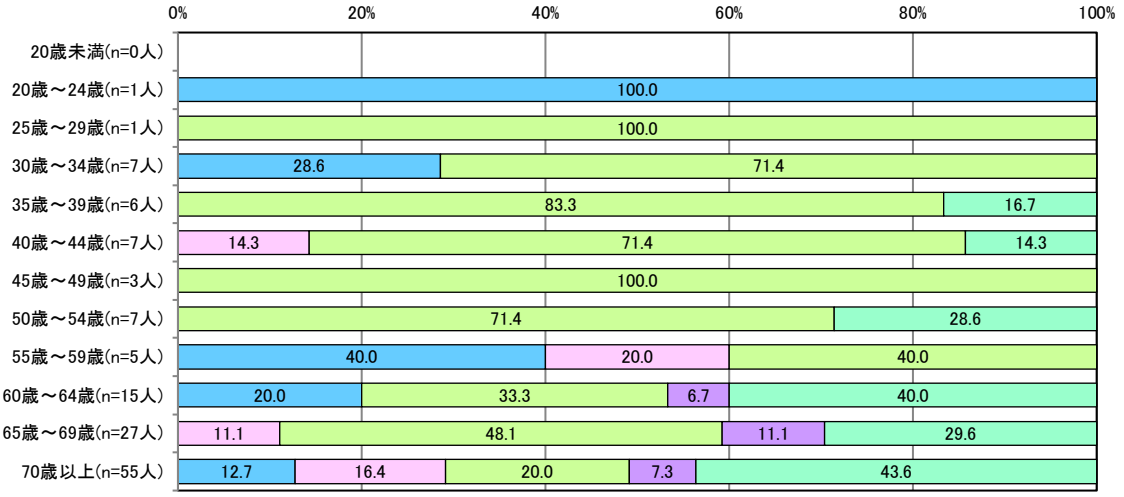
問 18　再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。（○は１つ）

・全体でみると、「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）」（41.0%）という回答が約４割と最も多く、次いで、「正規の社員・職員」（11.2%）となっている。
・性別でみると、「正規の社員・職員」は、女性が 7.1%、男性が 22.2%、「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」は女性が 8.2%、男性 16.7%と回答している。一方、「パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみ）」は、女性が 46.9%、男性が 25.0%と回答しており、性別により希望する雇用形態に大きな開きがある。
・世代別でみると、20 歳～24 歳、55 歳～59 歳では、「正規の社員・職員」という回答が４割以上となっている。
・配偶者の有無別でみると、「正規の社員・職員」という回答が、「結婚していない」では 25.0%と約３割となっている。

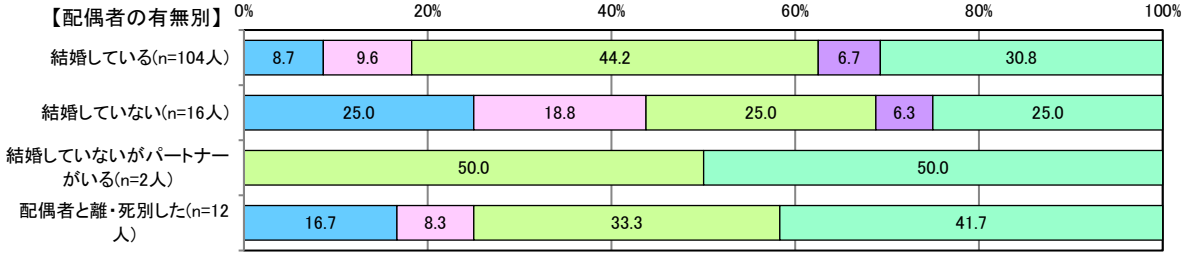
【性別】



【世代別】

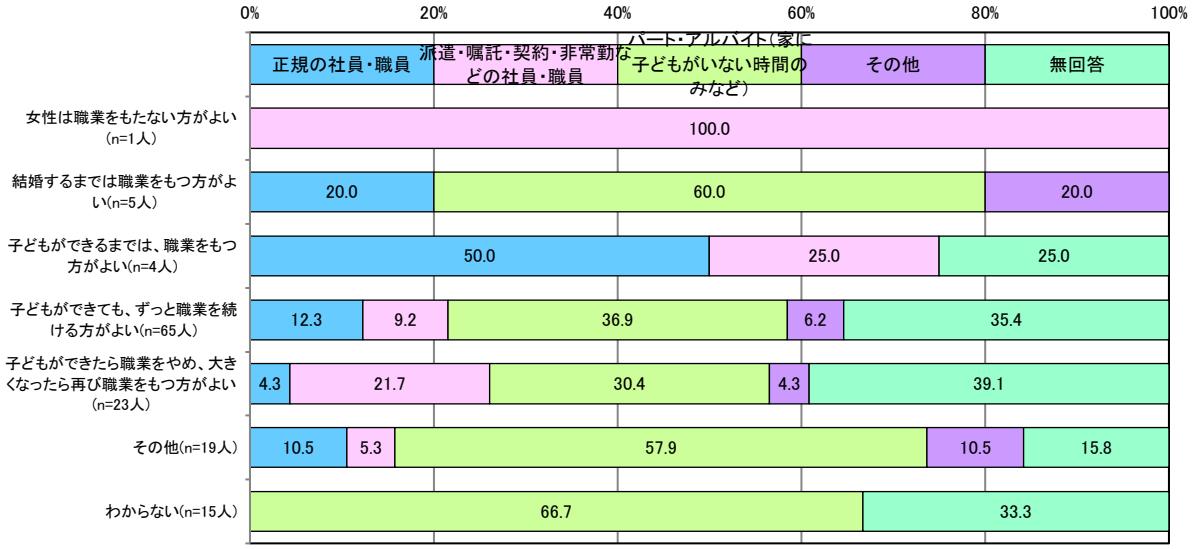


【配偶者の有無別】



・女性が職業を持つことについてみると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答が 12.3%となっている。一方、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答は 4.3%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

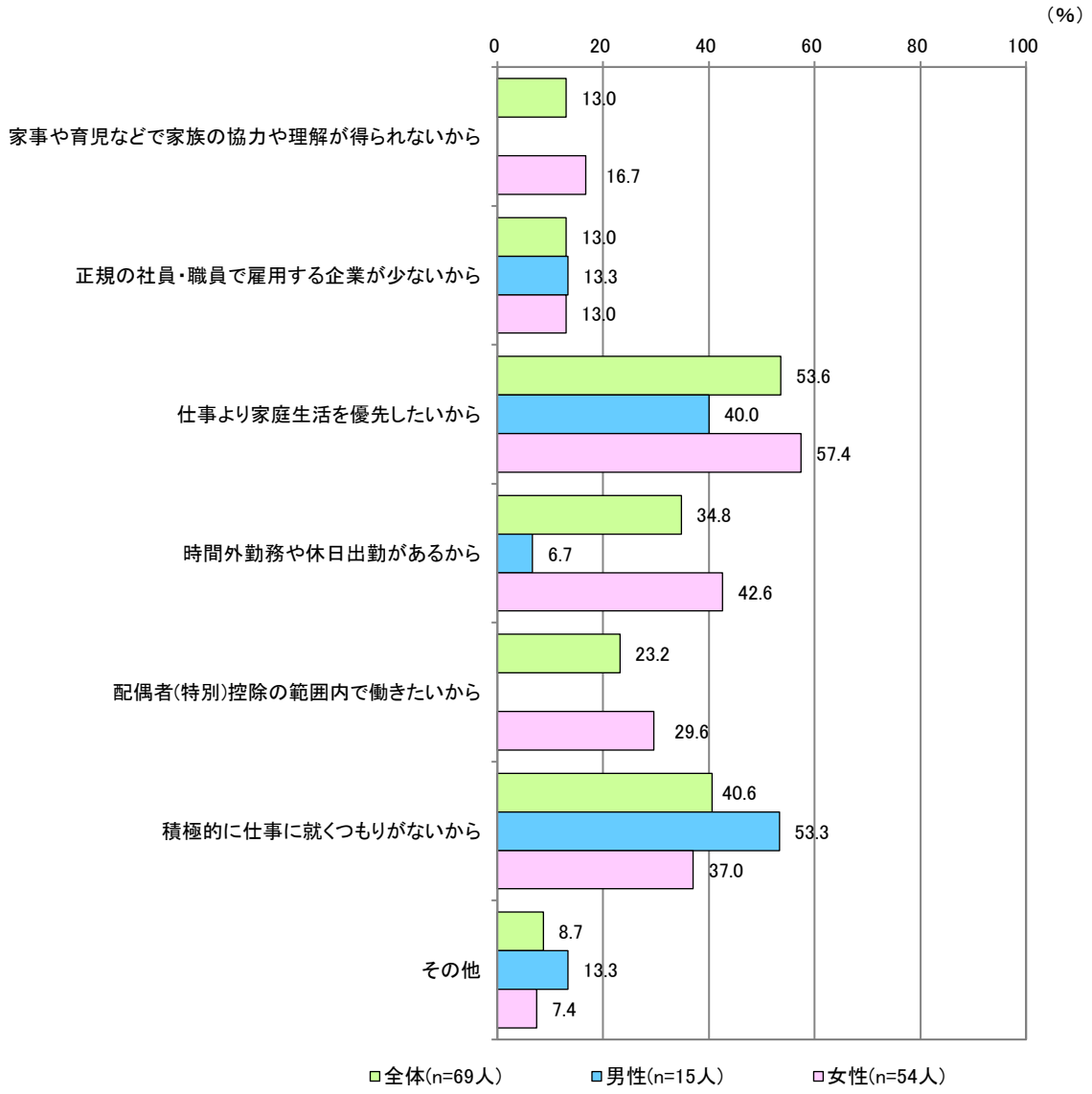


問 18 で「2.派遣・嘱託などの社員・職員」または「3.パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

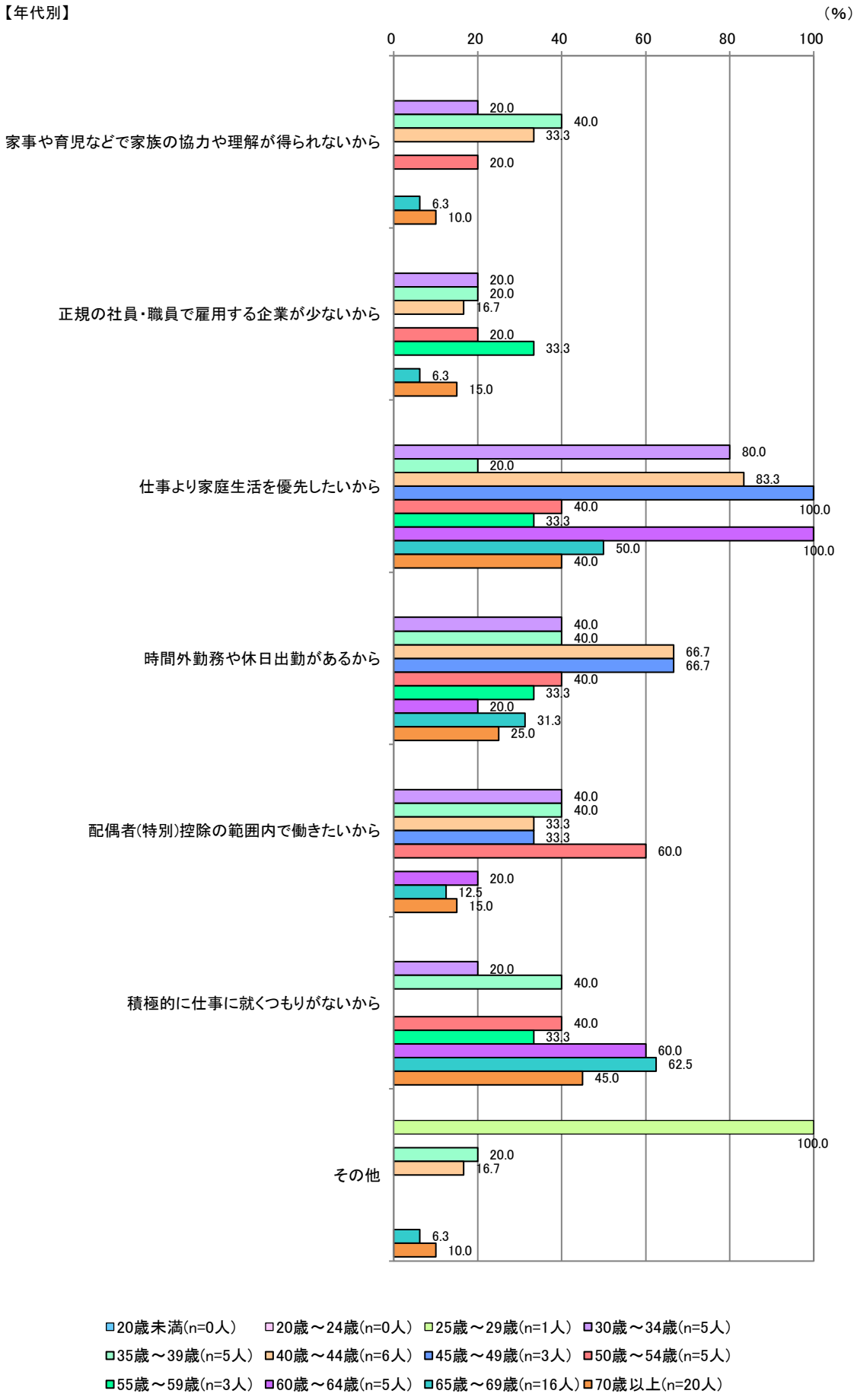
問 19　その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は３つまで）

・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」（53.6%）が最も多い回答となっている。次いで、「積極的に仕事に就くつもりがないから」（40.6%）、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」（34.8%）、「配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから」（23.2%）の順で続いている。
・性別でみると、女性は、「仕事より家庭生活を優先したいから」が最も多く、約６割となっている。一方、男性は、「積極的に仕事に就くつもりがないから」が最も多く、約５割となっている。
・年代別でみると、25 歳～29 歳、35 歳～39 歳、50 歳～54 歳、65 歳以上を除く、いずれの世代も「仕事より家庭生活を優先したいから」という回答が多い傾向となっている。

【性別】



【年代別】

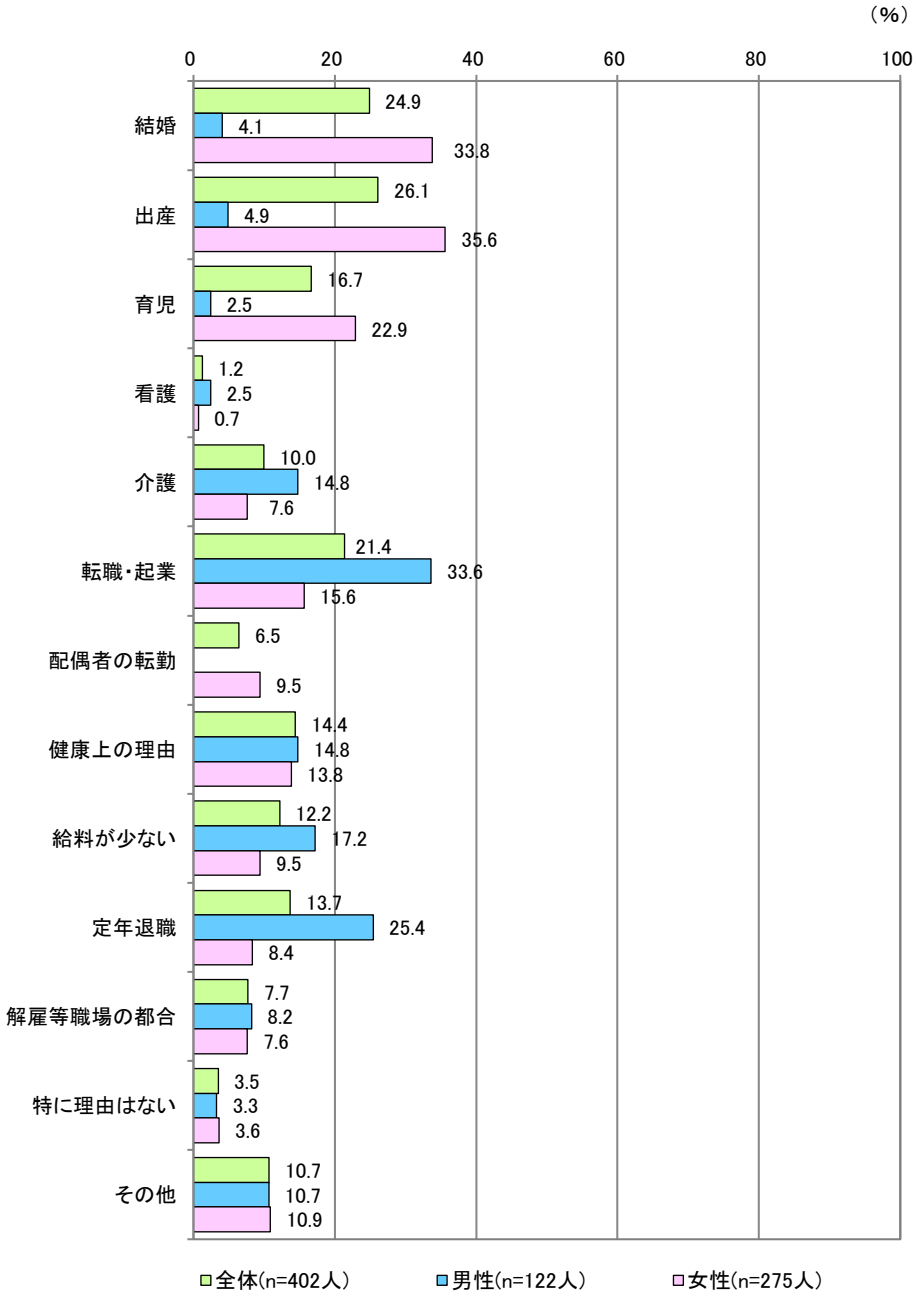

（%）
0
20
40
60
80
100
家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから
20.0
40.0
33.3
20.0
6.3
10.0
正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから
20.0
20.0
16.7
20.0
33.3
6.3
15.0
仕事より家庭生活を優先したいから
80.0
20.0
83.3
100.0
40.0
33.3
100.0
50.0
40.0
時間外勤務や休日出勤があるから
40.0
40.0
66.7
66.7
40.0
33.3
20.0
31.3
25.0
配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから
40.0
40.0
33.3
33.3
60.0
20.0
12.5
15.0
積極的に仕事に就くつもりがないから
20.0
40.0
40.0
33.3
60.0
62.5
45.0
その他
100.0
20.0
16.7
6.3
10.0
20歳未満(n=0人)
20歳～24歳(n=0人)
25歳～29歳(n=1人)
30歳～34歳(n=5人)
35歳～39歳(n=5人)
40歳～44歳(n=6人)
45歳～49歳(n=3人)
50歳～54歳(n=5人)
55歳～59歳(n=3人)
60歳～64歳(n=5人)
65歳～69歳(n=16人)
70歳以上(n=20人)

離職経験のある方におたずねします。

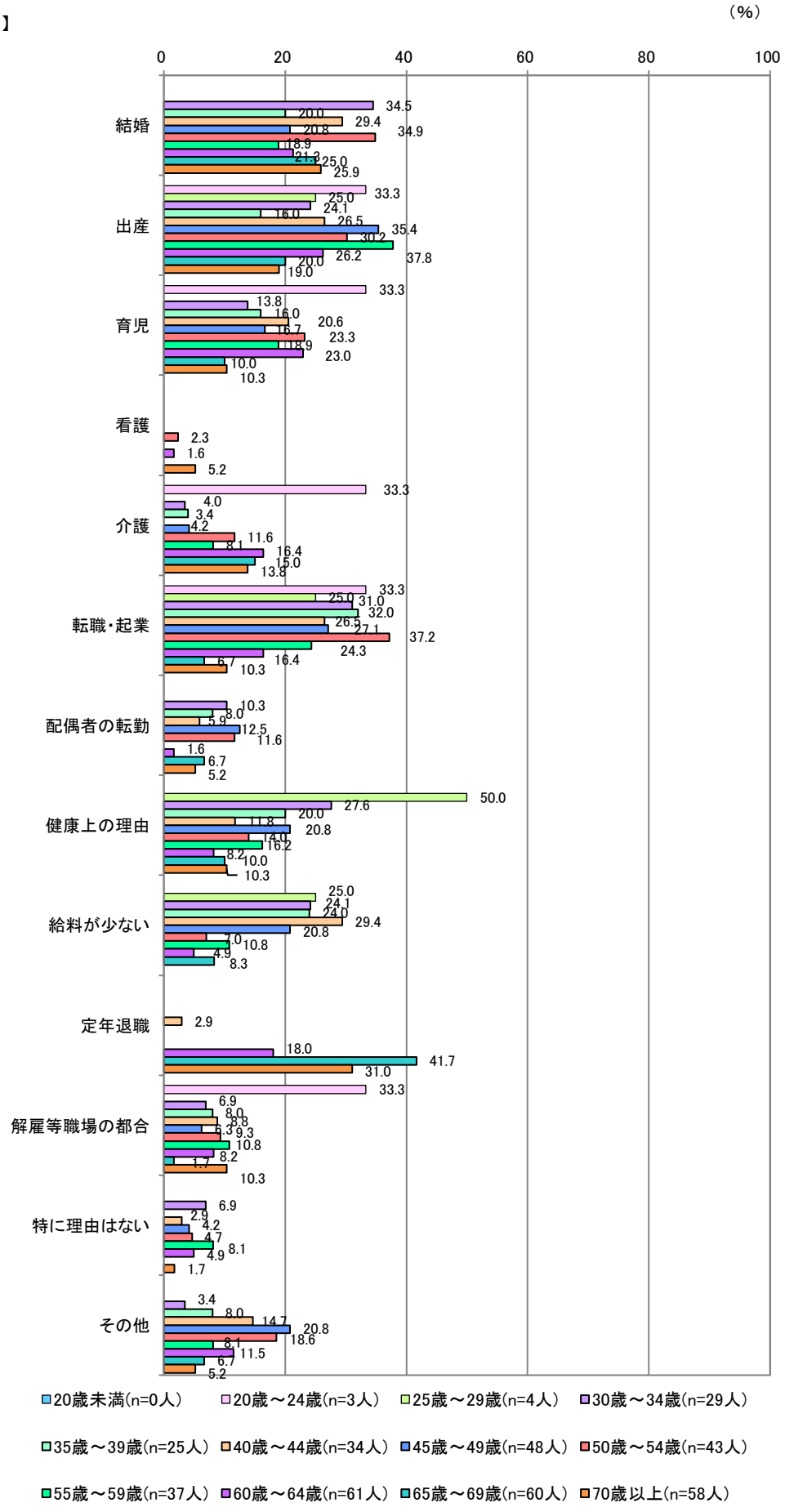
問 20　離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（○は３つまで）

・全体でみると、「出産」（26.1%）が最も多い回答となっている。次いで、「結婚」（24.9%）、「転職・起業」（21.4%）、「育児」（16.7%）の順で続いている。
・性別でみると、男性は、「転職・起業」（33.6%）が最も多い。次いで、「定年退職」（25.4%）、「給料が少ない」（17.2%）、「健康上の理由」（14.8%）、「介護」（14.8%）の順となっている。女性は、「出産」（35.6%）、「結婚」（33.8%）、「育児」（22.9%）の順となっている。
（※無回答は、離職経験のない方として集計している）。

【性別】

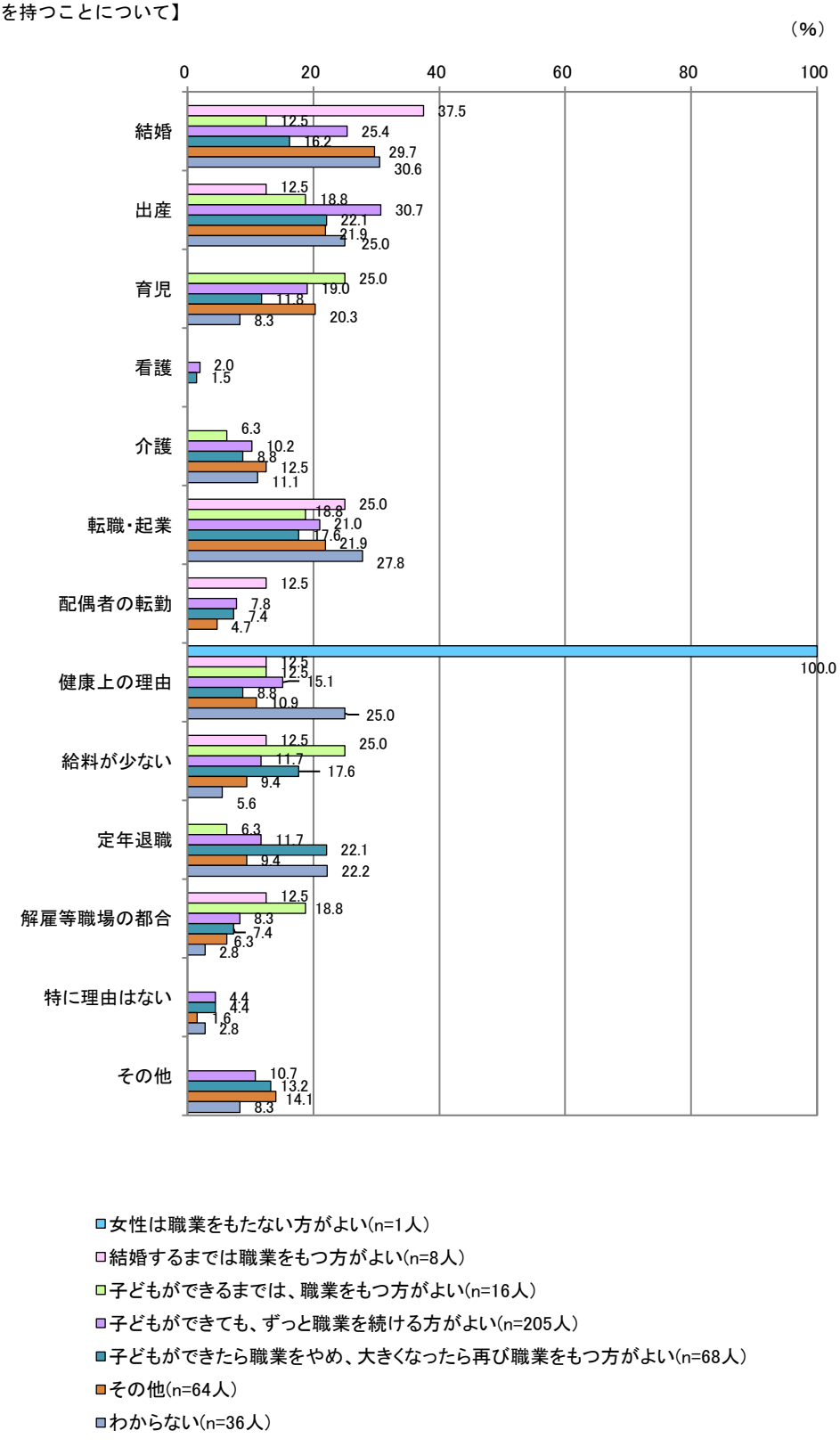


【年代別】


（%）
0
20
40
60
80
100
結婚
34.5
20.0
29.4
20.8
34.9
18.9
21.3
25.0
25.9
出産
33.3
25.0
24.1
16.0
26.5
35.4
30.2
37.8
26.2
20.0
19.0
育児
33.3
13.8
16.0
20.6
16.7
23.3
18.9
23.0
10.0
10.3
看護
2.3
1.6
5.2
介護
33.3
4.0
3.4
4.2
11.6
8.1
16.4
15.0
13.8
転職・起業
33.3
25.0
31.0
32.0
26.5
27.1
37.2
24.3
16.4
6.7
10.3
配偶者の転勤
10.3
3.0
5.9
12.5
11.6
1.6
6.7
5.2
健康上の理由
50.0
27.6
20.0
11.8
20.8
14.0
16.2
8.2
10.0
10.3
給料が少ない
25.0
24.1
24.0
29.4
20.8
7.0
10.8
4.9
8.3
定年退職
2.9
18.0
41.7
31.0
解雇等職場の都合
33.3
6.9
8.0
3.8
6.3
9.3
10.8
8.2
1.7
10.3
特に理由はない
6.9
2.9
4.2
4.7
8.1
4.9
1.7
その他
3.4
8.0
14.7
20.8
18.6
8.1
11.5
6.7
5.2
20歳未満(n=0人)
20歳～24歳(n=3人)
25歳～29歳(n=4人)
30歳～34歳(n=29人)
35歳～39歳(n=25人)
40歳～44歳(n=34人)
45歳～49歳(n=48人)
50歳～54歳(n=43人)
55歳～59歳(n=37人)
60歳～64歳(n=61人)
65歳～69歳(n=60人)
70歳以上(n=58人)

・女性が職業を持つことについてみると、「出産」という回答では、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」は 30.7%、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は 22.1%、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」は 18.8%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

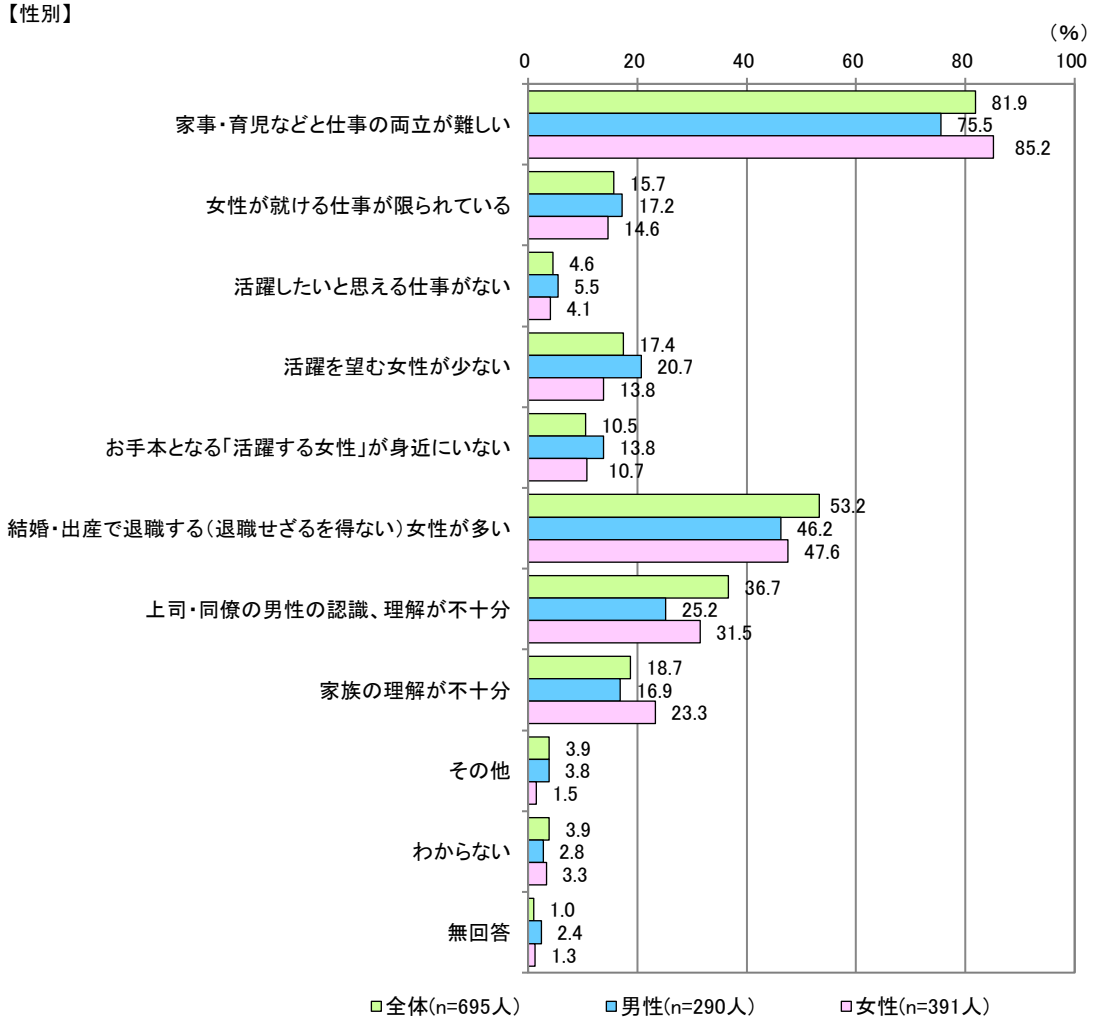


問 21　女性の職業生活における活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。
（○は３つまで）

・全体でみると、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（81.9%）が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（53.2%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（36.7%）の順で続いている。

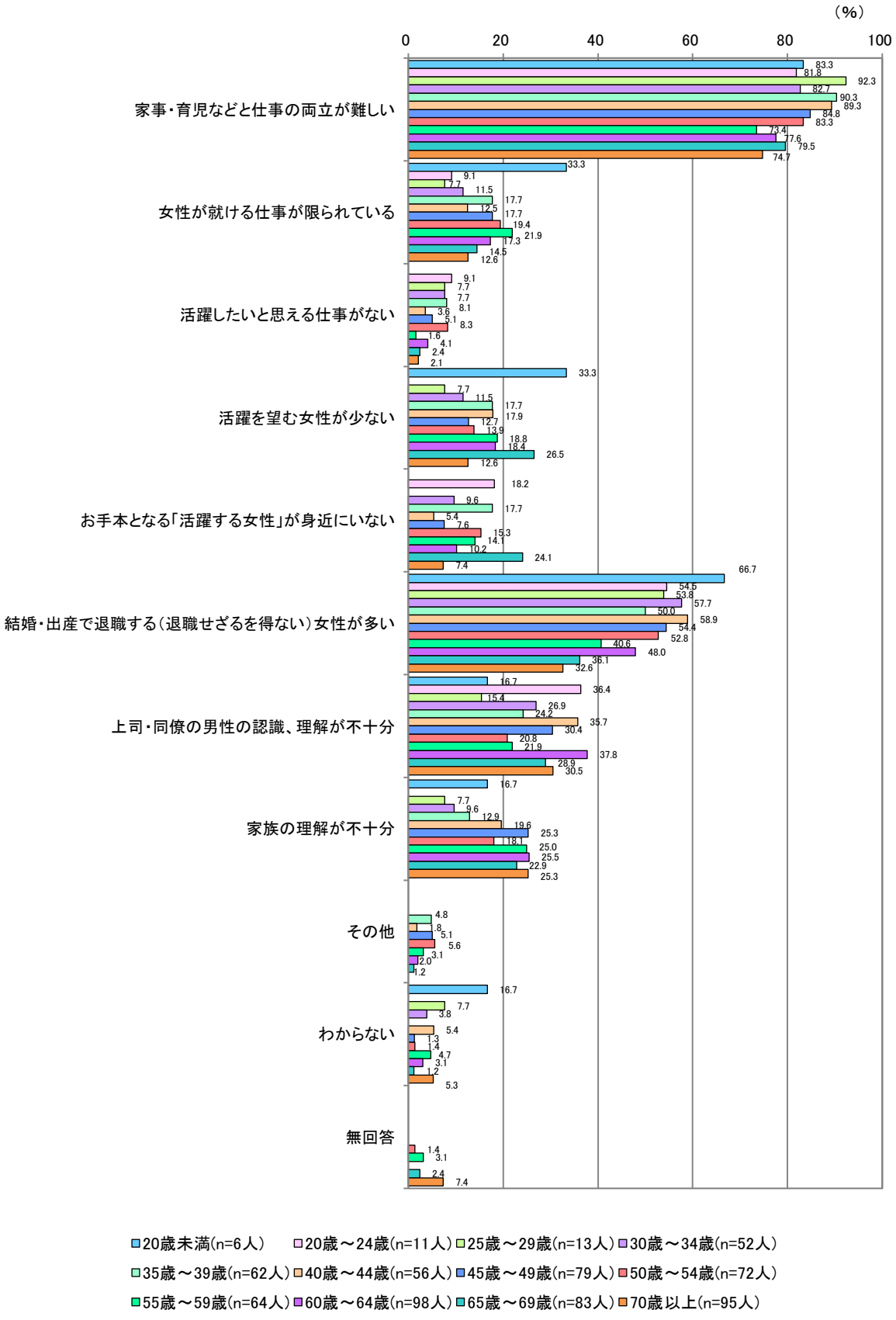
・性別でみると、男性は、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（75.5%）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（46.2%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（25.2%）、「活躍を望む女性が少ない」（20.7%）、「女性が就ける仕事が限られている」（17.2%）の順となっている。女性も、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（85.2%）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（47.6%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（31.5%）、「家族の理解が不十分」（23.3%）の順となっている。

【性別】

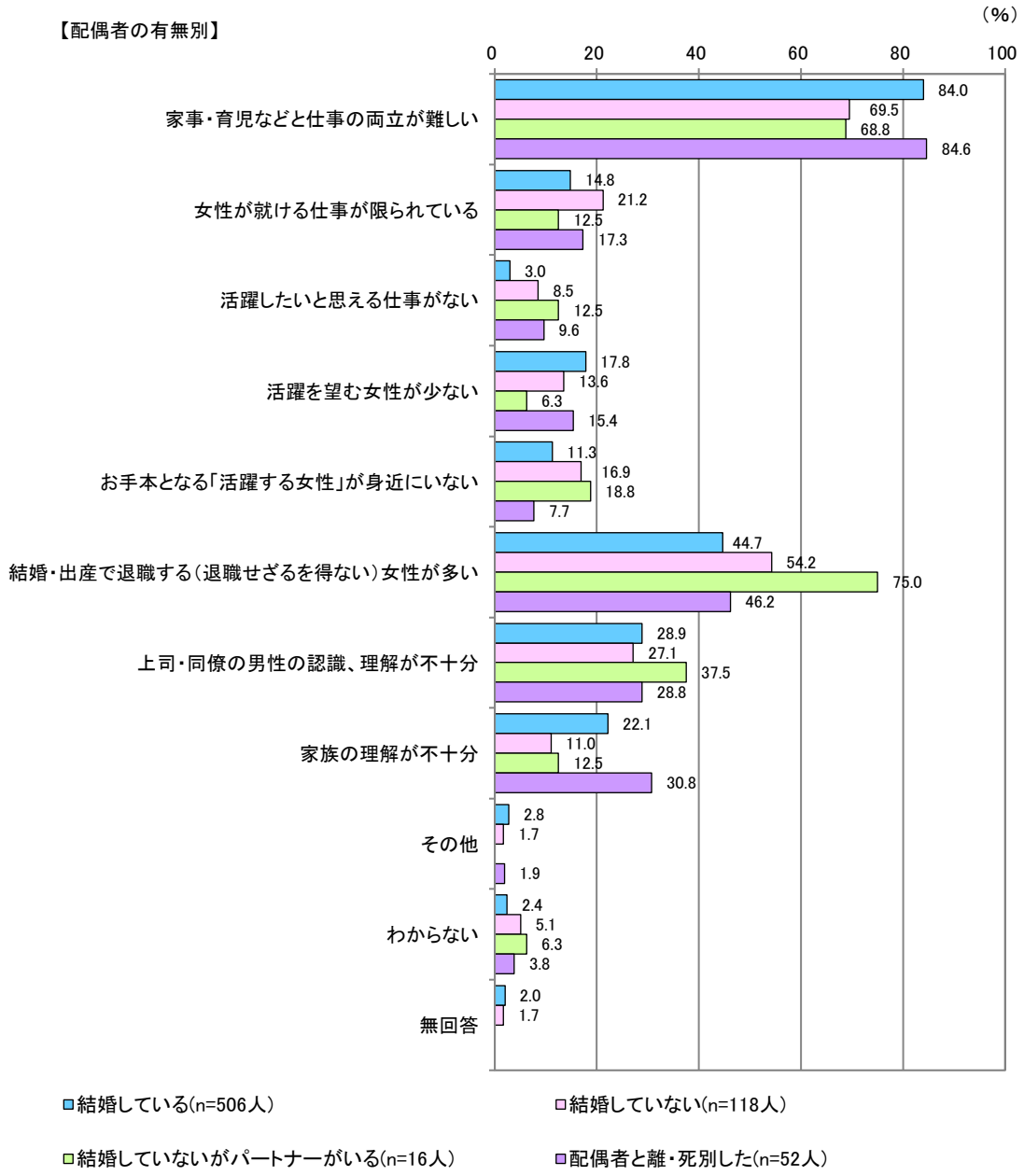


・年代別でみると、いずれの年代も「家事・育児などと仕事の両立が難しい」という回答が最も多くなっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。

【年代別】



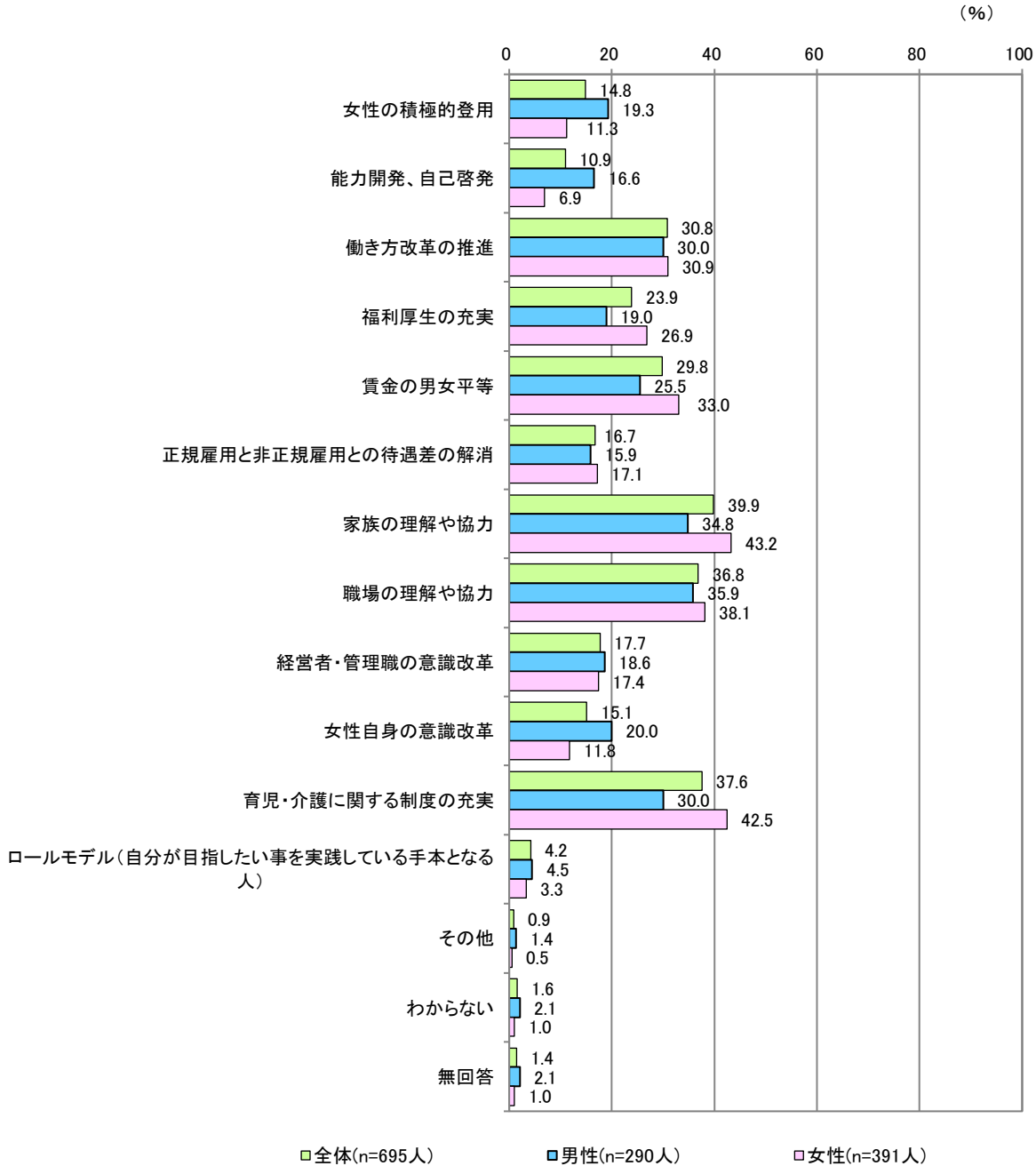
・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」を除く、いずれも「家事・育児などと仕事の両立が難しい」が６割以上となり、最も多くなっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。一方、「結婚していないがパートナーがいる」では、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」が最も多くなっている。



問 22　女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（○は３つまで）

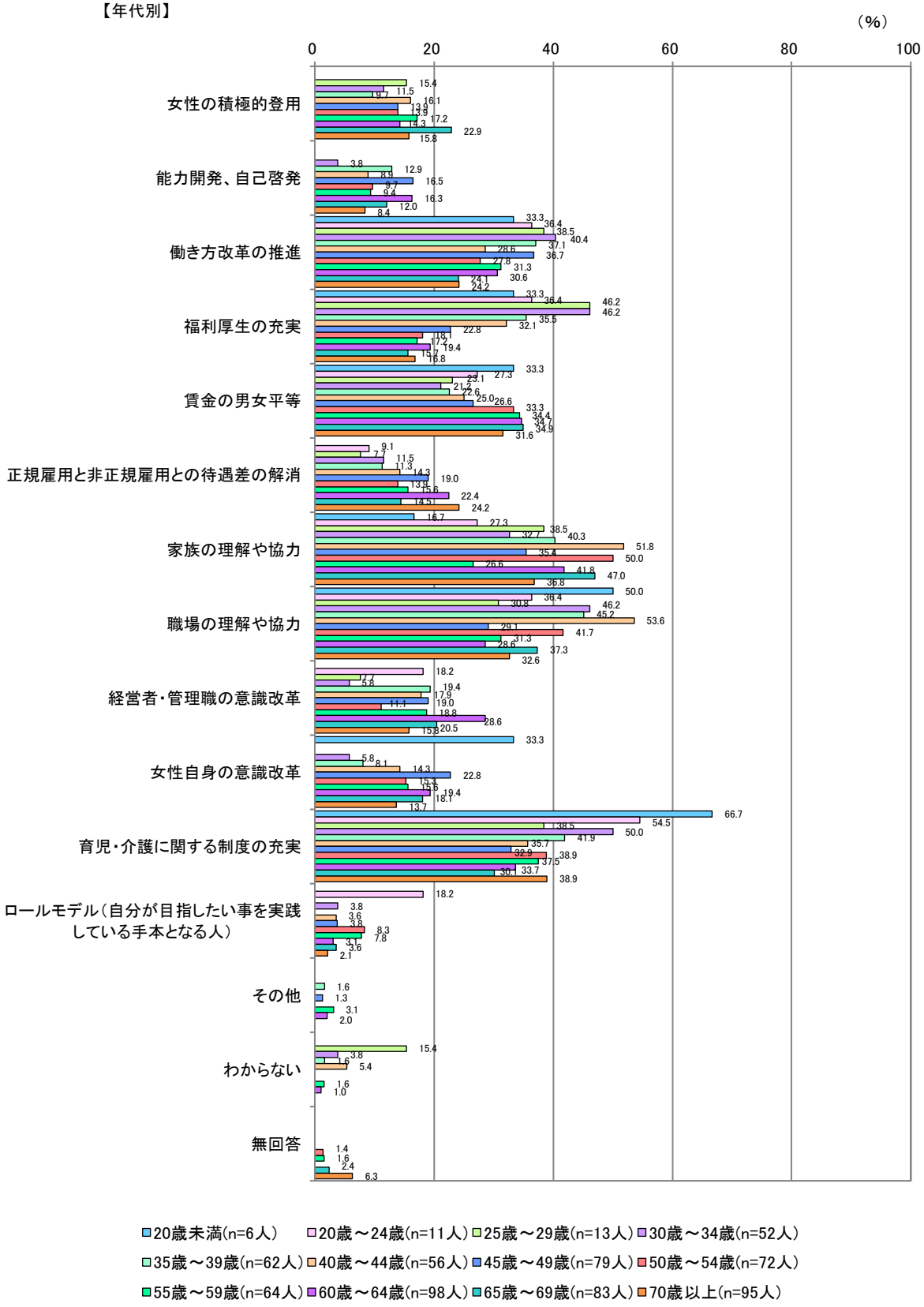
・全体でみると、「家族の理解や協力」（39.9%）が最も多い回答となっている。次いで、「育児・介護に関する制度の充実」（37.6%）、「職場の理解や協力」（36.8%）、「働き方改革の推進」（30.8%）の順で続いている。
・性別でみると、男性は、「職場の理解や協力」（35.9%）が最も多くなっている。次いで、「家族の理解や協力」（34.8%）、「働き方改革の推進」（30.0%）、「育児・介護に関する制度の充実」（30.0%）と続いている。一方、女性では、「家族の理解や協力」（43.2%）と最も多く、「育児・介護に関する制度の充実」（42.5%）、「職場の理解や協力」（38.1%）と続いている。

【性別】

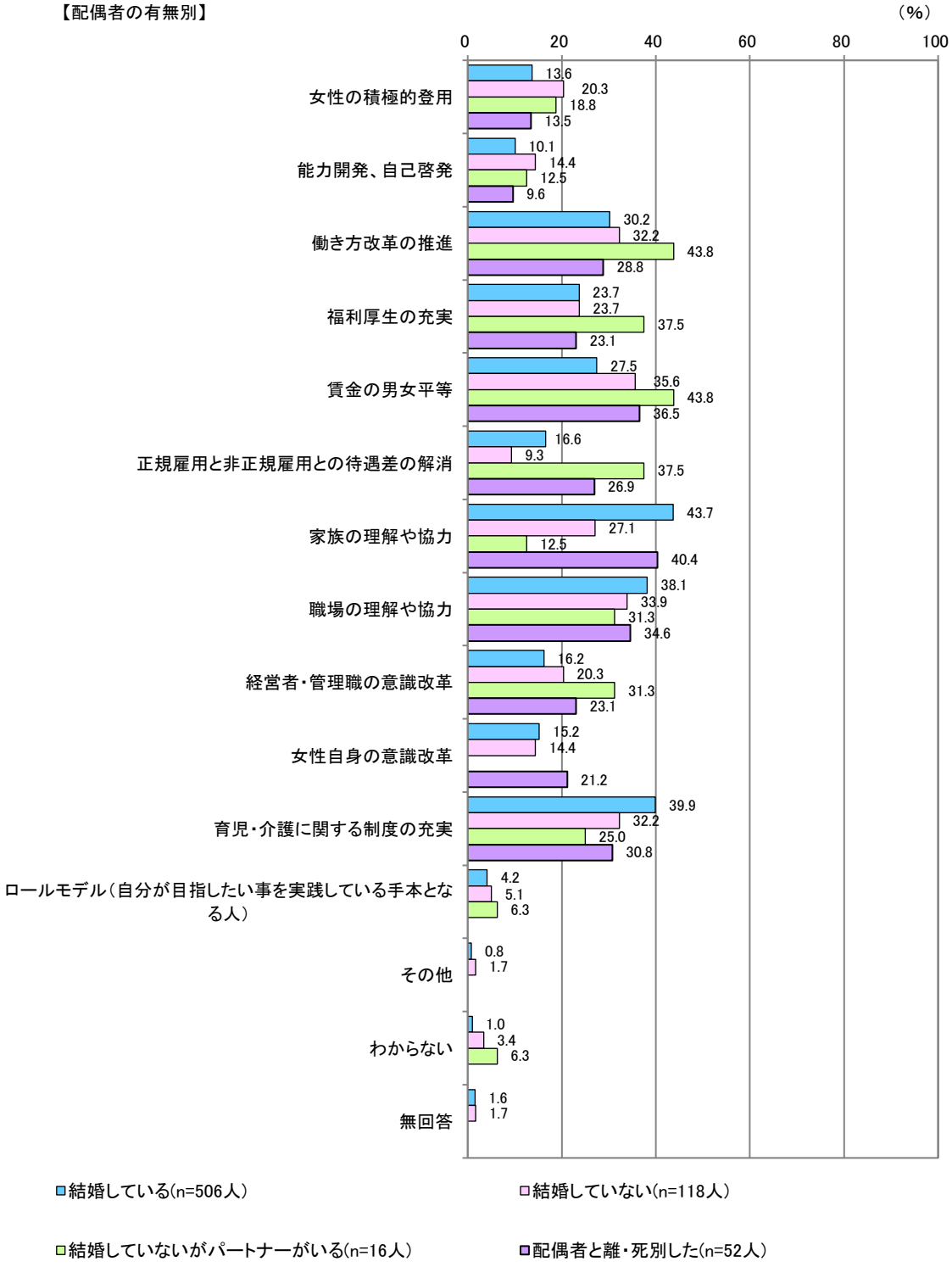


・年代別でみると、20 歳未満、20 歳～34 歳、55 歳～59 歳、70 歳以上の年代では、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方、35 歳～44 歳、50 歳～54 歳では、「職場の理解や協力」が最も多くなっている。45 歳～49 歳では、「働き方改革の推進」が最も多く、60 歳～69 歳では、「家族の理解や協力」が最も多くなっている。

【年代別】



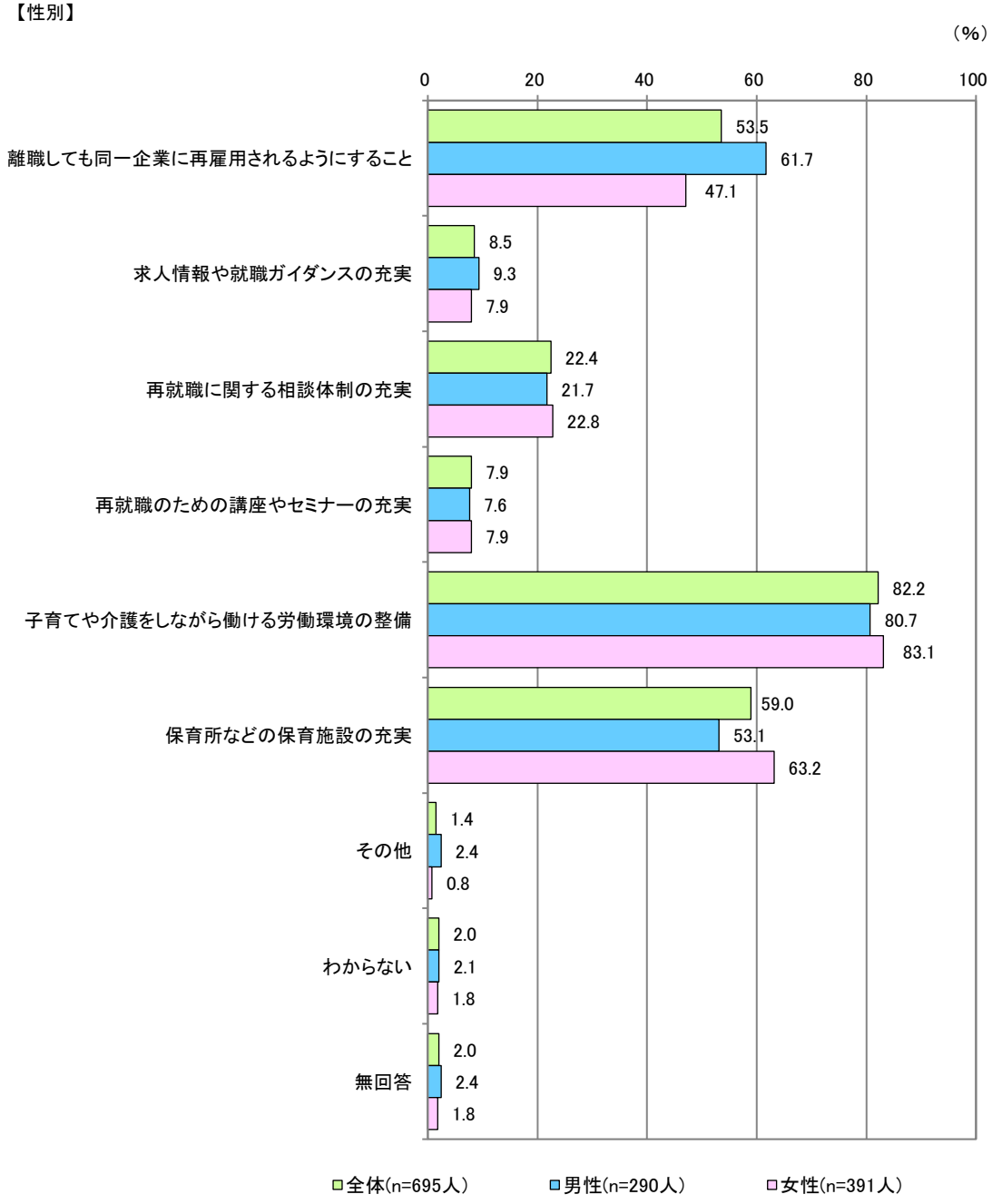
・配偶者の有無別でみると、「結婚している」、「配偶者と離・死別した」では、「家族の理解や協力」が最も多くなっている。一方で、「結婚していない」では、「賃金の男女平等」、「結婚していないがパートナーがいる」では、「賃金の男女平等」と「働き方改革の推進」が同率で最も多くなっている。



問 23　出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（○は３つまで）

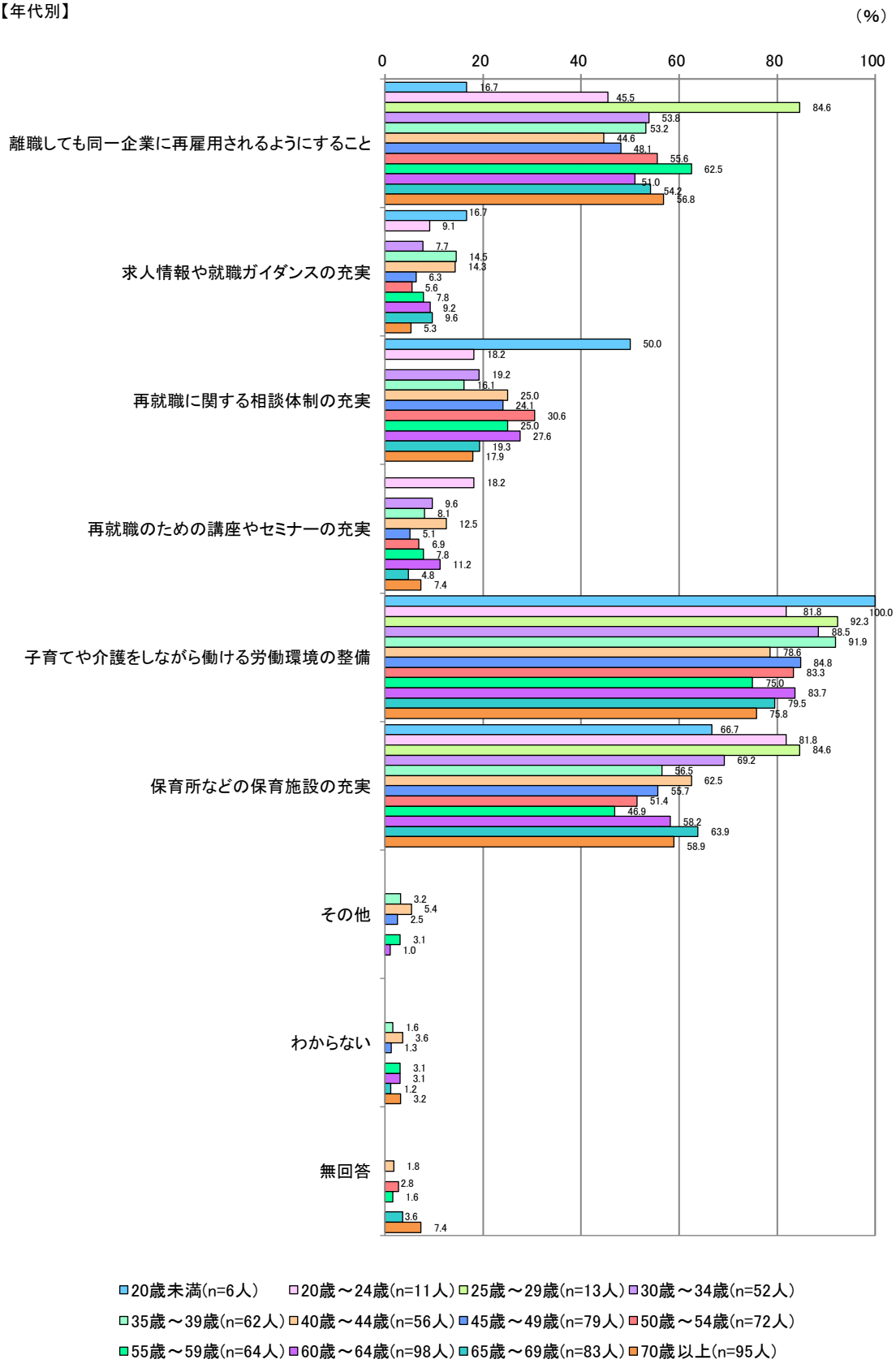
・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」（82.2%）が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」（59.0%）、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」（53.5%）の順で続いている。
・性別でみると、男女とも、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多くなっている。次いで、男性は、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」、「保育所などの保育施設の充実」、女性は、「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」と続いている。

【性別】

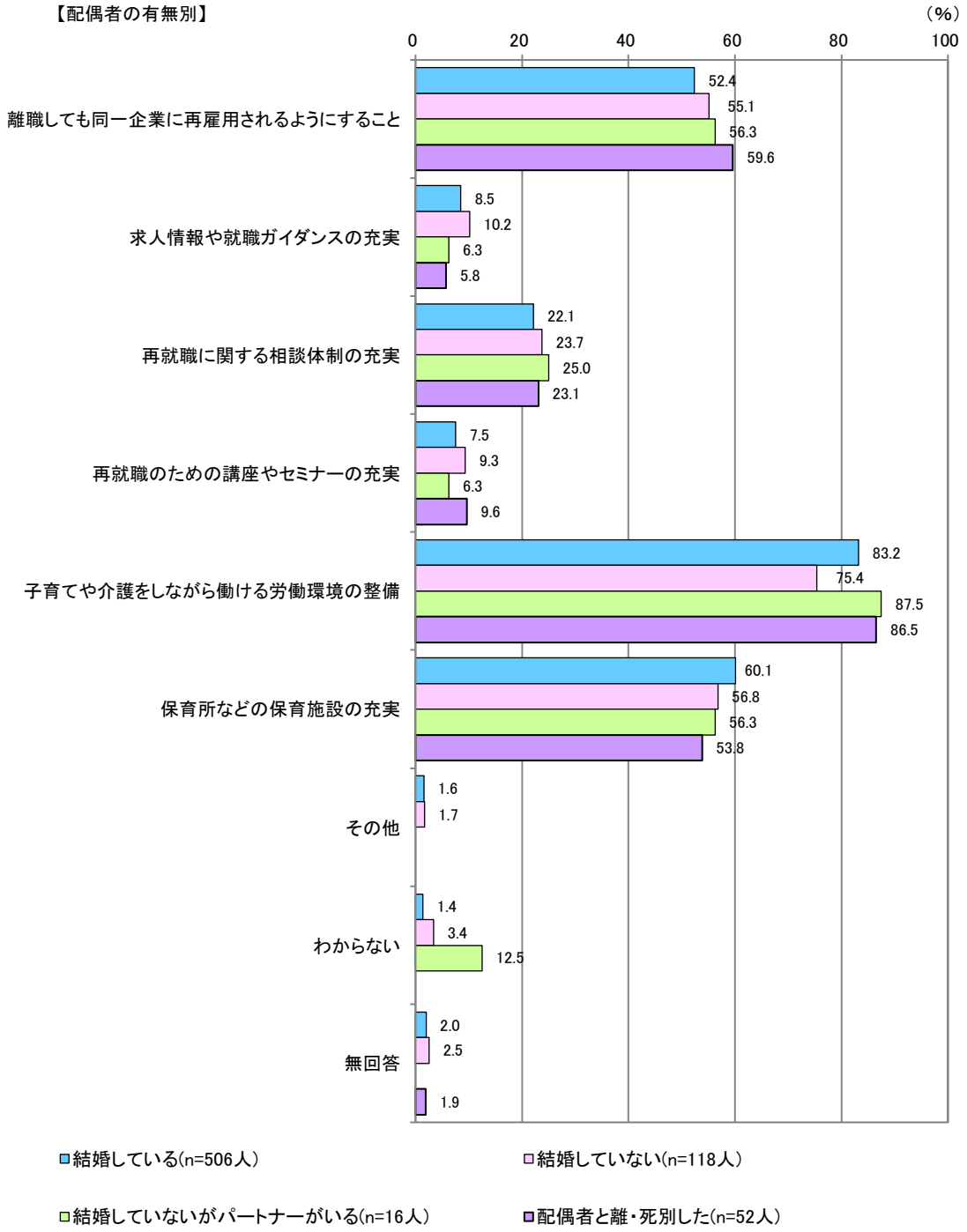


・年代別でみると、20 歳未満を除く、いずれの年代でも、上位 3 項目は一致している。20 歳未満では、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多く、「保育所などの保育施設の充実」、「再就職に関する相談体制の充実」と続いている。

【年代別】



・配偶者の有無別でみると、いずれも「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が７割以上と、最も多くなっている。上位３項目はいずれも一致している。

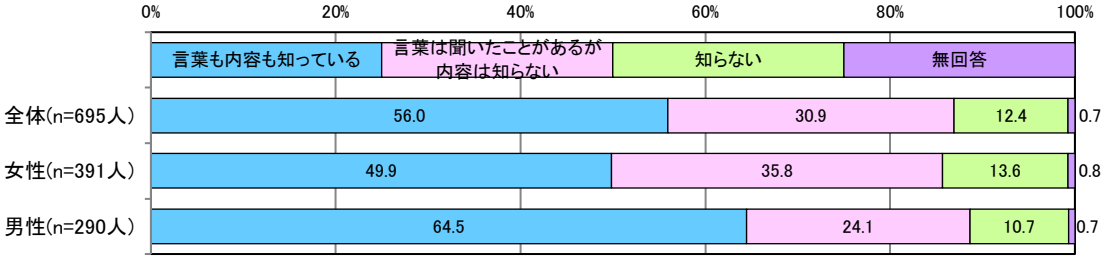


仕事と生活の調和に関することについて

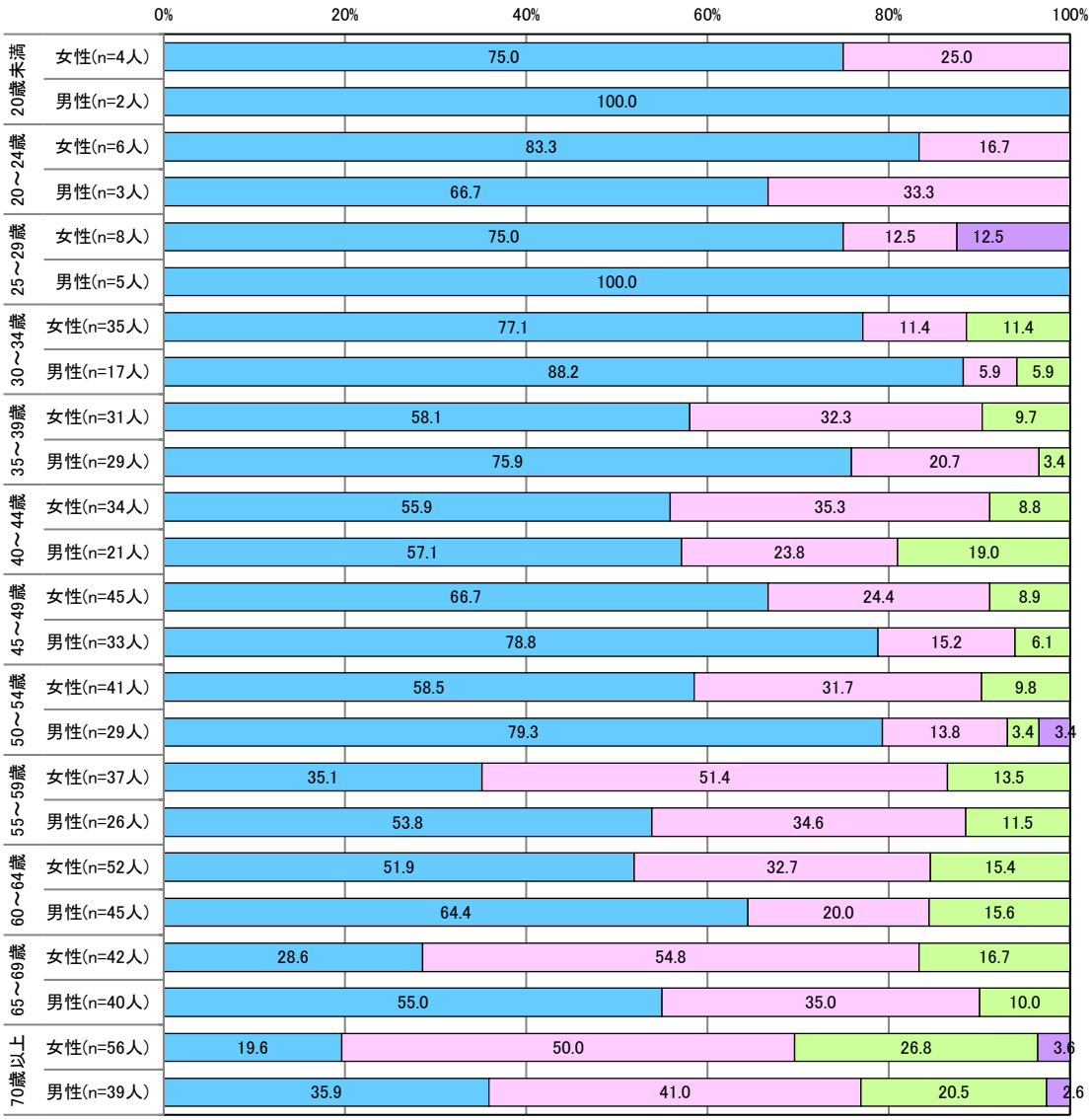
問 24　あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は 1 つ）

・性別でみると、男女ともに、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、女性（49.9%）、男性（64.5%）となっている。
・世代別性別でみると、55 歳～59 歳の女性、65 歳～69 歳の女性、70 歳以上の男女を除く、いずれの世代も「言葉も内容も知っている」という回答割合の合計が５割を超えている。

【性別】



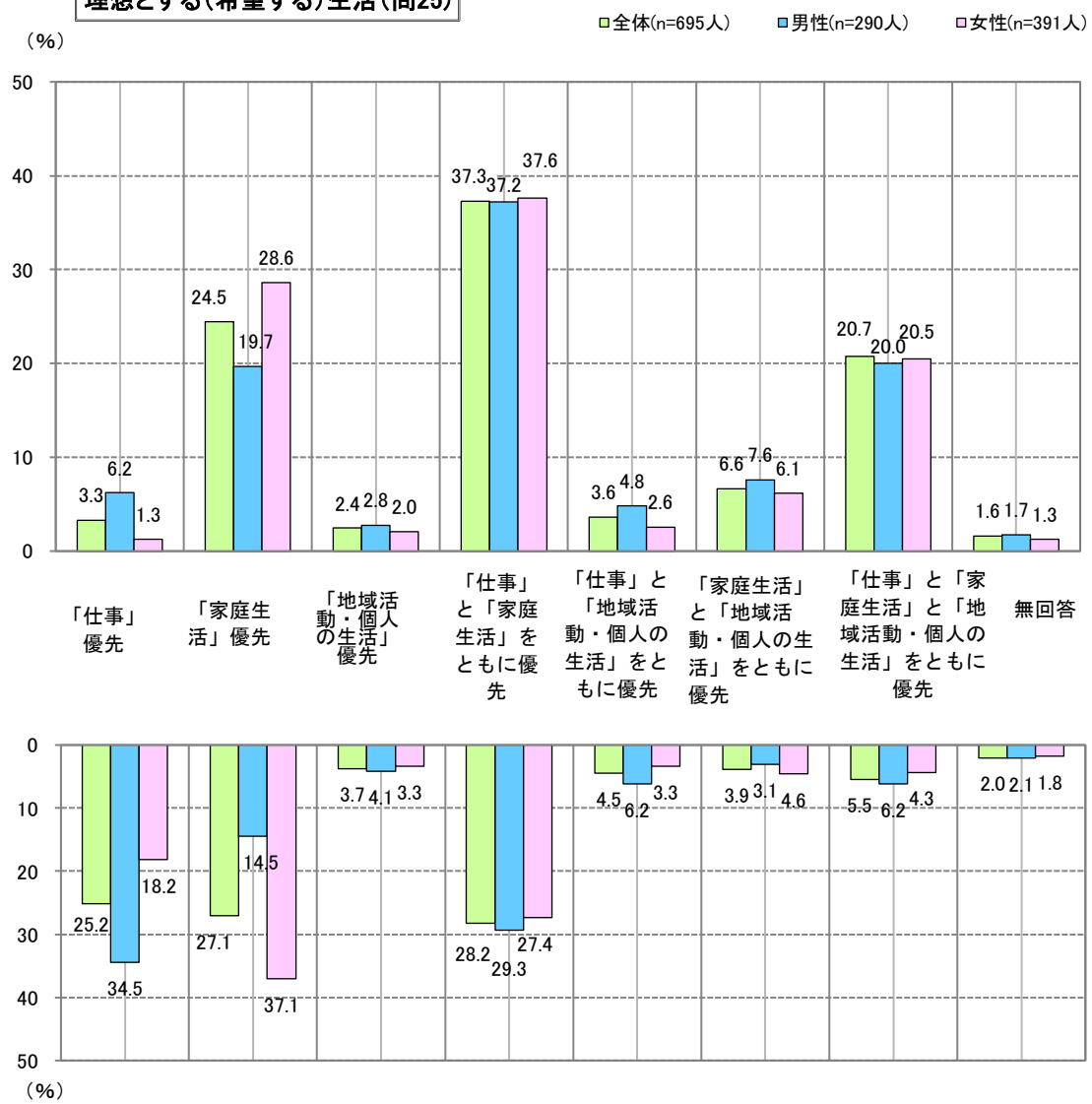
【世代別性別】



問 25　理想とする（希望する）生活

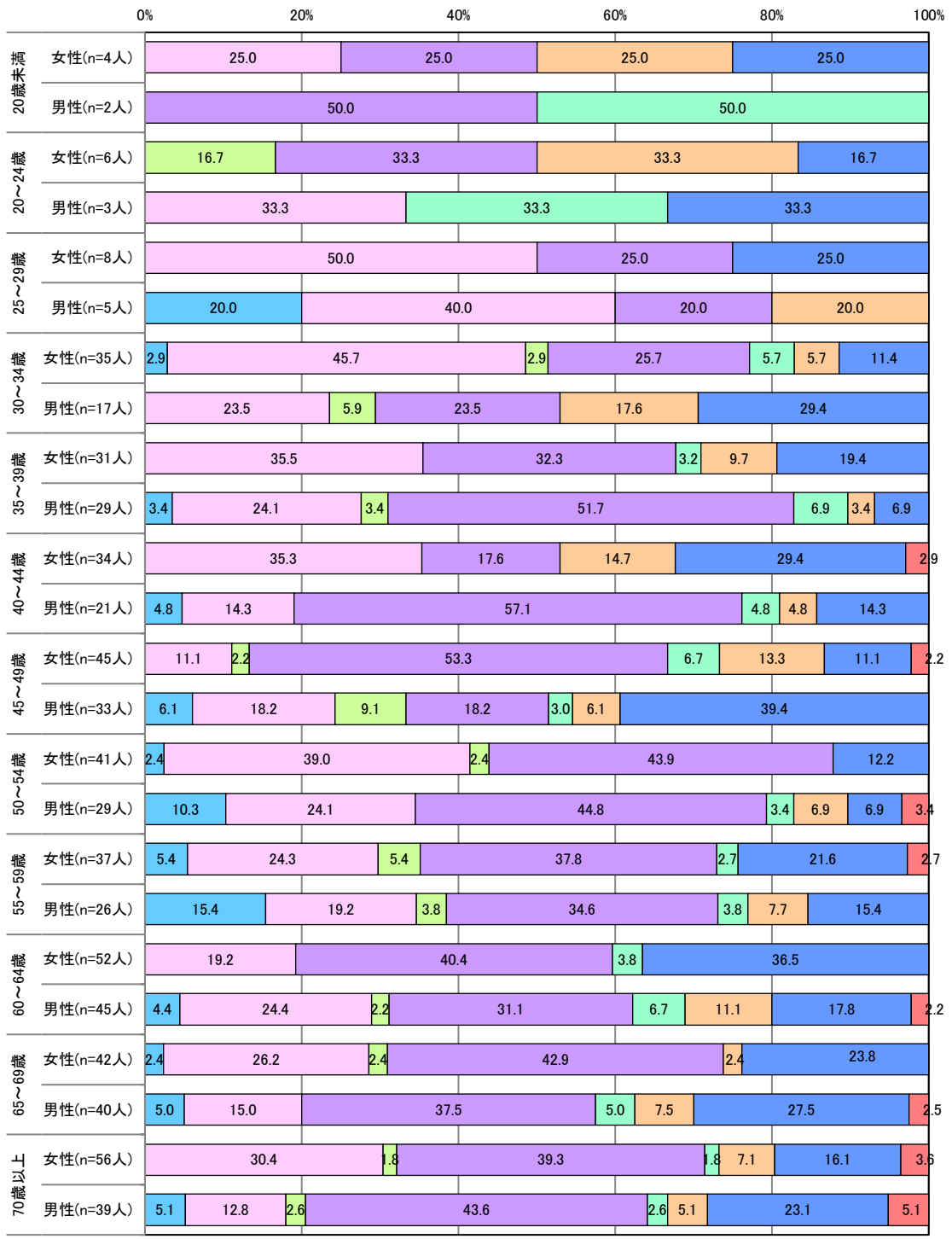
・性別でみると、男女ともに、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多くなっている。次いで、男性では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」、女性では、「『家庭生活』優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」と続いている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、35 歳～44 歳の男性、45 歳～49 歳の女性で、「『仕事』と『家庭生活』ともに優先」という回答が５割を超えている。一方、25 歳～29 歳の男女、30 歳～34 歳の女性では、「『家庭生活』優先」という回答が４割を超え、最も多くなっている。

理想とする（希望する）生活（問25）



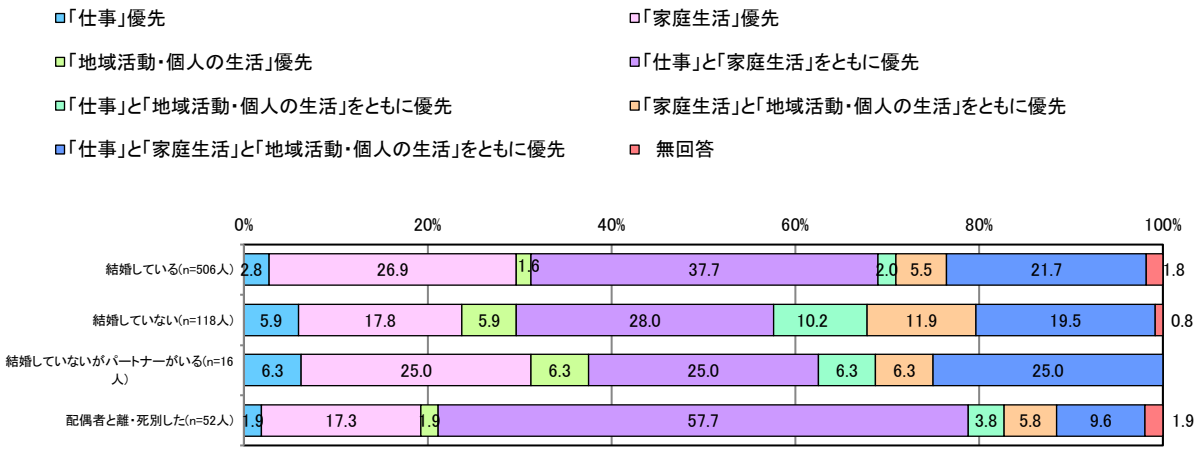
現実（現状）の生活（問26）

【世代別性別】

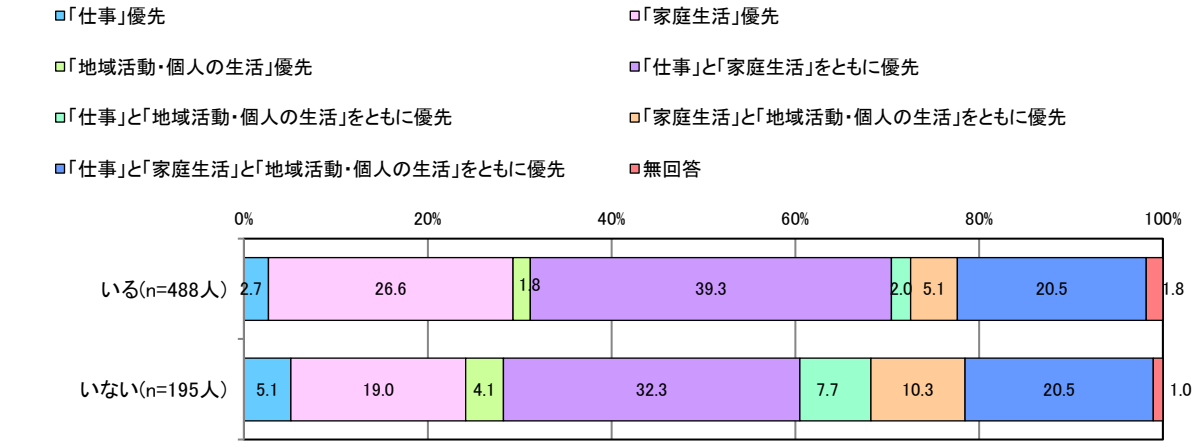

「仕事」優先
「家庭生活」優先
「地域活動・個人の生活」優先
「仕事」と「家庭生活」をともに優先
「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳未満
女性(n=4人) 25.0 25.0 25.0 25.0
男性(n=2人) 50.0 50.0
20～24歳
女性(n=6人) 16.7 33.3 33.3 16.7
男性(n=3人) 33.3 33.3 33.3
25～29歳
女性(n=8人) 50.0 25.0 25.0
男性(n=5人) 20.0 40.0 20.0 20.0
30～34歳
女性(n=35人) 2.9 45.7 2.9 25.7 5.7 5.7 11.4
男性(n=17人) 23.5 5.9 23.5 17.6 29.4
35～39歳
女性(n=31人) 35.5 32.3 3.2 9.7 19.4
男性(n=29人) 3.4 24.1 3.4 51.7 6.9 3.4 6.9
40～44歳
女性(n=34人) 35.3 17.6 14.7 29.4 2.9
男性(n=21人) 4.8 14.3 57.1 4.8 4.8 14.3
45～49歳
女性(n=45人) 11.1 2.2 53.3 6.7 13.3 11.1 2.2
男性(n=33人) 6.1 18.2 9.1 18.2 3.0 6.1 39.4
50～54歳
女性(n=41人) 2.4 39.0 2.4 43.9 12.2
男性(n=29人) 10.3 24.1 44.8 3.4 6.9 6.9 3.4
55～59歳
女性(n=37人) 5.4 24.3 5.4 37.8 2.7 21.6 2.7
男性(n=26人) 15.4 19.2 3.8 34.6 3.8 7.7 15.4
60～64歳
女性(n=52人) 19.2 40.4 3.8 36.5
男性(n=45人) 4.4 24.4 2.2 31.1 6.7 11.1 17.8 2.2
65～69歳
女性(n=42人) 2.4 26.2 2.4 42.9 2.4 23.8
男性(n=40人) 5.0 15.0 37.5 5.0 7.5 27.5 2.5
70歳以上
女性(n=56人) 30.4 1.8 39.3 1.8 7.1 16.1 3.6
男性(n=39人) 5.1 12.8 2.6 43.6 2.6 5.1 23.1 5.1

・配偶者の有無別でみると、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」が同率で最も多くなっている。
・子の有無別でみると、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。次いで、「いる」では、「『家庭生活』優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」と続いている。一方、「いない」では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】



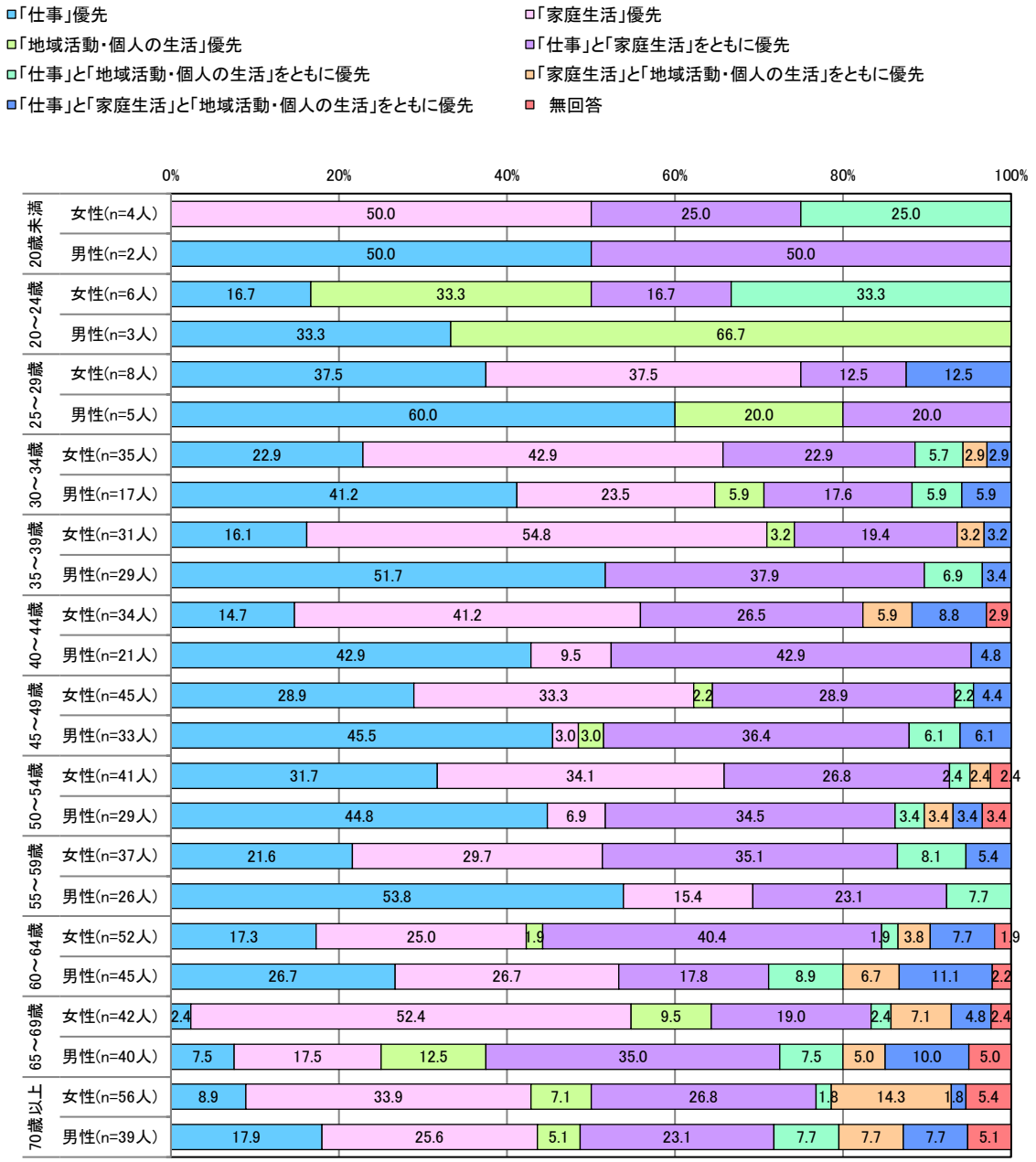
問 26　現実（現状）の生活

・性別でみると、男性は、「『仕事』優先」が約３割(34.5%)と最も多い。次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」と続いている。一方、女性は、「『家庭生活』優先」が約４割(37.1%)と最も多くなっている。次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、「『仕事』優先」と続いている。

・理想とする生活は男女ともに「仕事と家庭をともに優先」が最も多いにもかかわらず、現実の生活では、男性は「仕事優先」が最も多く、女性は「家庭生活優先」が最も多くなっている。

・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、25 歳～29 歳の男性、35 歳～39 歳の男性、55 歳～59 歳の男性では、「『仕事』優先」という回答が５割を超えている。一方、20 歳未満の女性、35 歳～39 歳の女性、65 歳～69 歳の女性で「『家庭生活』優先」という回答が５割以上となっている。

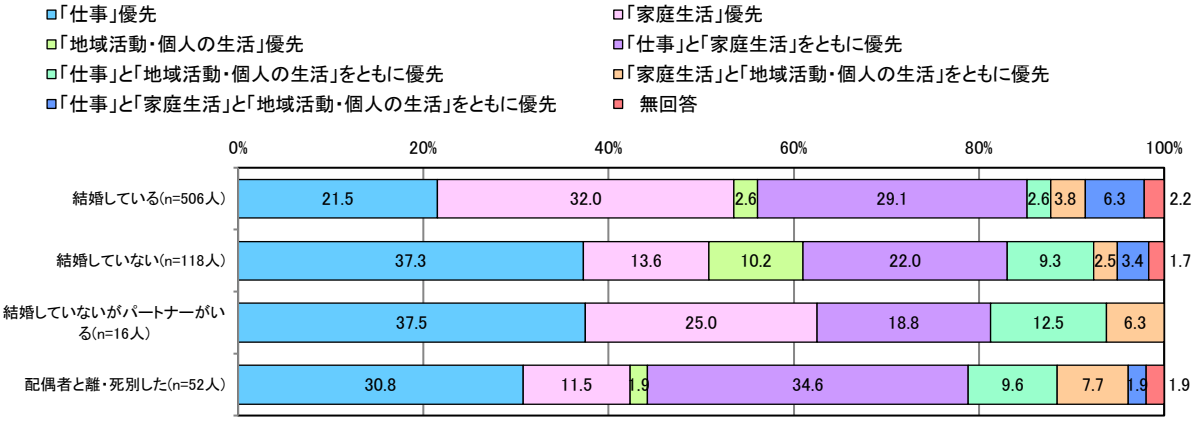
【世代別性別】



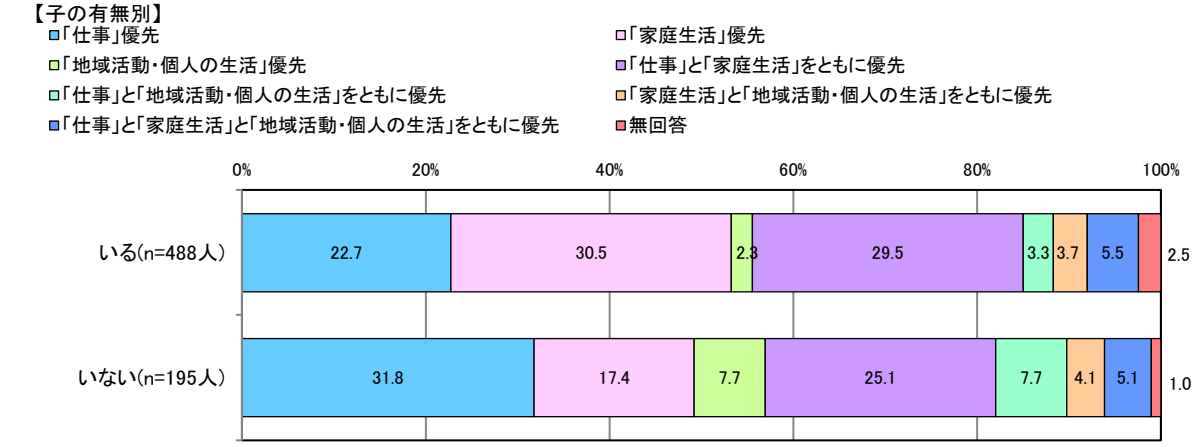
・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「『家庭生活』優先」（32.0%）が最も多い回答となっており、次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（29.1%）、「『仕事』優先」（21.5%）となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」（37.3%）が最も多い回答となっており、次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（22.0%）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』優先」（37.5%）が最も多い回答となっている。次いで、「『家庭生活』優先」（25.0%）となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（34.6%）が最も多い回答となっており、次いで、「『仕事』優先」（30.8%）となっている。

・子の有無別でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」（30.5%）が最も多い回答となっており、次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（29.5%）、「『仕事』優先」（22.7%）となっている。「いない」では、「『仕事』優先」（31.8%）が最も多い回答となっており、次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（25.1%）、「『家庭生活』優先」（17.4%）となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

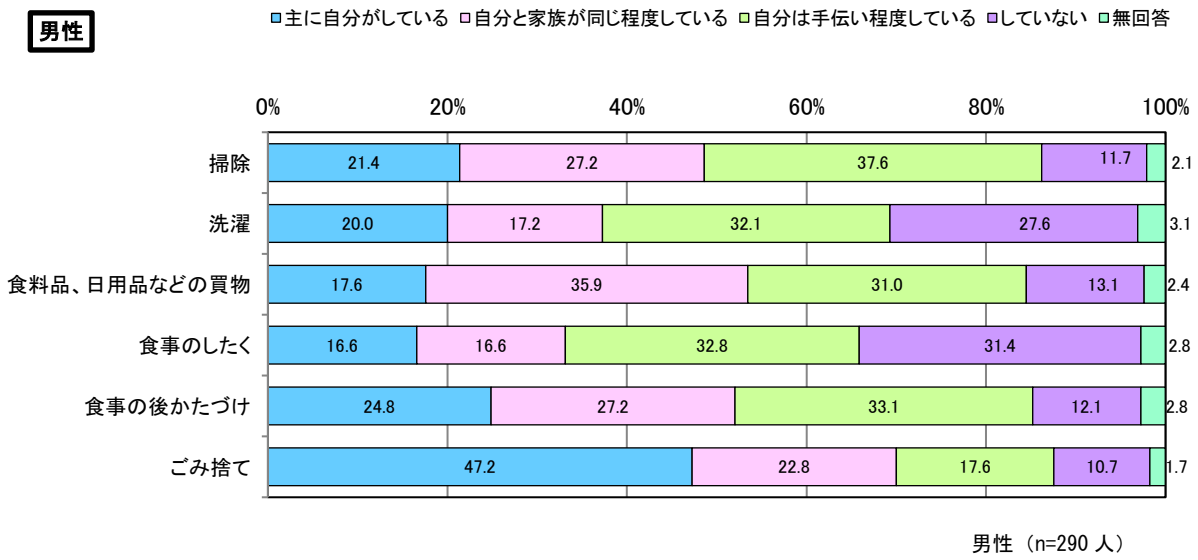


問 27　あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ○は１つ）

・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約５割（47.2%）となっている。次いで、「食事の後かたづけ」（24.8%）、「掃除」（21.4%）と続いている。
・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約８割（77.0%）となっている。次いで、「掃除」（71.6%）、「洗濯」（70.1%）となっており、「ごみ捨て」を除いたすべての項目で、「主に自分がしている」は、男性の回答と比べて 50～60%程度上回り、性別により大きな差が生じている。

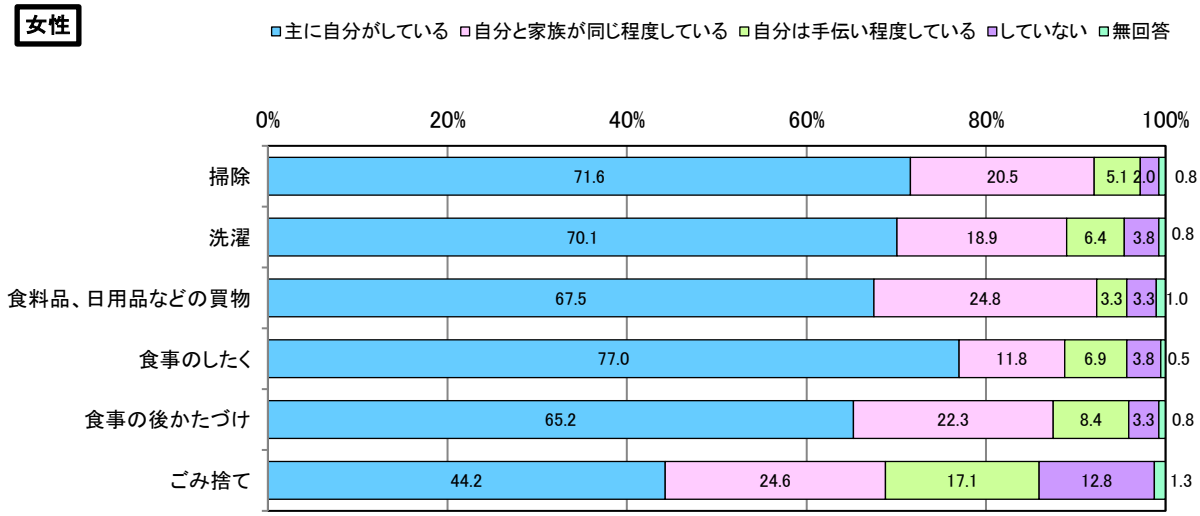
【性別】

男性



男性（n=290 人）

女性

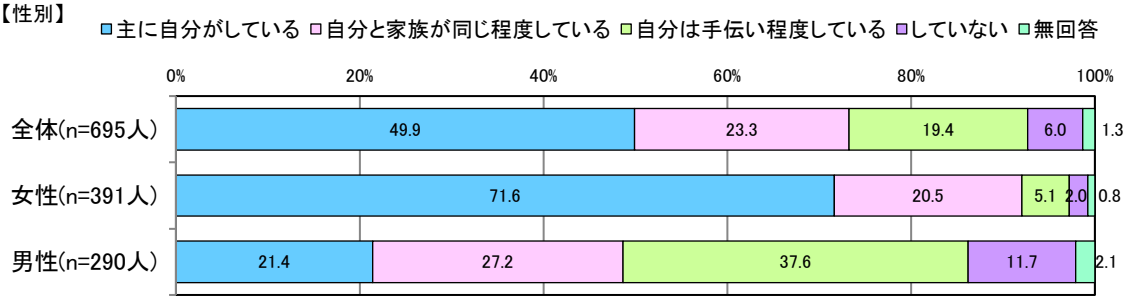


女性（n=391 人）

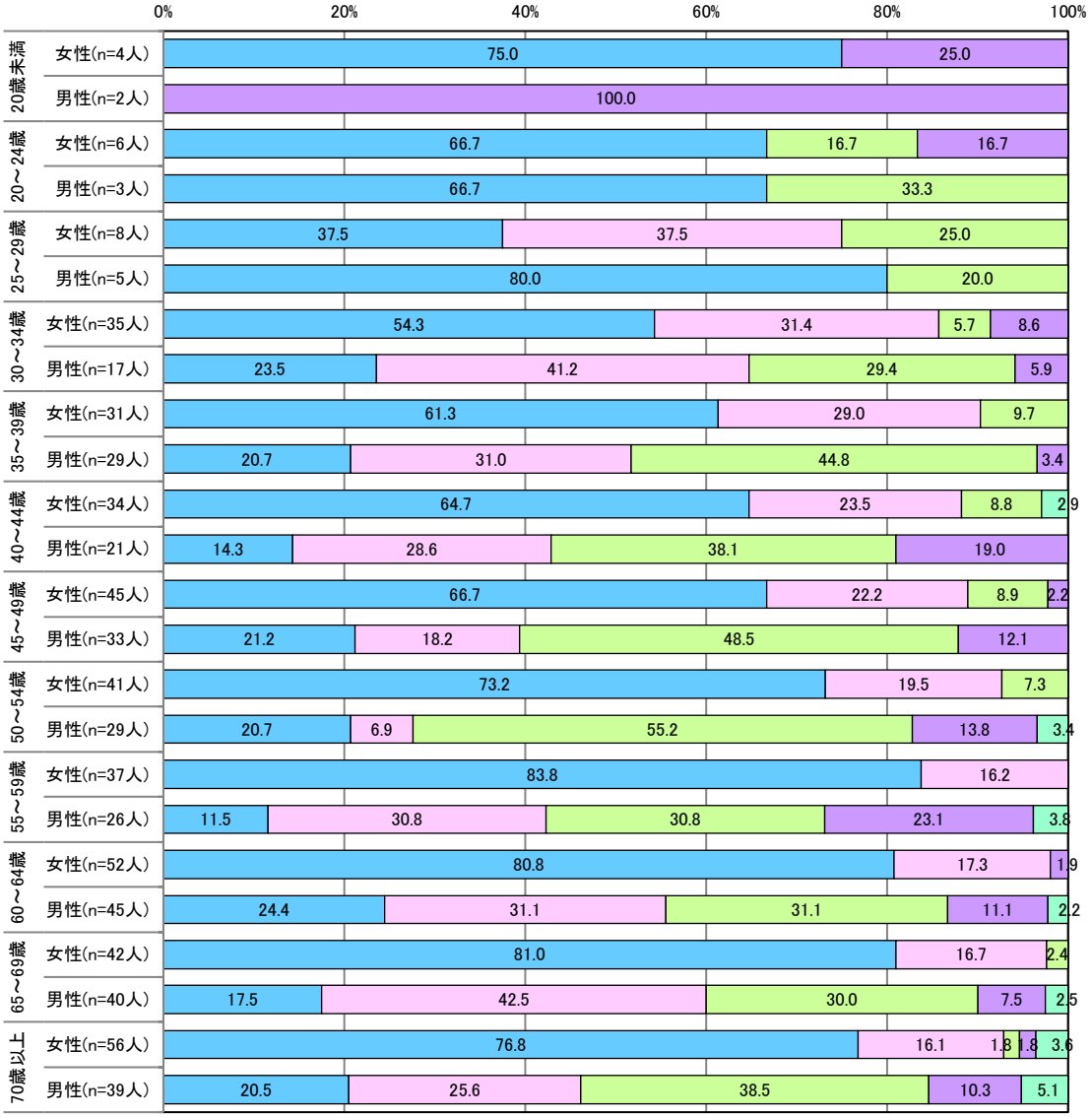
１．掃除

・性別でみると、女性は、「主に自分がしている」（71.6%）という回答が最も多く、男性は、「自分は手伝い程度している」（37.6%）という回答が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、「していない」という回答が２割以上となる世代は、20 歳未満の男女、55 歳～59 歳の男性となっている。

【性別】

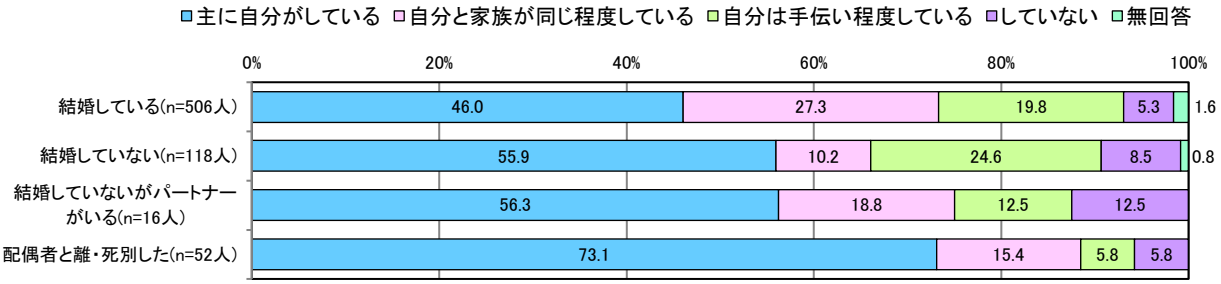


【世代別性別】

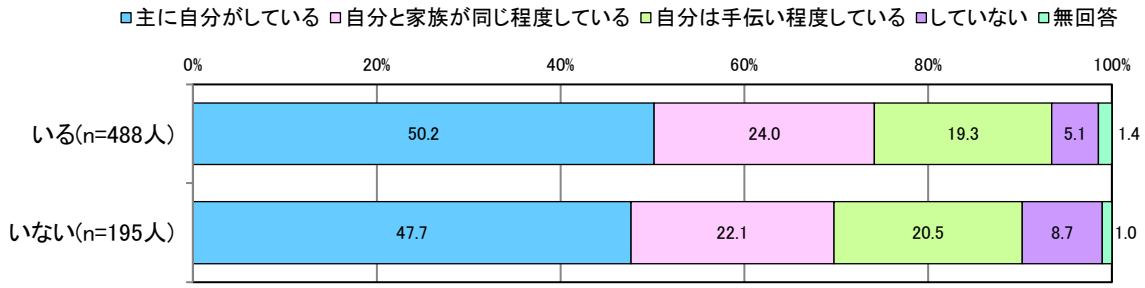


・配偶者の有無別でみると、いずれも「主に自分がしている」という回答が最も多くなっている。次いで、「結婚していない」を除く、いずれも「自分と家族が同じ程度している」、「自分は手伝い程度している」と続いている。「結婚していない」では、次いで、「自分は手伝い程度している」（24.6%）、「自分と家族が同じ程度している」（10.2%）となっている。
・子の有無別でみると、いずれも、「主に自分がしている」という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」、「自分は手伝い程度している」と続いている。

【配偶者の有無別】



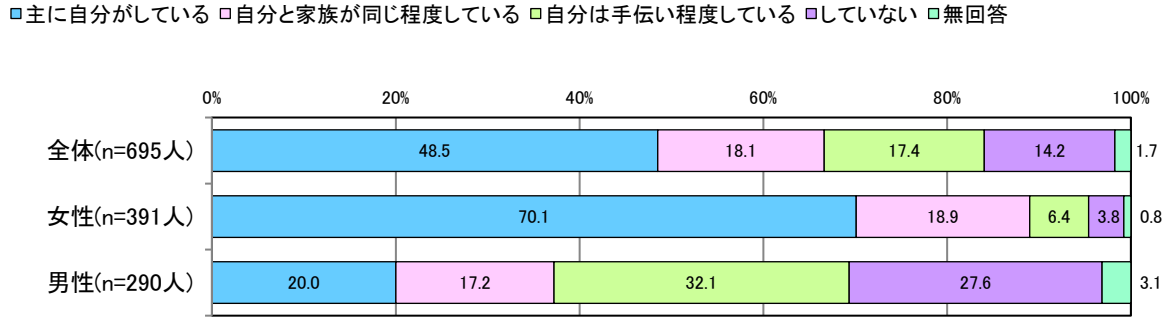
【子の有無別】



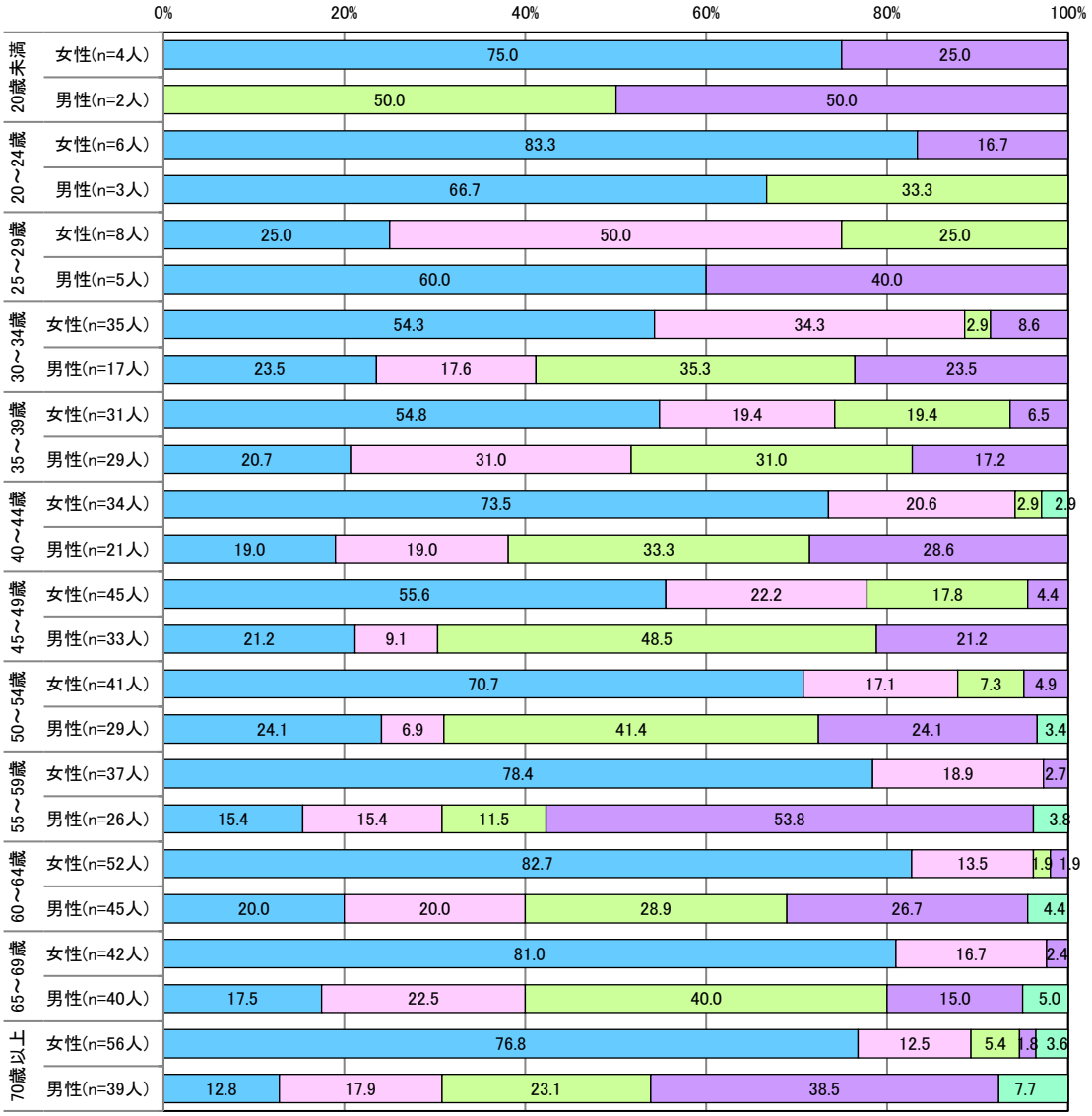
２．洗濯

・性別でみると、女性は、「主に自分がしている」（70.1%）という回答が最も多く、男性は、「自分は手伝い程度している」（32.1%）という回答が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、25 歳～29 歳の男性、55 歳～59 歳の男性では、「していない」という回答割合が４割以上となっている。

【性別】

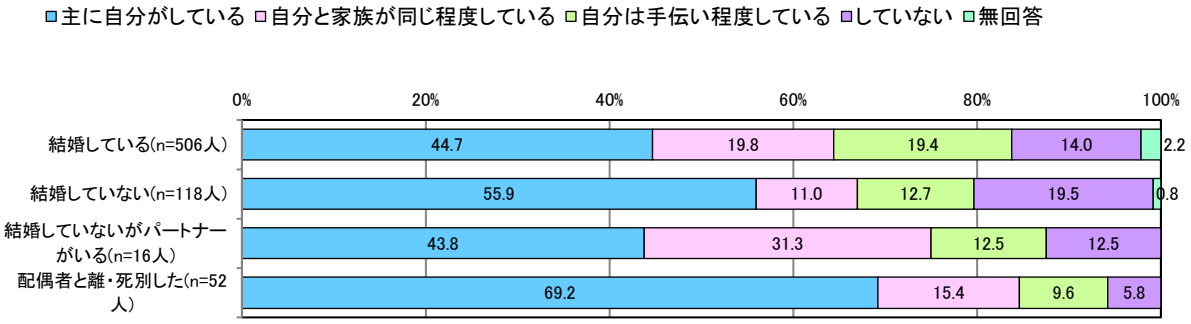


【世代別性別】

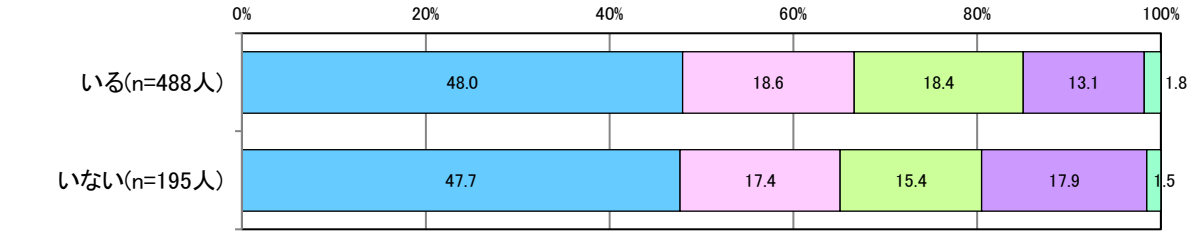


・配偶者の有無でみると、いずれも「主に自分がしている」という回答が最も多くなっている。次いで、「結婚している」、「配偶者と離・死別した」では、「自分と家族が同じ程度している」、「自分は手伝い程度している」と続いている。「結婚していない」では、次いで、「していない」（19.5%）、「自分は手伝い程度している」（12.7%）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（31.3%）、「自分は手伝い程度している」（12.5%）と「していない」（12.5%）で同率となっている。
・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」（48.0%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（18.6%）、「自分は手伝い程度している」（18.4%）、「していない」（13.1%）となっている。「いない」では、「主に自分がしている」（47.7%）という回答が最も多く、次いで、「していない」（17.9%）、「自分と家族が同じ程度している」（17.4%）、「自分は手伝い程度している」（15.4%）となっている。

【配偶者の有無別】



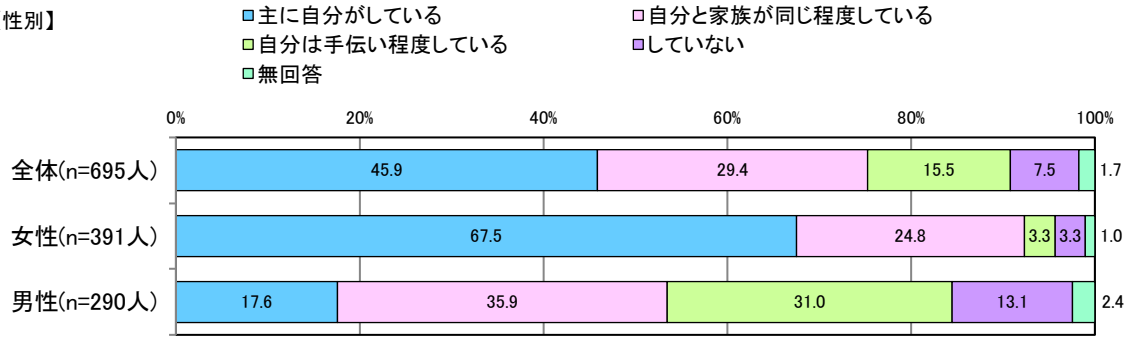
【子の有無別】



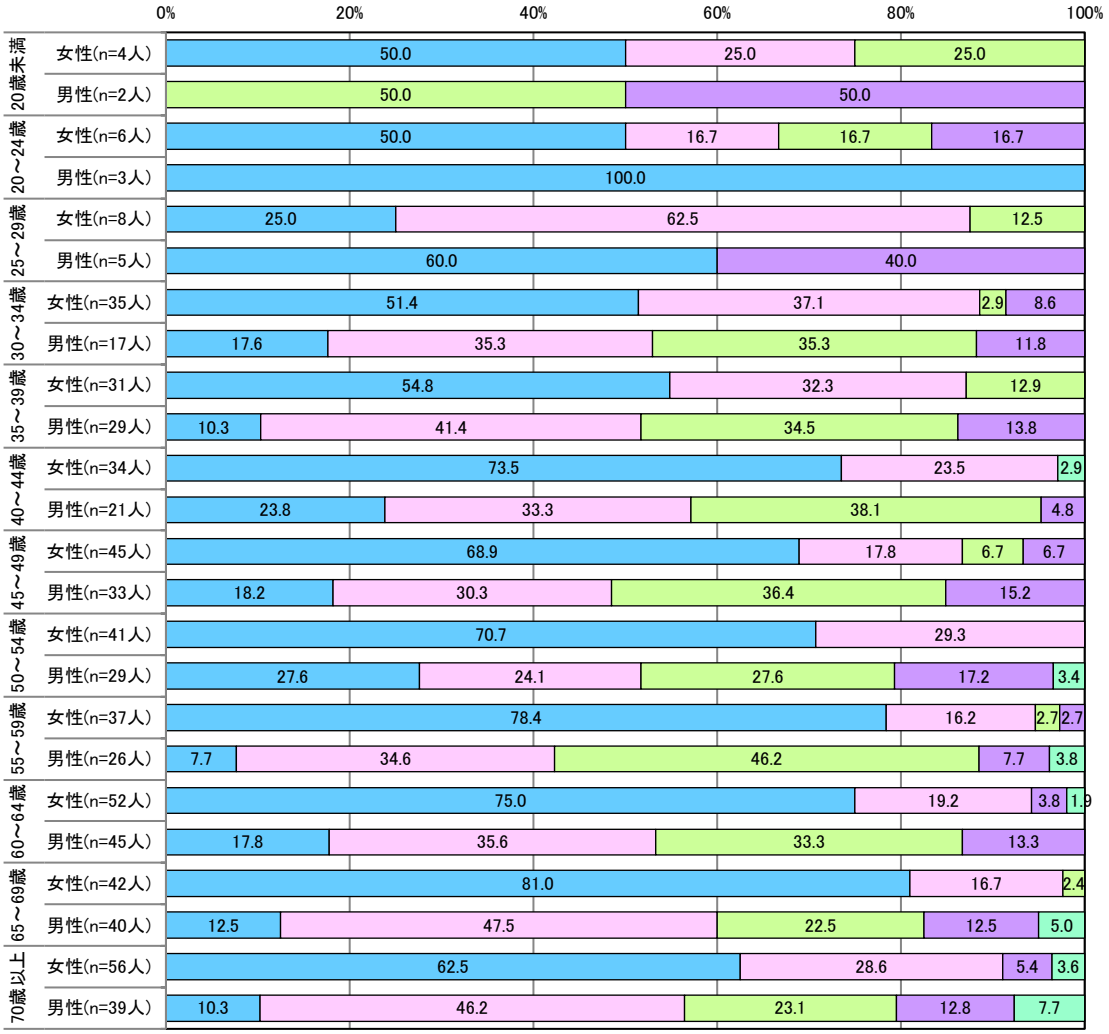
３．食料品、日用品などの買物

・性別でみると、女性は、「主に自分がしている」（67.5%）という回答が最も多く、男性は、「自分と家族が同じ程度している」（35.9%）という回答が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、50 歳～55 歳の男性では、「自分は手伝い程度している」という回答が約５割となっている。一方、20 歳未満の女性、20 歳～24 歳の男女、30 歳以上の女性では、「主に自分がしている」という回答が最も多く、５割以上となっている。

【性別】

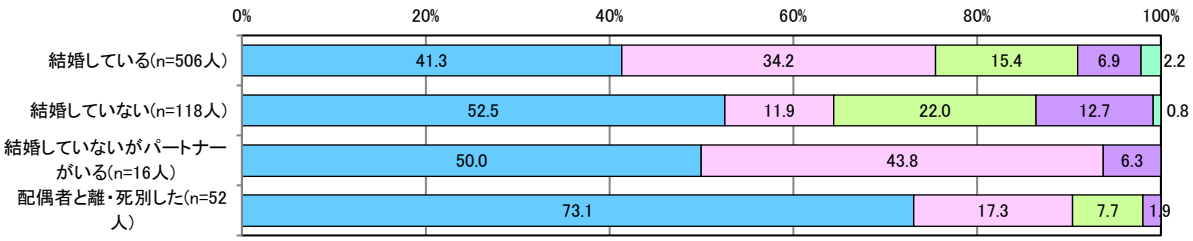


【世代別性別】

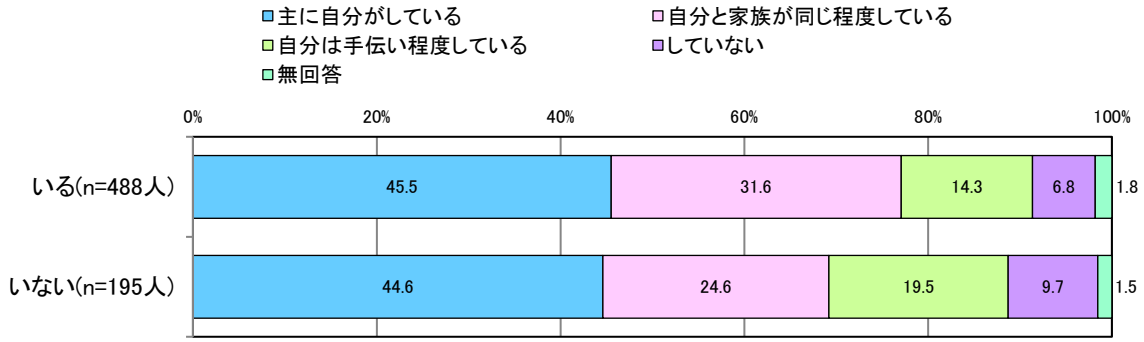


・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」（41.3%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（34.2%）、「自分は手伝い程度している」（15.4%）となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」（52.5%）という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」（22.0%）、「していない」（12.7%）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」（50.0%）が最も多くなっている。次いで、「自分と家族が同じ程度している」（43.8%）、「していない」（6.3%）となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」（73.1%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（17.3%）、「自分は手伝い程度している」（7.7%）となっている。
・子の有無別でみると、いずれも、「主に自分がしている」という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」、「自分は手伝い程度している」となっている。

【配偶者の有無別】



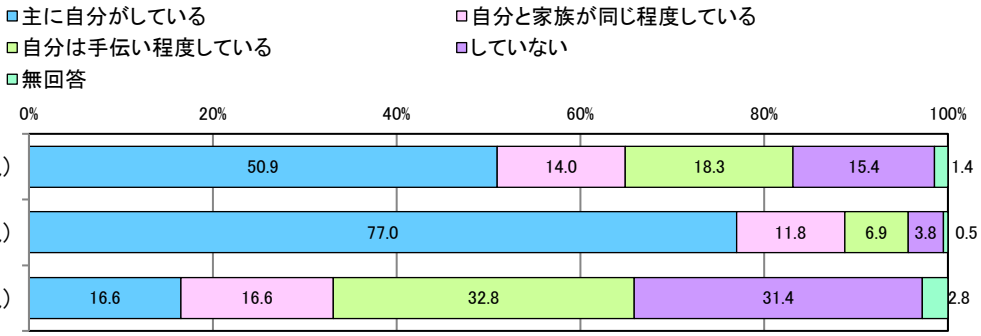
【子の有無別】



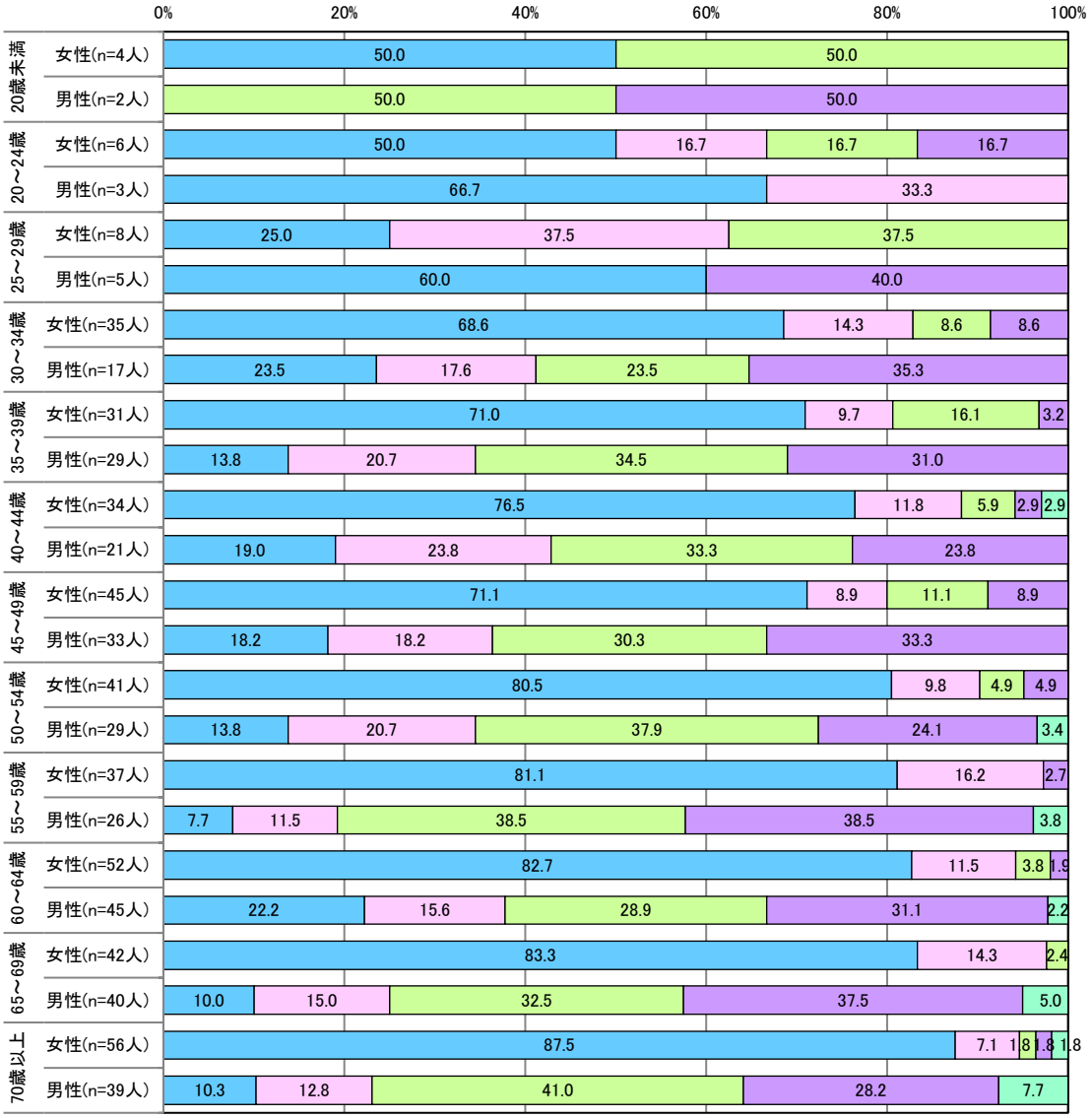
４. 食事のしたく

・性別でみると、女性は、「主に自分がしている」（77.0%）という回答が最も多く、男性は、「自分は手伝い程度している」（32.8%）という回答が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、25 歳～39 歳の男性、45 歳～49 歳の男性、55 歳～69 歳の男性で、「していない」という回答が、３割以上となっている。

【性別】

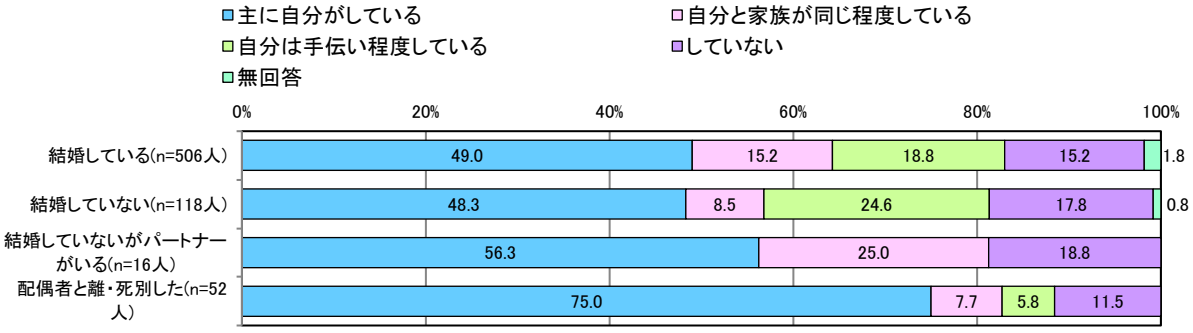


【世代別性別】

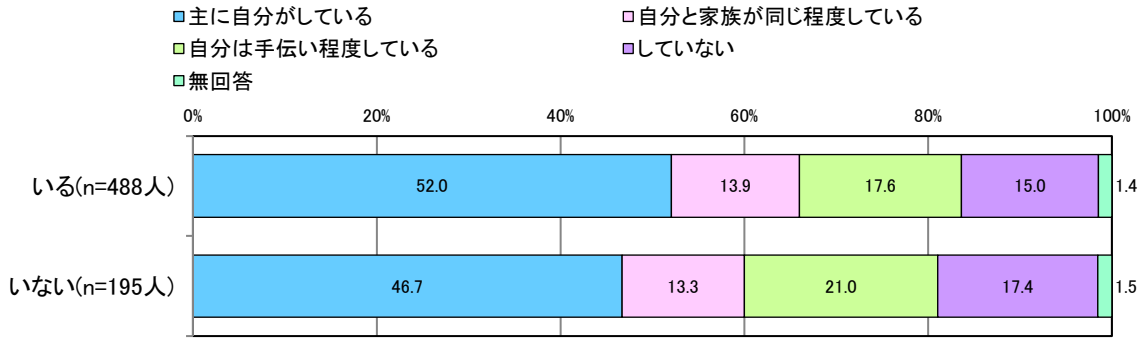


・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」（49.0%）という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」（18.8%）、「自分と家族が同じ程度している」（15.2%）となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」（48.3%）という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」（24.6%）、「していない」（17.8%）となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が７割を超え、最も多くなっている。
・子の有無別でみると、いずれも、「主に自分がしている」という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」、「自分と家族が同じ程度している」となっている。

【配偶者の有無別】



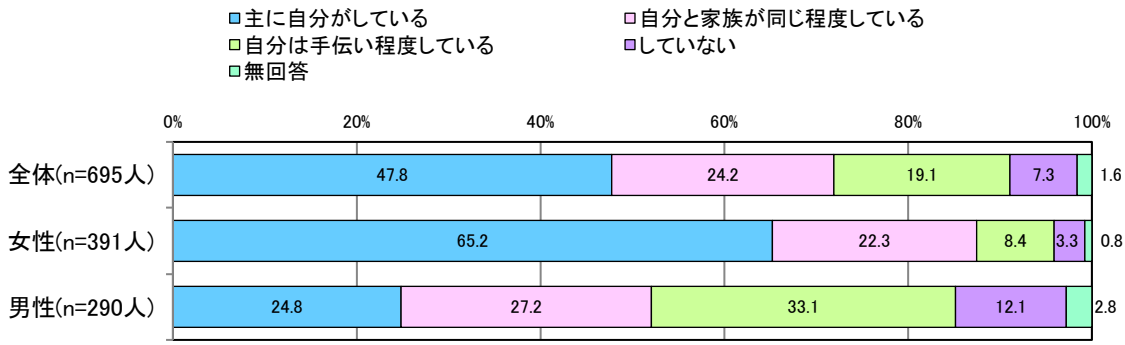
【子の有無別】



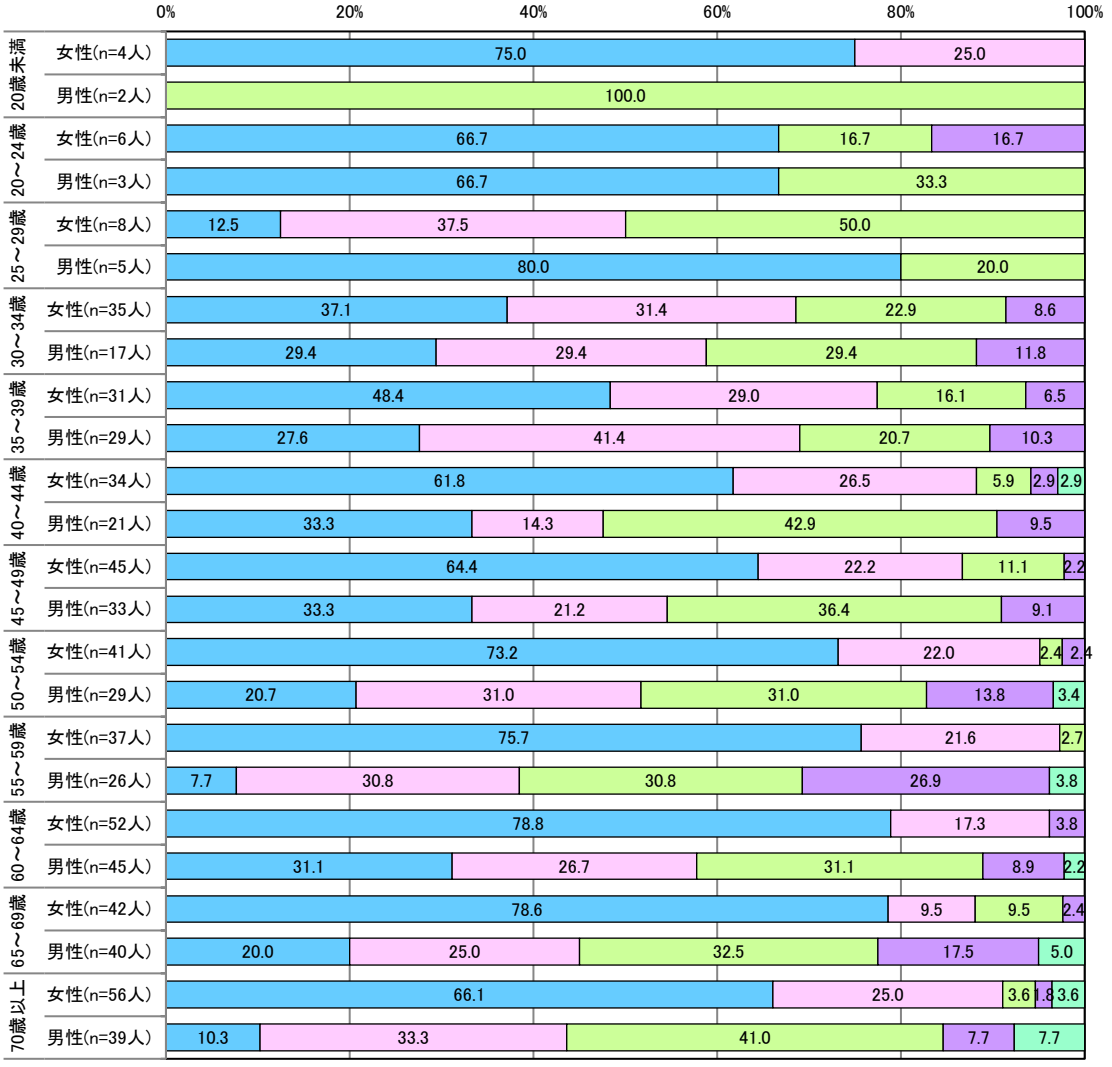
５．食事の後かたづけ

・性別でみると、女性は、「主に自分がしている」（65.2%）という回答が最も多く、男性は、「自分は手伝い程度している」（33.1%）という回答が最も多くなっている。
・世代別性別でみると、55 歳～59 歳の男性で「していない」という回答が２割以上となっている。

【性別】

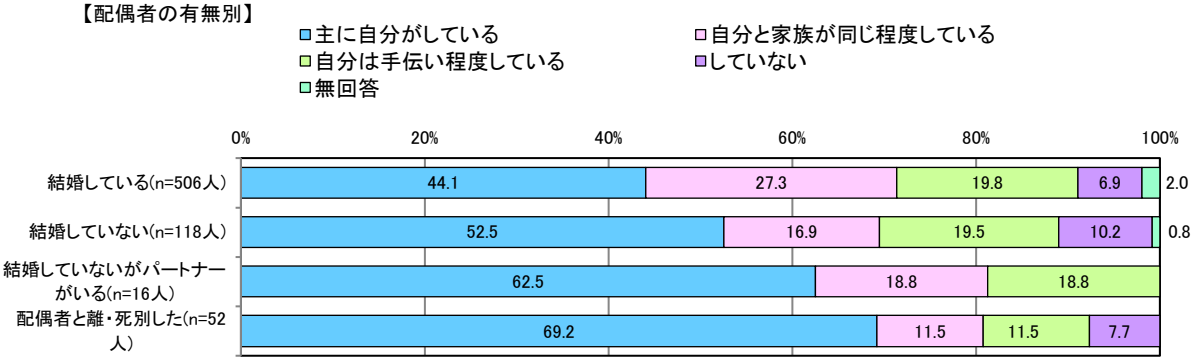


【世代別性別】

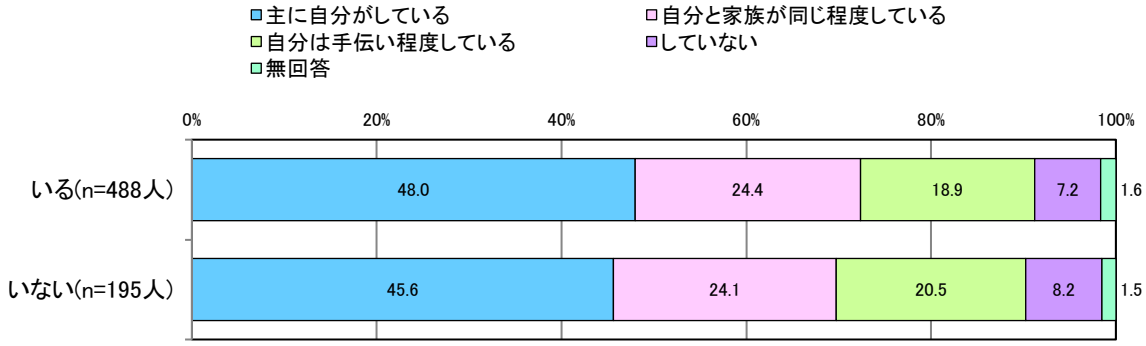


・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」（44.1%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（27.3%）、「自分は手伝い程度している」（19.8%）となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている（52.5%）という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」（19.5%）、「自分と家族が同じ程度している」（16.9%）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている（62.5%）と最も多くなっている。次いで、「自分と家族が同じ程度している」（18.8%）と「自分は手伝い程度している」（18.8%）が同率で続いている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が約7割と最も多くなっている。次いで、「自分と家族が同じ程度している」（11.5%）と「自分は手伝い程度している」（11.5%）が同率で続いている。
・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」（48.0%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（24.4%）、「自分は手伝い程度している」（18.9%）となっている。「いない」では、「主に自分がしている」（45.6%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（24.1%）、「自分は手伝い程度している」（20.5%）、「していない」（8.2%）となっている。

【配偶者の有無別】



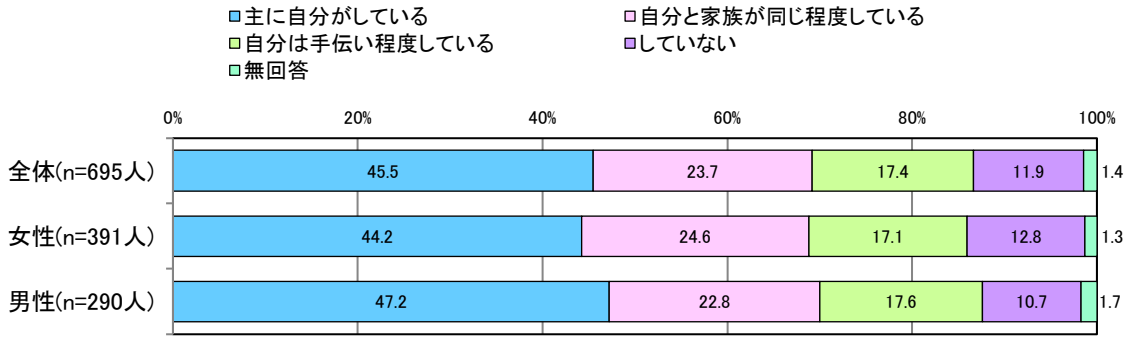
【子の有無別】



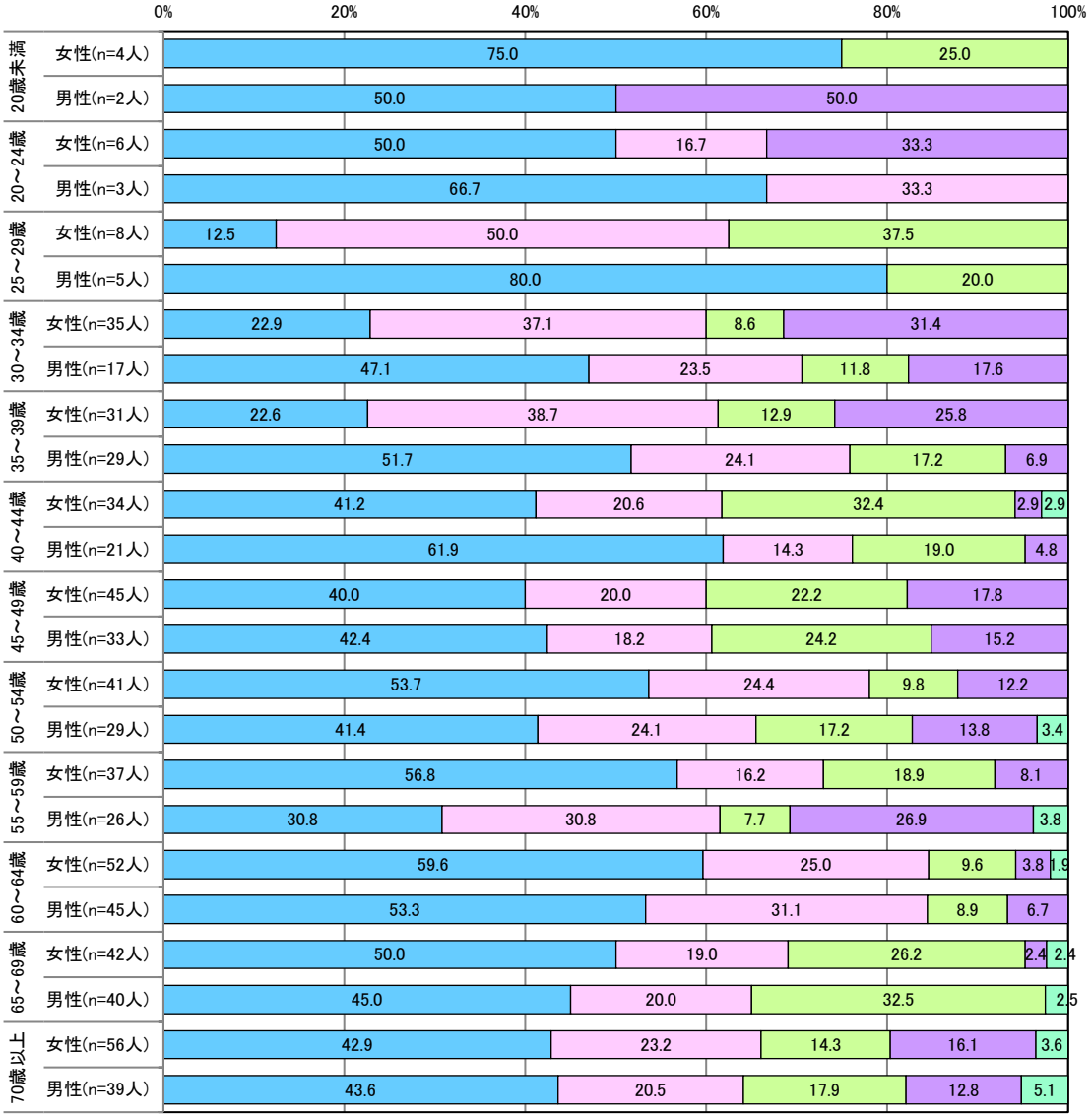
６．ごみ捨て

・性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は44.2%、男性は47.2%となっている。
・世代別性別でみると、25歳～39歳の女性では、「主に自分がしている」という回答が３割未満となり、他の世代よりも少ない傾向にある 。

【性別】



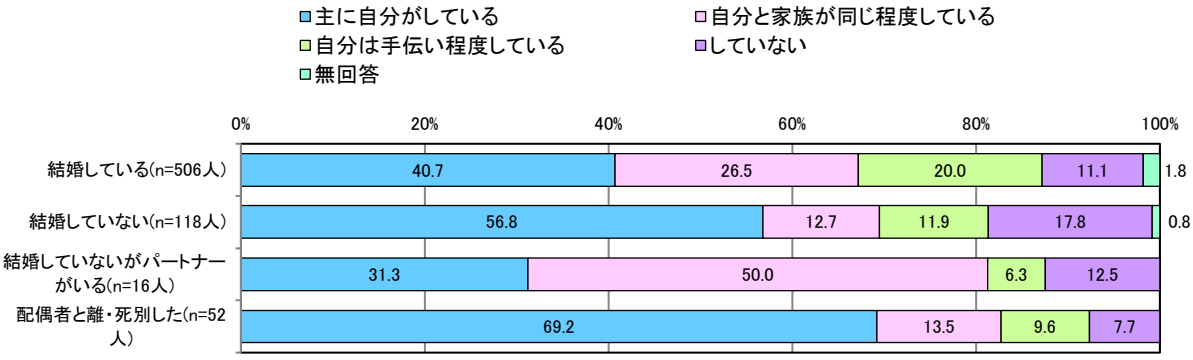
【世代別性別】



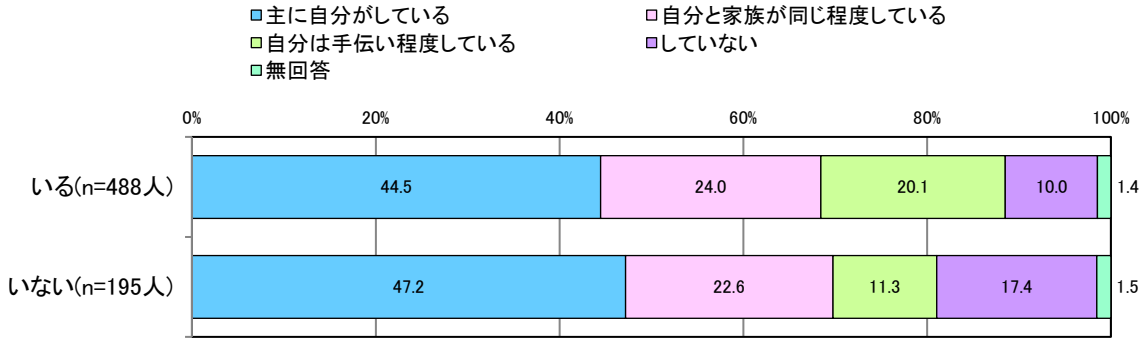
・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」（40.7%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（26.5%）、「自分は手伝い程度している」（20.0%）となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」（56.8%）が最も多くなっている。次いで、「していない」（17.8%）、「自分と家族が同じ程度している」（12.7%）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分と家族が同じ程度している」（50.0%）という回答が最も多くなっている。一方で、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」という回答が、約７割と最も多くなっている。

・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」（44.5%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（24.0%）、「自分は手伝い程度している」（20.1%）となっている。「いない」では、「主に自分がしている」（47.2%）という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」（22.6%）、「していない」（17.4%）、「自分は手伝い程度している」（11.3%）となっている。

【配偶者の有無別】



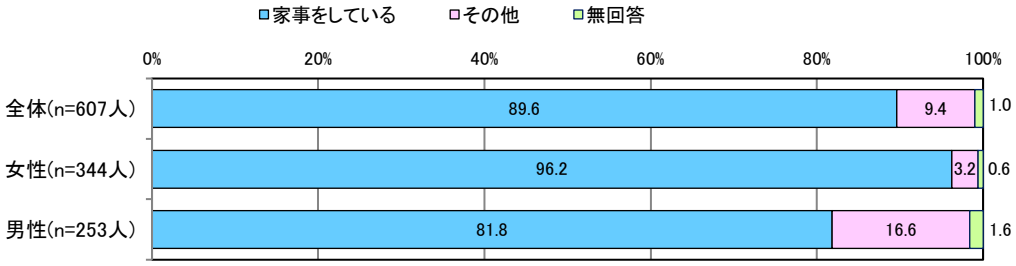
【子の有無別】



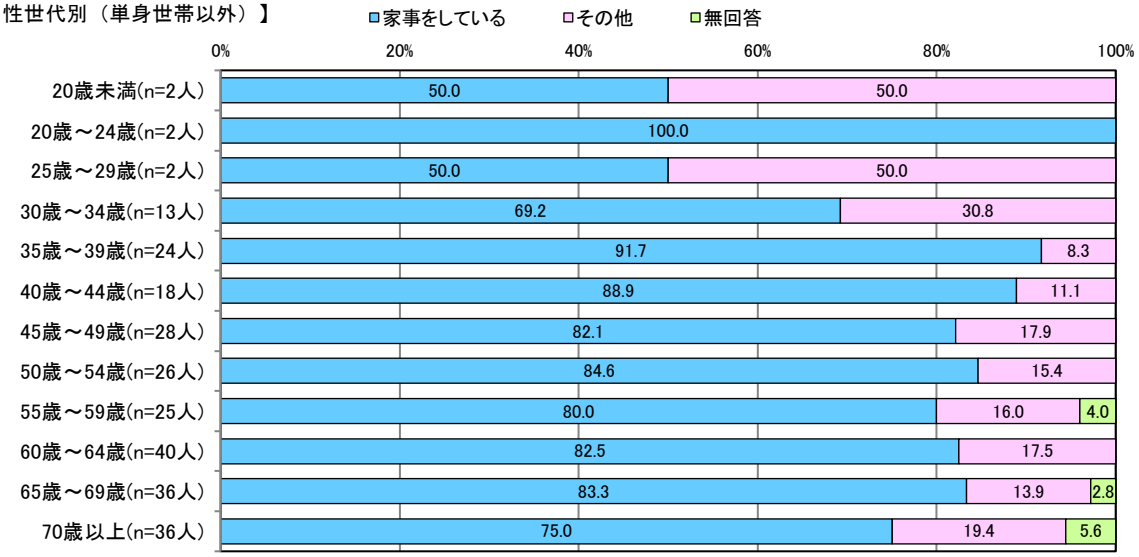
＜家事への参画度＞

・問 27 の１～６の家事について、いずれか１つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 89.6%がいずれかの「家事をしている」となっている。
・性別でみると、女性は 96.2%、男性は 81.8%が「家事をしている」となっており、女性は男性よりも「家事をしている」の回答割合が約１割高くなっている。

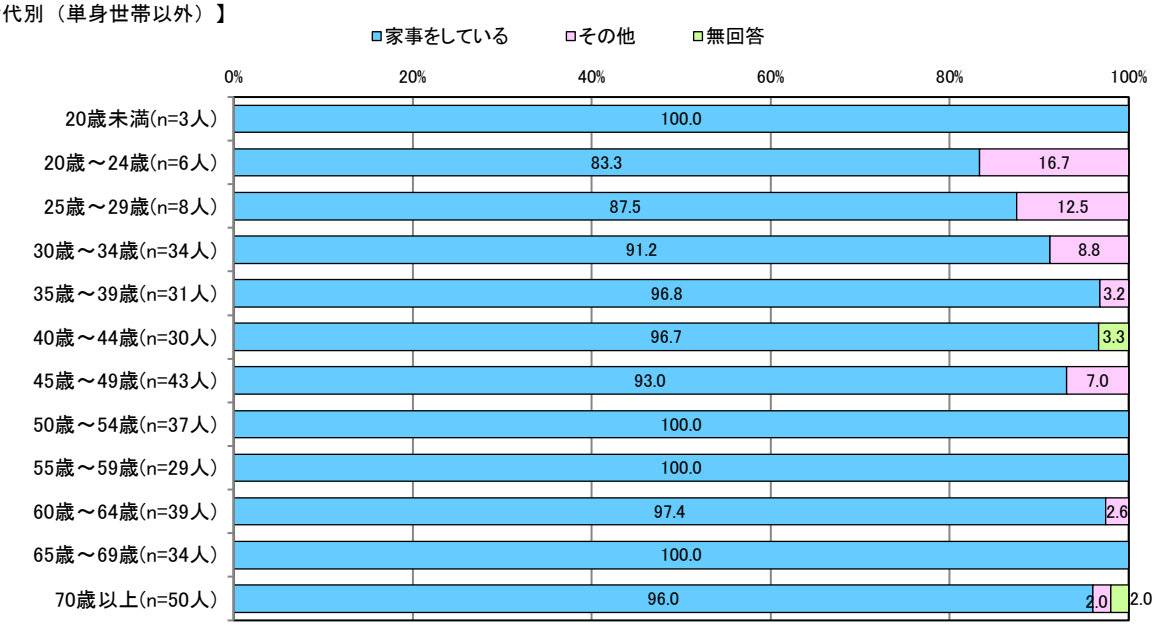
【性別】



【男性世代別（単身世帯以外）】



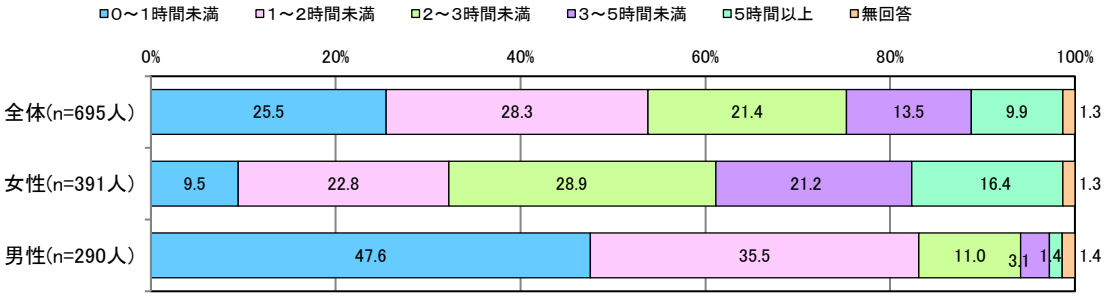
【女性世代別（単身世帯以外）】



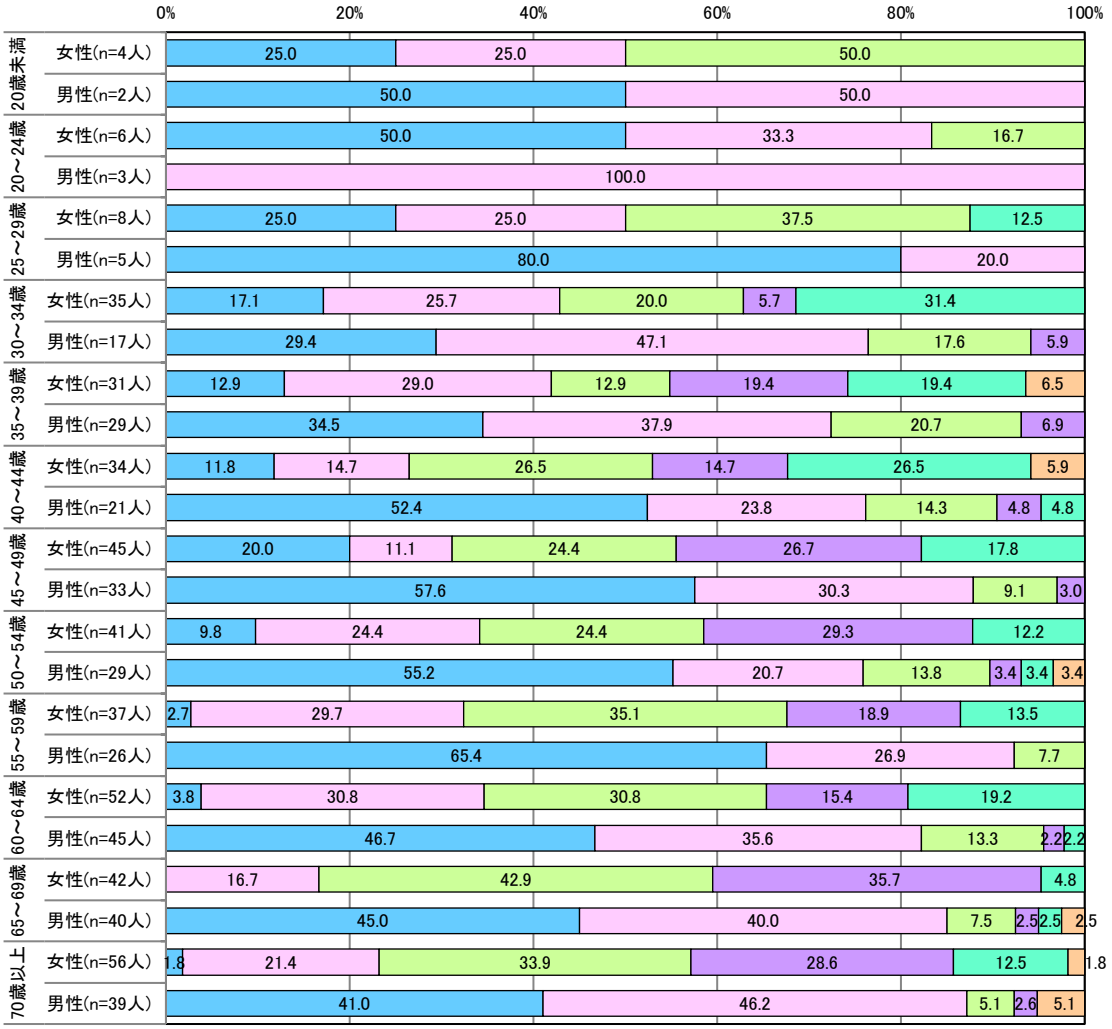
問 28　あなたの平日の１日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
（○は１つ）

・性別でみると、女性は、「２～３時間」（28.9%）という回答が最も多く、一方、男性は、「０～１時間未満」（47.6%）という回答が最も多くなっており、男女で大きな差がある。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、20 歳～24 歳の女性、25 歳～29 歳の男性、40 歳以上の男性の世代で「０～１時間未満」という回答が４割を超えている。

【性別】

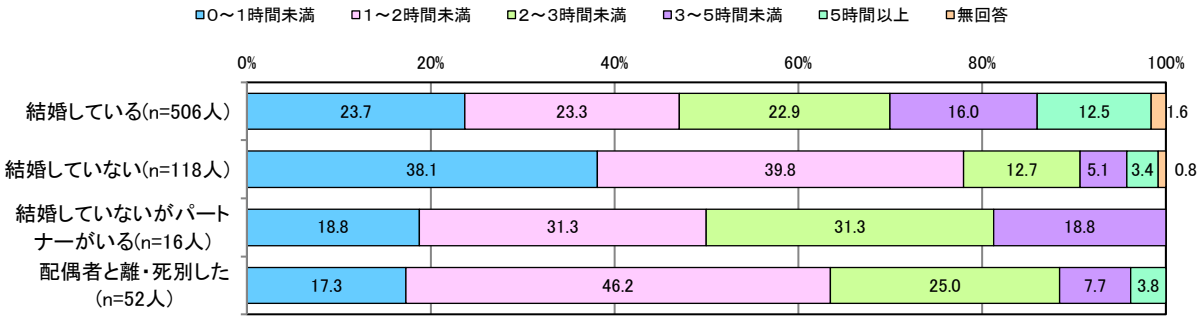


【世代別性別】

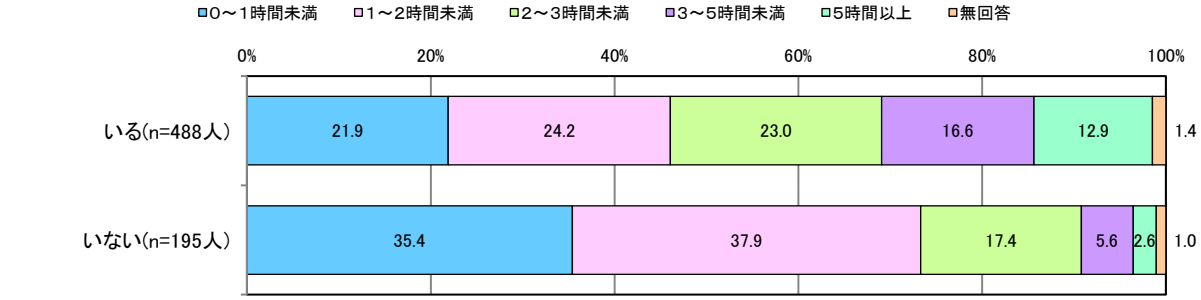


・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「０～１時間未満」（23.7%）という回答が最も多く、次いで、「１～２時間未満」（23.3%）、「２～３時間未満」（22.9%）となっている。「結婚していない」では、「１～２時間未満」（39.8%）という回答が最も多く、次いで、「０～１時間未満」（38.1%）、「２～３時間未満」（12.7%）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「１～２時間未満」（31.3%）と「２～３時間未満」（31.3%）が同率で最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「１～２時間未満」（46.2%）という回答が最も多く、次いで、「２～３時間未満」（25.0%）、「０～１時間未満」（17.3%）となっている。
・子の有無別でみると、「いる」では、「１～２時間未満」（24.2%）という回答が最も多く、次いで、「２～３時間未満」（23.0%）、「０～１時間未満」（21.9%）、「３～５時間未満」（16.6%）となっている。「いない」では、「１～２時間未満」（37.9%）という回答が最も多く、次いで、「０～１時間未満」（35.4%）、「２～３時間未満」（17.4%）となっている。

【配偶者の有無別】



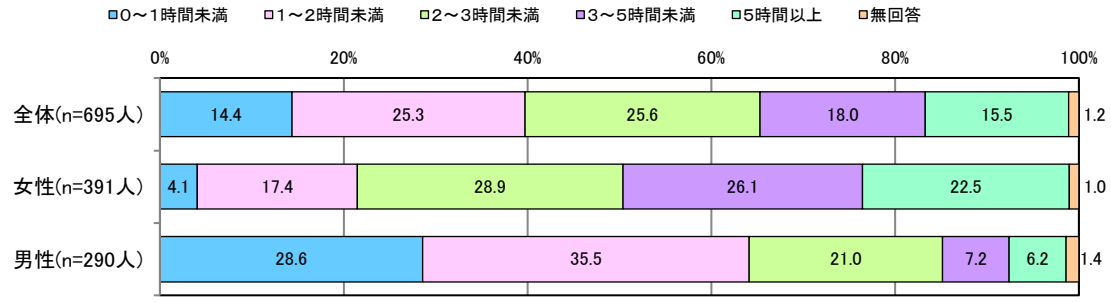
【子の有無別】



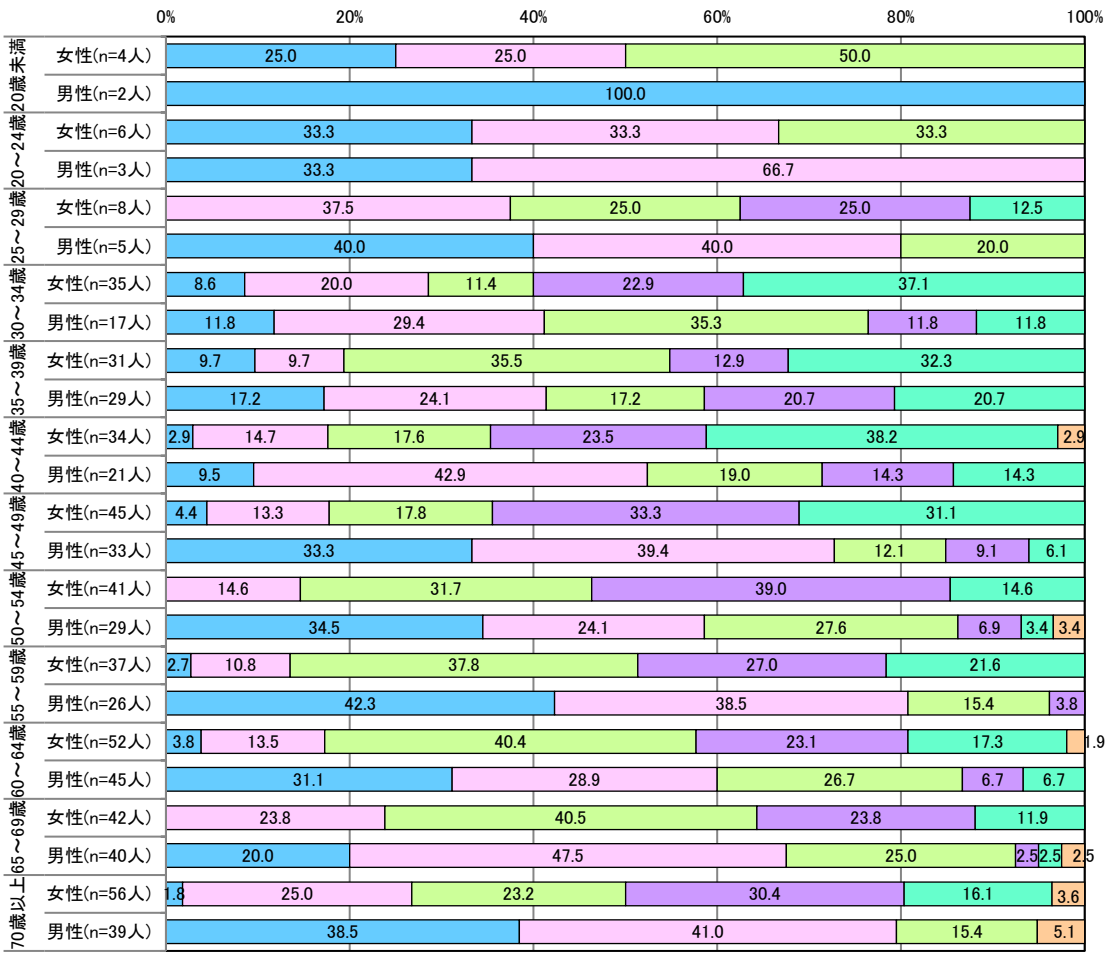
問 29　あなたの休日の１日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
（○は１つ）

・性別でみると、女性は、「２～３時間未満」（28.9%）で最も多く、次いで、「３～５時間未満」（26.1%）、「５時間以上」（22.5%）となっている。一方、男性は、「１～２時間未満」（35.5%）という回答が最も多く、次いで、「０～１時間未満」（28.6%）となっており、男女で大きな差がある。
・世代別性別でみると、20 歳未満の男性、25 歳～29 歳の男性、55 歳～59 歳の男性で、「０～１時間未満」という回答が４割を超えている。

【性別】



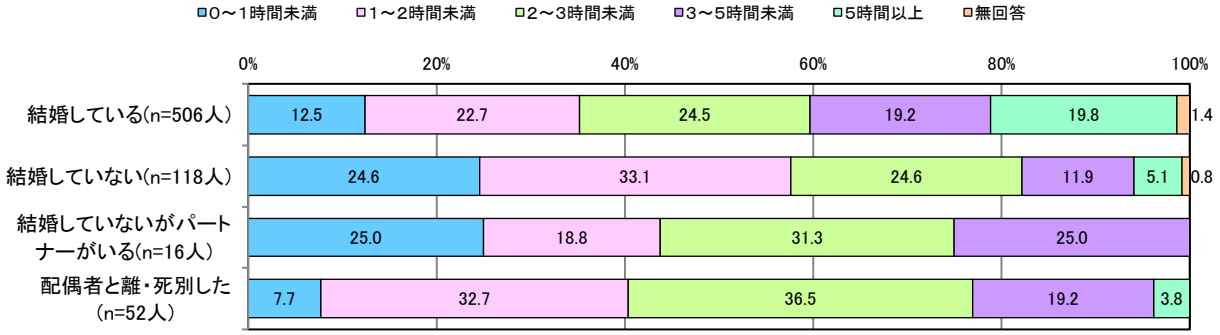
【世代別性別】



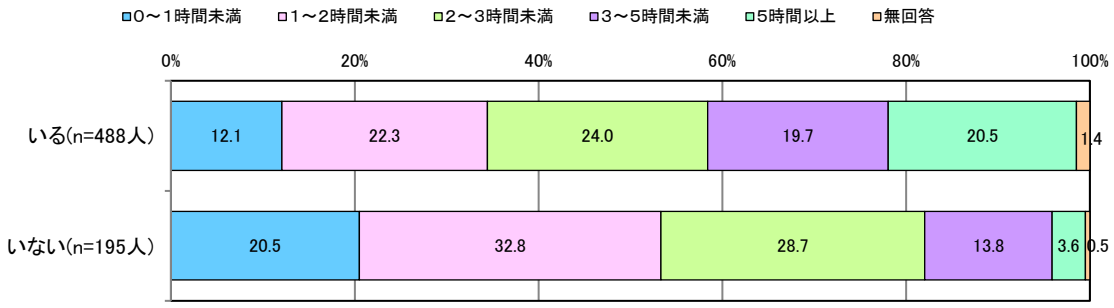
・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「２～３時間未満」（24.5%）が最も多く、次いで、「１～２時間未満」（22.7%）、「３～５時間未満」（19.2%）となっている。「結婚していない」では、「１～２時間未満」（33.1%）という回答が最も多く、次いで、「０～１時間未満」（24.6%）、「２～３時間未満」（24.6%）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「２～３時間未満」（31.3%）という回答が最も多くなっている。次いで、「０～１時間未満」（25.0%）、「３～５時間未満」（25.0%）となっている。「配偶者と離・死別した」では、「２～３時間未満」（36.5%）という回答が最も多く、次いで「１～２時間未満」（32.7%）となっている。

・子の有無別でみると、「いる」では、「２～３時間未満」（24.0%）という回答が最も多く、次いで、「１～２時間未満」（22.3%）、「５時間以上」（20.5%）、「３～５時間未満」（19.7%）となっている。「いない」では、「１～２時間未満」（32.8%）という回答が最も多く、次いで、「２～３時間未満」（28.7%）、「０～１時間未満」（20.5%）となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

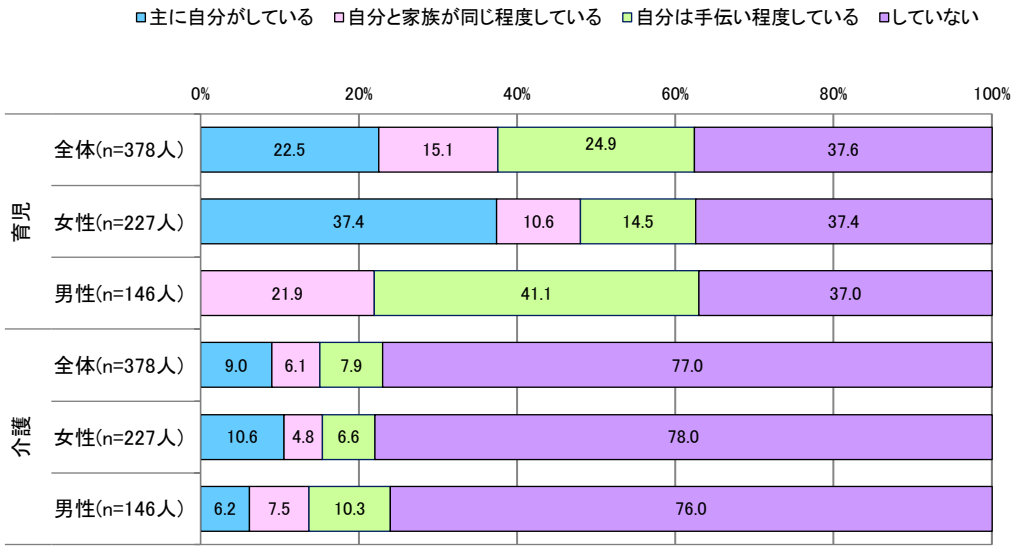


身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問 30　あなたは育児または介護をどの程度していますか。（それぞれ○は１つ）

・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約４割（37.4%）で、男性と比べ大きな差がある。
・介護では、男女ともに、「していない」が約８割と最も多くなっている。次いで、女性は、「自分が主にしている」、「自分は手伝い程度している」、「自分と家族が同じ程度している」となっている。一方、男性は、「自分は手伝い程度している」、「自分と家族が同じ程度している」、「自分が主にしている」となっている。
（※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

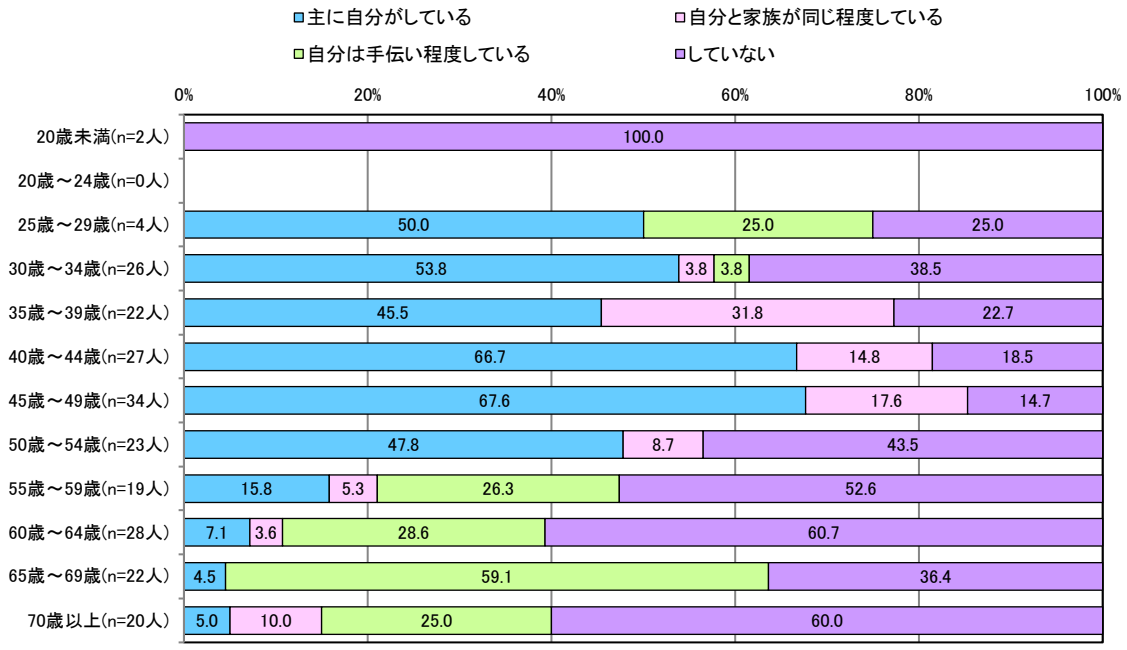
【全分野】



１．育児（お孫さんを含む）

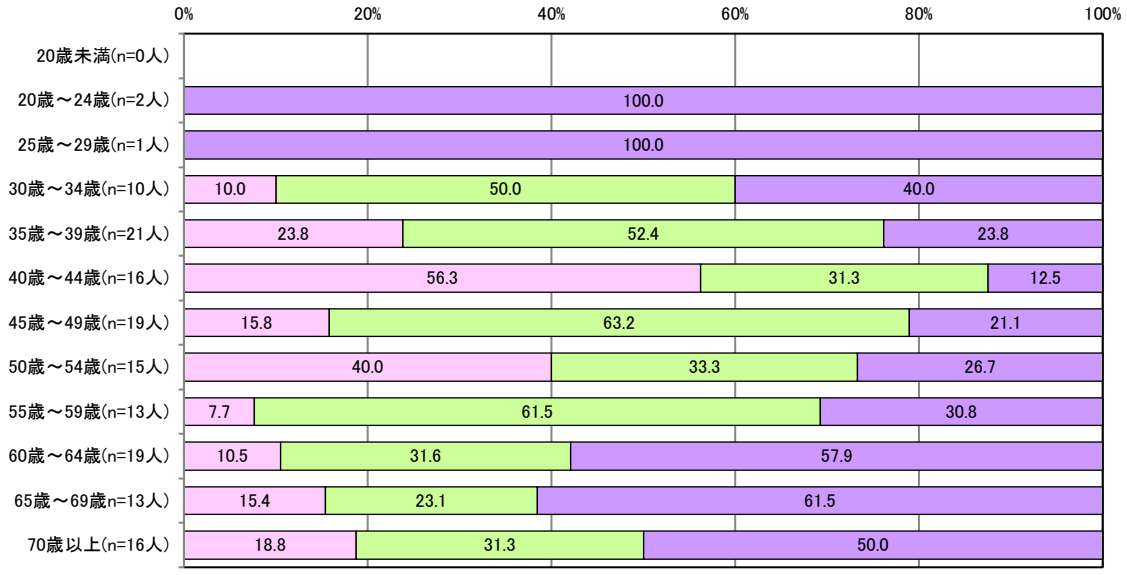
・女性では、25 歳～34 歳、40 歳～49 歳で、「主に自分がしている」という回答割合が５割を超えている。一方、男性では、「自分は手伝い程度している」という回答割合が、30 歳～39 歳、45 歳～49 歳、55 歳～59 歳で５割を超えている。

【女性世代別】



女性（n=227 人）

【男性世代別】

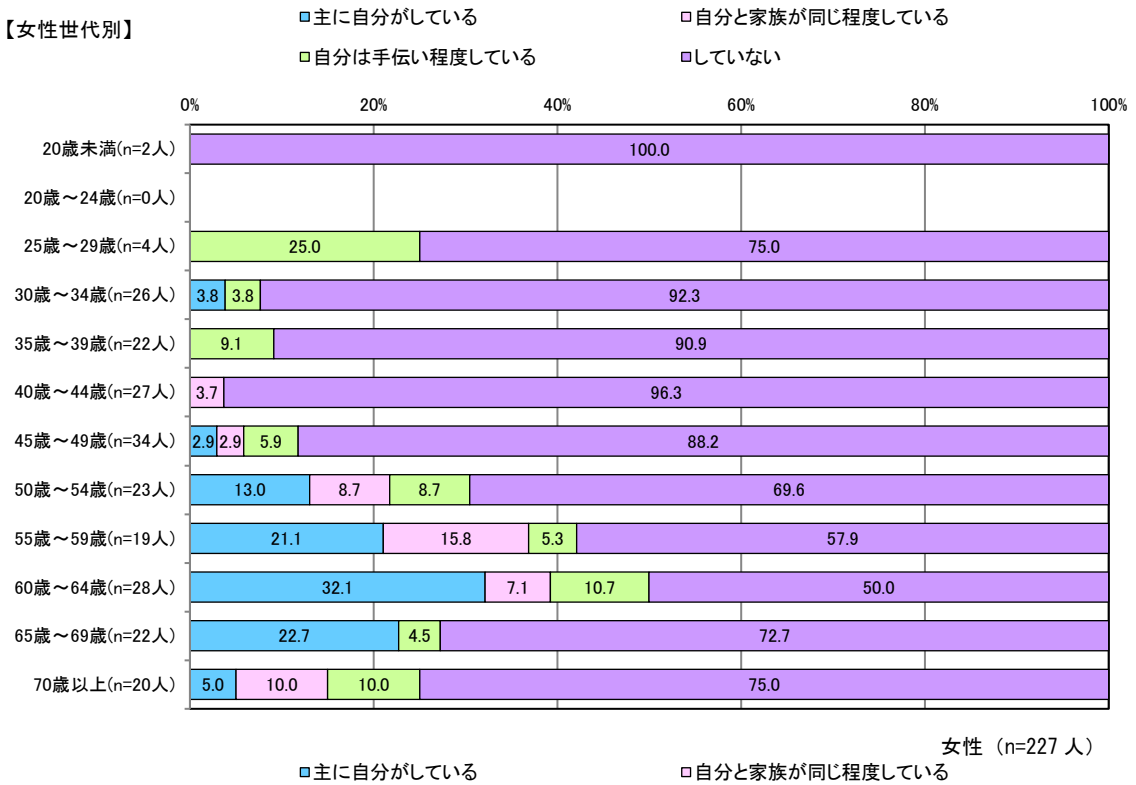


男性（n=146 人）

２．介護

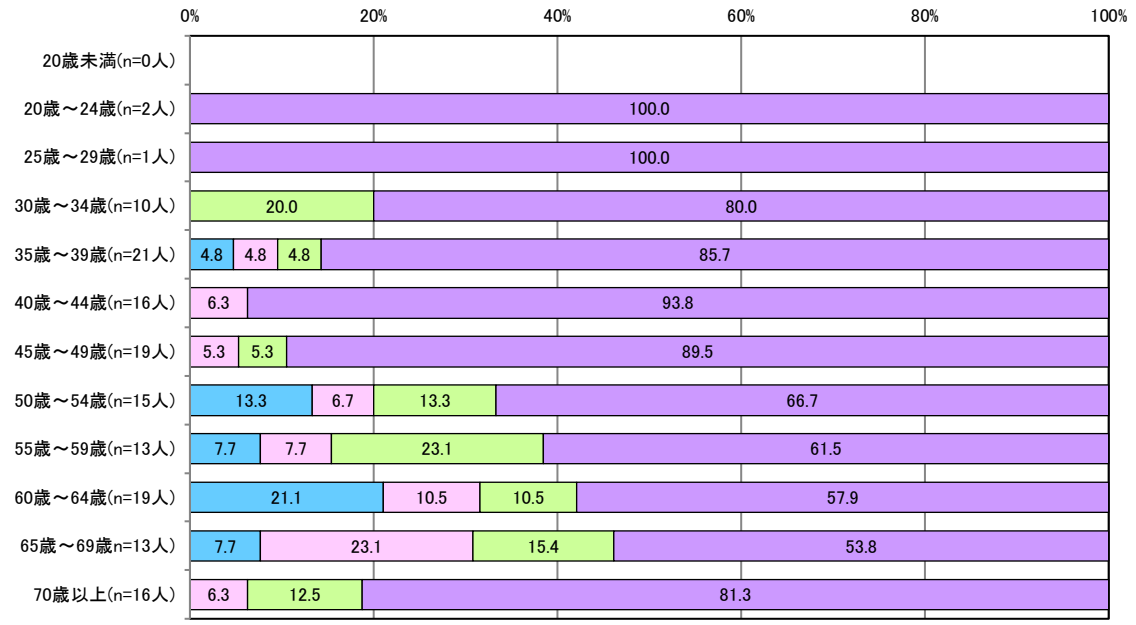
・ 性別でみると、女性では、20 歳未満、20 歳～24 歳を除き、いずれの世代でも介護に関わっている。男性では、20 歳未満、20 歳～29 歳を除き、いずれの世代でも介護に関わっている。「主に自分がしている」という回答は、60 歳～64 歳の女性で３割を超えている。

【女性世代別】



女性（n=227 人）

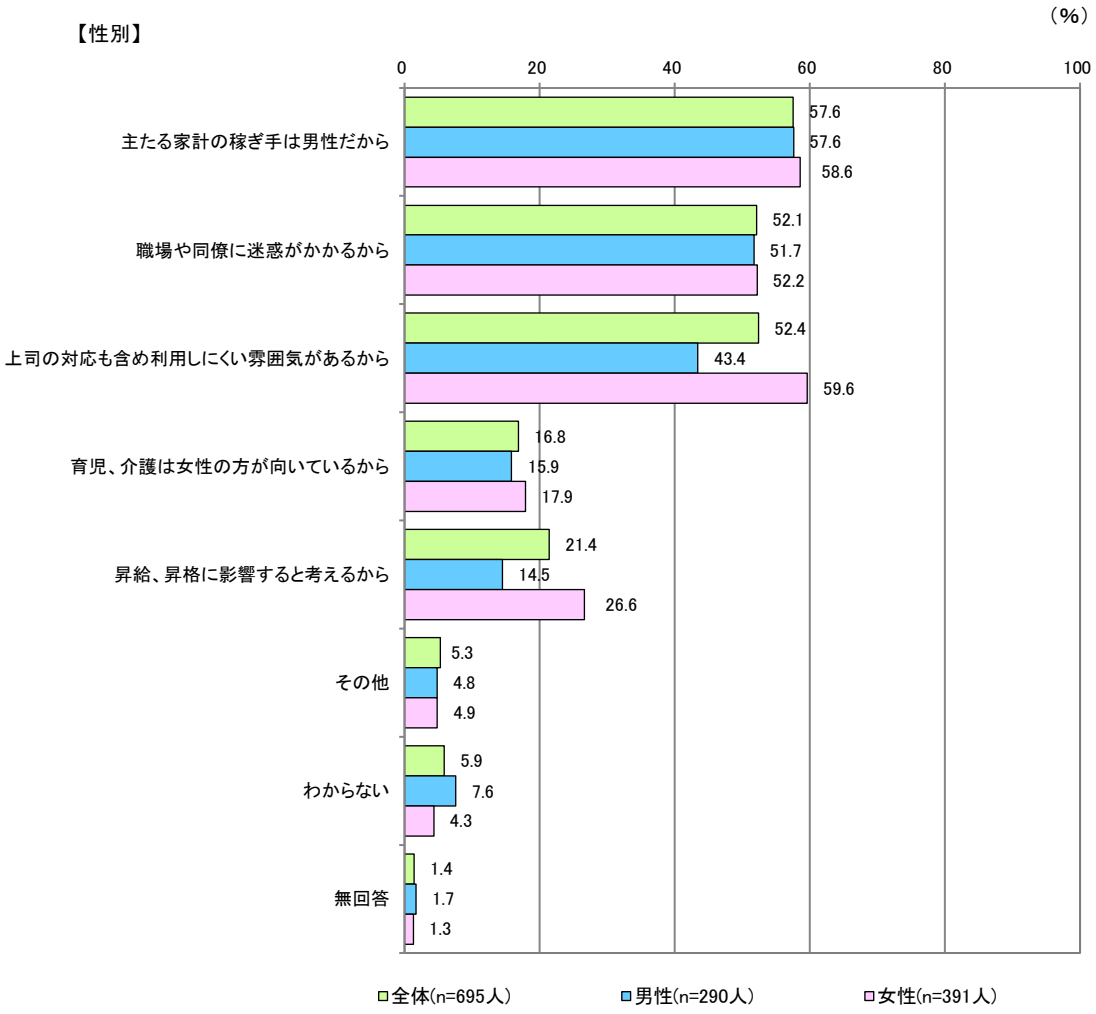
【男性世代別】



男性（n=146 人）

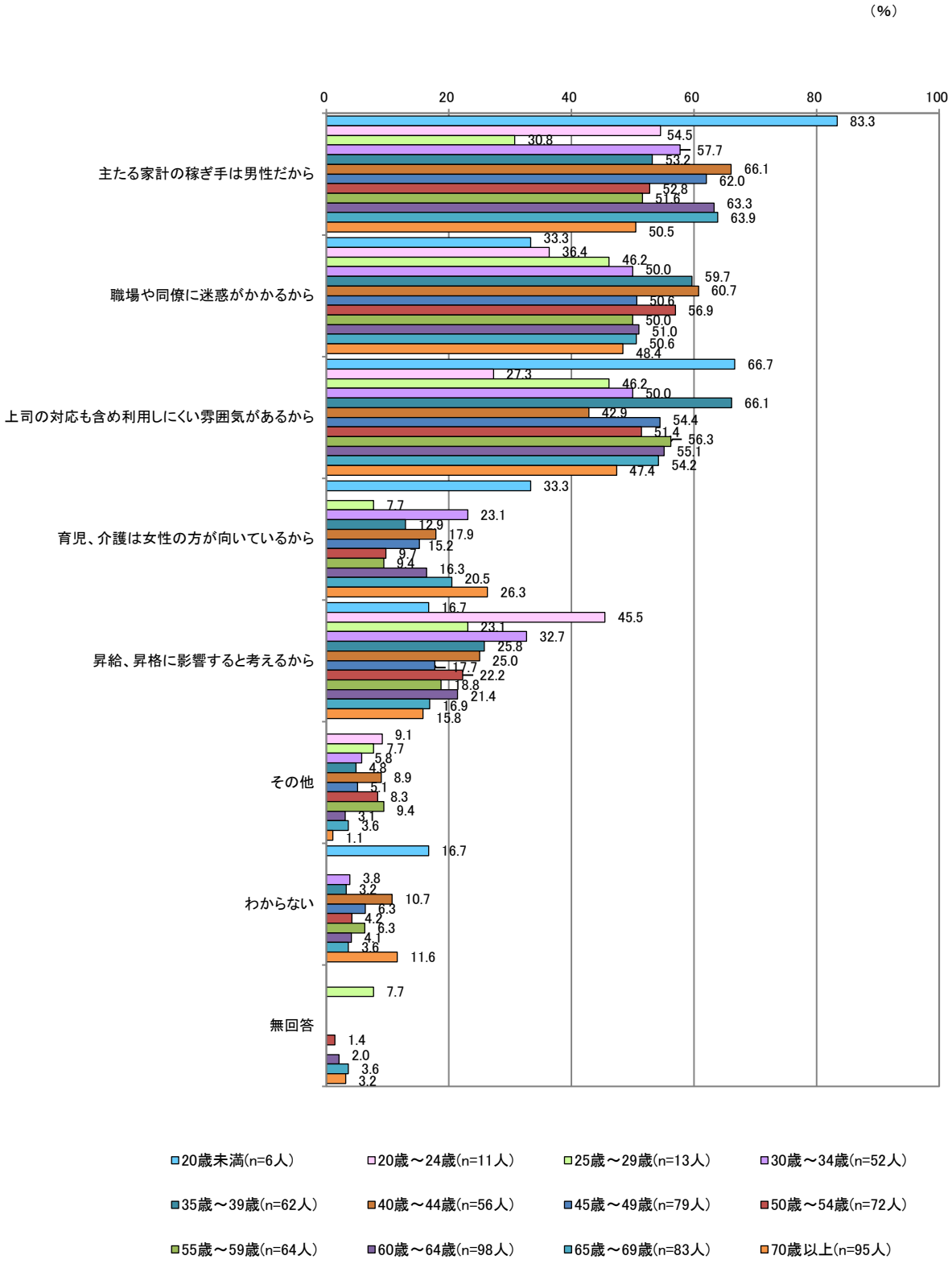
問 31　男性が「育児・介護休業制度」を利用する割合が女性より低いのは、どうしてだと思いますか。（○は３つまで）

・全体でみると、最も回答が多いのは、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（57.6%）となっている。次いで、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（52.4%）、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（52.1%）となっている。
・性別でみると、男性では、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（57.6%）が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（51.7%）、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（43.4%）となっている。女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（59.6%）が最も多くなっている。次いで、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（58.6%）、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（52.2%）となっている。

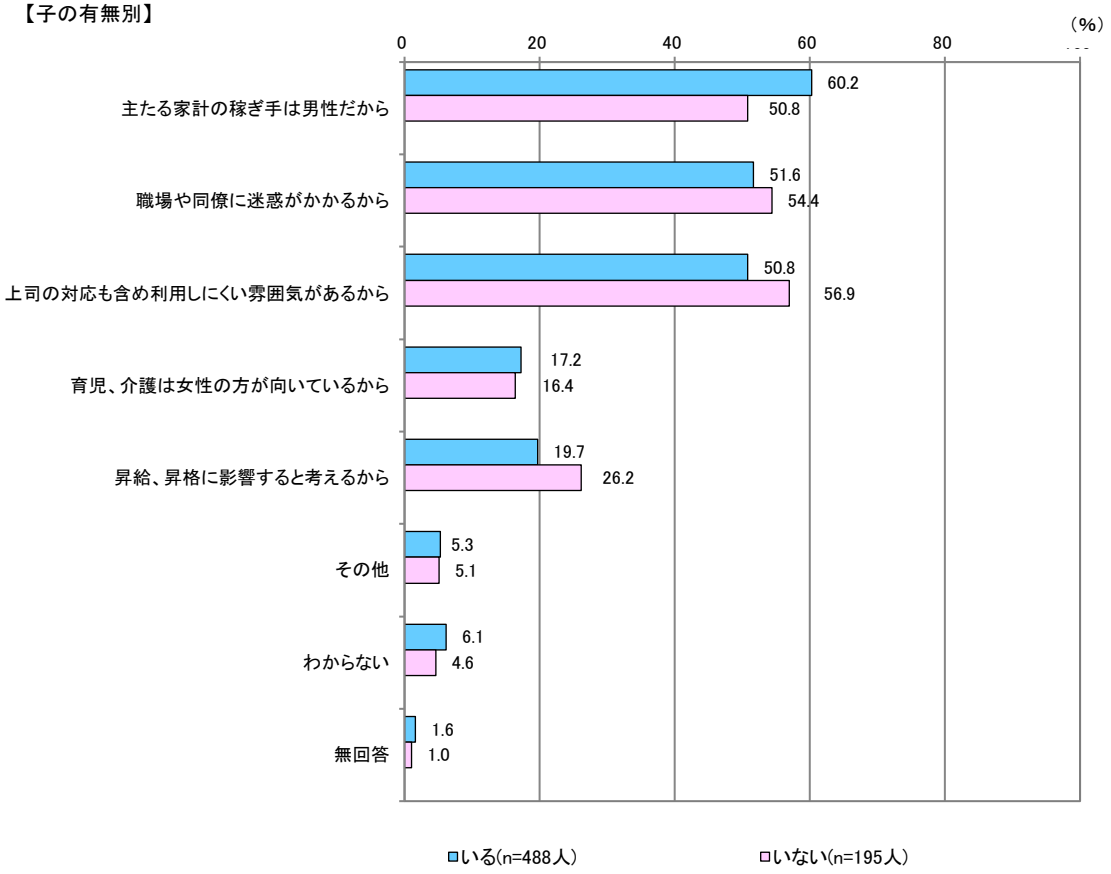


・年代別でみると、20 歳～29 歳、35 歳～39 歳、50 歳～54 歳を除く世代で、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」が最も多くなっている。
・子の有無別でみると、「いる」では、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(60.2%)が最も多くなっている。「いない」では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(56.9%)が最も多くなっている。

【年代別】



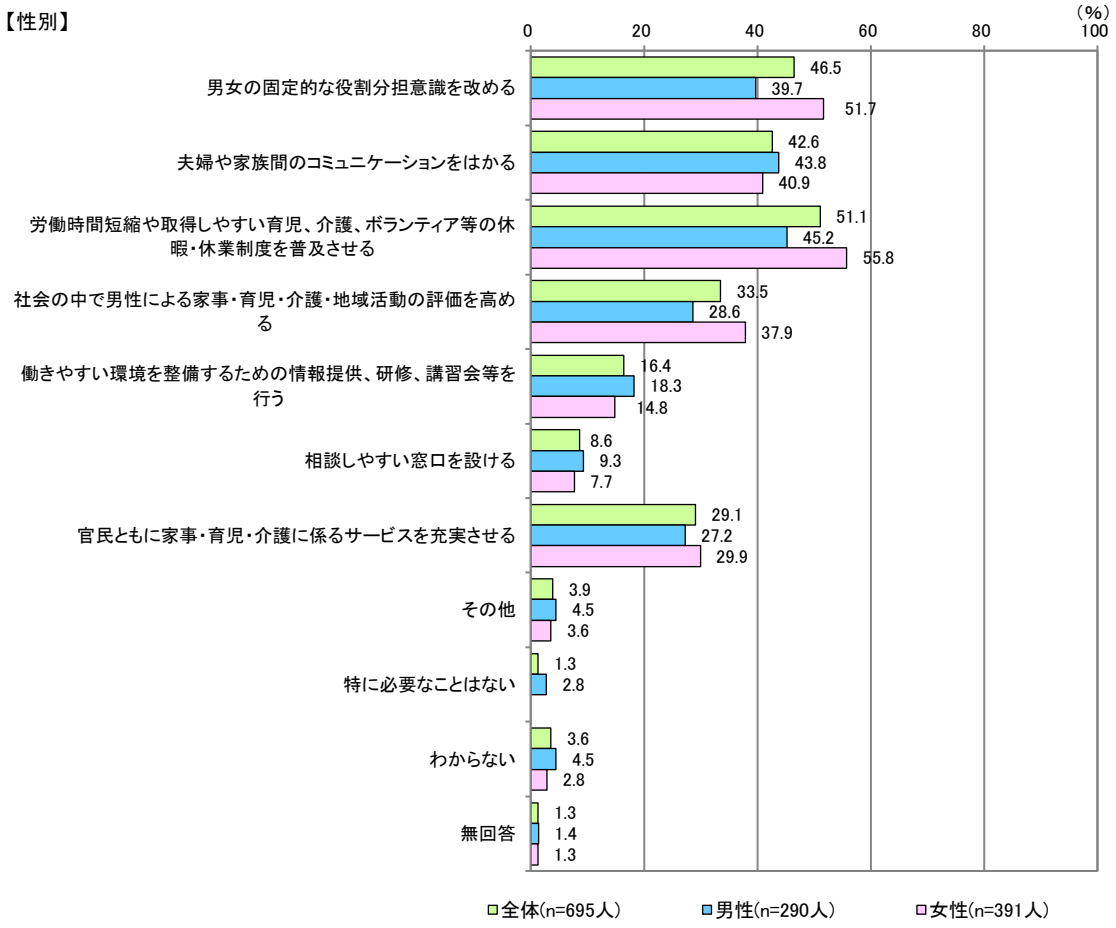
【子の有無別】


（%）
0
20
40
60
80
主たる家計の稼ぎ手は男性だから
60.2
50.8
職場や同僚に迷惑がかかるから
51.6
54.4
上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
50.8
56.9
育児、介護は女性の方が向いているから
17.2
16.4
昇給、昇格に影響すると考えるから
19.7
26.2
その他
5.3
5.1
わからない
6.1
4.6
無回答
1.6
1.0
いる(n=488人)
いない(n=195人)

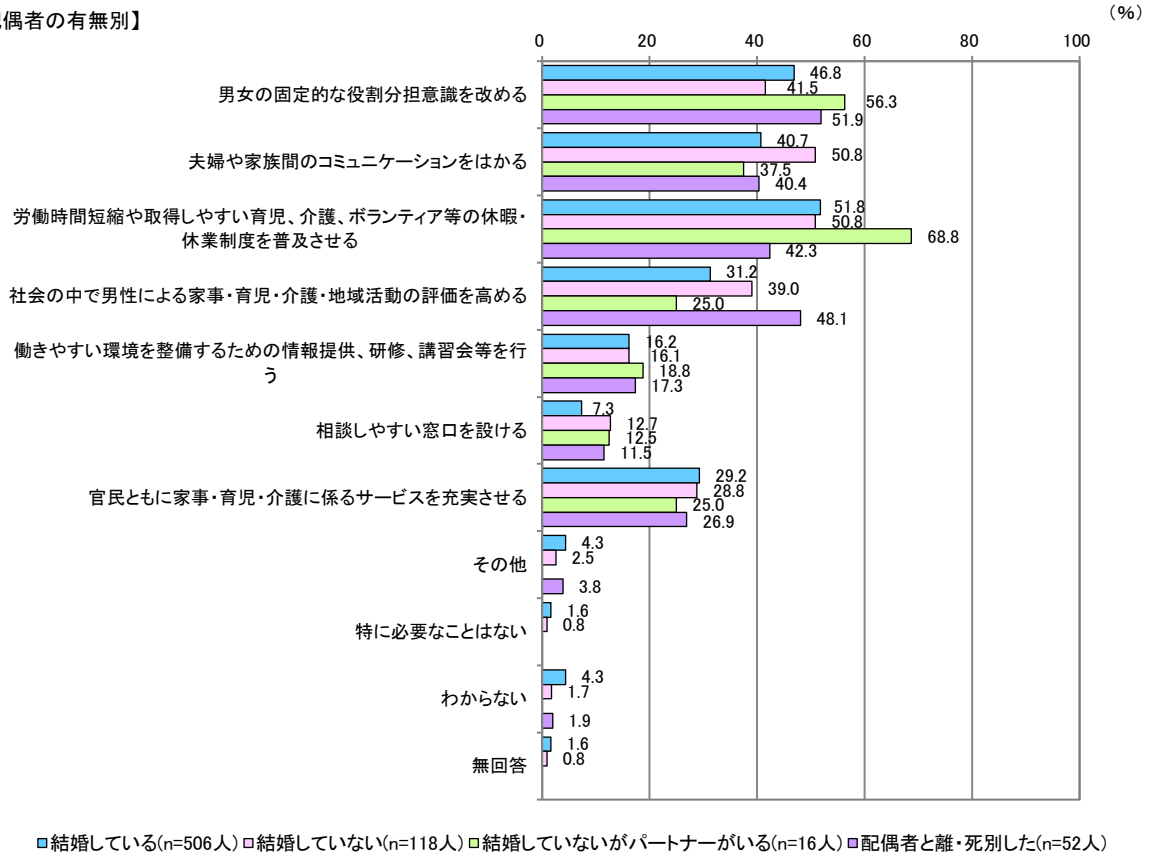
問 32　今後、男女ともにワーク・ライフ・バランスを進めていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（○は３つまで）

・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」（51.1%）が最も多く、約５割となっている。次いで、「男女の固定的な役割分担意識を改める」（46.5%）、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」（42.6%）、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」（33.5%）、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」（29.1%）、「働きやすい環境を整備するための情報提供、研修、講習会等を行う」（16.4%）と続いている。
・性別でみると、男女とも、上位３項目は同じ傾向となっている。「男女の固定的な役割分担意識を改める」については、女性は 51.7%、男性は 39.7%と、女性が男性よりも高い回答割合となっている。
・配偶者の有無別でみると、「配偶者と離・死別した」を除く、いずれも「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「男女の固定的な役割分担意識を改める」という回答が最も多くなっている。
・子の有無別でみると、いずれも「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」が最も多くなり、５割を超えている。

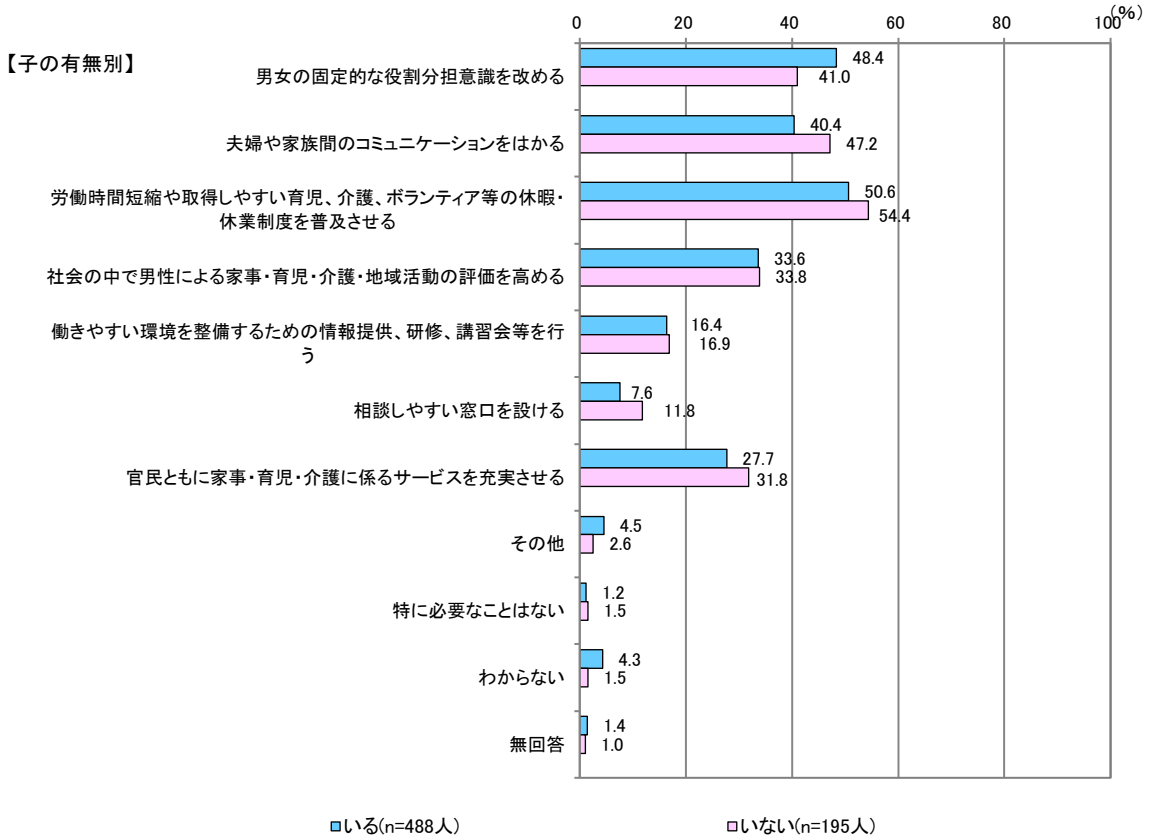
【性別】



【配偶者の有無別】



【子の有無別】

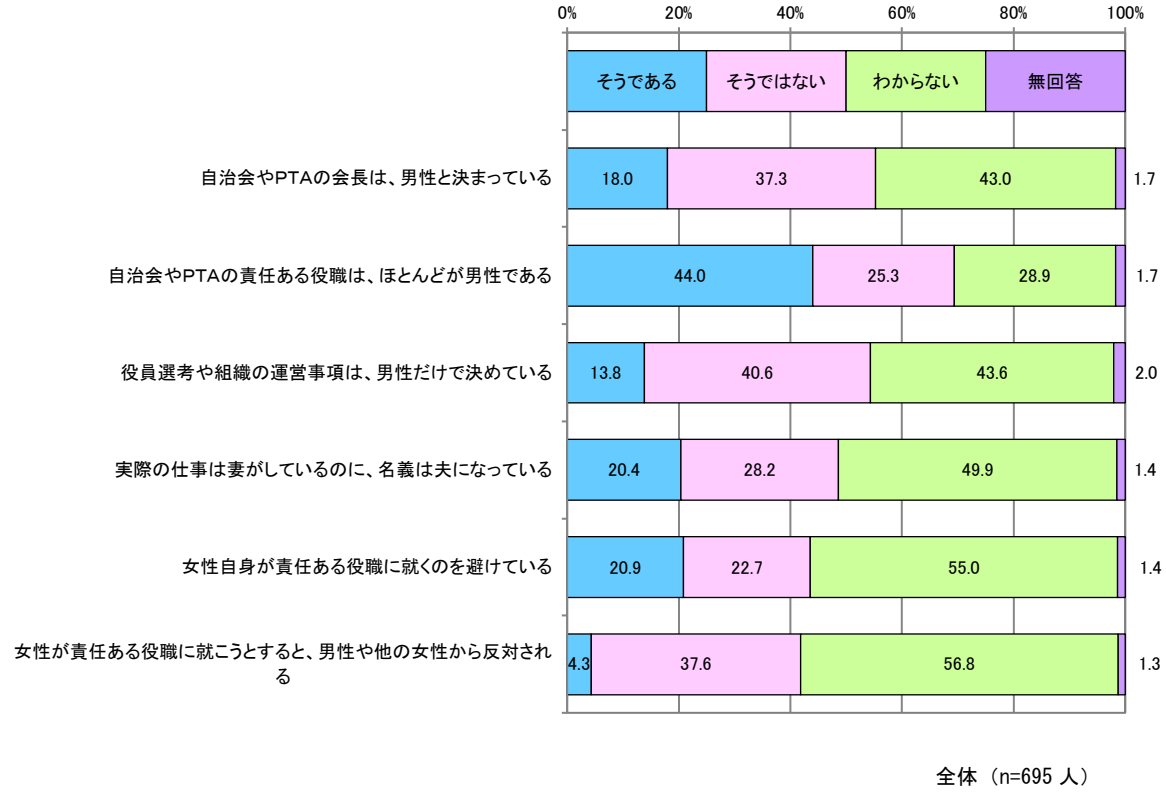


地域社会に関することについて

問 33　あなたが住んでいる地域では、自治会・ＰＴＡ・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。（それぞれ○は１つ）

・「そうである」という回答でみると、「自治会やＰＴＡの責任ある役職は、ほとんどが男性である」が最も多く、約４割（44.0%）となっている。次いで、「女性自身が責任ある役職に就くのを避けている」（20.9%）、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」（20.4%）と続いている。
・一方、「そうではない」という回答は、「役員選考や組織の運営事項は、男性だけで決めている」（40.6%）が最も多く、約４割となっている。次いで、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」（37.6%）、「自治会やＰＴＡの会長は、男性と決まっている」（37.3%）と続いている。

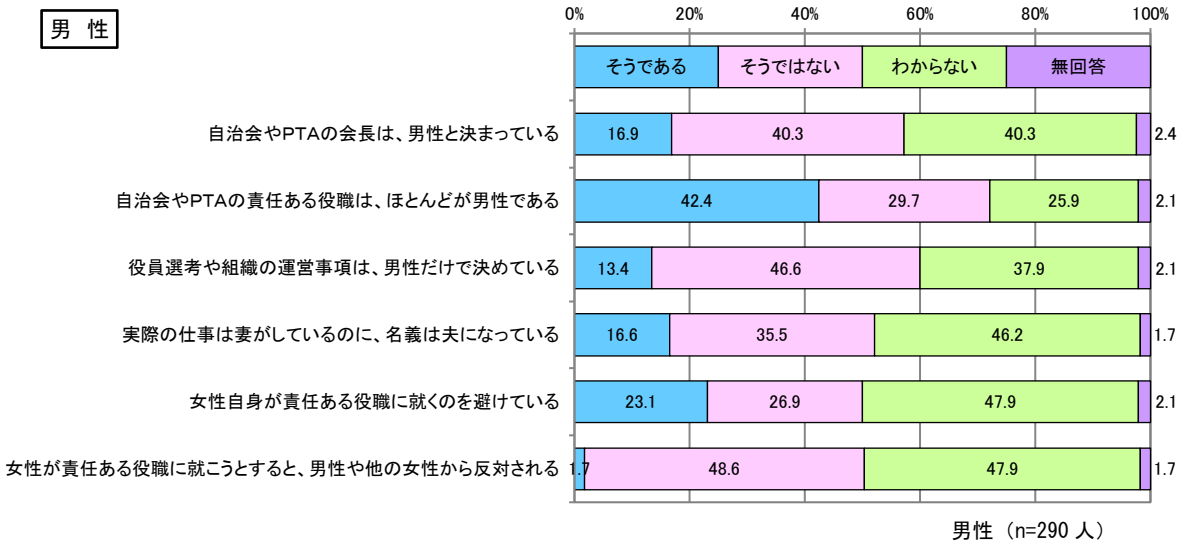
【全事例】

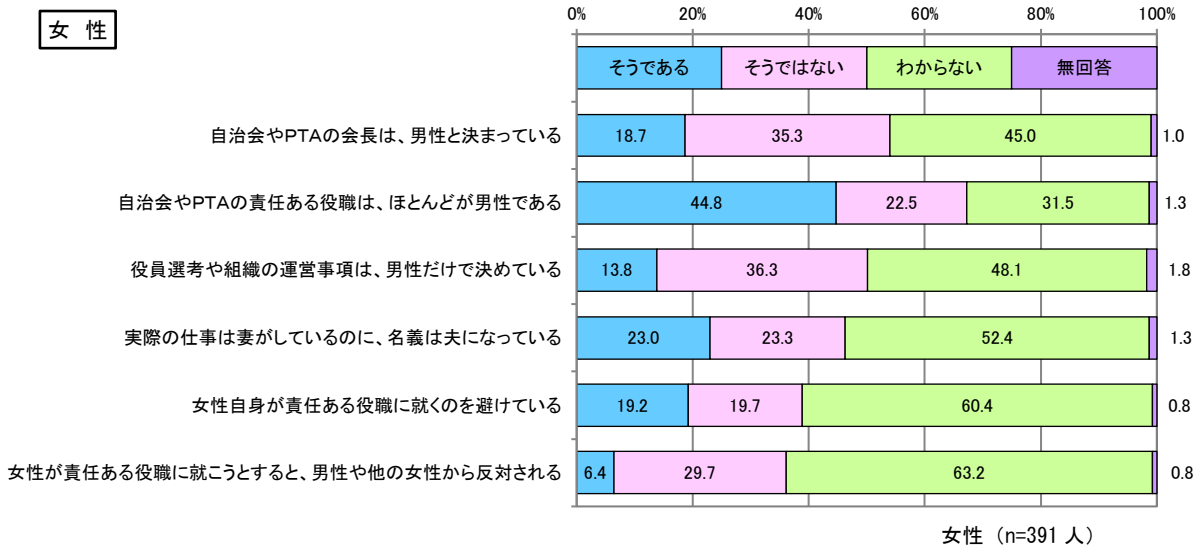


全体（n=695 人）

・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「そうである」という回答でみると、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」では、女性の回答割合 23.0%が男性の 16.6%よりも多くなっている。また、「そうではない」という回答でみると、「役員選考や組織の運営事項は、男性だけで決めている」では、男性の回答割合 46.6%が女性の回答割合 36.3%よりもやや多くなっている。

【性別】

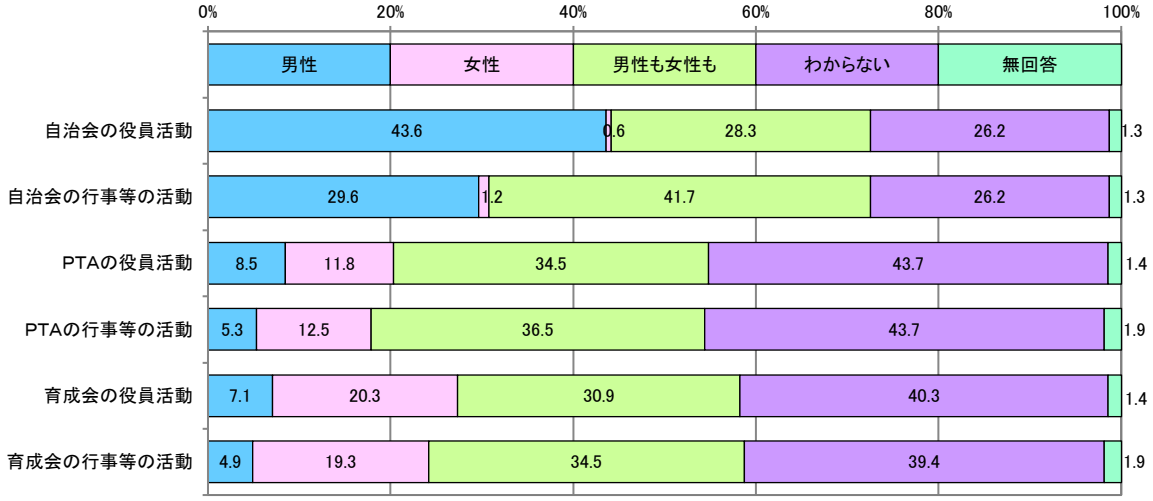




問 34　あなたが住んでいる地域では、次の１から６の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。（それぞれ○は１つ）

・「女性」という回答は、「育成会の役員活動」（20.3%）が最も多く、次いで、「育成会の行事等の活動」（19.3%）、「ＰＴＡの行事等の活動」（12.5%）と続いている。
・一方、「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約４割（43.6%）。次いで、「自治会の行事等の活動」（29.6%）、「ＰＴＡの役員活動」（8.5%）と続いている。
・「男性も女性も」という回答でみると、「自治会の行事等の活動」（41.7%）が最も多く、次いで、「ＰＴＡの行事等の活動」（36.5%）、「ＰＴＡの役員活動」（34.5%）、「育成会の行事等の活動」（34.5%）と続いている。

【全事例】

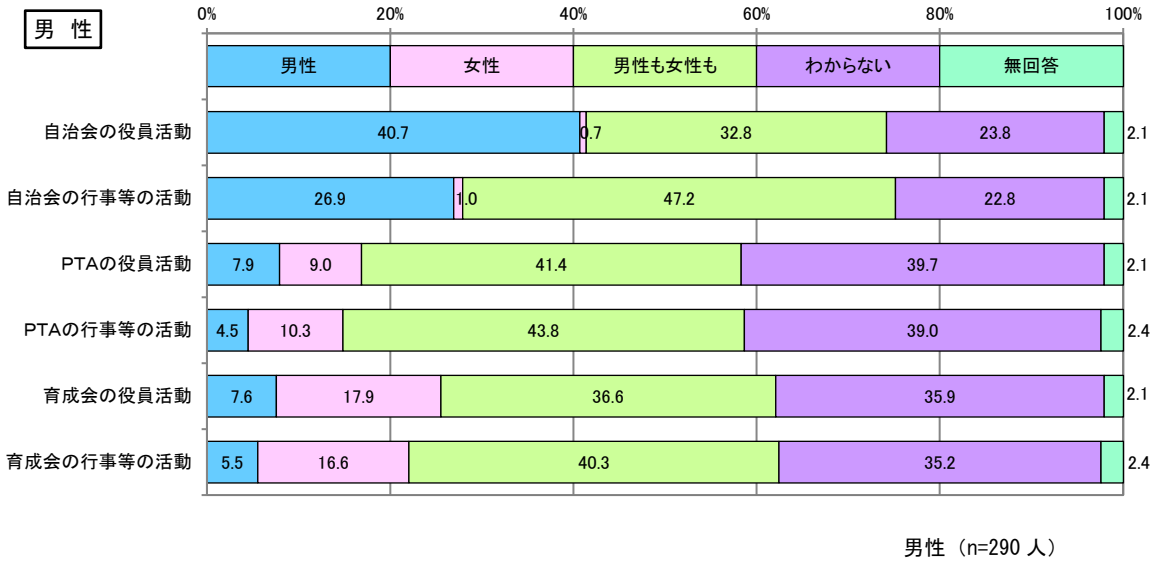


全体（n=695 人）

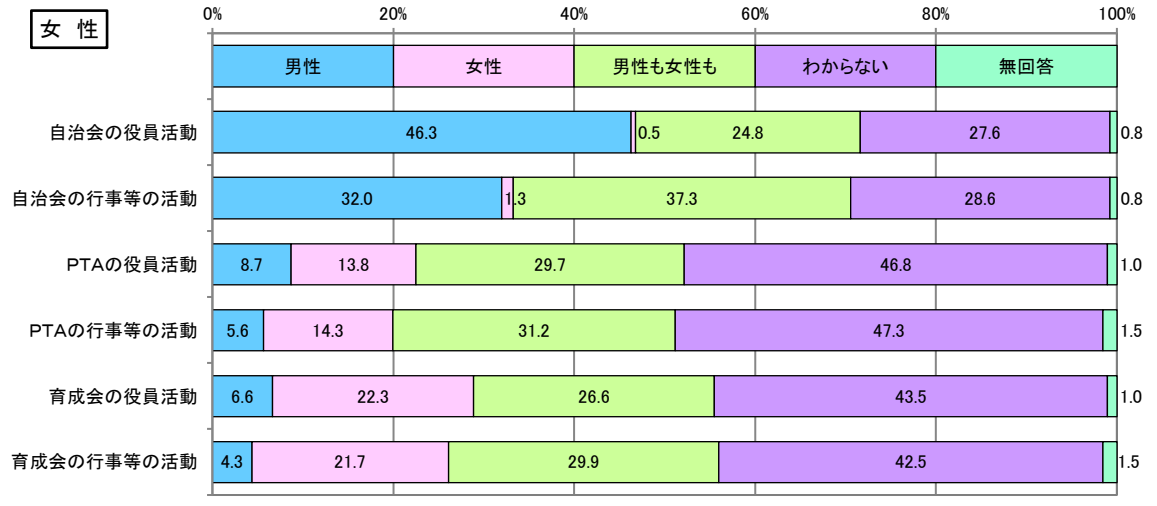
・自治会の役員活動以外は「男性も女性も」と回答した割合がもっとも多いが、すべての項目において、男性の回答割合が女性の回答割合を上回っている。自治会の役員や行事は「男性」、ＰＴＡや育成活動は「女性」が中心となっている傾向が見られる。

・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「女性」という回答でみると、「育成会の役員活動」では、女性の回答割合 22.3%が男性の 17.9%よりも多くなっている。「育成会の行事等の活動」では、女性の回答割合 21.7%が男性の 16.6%よりも多くなっている。

【性別】



男性（n=290 人）

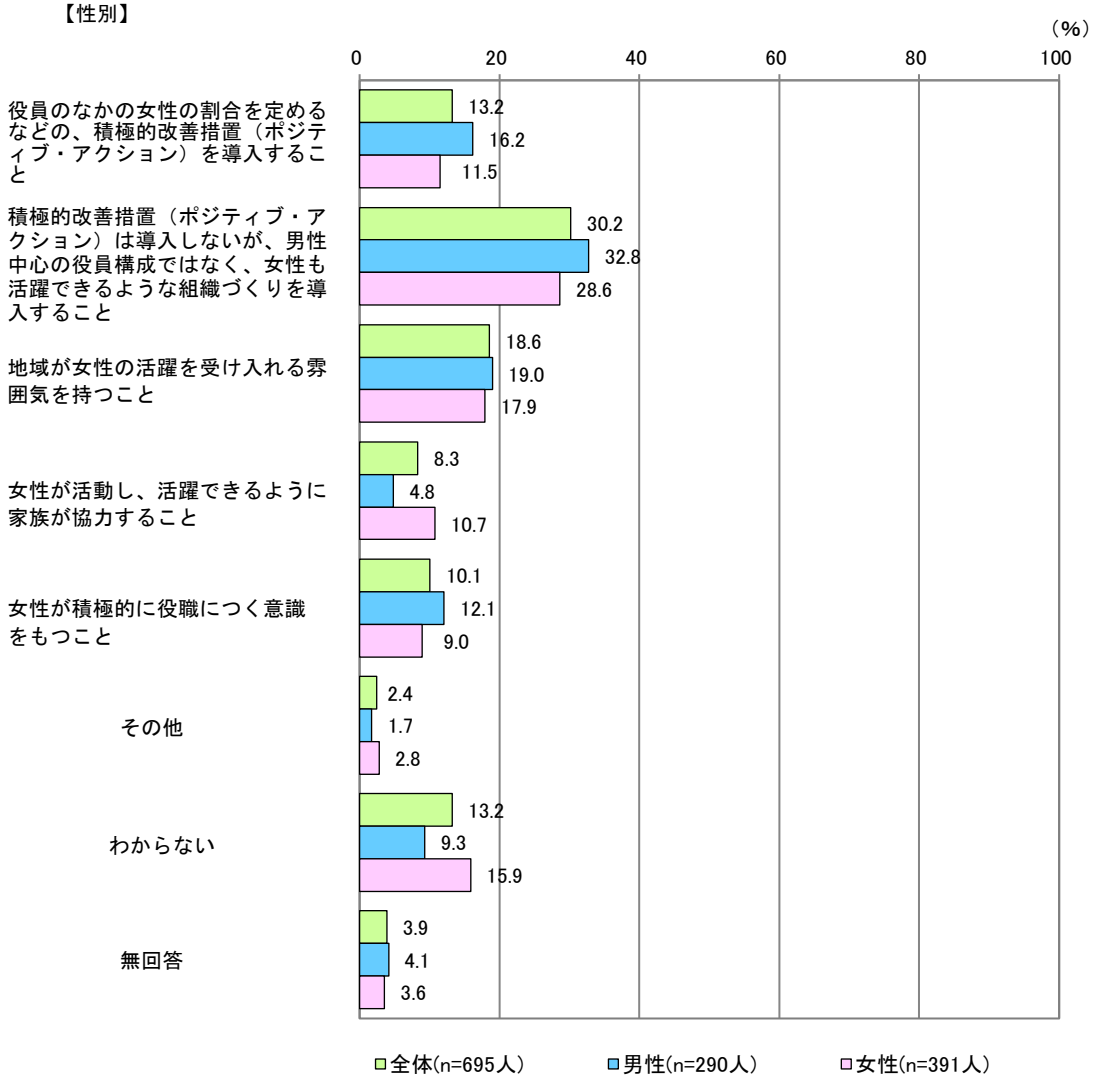


女性（n=391 人）

問 35　持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案・方針決定の場に、あらゆる世代の男女が、互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。（○は１つ）

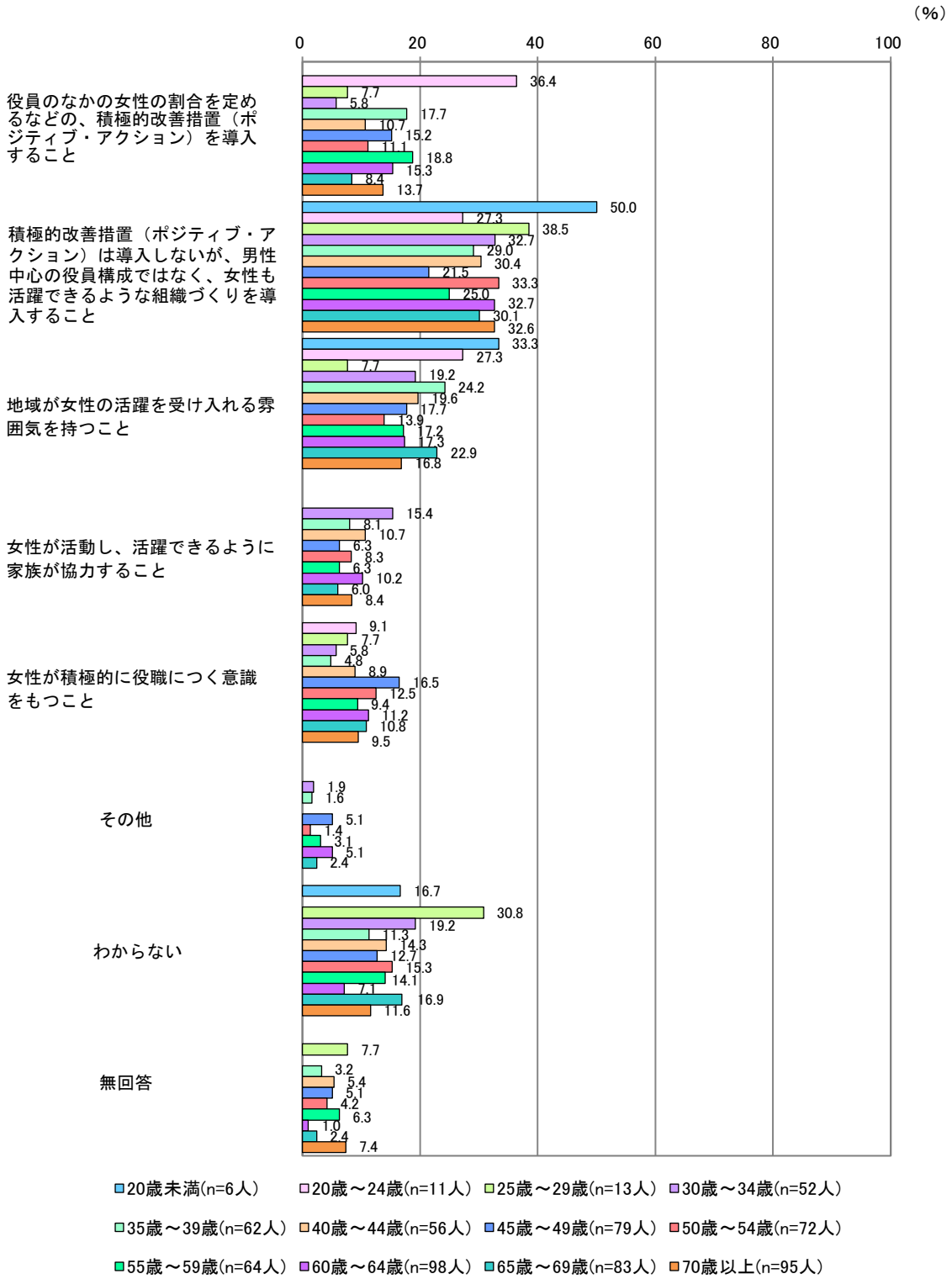
・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（30.2%）が最も多くなっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（18.6%）、「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（13.2%）、「わからない」（13.2%）と続いている。
・性別でみると、男女とも、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多くなっている。次いで、女性では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（17.9%）、「わからない」（15.9%）、男性では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（19.0%）、「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（16.2%）となっている。

【性別】



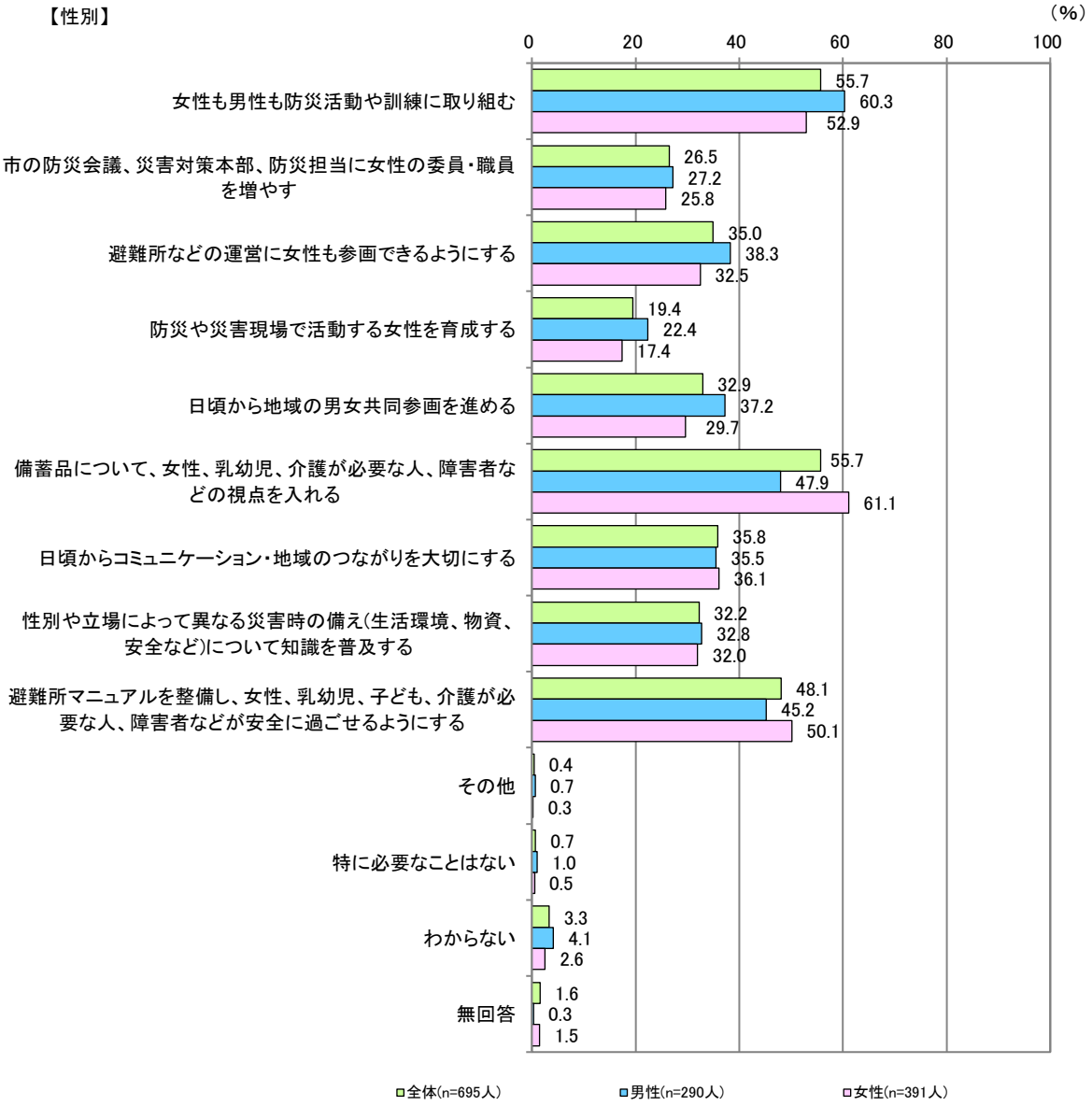
・年代別でみると 20 歳～24 歳を除くいずれの世代においても、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多くなっている。また、20 歳～24 歳では、「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」が最も多くなっている。

【年代別】



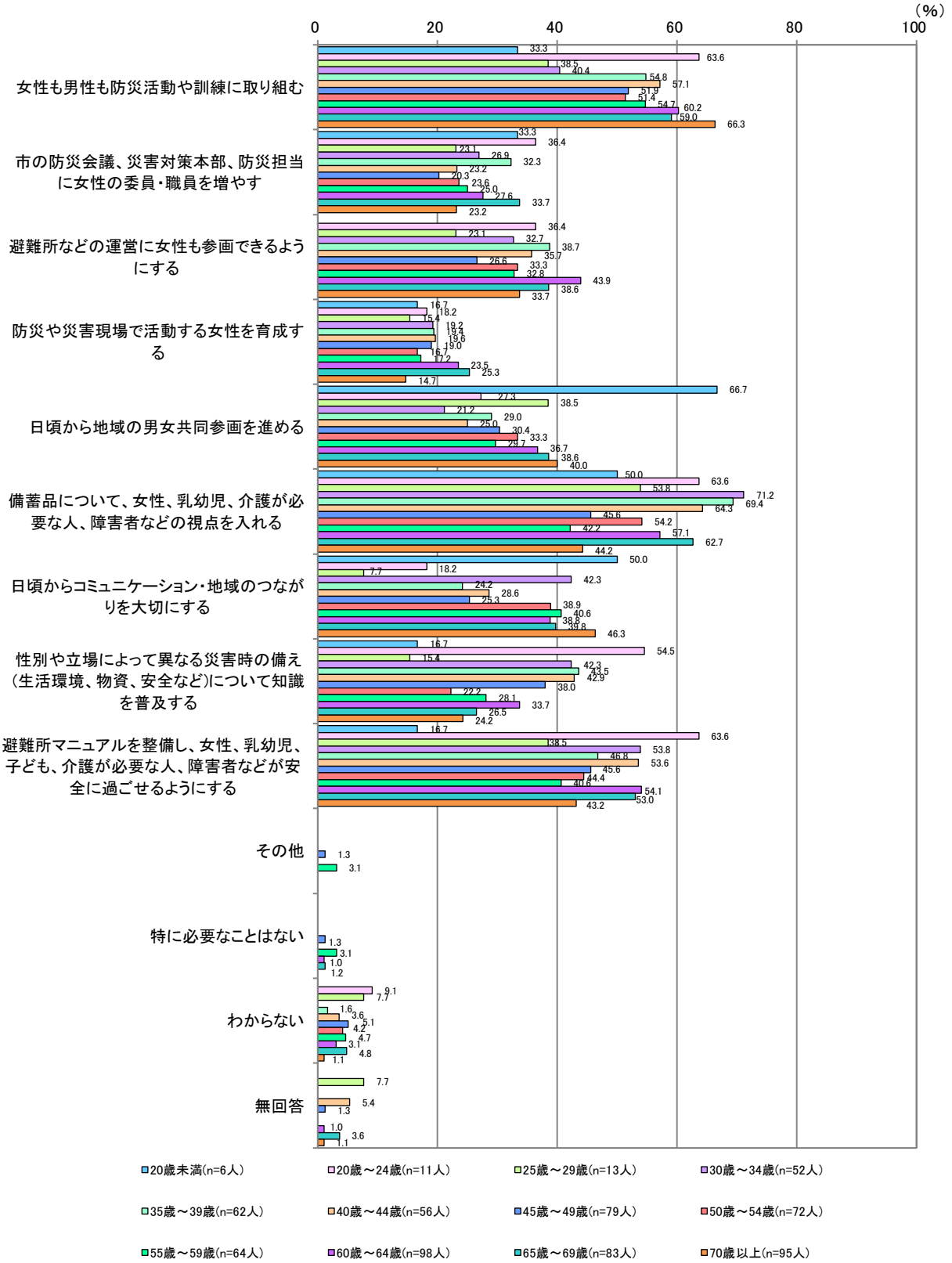
問 36　平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

・全体でみると、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」（55.7%）と「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（55.7%）が約６割と同率で最も多くなっている。次いで、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」（48.1%）、「日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」（35.8%）と続いている。
・性別でみると、男性は、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（60.3%）が最も多くなっている。一方、女性は、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」（61.1%）が最も多くなっている。



・年代別でみると、20 歳未満、45 歳～49 歳、60 歳～64 歳、70 歳以上を除くいずれの世代においても、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」が最も多くなっている。20 歳未満では、「日頃から地域の男女共同参画を進める」が最も多くなっている。45 歳～49 歳、60 歳～64 歳、70 歳以上で「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が最も多くなっている。

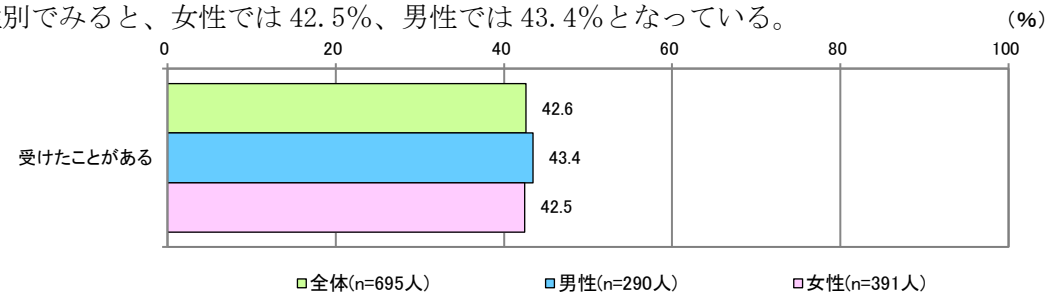
【年代別】



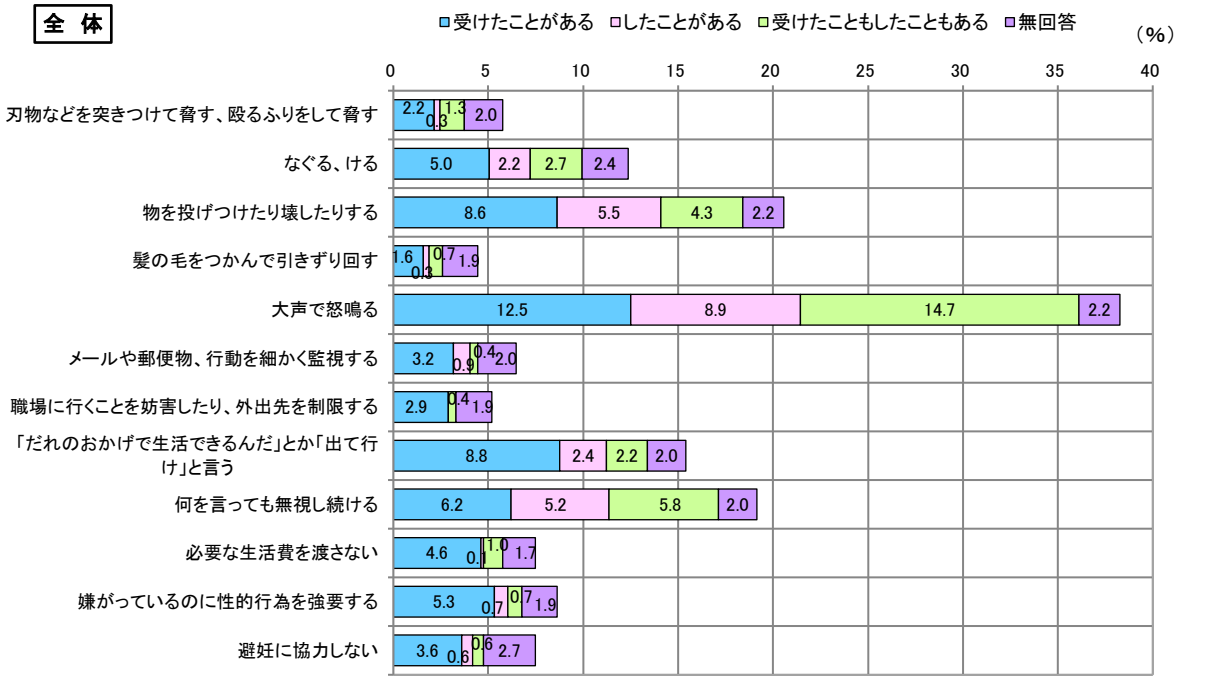
男女の人権に関することについて

問 37　身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、ＤＶにあたる行為です。
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。（それぞれ○は１つ）

・いずれかを「受けたことがある」という回答は、全体では 42.6%となっている。
・性別でみると、女性では 42.5%、男性では 43.4%となっている。



・具体的な内容としては、全体でみると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」（12.5%）が最も多くなっており、次いで、「『だれのおかげで生活できるんだ』とか『出て行け』と言う」（8.8%）、「物を投げつけたり壊したりする」（8.6%）と続いている。「したことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」（8.9%）が最も多くなっており、次いで、「物を投げつけたり壊したりする」（5.5%）、「何を言っても無視し続ける」（5.2%）と続いている。「受けたこともしたこともある」という回答では、「大声で怒鳴る」（14.7%）が最も多くなっており、次いで、「何を言っても無視し続ける」（5.8%）、「物を投げつけたり壊したりする」（4.3%）と続いている。

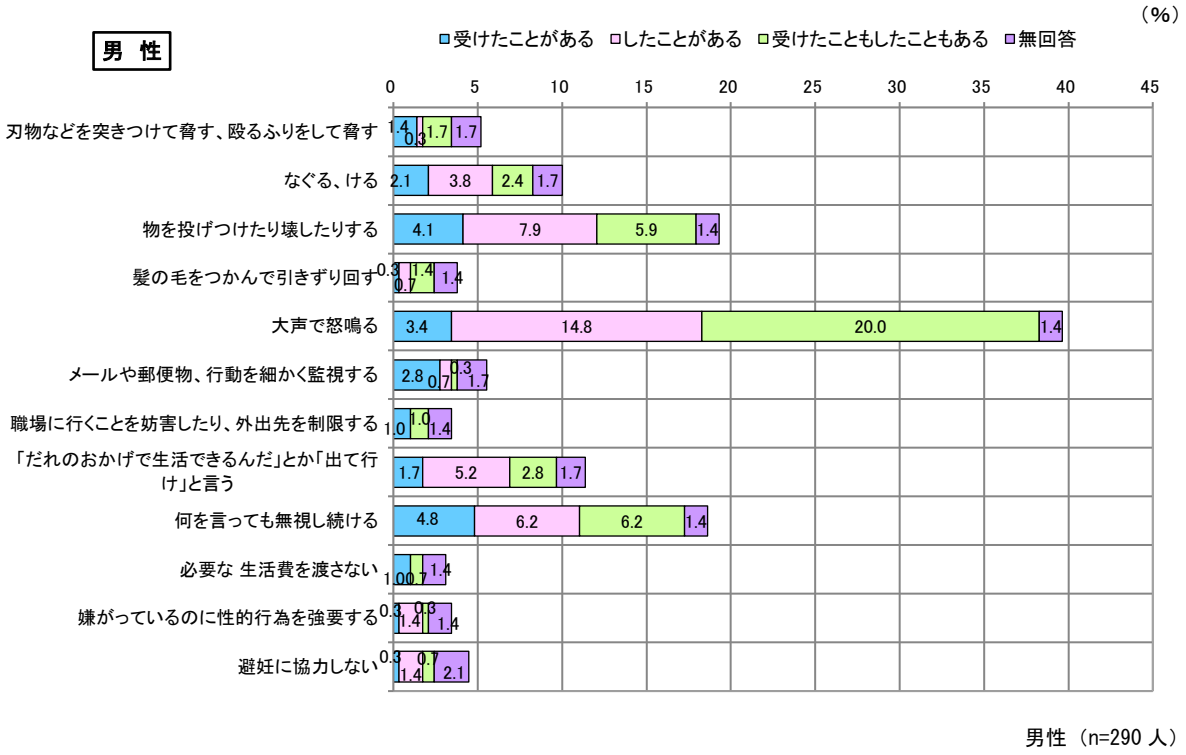


全体（n=695 人）

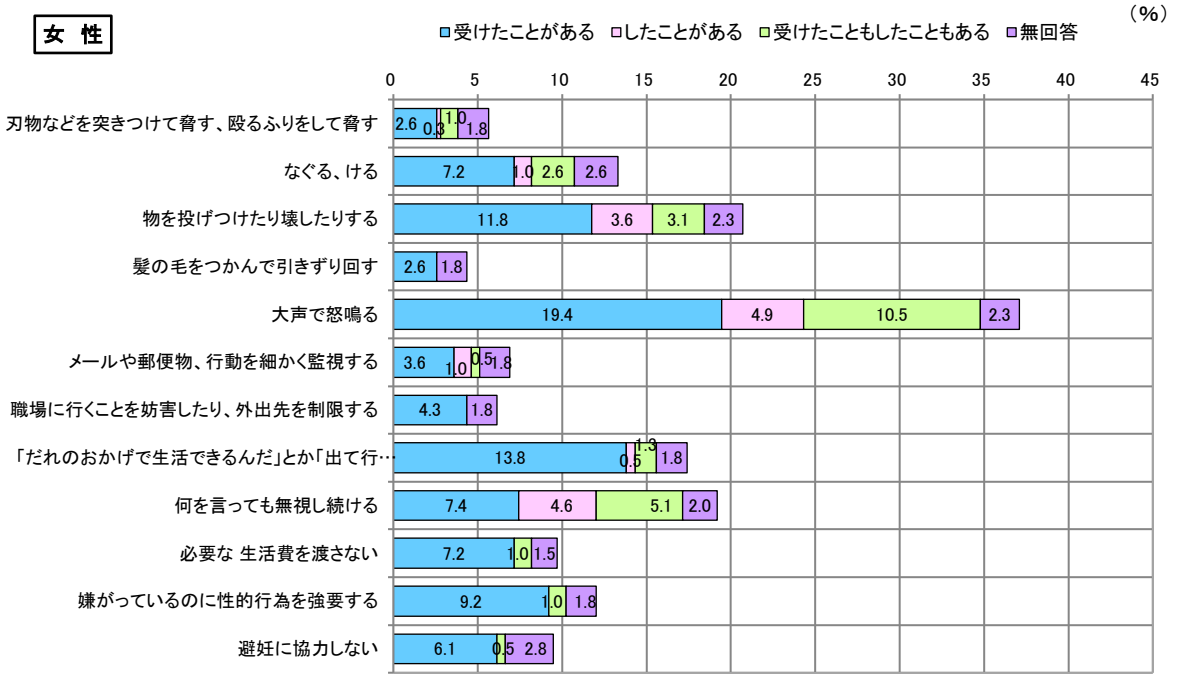
※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

・性別でみると、「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。

【性別】



男性（n=290 人）

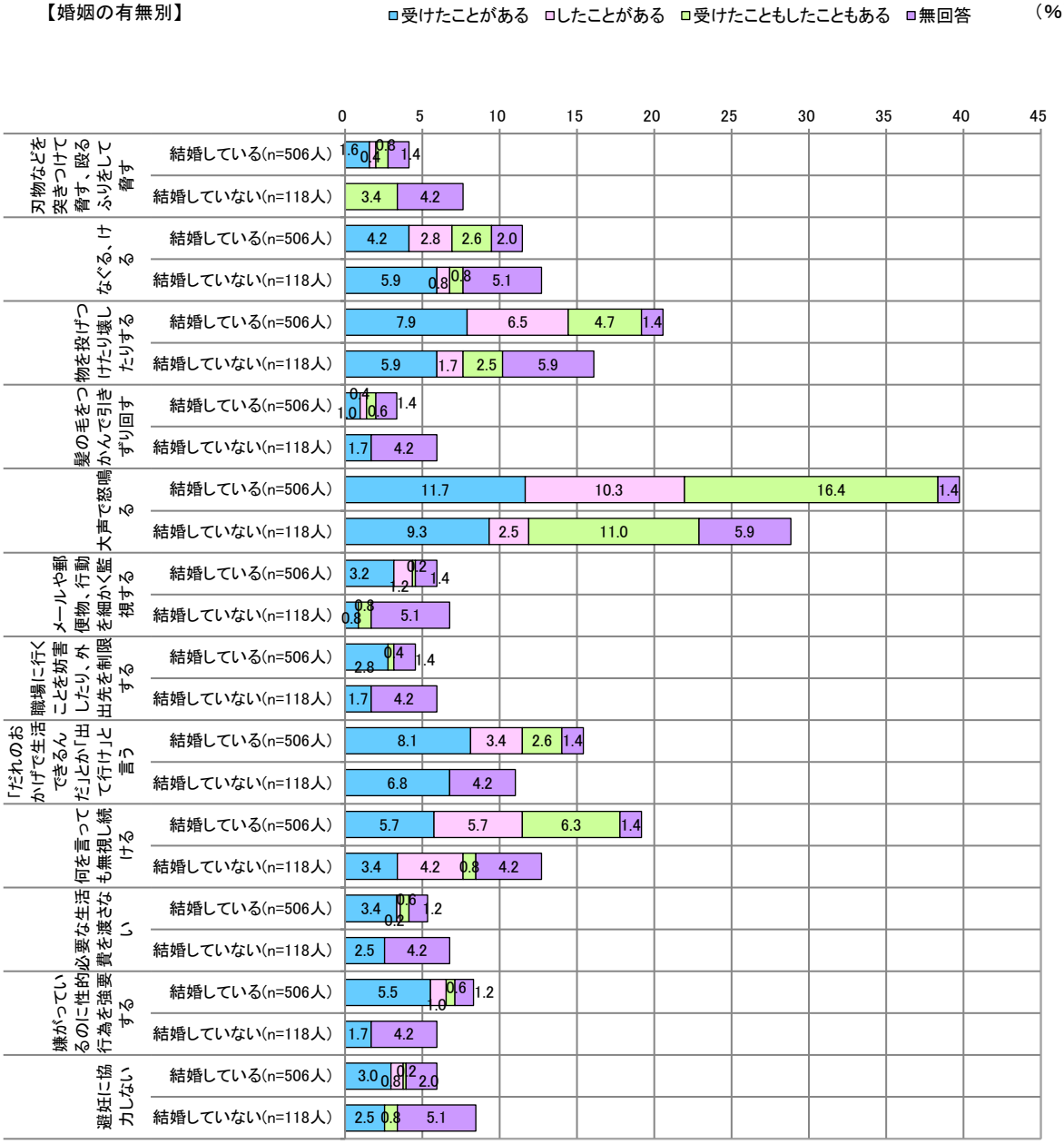


女性（n=391 人）

※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

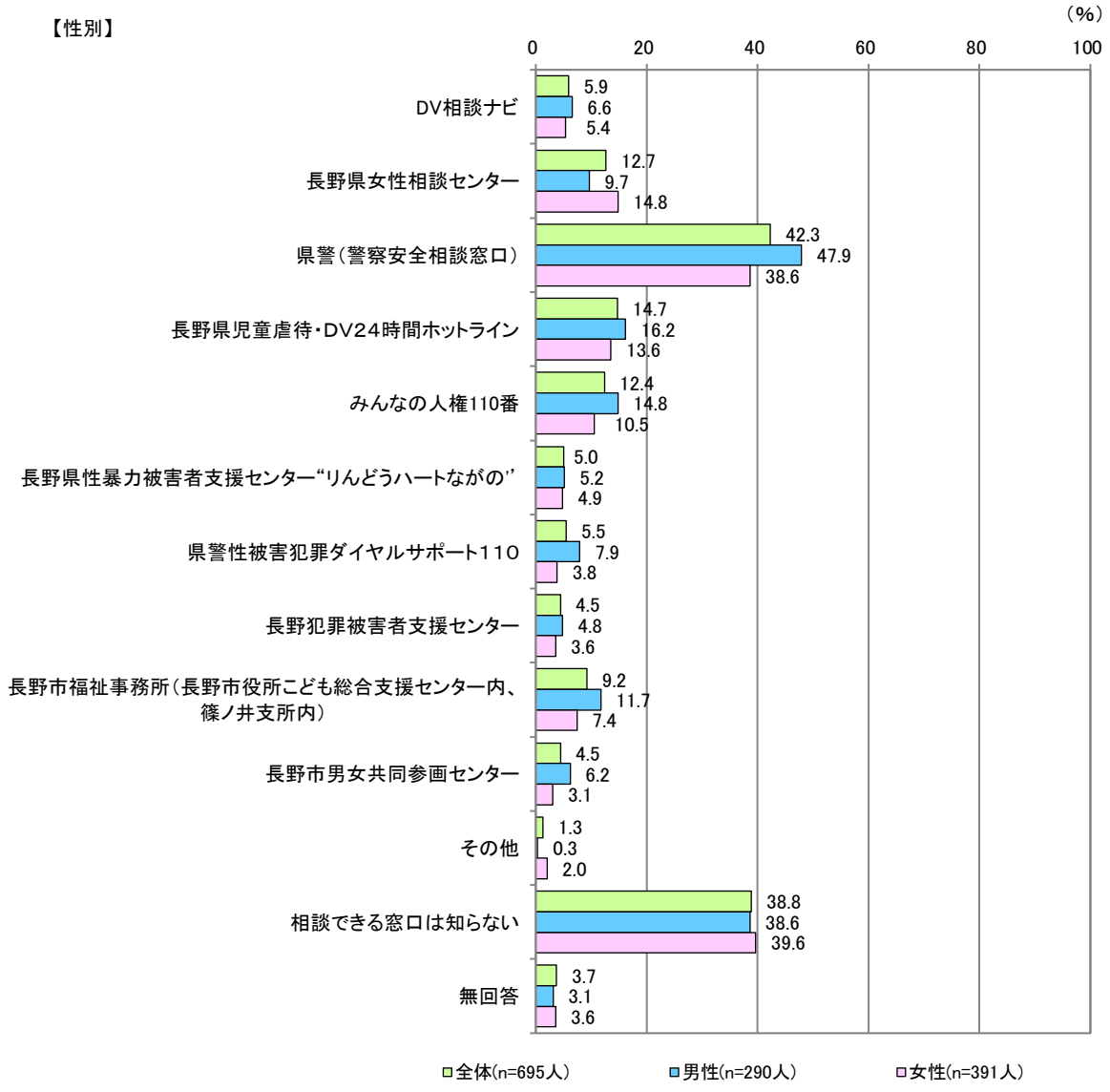
・婚姻の有無別にみると、無回答を除くと、「刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す」は、「結婚していない」の方が回答割合が多いが、他は、「結婚している」が「結婚していない」よりも回答割合が多くなっている。

【婚姻の有無別】



問 38　あなたはＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をお選びください。（○はいくつでも）

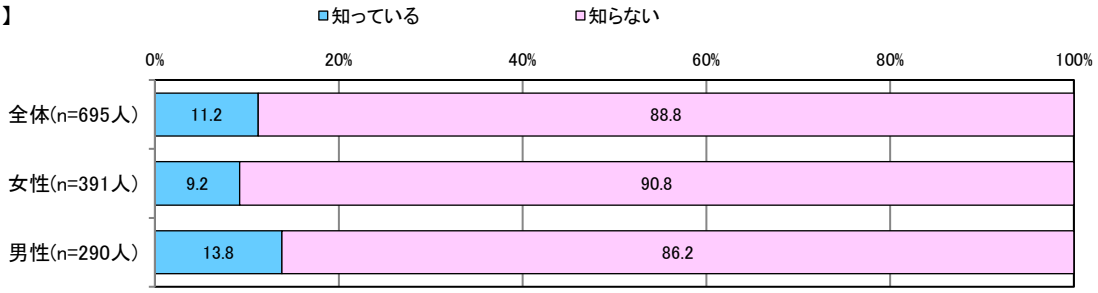
・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（警察安全相談窓口）」（42.3%）で、約４割となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」（38.8%）、「長野県児童虐待・ＤＶ２４時間ホットライン」（14.7%）、「長野県女性相談センター」（12.7%）、「みんなの人権 110 番」（12.4%）、「長野市福祉事務所」（9.2%）と続いている。
・性別でみると、男性は、「県警（警察安全相談窓口）」（47.9%）が約５割と最も多くなっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」（38.6%）、「長野県児童虐待・ＤＶ２４時間ホットライン」（16.2%）、「みんなの人権 110 番」（14.8%）となっており、一方、女性は、「相談できる窓口は知らない」（39.6%）が最も多く、次いで、「県警（警察安全相談窓口）」（38.6%）、「長野県女性相談センター」（14.8%）、「長野県児童虐待・ＤＶ２４時間ホットライン」（13.6%）の順となり、男女の認知度に差がある。



＜ＤＶ被害に対する市の対応窓口の認知度＞

・問 38 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答は、約１割（11.2%）となっている。
・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答は、「男性」（13.8%）の方が「女性」（9.2%）よりやや多くなっている。
・世代別性別でみると、25 歳～29 歳の男性、60 歳～69 歳の男性の世代で、「知っている」回答割合が２割を超えている。

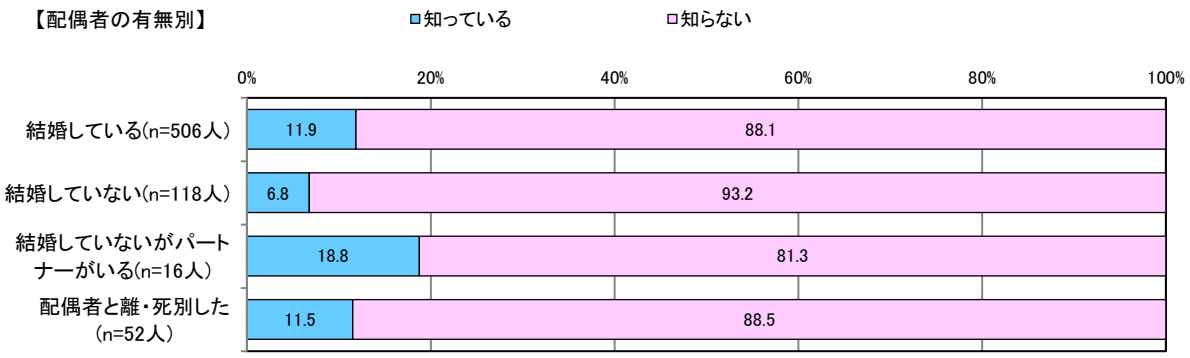
【性別】



【世代別性別】



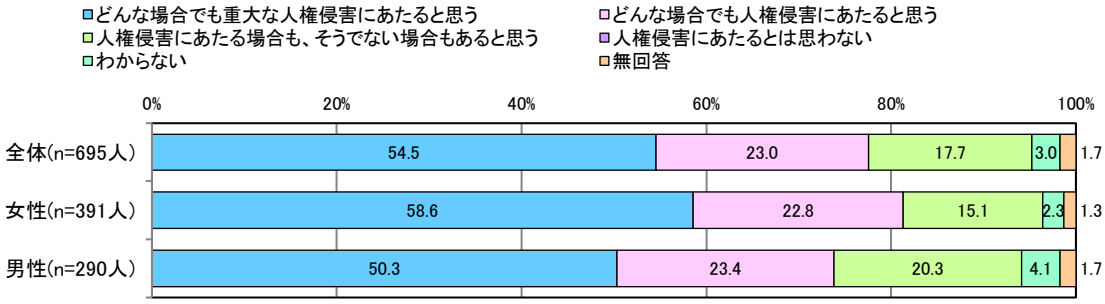
・配偶者の有無別でみると、いずれも「知っている」が２割未満であった。特に、「結婚していない」では、6.8%となっている。



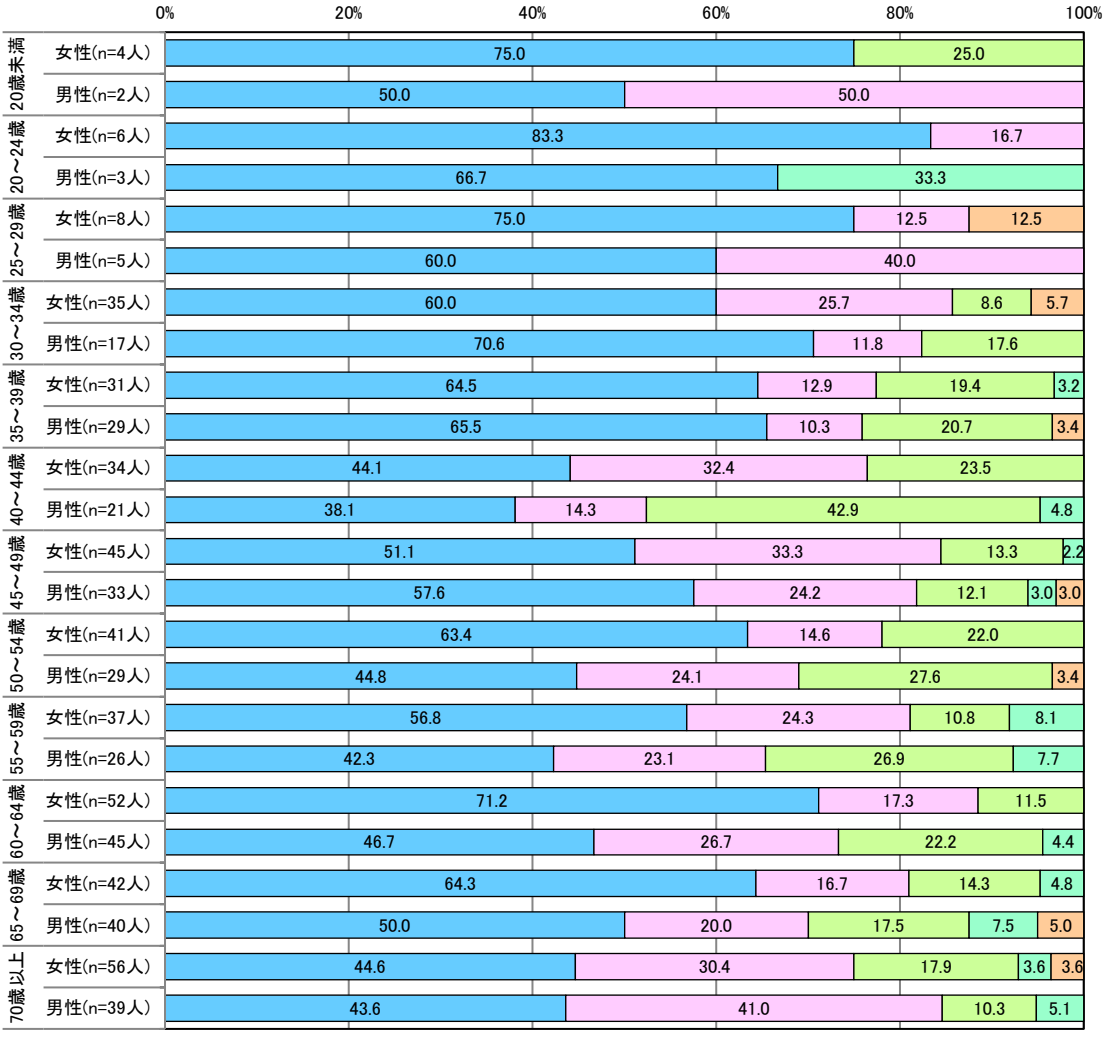
問 39　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。（○は１つ）

・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」（54.5%）が最も多い回答となり、約５割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（23.0%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（17.7%）と続いている。
・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」となり、次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が２番目に多い回答となっている。
・世代別性別でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答は、40 歳～44 歳の男性を除く、いずれの世代でも４割以上と最も多い回答となっている。

【性別】

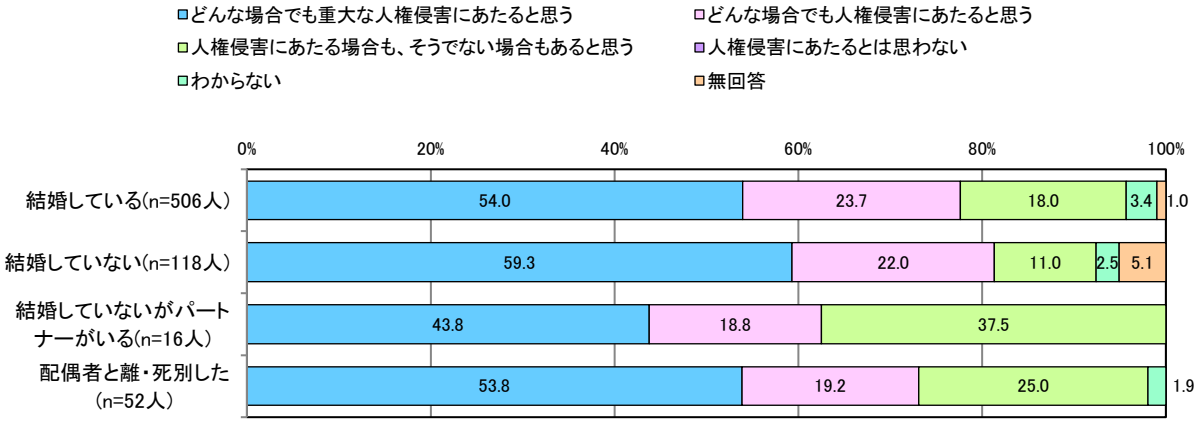


【世代別性別】



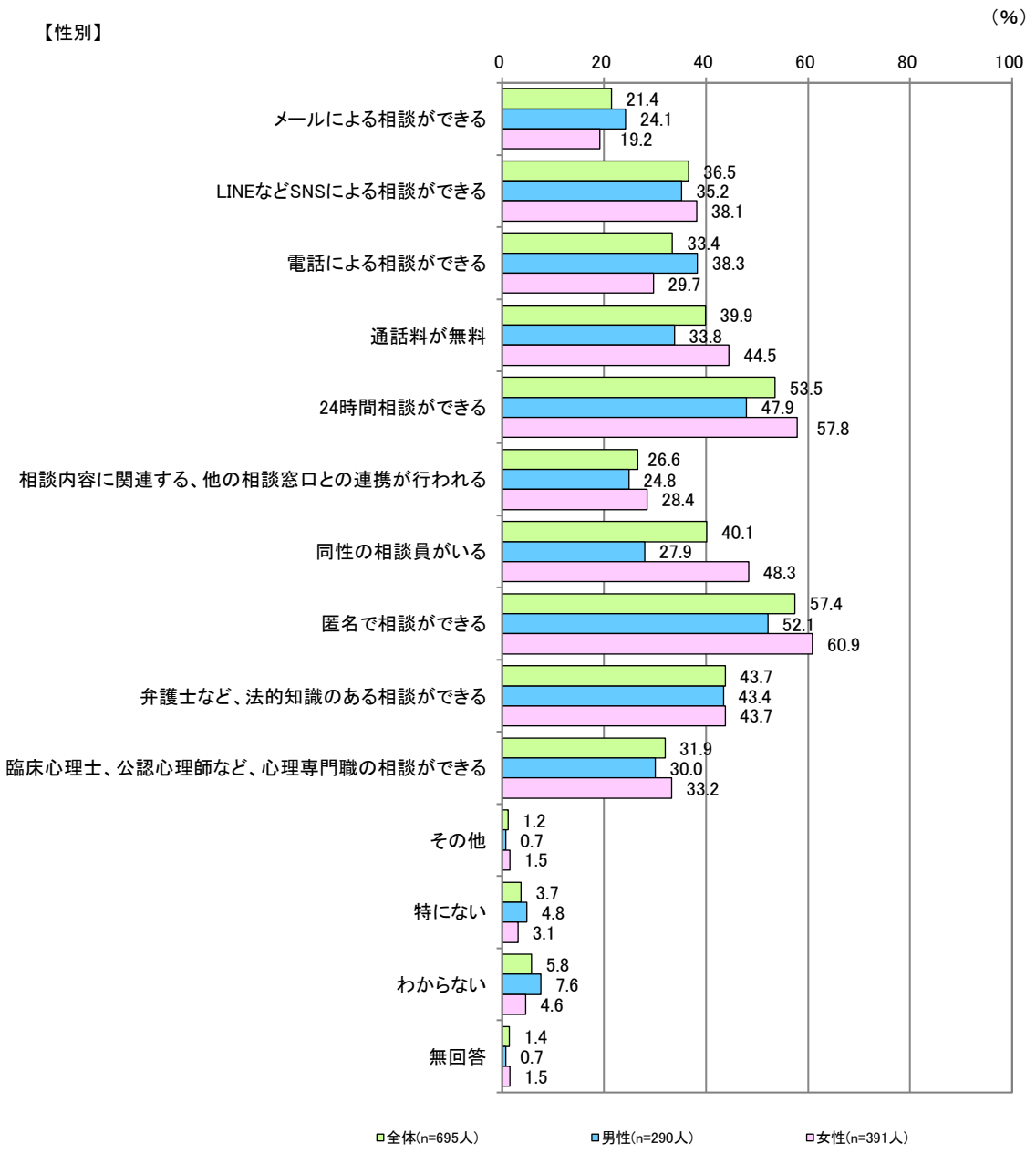
・配偶者の有無別でみると、いずれも、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、４割以上となっている。

【配偶者の有無別】



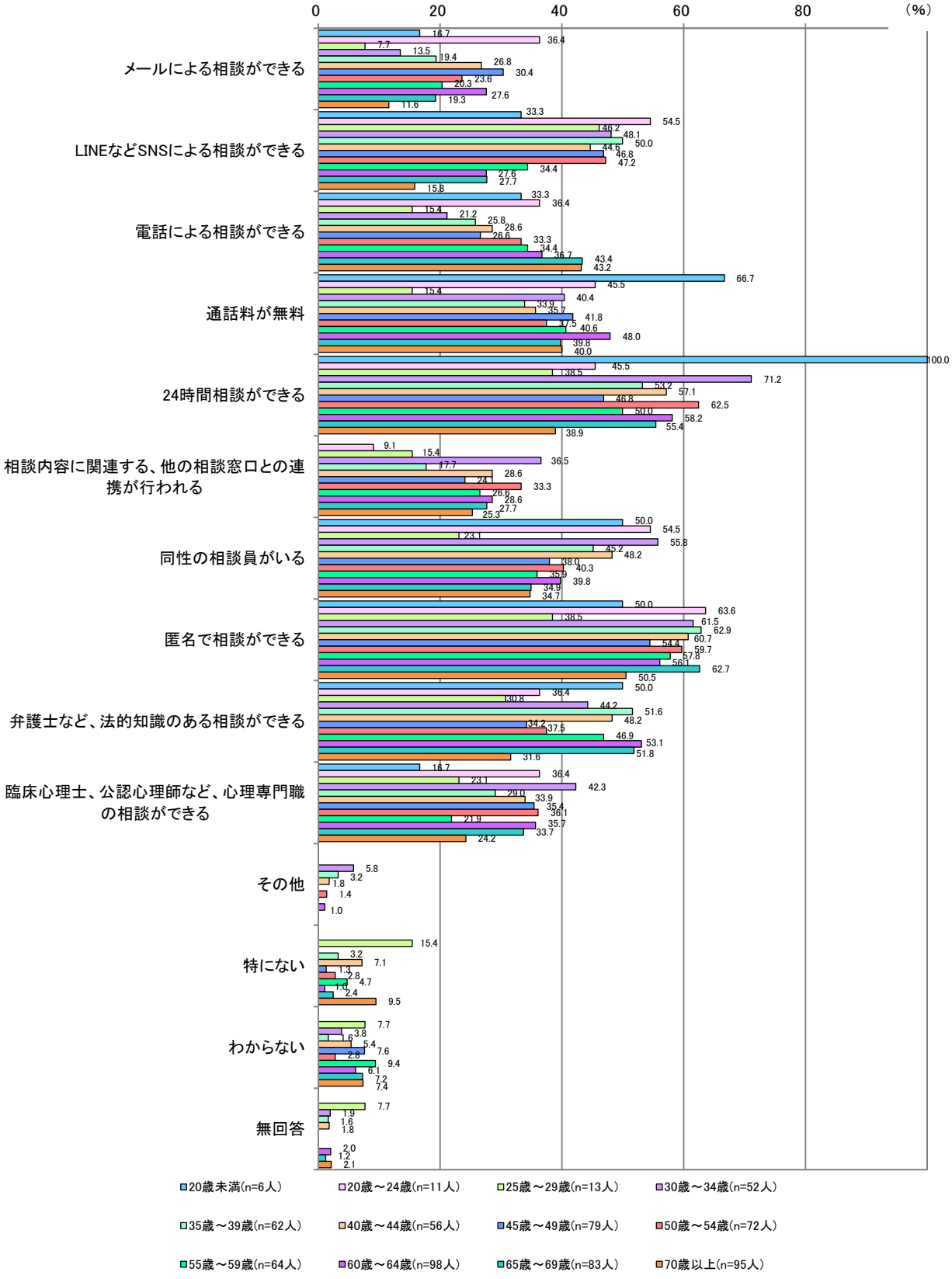
問 40　あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。（○はいくつでも）

・全体でみると、最も回答が多かったのは「匿名で相談ができる」（57.4%）で、約６割となっている。次いで、「24 時間相談ができる」（53.5%）、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」（43.7%）、「同性の相談員がいる」（40.1%）、「通話料が無料」（39.9%）、「LINE など SNS による相談ができる」（36.5%）と続いている。
・性別でみると、男女ともに、「匿名で相談ができる」が最も多くなっている。次いで、男性は、「24 時間相談ができる」、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」、女性は、「24 時間相談ができる」、「同性の相談員がいる」となっている。
・「同性の相談員がいる」という回答では、女性の回答割合が約５割と、男性よりも高くなっている。



・年代別でみると、20 歳未満、25 歳～29 歳、50 歳～54 歳、60 歳～64 歳を除く世代で、「匿名で相談ができる」が最も多い回答となっている。20 歳未満、50 歳～54 歳、60 歳～64 歳では、「24 時間相談ができる」が最も多くなっている。25 歳～29 歳では、「LINE など SNS による相談ができる」が最も多くなっている。

【年代別】

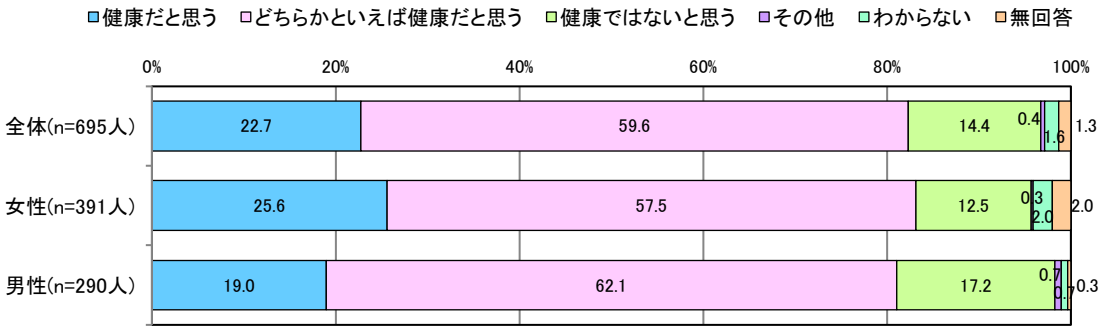


「健康」に関することについて

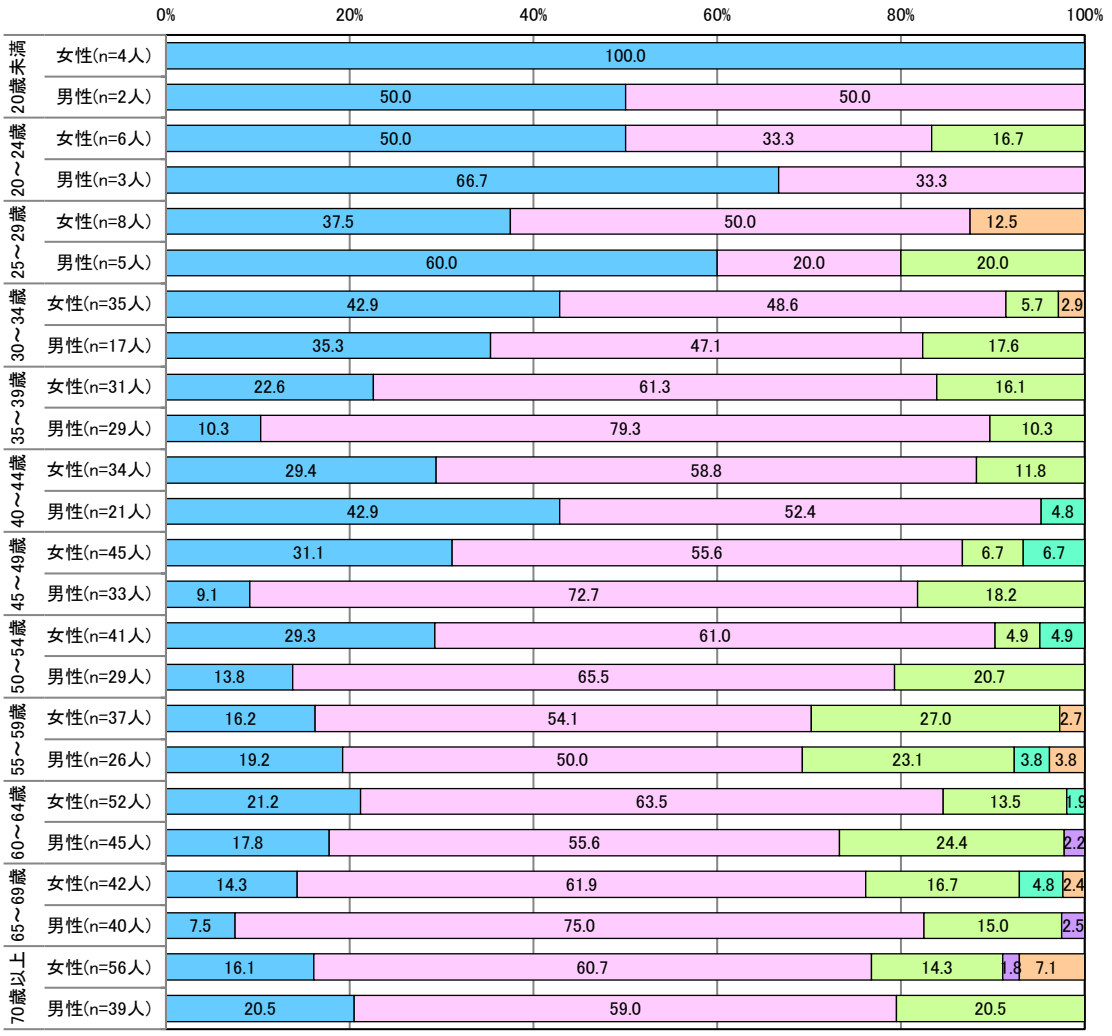
問 41　あなたは自分が健康だと思いますか。

・全体でみると、「どちらかといえば健康だと思う」（59.6%）が最も多い回答となっており、約６割となる。次いで、「健康だと思う」（22.7%）、「健康ではないと思う」（14.4%）と続いている。
・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どちらかといえば健康だと思う」となり、次いで、「健康だと思う」が２番目に多い回答になっている。
・世代別性別でみると、「健康だと思う」という回答は、20 歳未満の男女、20 歳～24 歳の男女、25 歳～29 歳の男性では、５割以上と最も多い回答となっている。

【性別】



【世代別性別】



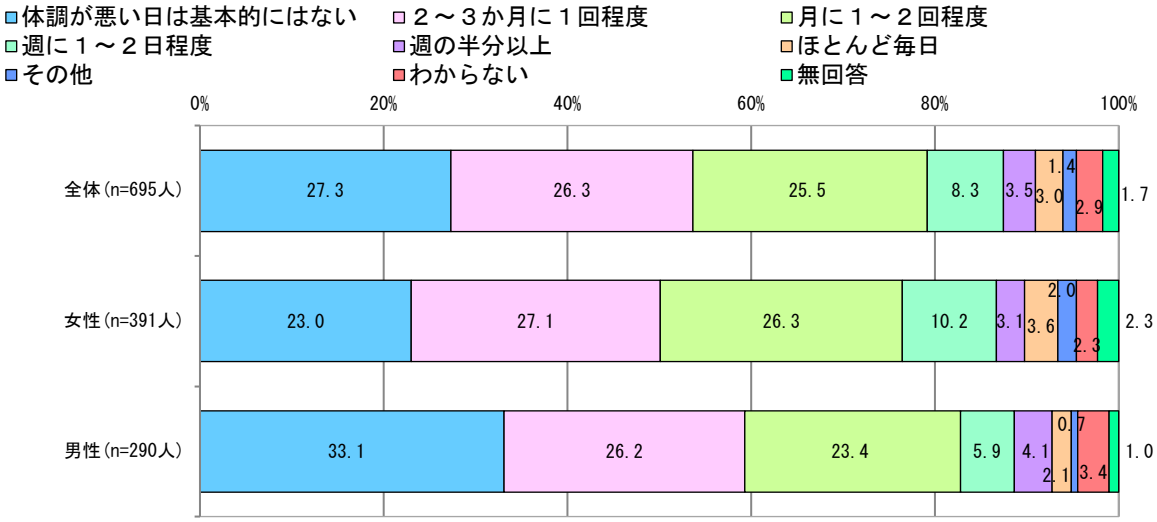
問 42　体調が悪い日はどのくらいの割合でありますか。

・全体でみると、最も回答が多かったのは、「体調が悪い日は基本的にはない」（27.3%）で、最も多くなっている。次いで、「２～３か月に１回程度」（26.3%）、「月に１～２回程度」（25.5%）、「週に１～２日程度」（8.3%）と続いている。

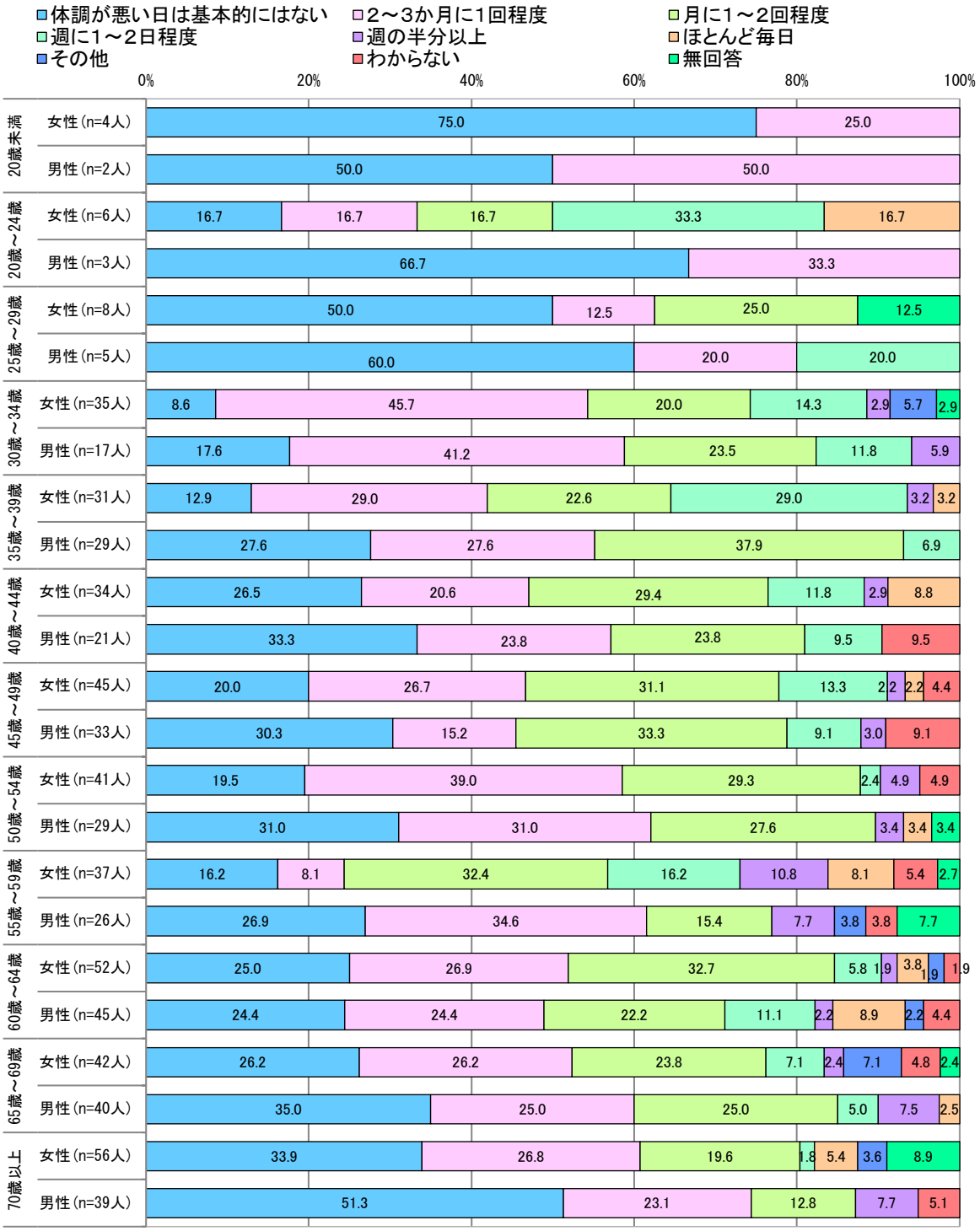
・性別でみると、男性は、「体調が悪い日は基本的にはない」（33.1%）が最も多くなっている。一方、女性は、「２～３か月に１回程度」（27.1%）が最も多くなっている。

・世代別性別でみると、20 歳未満の女性、20 歳～29 歳の男性で、「体調が悪い日は基本的にはない」が６割を超えて、最も多い回答となっている。20 歳～24 歳の女性、35 歳～39 歳の女性では、「週に１～２日程度」が最も多くなっている。

【性別】



【世代別性別】

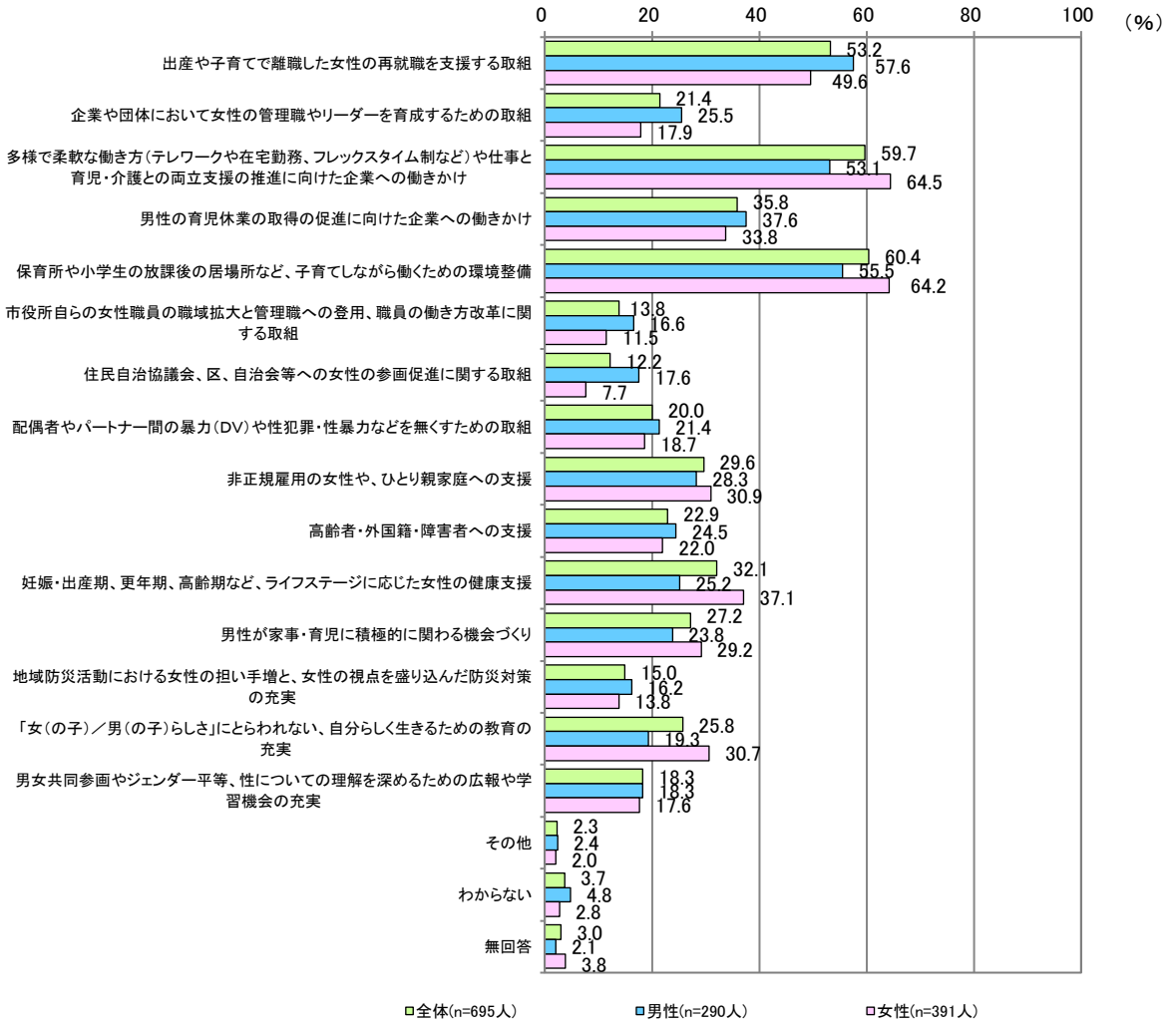

体調が悪い日は基本的にはない
2～3か月に1回程度
月に1～2回程度
週に1～2日程度
週の半分以上
ほとんど毎日
その他
わからない
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
20歳未満
女性（n=4人） 75.0 25.0
男性（n=2人） 50.0 50.0
20歳～24歳
女性（n=6人） 16.7 16.7 16.7 33.3 16.7
男性（n=3人） 66.7 33.3
25歳～29歳
女性（n=8人） 50.0 12.5 25.0 12.5
男性（n=5人） 60.0 20.0 20.0
30歳～34歳
女性（n=35人） 8.6 45.7 20.0 14.3 2.9 5.7 2.9
男性（n=17人） 17.6 41.2 23.5 11.8 5.9
35歳～39歳
女性（n=31人） 12.9 29.0 22.6 29.0 3.2 3.2
男性（n=29人） 27.6 27.6 37.9 6.9
40歳～44歳
女性（n=34人） 26.5 20.6 29.4 11.8 2.9 8.8
男性（n=21人） 33.3 23.8 23.8 9.5 9.5
45歳～49歳
女性（n=45人） 20.0 26.7 31.1 13.3 2.2 2.2 4.4
男性（n=33人） 30.3 15.2 33.3 9.1 3.0 9.1
50歳～54歳
女性（n=41人） 19.5 39.0 29.3 2.4 4.9 4.9
男性（n=29人） 31.0 31.0 27.6 3.4 3.4 3.4
55歳～59歳
女性（n=37人） 16.2 8.1 32.4 16.2 10.8 8.1 5.4 2.7
男性（n=26人） 26.9 34.6 15.4 7.7 3.8 3.8 7.7
60歳～64歳
女性（n=52人） 25.0 26.9 32.7 5.8 1.9 3.8 1.9 1.9
男性（n=45人） 24.4 24.4 22.2 11.1 2.2 8.9 2.2 4.4
65歳～69歳
女性（n=42人） 26.2 26.2 23.8 7.1 2.4 7.1 4.8 2.4
男性（n=40人） 35.0 25.0 25.0 5.0 7.5 2.5
70歳以上
女性（n=56人） 33.9 26.8 19.6 1.8 5.4 3.6 8.9
男性（n=39人） 51.3 23.1 12.8 7.7 5.1

男女共同参画施策に関することについて

問 43　女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（○はいくつでも）

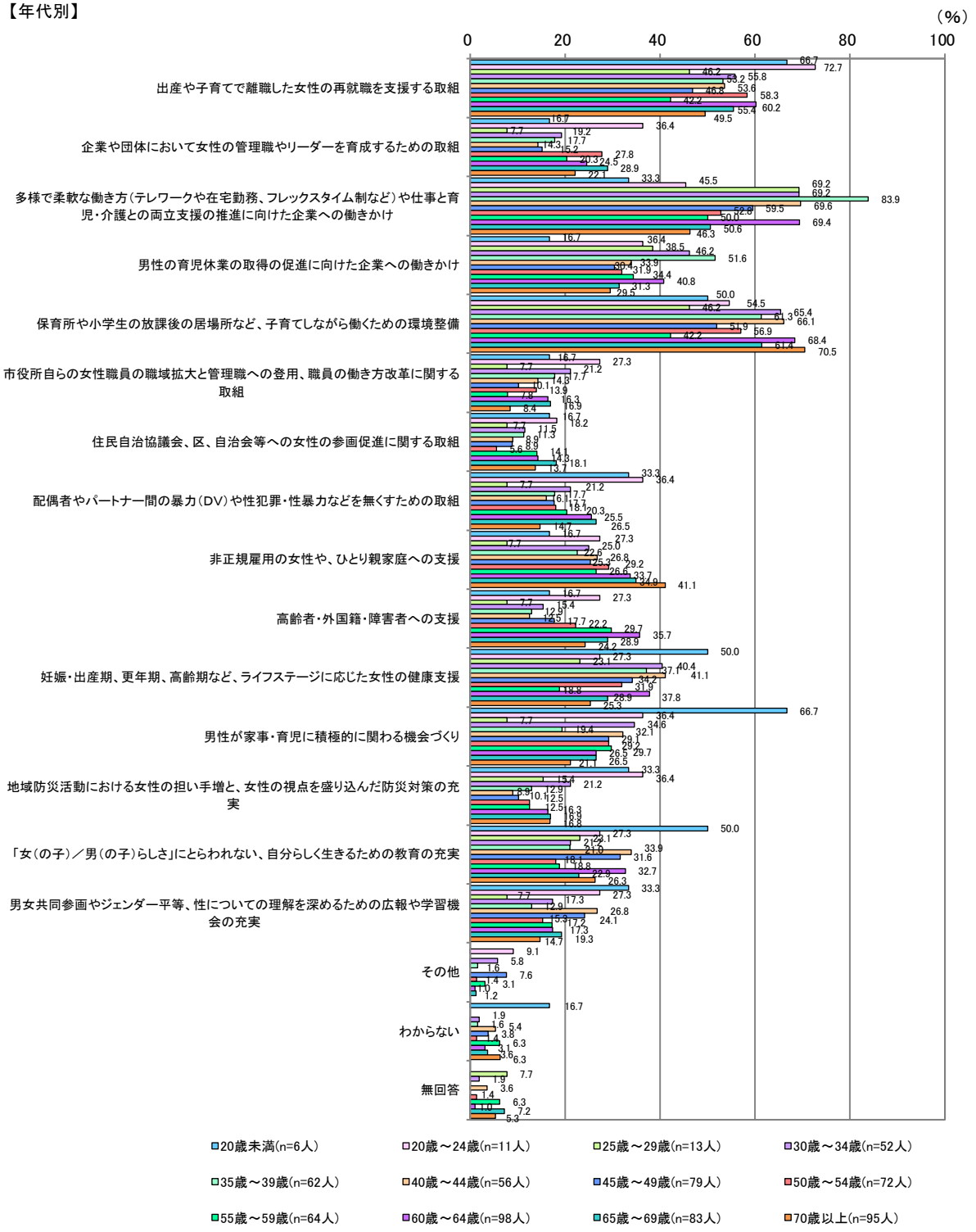
・全体でみると、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（60.4%）が最も多く、６割以上となっている。次いで、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（59.7%）、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（53.2%）となっている。
・性別でみると、男性は、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（57.6%）が最も多くなっている。次いで、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（55.5%）、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（53.1%）と続いている。一方、女性は、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（64.5%）が最も多くなっている。次いで、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（64.2%）と続いている。

【性別】



・年代別でみると、20 歳未満、20 歳～24 歳、50 歳～54 歳、65 歳以上を除くいずれの世代でも、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」が最も多くなっている。20 歳未満では、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」、「男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり」が同率で最も多く、20 歳～24 歳、50 歳～54 歳では、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」が最も多くなっている。一方、65 歳以上では、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」が最も多くなっている。

【年代別】



資　　料

単純集計

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	695	34.8%

あなた自身のことについておたずねします。

F1　あなたの性別を教えてください。（○は1つ）※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性	391	56.3%
②男性	290	41.7%
③その他	0	0.0%
④回答したくない	9	1.3%
無回答	5	0.7%
合計	695	100.0%

F2　あなたの年齢について教えてください。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①20歳未満	6	0.9%
②20歳～24歳	11	1.6%
③25歳～29歳	13	1.9%
④30歳～34歳	52	7.5%
⑤35歳～39歳	62	8.9%
⑥40歳～44歳	56	8.1%
⑦45歳～49歳	79	11.4%
⑧50歳～54歳	72	10.4%
⑨55歳～59歳	64	9.2%
⑩60歳～64歳	98	14.1%
⑪65歳～69歳	83	11.9%
⑫70歳以上	95	13.7%
無回答	4	0.6%
合計	695	100.0%

F3　あなたの職業を教えてください。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	17	2.4%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	24	3.5%
③自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）	9	1.3%
④会社役員・経営者	36	5.2%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	273	39.3%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	178	25.6%
⑦家事専業者	57	8.2%
⑧学生	10	1.4%
⑨無職	77	11.1%
⑩その他	11	1.6%
無回答	3	0.4%
合計	695	100.0%

F4　あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯（含単身赴任）	78	11.2%
②一世代世帯（夫婦・カップルだけ）	204	29.4%
③二世代世帯（親と子）	349	50.2%
④三世代世帯（親と子と孫）	54	7.8%
⑤その他	4	0.6%
無回答	6	0.9%
合計	695	100.0%

F5　あなたは現在、結婚していますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	506	72.8%
②結婚していない	118	17.0%
③結婚していないがパートナーがいる	16	2.3%
④配偶者と離・死別した	52	7.5%
無回答	3	0.4%
合計	695	100.0%

F6　あなたにお子さんはいらっしゃいますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①いる	488	70.2%
②いない	195	28.1%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

F7　配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①いる（正規の社員・職員）	243	46.6%
②いる（非正規：勤務時間は正規雇用と同じ）	37	7.1%
③いる（非正規：パート・アルバイト）	103	19.7%
④いる（その他）	28	5.4%
⑤いない	108	20.7%
無回答	3	0.6%
合計	522	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1　あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。（それぞれ○は1つ）

1家庭生活

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	74	10.6%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	296	42.6%
③平等である	226	32.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	27	3.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	9	1.3%
⑥わからない	45	6.5%
無回答	18	2.6%
合計	695	100.0%

2学校教育の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	6	0.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	88	12.7%
③平等である	409	58.8%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	29	4.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.6%
⑥わからない	139	20.0%
無回答	20	2.9%
合計	695	100.0%

3地域社会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	45	6.5%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	330	47.5%
③平等である	186	26.8%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	43	6.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	8	1.2%
⑥わからない	68	9.8%
無回答	15	2.2%
合計	695	100.0%

4職場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	54	7.8%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	290	41.7%
③平等である	234	33.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	34	4.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	14	2.0%
⑥わからない	56	8.1%
無回答	13	1.9%
合計	695	100.0%

5法律や制度の上

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	46	6.6%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	249	35.8%
③平等である	239	34.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	37	5.3%
⑤女性の方が非常に優遇されている	15	2.2%
⑥わからない	91	13.1%
無回答	18	2.6%
合計	695	100.0%

6社会通念・慣習・しきたり

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	133	19.1%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	393	56.5%
③平等である	87	12.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	21	3.0%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.6%
⑥わからない	45	6.5%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

7政治の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	171	24.6%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	345	49.6%
③平等である	105	15.1%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	7	1.0%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.6%
⑥わからない	51	7.3%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

8社会全体

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	75	10.8%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	403	58.0%
③平等である	123	17.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	22	3.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	6	0.9%
⑥わからない	55	7.9%
無回答	11	1.6%
合計	695	100.0%

問2　次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。（それぞれ○は1つ）

1　男女共同参画社会基本法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	214	30.8%
②聞いたことがある	322	46.3%
③知らない	151	21.7%
無回答	8	1.2%
合計	695	100.0%

2　女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	159	22.9%
②聞いたことがある	291	41.9%
③知らない	233	33.5%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

3　DV防止法(配偶者からの暴力及び被害者の保護等に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	350	50.4%
②聞いたことがある	292	42.0%
③知らない	41	5.9%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

4　困難女性支援法(困難な問題を抱える女性への支援に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	76	10.9%
②聞いたことがある	163	23.5%
③知らない	447	64.3%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

5　女子差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	81	11.7%
②聞いたことがある	196	28.2%
③知らない	404	58.1%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

6　長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	84	12.1%
②聞いたことがある	275	39.6%
③知らない	322	46.3%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

7　ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	50	7.2%
②聞いたことがある	161	23.2%
③知らない	470	67.6%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

8　ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	461	66.3%
②聞いたことがある	196	28.2%
③知らない	26	3.7%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

9　アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	121	17.4%
②聞いたことがある	148	21.3%
③知らない	417	60.0%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

問3　「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	12	1.7%
②どちらかといえば賛成	95	13.7%
③どちらかといえば反対	228	32.8%
④反対	279	40.1%
⑤わからない	73	10.5%
無回答	8	1.2%
合計	695	100.0%

問4　日常の生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①よくある	106	15.3%
②たまにある	386	55.5%
③ない	197	28.3%
無回答	6	0.9%
合計	695	100.0%

問4で「1.よくある」または「2.たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5　どのような場で言われたり、期待されたりしますか。（○はいくつでも）

選択肢	回答数	回答割合
①家庭	229	46.5%
②職場	223	45.3%
③学校	35	7.1%
④地域・近隣	202	41.1%
⑤友人関係	33	6.7%
⑥親族関係	197	40.0%
⑦社会全体（メディアや広告など）	124	25.2%
⑧その他	10	2.0%
無回答	1	0.2%
対象数	492	－

問6　それは、どのような内容に関することですか。（○はいくつでも）

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	130	26.4%
②容姿（顔立ち、体つきなど）	97	19.7%
③服装や身だしなみ	128	26.0%
④行動の仕方	223	45.3%
⑤感情表現（泣く、怒るなど）	73	14.8%
⑥進学、進路選択	38	7.7%
⑦ライフイベント（結婚、出産など）	143	29.1%
⑧趣味やスポーツ	26	5.3%
⑨家事・育児・介護	274	55.7%
⑩働き方や仕事内容	218	44.3%
⑪お金（収入や支出に関すること）	107	21.7%
⑫その他	6	1.2%
無回答	3	0.6%
対象数	492	－

問7　日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①よく感じる	44	8.9%
②たまに感じる	266	54.1%
③感じない	180	36.6%
無回答	2	0.4%
合計	492	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8　子ども時代に「女の子／男の子だから○○しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①あった	465	66.9%
②なかった	97	14.0%
③覚えていない	129	18.6%
無回答	4	0.6%
合計	695	100.0%

問8で「1.あった」を選ばれた方におたずねします。

問9　それは、誰に言われましたか。（○はいくつでも）

選択肢	回答数	回答割合
①母親	345	74.2%
②父親	248	53.3%
③兄弟姉妹	37	8.0%
④祖母	154	33.1%
⑤祖父	81	17.4%
⑥その他の親族	135	29.0%
⑦近隣住民	78	16.8%
⑧学校の先生	178	38.3%
⑨クラブや習い事の先生	47	10.1%
⑩友人や同じ学校の児童・生徒	65	14.0%
⑪その他	7	1.5%
無回答	0	0.0%
対象数	465	－

問10　それは、どのような内容に関することですか。（○はいくつでも）

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	215	46.2%
②容姿（顔立ち、体つきなど）	100	21.5%
③服装や身だしなみ	216	46.5%
④行動の仕方	306	65.8%
⑤感情表現（泣く、怒るなど）	135	29.0%
⑥進学、進路選択	102	21.9%
⑦ライフイベント（結婚、出産など）	103	22.2%
⑧趣味やスポーツ	49	10.5%
⑨家事・育児・介護	124	26.7%
⑩働き方や仕事内容	98	21.1%
⑪お金（収入や支出に関すること）	50	10.8%
⑫その他	4	0.9%
無回答	0	0.0%
対象数	465	－

問11　子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①影響した	105	22.6%
②少し影響した	184	39.6%
③影響しなかった	176	37.8%
合計	465	

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12　一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	3	0.4%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	12	1.7%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	23	3.3%
④子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい	354	50.9%
⑤子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	127	18.3%
⑥その他	113	16.3%
⑦わからない	55	7.9%
無回答	8	1.2%
合計	695	100.0%

職場における「女性活躍と就労」に関することでおたずねします。

問13　方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	438	63.0%
②どちらかといえば必要だと思う	226	32.5%
③必要ないと思う	22	3.2%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問14　あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。（それぞれ○は1つ）

1　賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	44	8.0%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	130	23.7%
③平等である	298	54.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	2	0.4%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.4%
⑥わからない	52	9.5%
無回答	20	3.6%
合計	548	100.0%

2　昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	60	10.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	187	34.1%
③平等である	215	39.2%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	10	1.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	53	9.7%
無回答	22	4.0%
合計	548	100.0%

3　仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	26	4.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	105	19.2%
③平等である	277	50.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	59	10.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	13	2.4%
⑥わからない	45	8.2%
無回答	23	4.2%
合計	548	100.0%

4　研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	17	3.1%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	70	12.8%
③平等である	375	68.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	10	1.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.5%
⑥わからない	50	9.1%
無回答	23	4.2%
合計	548	100.0%

5　経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	28	5.1%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	121	22.1%
③平等である	314	57.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	8	1.5%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.7%
⑥わからない	50	9.1%
無回答	23	4.2%
合計	548	100.0%

問15　あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①進んでいる	192	35.0%
②どちらかといえば進んでいる	181	33.0%
③あまり進んでいない	77	14.1%
④進んでいない	36	6.6%
⑤わからない	43	7.8%
無回答	19	3.5%
合計	548	100.0%

問16　今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。（それぞれ○は1つ）

1　あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	144	26.3%
②やや思う	206	37.6%
③あまり思わない	121	22.1%
④思わない	40	7.3%
⑤わからない	13	2.4%
無回答	24	4.4%
合計	548	100.0%

2　現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	103	18.8%
②やや思う	237	43.2%
③あまり思わない	102	18.6%
④思わない	75	13.7%
⑤わからない	10	1.8%
無回答	21	3.8%
合計	548	100.0%

3　女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	117	21.4%
②やや思う	213	38.9%
③あまり思わない	115	21.0%
④思わない	66	12.0%
⑤わからない	15	2.7%
無回答	22	4.0%
合計	548	100.0%

4　仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	116	21.2%
②やや思う	165	30.1%
③あまり思わない	146	26.6%
④思わない	71	13.0%
⑤わからない	24	4.4%
無回答	26	4.7%
合計	548	100.0%

5　管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	76	13.9%
②やや思う	91	16.6%
③あまり思わない	143	26.1%
④思わない	181	33.0%
⑤わからない	30	5.5%
無回答	27	4.9%
合計	548	100.0%

6　退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	35	6.4%
②やや思う	62	11.3%
③あまり思わない	119	21.7%
④思わない	233	42.5%
⑤わからない	74	13.5%
無回答	25	4.6%
合計	548	100.0%

7　女性も管理職として活躍している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	149	27.2%
②やや思う	189	34.5%
③あまり思わない	97	17.7%
④思わない	54	9.9%
⑤わからない	32	5.8%
無回答	27	4.9%
合計	548	100.0%

8　女性の管理職の部下には、なりたくない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	25	4.6%
②やや思う	31	5.7%
③あまり思わない	141	25.7%
④思わない	293	53.5%
⑤わからない	34	6.2%
無回答	24	4.4%
合計	548	100.0%

現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問17　女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。（それぞれ○は1つ）

1　女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	184	27.0%
②まあ重要だと思う	326	47.8%
③重要だと思わない	90	13.2%
④わからない	33	4.8%
無回答	49	7.2%
合計	682	100.0%

2　女性社員・職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	217	31.8%
②まあ重要だと思う	303	44.4%
③重要だと思わない	70	10.3%
④わからない	34	5.0%
無回答	58	8.5%
合計	682	100.0%

3　非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	267	39.1%
②まあ重要だと思う	277	40.6%
③重要だと思わない	48	7.0%
④わからない	32	4.7%
無回答	58	8.5%
合計	682	100.0%

4　在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	338	49.6%
②まあ重要だと思う	216	31.7%
③重要だと思わない	47	6.9%
④わからない	26	3.8%
無回答	55	8.1%
合計	682	100.0%

5　出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	383	56.2%
②まあ重要だと思う	202	29.6%
③重要だと思わない	29	4.3%
④わからない	14	2.1%
無回答	54	7.9%
合計	682	100.0%

6　企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	315	46.2%
②まあ重要だと思う	241	35.3%
③重要だと思わない	41	6.0%
④わからない	28	4.1%
無回答	57	8.4%
合計	682	100.0%

7　女性特有の健康課題への配慮

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	335	49.1%
②まあ重要だと思う	247	36.2%
③重要だと思わない	29	4.3%
④わからない	17	2.5%
無回答	54	7.9%
合計	682	100.0%

離職されている方におたずねします。

問18　再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①正規の社員・職員	15	11.2%
②派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員	14	10.4%
③パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）	55	41.0%
④その他	8	6.0%
無回答	42	31.3%
合計	134	100.0%

問18で「2・派遣・嘱託などの社員・職員」または「3・パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

問19　その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は3つまで）

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから	9	13.0%
②正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから	9	13.0%
③仕事より家庭生活を優先したいから	37	53.6%
④時間外勤務や休日出勤を避けたいから	24	34.8%
⑤配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから	16	23.2%
⑥積極的に仕事に就くつもりがないから	28	40.6%
⑦その他	6	8.7%
無回答	0	0.0%
対象数	69	－

離職経験のある方におたずねします。

問20　離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（○は3つまで）

選択肢	回答数	回答割合
①結婚	100	24.9%
②出産	105	26.1%
③育児	67	16.7%
④看護	5	1.2%
⑤介護	40	10.0%
⑥転職・起業	86	21.4%
⑦配偶者の転勤	26	6.5%
⑧健康上の理由	58	14.4%
⑨給料が少ない	49	12.2%
⑩定年退職	55	13.7%
⑪解雇等職場の都合	31	7.7%
⑫特に理由はない	14	3.5%
⑬その他	43	10.7%
対象数	402	－

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21　女性の職業生活における活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（○は3つまで）

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児などと仕事の両立が難しい	569	81.9%
②女性が就ける仕事が限られている	109	15.7%
③活躍したいと思える仕事がない	32	4.6%
④活躍を望む女性が少ない	121	17.4%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	73	10.5%
⑥結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い	370	53.2%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	255	36.7%
⑧家族の理解が不十分	130	18.7%
⑨その他	27	3.9%
⑩わからない	27	3.9%
無回答	7	1.0%
対象数	695	－

問22　女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（○は3つまで）

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	103	14.8%
②能力開発、自己啓発	76	10.9%
③働き方改革の推進	214	30.8%
④福利厚生の充実	166	23.9%
⑤賃金の男女平等	207	29.8%
⑥正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消	116	16.7%
⑦家族の理解や協力	277	39.9%
⑧職場の理解や協力	256	36.8%
⑨経営者・管理職の意識改革	123	17.7%
⑩女性自身の意識改革	105	15.1%
⑪育児・介護に関する制度の充実	261	37.6%
⑫ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人）	29	4.2%
⑬その他	6	0.9%
⑭わからない	11	1.6%
無回答	10	1.4%
対象数	695	－

問23　出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（○は3つまで）

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	372	53.5%
②求人情報や就職ガイダンスの充実	59	8.5%
③再就職に関する相談体制の充実	156	22.4%
④再就職のための講座やセミナーの充実	55	7.9%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	571	82.2%
⑥保育所などの保育施設の充実	410	59.0%
⑦その他	10	1.4%
⑧わからない	14	2.0%
無回答	14	2.0%
対象数	695	－

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。

問24　あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	389	56.0%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	215	30.9%
③知らない	86	12.4%
無回答	5	0.7%
合計	695	100.0%

問25 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、
あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	23	3.3%
②「家庭生活」優先	170	24.5%
③「地域活動・個人の生活」優先	17	2.4%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	259	37.3%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	25	3.6%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	46	6.6%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	144	20.7%
無回答	11	1.6%
合計	695	100.0%

問26 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、
あなたの現実（現状）の生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	175	25.2%
②「家庭生活」優先	188	27.1%
③「地域活動・個人の生活」優先	26	3.7%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	196	28.2%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	31	4.5%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	27	3.9%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	38	5.5%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

問27あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ○は1つ）

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	347	49.9%
②自分と家族が同じ程度している	162	23.3%
③自分は手伝い程度している	135	19.4%
④していない	42	6.0%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	337	48.5%
②自分と家族が同じ程度している	126	18.1%
③自分は手伝い程度している	121	17.4%
④していない	99	14.2%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	319	45.9%
②自分と家族が同じ程度している	204	29.4%
③自分は手伝い程度している	108	15.5%
④していない	52	7.5%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

4　食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	354	50.9%
②自分と家族が同じ程度している	97	14.0%
③自分は手伝い程度している	127	18.3%
④していない	107	15.4%
無回答	10	1.4%
合計	695	100.0%

5　食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	332	47.8%
②自分と家族が同じ程度している	168	24.2%
③自分は手伝い程度している	133	19.1%
④していない	51	7.3%
無回答	11	1.6%
合計	695	100.0%

6　ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	316	45.5%
②自分と家族が同じ程度している	165	23.7%
③自分は手伝い程度している	121	17.4%
④していない	83	11.9%
無回答	10	1.4%
合計	695	100.0%

問28　あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護)はどの程度ですか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	177	25.5%
②1～2時間未満	197	28.3%
③2～3時間未満	149	21.4%
④3～5時間未満	94	13.5%
⑤5時間以上	69	9.9%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

問29　あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護)はどの程度ですか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	100	14.4%
②1～2時間未満	176	25.3%
③2～3時間未満	178	25.6%
④3～5時間未満	125	18.0%
⑤5時間以上	108	15.5%
無回答	8	1.2%
合計	695	100.0%

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問30　あなたは育児または介護をどの程度していますか。それぞれ○は1つ

1　育児（お孫さんを含む）

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	85	22.5%
②自分と家族が同じ程度している	57	15.1%
③自分は手伝い程度している	94	24.9%
④していない	142	37.6%
合計	378	100.0%

2　介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	34	9.0%
②自分と家族が同じ程度している	23	6.1%
③自分は手伝い程度している	30	7.9%
④していない	291	77.0%
合計	378	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31　男性が「育児・介護休業制度」を利用する割合が女性より低いのは、どうしてだと思いますか。（○は3つまで）

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	400	57.6%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	362	52.1%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	364	52.4%
④育児、介護は女性の方が向いているから	117	16.8%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	149	21.4%
⑥その他	37	5.3%
⑦わからない	41	5.9%
無回答	10	1.4%
対象数	695	－

問32　今後、男女ともにワーク・ライフ・バランスを進めていくためには、
　　どのようなことが重要だと思いますか。（○は3つまで）

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	323	46.5%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	296	42.6%
③労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	355	51.1%
④社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	233	33.5%
⑤働きやすい環境を整備するための情報提供、研修、講習会等を行う	114	16.4%
⑥相談しやすい窓口を設ける	60	8.6%
⑦官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	202	29.1%
⑧その他	27	3.9%
⑨特に必要なことはない	9	1.3%
⑩わからない	25	3.6%
無回答	9	1.3%
対象数	695	－

「地域社会」に関することでおたずねします。

問33　あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。（それぞれ○は1つ）

1　自治会やPTAの会長は、男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	125	18.0%
②そうではない	259	37.3%
③わからない	299	43.0%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

2　自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	306	44.0%
②そうではない	176	25.3%
③わからない	201	28.9%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

3　役員選考や組織の運営事項は、男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	96	13.8%
②そうではない	282	40.6%
③わからない	303	43.6%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

4　実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	142	20.4%
②そうではない	196	28.2%
③わからない	347	49.9%
無回答	10	1.4%
合計	695	100.0%

5　女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	145	20.9%
②そうではない	158	22.7%
③わからない	382	55.0%
無回答	10	1.4%
合計	695	100.0%

6　女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	30	4.3%
②そうではない	261	37.6%
③わからない	395	56.8%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

問34　あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。(それぞれ○は1つ)

1　自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	303	43.6%
②女性	4	0.6%
③男性も女性も	197	28.3%
④わからない	182	26.2%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

2　自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	206	29.6%
②女性	8	1.2%
③男性も女性も	290	41.7%
④わからない	182	26.2%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

3　PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	59	8.5%
②女性	82	11.8%
③男性も女性も	240	34.5%
④わからない	304	43.7%
無回答	10	1.4%
合計	695	100.0%

4　PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	37	5.3%
②女性	87	12.5%
③男性も女性も	254	36.5%
④わからない	304	43.7%
無回答	13	1.9%
合計	695	100.0%

5　育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	49	7.1%
②女性	141	20.3%
③男性も女性も	215	30.9%
④わからない	280	40.3%
無回答	10	1.4%
合計	695	100.0%

6　育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	34	4.9%
②女性	134	19.3%
③男性も女性も	240	34.5%
④わからない	274	39.4%
無回答	13	1.9%
合計	695	100.0%

問35　持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案・方針決定の場に、あらゆる世代の男女が互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、 女性も地域の重要な方針決定の に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること	92	13.2%
②積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	210	30.2%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	129	18.6%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	58	8.3%
⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	70	10.1%
⑥その他	17	2.4%
⑦わからない	92	13.2%
無回答	27	3.9%
合計	695	100.0%

問36　平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

選択肢	回答数	回答割合
①女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	387	55.7%
②市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす	184	26.5%
③避難所などの運営に女性も参画できるようにする	243	35.0%
④防災や災害現場で活動する女性を育成する	135	19.4%
⑤日頃から地域の男女共同参画を進める	229	32.9%
⑥備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人障害者などの視点を入れる	387	55.7%
⑦日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	249	35.8%
⑧性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境、物資、安全など)について知識を普及する	224	32.2%
⑨避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする	334	48.1%
⑩その他	3	0.4%
⑪特に必要なことはない	5	0.7%
⑫わからない	23	3.3%
無回答	11	1.6%
対象数	695	－

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37　身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。（それぞれ○は1つ）

1　刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	15	2.2%
②したことがある	2	0.3%
③受けたこともしたこともある	9	1.3%
④受けたこともしたこともない	655	94.2%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

2　なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	35	5.0%
②したことがある	15	2.2%
③受けたこともしたこともある	19	2.7%
④受けたこともしたこともない	609	87.6%
無回答	17	2.4%
合計	695	100.0%

3　物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	60	8.6%
②したことがある	38	5.5%
③受けたこともしたこともある	30	4.3%
④受けたこともしたこともない	552	79.4%
無回答	15	2.2%
合計	695	100.0%

4　髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	11	1.6%
②したことがある	2	0.3%
③受けたこともしたこともある	5	0.7%
④受けたこともしたこともない	664	95.5%
無回答	13	1.9%
合計	695	100.0%

5　大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	87	12.5%
②したことがある	62	8.9%
③受けたこともしたこともある	102	14.7%
④受けたこともしたこともない	429	61.7%
無回答	15	2.2%
合計	695	100.0%

6　メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	22	3.2%
②したことがある	6	0.9%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	650	93.5%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

7　職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	20	2.9%
②したことがある	0	0.0%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	659	94.8%
無回答	13	1.9%
合計	695	100.0%

8　「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	61	8.8%
②したことがある	17	2.4%
③受けたこともしたこともある	15	2.2%
④受けたこともしたこともない	588	84.6%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

9　何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	43	6.2%
②したことがある	36	5.2%
③受けたこともしたこともある	40	5.8%
④受けたこともしたこともない	562	80.9%
無回答	14	2.0%
合計	695	100.0%

10　必要な生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	32	4.6%
②したことがある	1	0.1%
③受けたこともしたこともある	7	1.0%
④受けたこともしたこともない	643	92.5%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

11　嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	37	5.3%
②したことがある	5	0.7%
③受けたこともしたこともある	5	0.7%
④受けたこともしたこともない	635	91.4%
無回答	13	1.9%
合計	695	100.0%

12　避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	25	3.6%
②したことがある	4	0.6%
③受けたこともしたこともある	4	0.6%
④受けたこともしたこともない	643	92.5%
無回答	19	2.7%
合計	695	100.0%

問38　あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。
知っている相談窓口をお選びください。(○はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①DV相談ナビ	41	5.9%
②長野県女性相談センター	88	12.7%
③県警(警察安全相談窓口)	294	42.3%
④長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	102	14.7%
⑤みんなの人権110番	86	12.4%
⑥長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”	35	5.0%
⑦県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	38	5.5%
⑧長野犯罪被害者支援センター	31	4.5%
⑨長野市福祉事務所(長野市役所こども総合支援センター内、篠ノ井支所内)	64	9.2%
⑩長野市男女共同参画センター	31	4.5%
⑪その他	9	1.3%
⑫相談できる窓口は知らない	270	38.8%
無回答	26	3.7%
対象数	695	−

問39　DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。（○は1つ）

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	379	54.5%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	160	23.0%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	123	17.7%
④人権侵害にあたるとは思わない	0	0.0%
⑤わからない	21	3.0%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

問40　あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。（○はいくつでも）

選択肢	回答数	回答割合
①メールによる相談ができる	149	21.4%
②LINEなどSNSによる相談ができる	254	36.5%
③電話による相談ができる	232	33.4%
④通話料が無料	277	39.9%
⑤24時間相談ができる	372	53.5%
⑥相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	185	26.6%
⑦同性の相談員がいる	279	40.1%
⑧匿名で相談ができる	399	57.4%
⑨弁護士など、法的知識のある相談ができる	304	43.7%
⑩臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談ができる	222	31.9%
⑪その他	8	1.2%
⑫特にない	26	3.7%
⑬わからない	40	5.8%
無回答	10	1.4%
対象数	695	－

「健康」に関することでおたずねします。

問41　あなたは自分が健康だと思いますか。

選択肢	回答数	回答割合
①健康だと思う	158	22.7%
②どちらかといえば健康だと思う	414	59.6%
③健康ではないと思う	100	14.4%
④その他	3	0.4%
⑤わからない	11	1.6%
無回答	9	1.3%
合計	695	100.0%

問42　体調が悪い日はどのくらいの割合でありますか。

選択肢	回答数	回答割合
①体調が悪い日は基本的にはない	190	27.3%
②2～3か月に1回程度	183	26.3%
③月に1～2回程度	177	25.5%
④週に1～2日程度	58	8.3%
⑤週の半分以上	24	3.5%
⑥ほとんど毎日	21	3.0%
⑦その他	10	1.4%
⑧わからない	20	2.9%
無回答	12	1.7%
合計	695	100.0%

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問43　女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（○はいくつでも）

選択肢	回答数	回答割合
①出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組	370	53.2%
②企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組	149	21.4%
③多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ	415	59.7%
④男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ	249	35.8%
⑤保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備	420	60.4%
⑥市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組	96	13.8%
⑦住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組	85	12.2%
⑧配偶者やパートナー間の暴力（DV）や性犯罪・性暴力などを無くすための取組	139	20.0%
⑨非正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援	206	29.6%
⑩高齢者・外国籍・障害者への支援	159	22.9%
⑪妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援	223	32.1%
⑫男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり	189	27.2%
⑬地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実	104	15.0%
⑭「女（の子）／男（の子）らしさ」にとらわれない、自分らしく生きるための教育の充実	179	25.8%
⑮男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実	127	18.3%
⑯その他	16	2.3%
⑰わからない	26	3.7%
無回答	21	3.0%
対象数	695	－

問44　「男女共同参画」及び「働く場における女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	111	16.0%
②文章回答無し	584	84.0%
合計	695	100.0%

調査票

各　　位



長野市男女共同参画シンボルマーク

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」ご協力のお願い

平素から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、心豊かで生きがいのある社会を形成するために、男女が社会の対等な構成員として喜びと責任を共に分かちあい、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現のため様々な施策を進めています。

この調査は、男女共同参画や女性活躍の推進など各種施策の基礎資料とするため、令和８年５月１日現在、市内にお住いの 18 歳以上の市民の皆様から、男女 2,000 人を年代別に無作為によって選ばせていただいた中のお一人としてお願いするものです。

なお、この調査は無記名で行い、お答えはすべて数値に置き換え、統計的に処理した上で分析します。今後の施策推進や啓発のために使用し、集計結果として公表することはありますが、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和８年６月

長 野 市 長　　荻 原 健 司

ご記入にあたってのお願い

☆ お答えは、当てはまる番号に○を付けてください。

☆「その他」に当てはまる場合は、お手数をおかけしますが〔　　〕内になるべく具体的に記入してください。

☆ 一部の方だけお答えいただく設問もあります。

☆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに令和８年６月 30 日(火)までに ポストに投函するか、右下の２次元コードからオンラインで回答してください。
（オンラインによる回答は令和８年６月 30 日(火)23 時 59 分まで）

この調査についてのお問い合わせは
長野市地域・市民生活部人権・男女共同参画課
電　話　：２２４－５４２８（直通）
ファクス：２２４－７５４７　担当：丸山までお願いします。

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」調査票

■ この調査は、あなた（あて名の方）ご自身のお考えでご記入ください。
■ ご回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、その番号を○で囲んでください。

あなた自身のことについておたずねします。

Ｆ１　あなたの性別※を教えてください。（○は１つ）　※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

１．女性	２．男性	３．その他	４．回答したくない

Ｆ２　あなたの年齢について教えてください。（○は１つ）

１．20 歳未満	２．20 歳～24 歳	３．25 歳～29 歳	４．30 歳～34 歳
５．35 歳～39 歳	６．40 歳～44 歳	７．45 歳～49 歳	８．50 歳～54 歳
９．55 歳～59 歳	10．60 歳～64 歳	11．65 歳～69 歳	12．70 歳以上

Ｆ３　あなたの職業を教えてください。（○は１つ）

１．農林漁業の自営業主・家族従業者
２．農林漁業以外の自営業主・家族従業者
３．自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）
４．会社役員・経営者
５．正社員・正職員などの正規雇用者
６．パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者
７．家事専業者
８．学生
９．無職
10．その他〔　　〕

Ｆ４　あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。（○は１つ）

１．単身世帯(含単身赴任)	２．一世代世帯(夫婦・カップルだけ)
３．二世代世帯(親と子)	４．三世代世帯(親と子と孫)
５．その他〔　　〕	

Ｆ５　あなたは現在、結婚していますか。（○は１つ）

１．結婚している	２．結婚していない
３．結婚していないがパートナーがいる	４．配偶者と離・死別した

Ｆ６　あなたにお子さんはいらっしゃいますか。（○は１つ）

１．いる	２．いない

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

Ｆ７　配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。（○は１つ）

１．いる（正規の社員・職員）	２．いる（非正規：勤務時間は正規雇用と同じ）
３．いる（非正規：パート・アルバイト）	４．いる（その他：　　）
５．いない	

一般的なことでおたずねします。

問1　あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。（それぞれ○は１つ）

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
１．家庭生活	1	2	3	4	5	6
２．学校教育の場	1	2	3	4	5	6
３．地域社会	1	2	3	4	5	6
４．職場	1	2	3	4	5	6
５．法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
６．社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
７．政治の場	1	2	3	4	5	6
８．社会全体	1	2	3	4	5	6

問2　次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。（それぞれ○は１つ）

	知っている	聞いたことがある	知らない
１．男女共同参画社会基本法	1	2	3
２．女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
３．ＤＶ防止法（配偶者からの暴力及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
４．困難女性支援法（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）	1	2	3
５．女子差別撤廃条約	1	2	3
６．長野市男女共同参画推進条例	1	2	3
７．ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
８．ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3
９．アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）	1	2	3

問3　「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。（○は１つ）

１．賛成　　２．どちらかといえば賛成　　３．どちらかといえば反対　　４．反対　　５．わからない

問4　日常の生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。（○は１つ）

１．よくある　　２．たまにある　　３．ない

問 4 で「1. よくある」または「2. たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5　どのような場で言われたり、期待されたりしますか。（○はいくつでも）

1．家庭	2．職場	3．学校	4．地域・近隣	5．友人関係
6．親族関係	7．社会全体（メディアや広告など）	8．その他〔		〕

問6　それは、どのような内容に関することですか。（○はいくつでも）

1．言葉づかい	2．容姿（顔立ち、体つきなど）	3．服装や身だしなみ
4．行動の仕方	5．感情表現（泣く、怒るなど）	6．進学、進路選択
7．ライフイベント（結婚、出産など）	8．趣味やスポーツ	9．家事・育児・介護
10．働き方や仕事内容	11．お金（収入や支出に関すること）	12．その他〔 〕

問7　日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。（○は１つ）

1．よく感じる	2．たまに感じる	3．感じない

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8　子ども時代に「女の子／男の子だから○○しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。（○は１つ）

1．あった	2．なかった	3．覚えていない

問 8 で「1. あった」を選ばれた方におたずねします。

問9　それは、誰に言われましたか。（○はいくつでも）

1．母親	2．父親	3 兄弟姉妹	4．祖母	5．祖父
6．その他の親族	7．近隣住民	8．学校の先生	9．クラブや習い事の先生	
10．友人や同じ学校の児童・生徒	11．その他〔			〕

問10　それは、どのような内容に関することですか。（○はいくつでも）

1．言葉づかい	2．容姿（顔立ち、体つきなど）	3．服装や身だしなみ
4．行動の仕方	5．感情表現（泣く、怒るなど）	6．進学、進路選択
7．ライフイベント（結婚、出産など）	8．趣味やスポーツ	9．家事・育児・介護
10．働き方や仕事内容	11．お金（収入や支出に関すること）	12．その他〔 〕

問11　子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。（○は１つ）

1．影響した	2．少し影響した	3．影響しなかった

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12　一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（○は１つ）

１．女性は職業をもたない方がよい

２．結婚するまでは職業をもつ方がよい

３．子どもができるまでは、職業をもつ方がよい

４．子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい

５．子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい

６．その他〔　　〕

７．わからない

職場における「女性活躍と就労」に関することでおたずねします。

問13　方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。（○は１つ）

１．必要だと思う　　２．どちらかといえば必要だと思う　　３．必要ないと思う

現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問14　あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。（それぞれ○は１つ）

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
１．賃金	1	2	3	4	5	6
２．昇進や昇格	1	2	3	4	5	6
３．仕事の内容	1	2	3	4	5	6
４．研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6
５．経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	5	6

問15　あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。（○は１つ）

１．進んでいる

２．どちらかといえば進んでいる

３．あまり進んでいない

４．進んでいない

５．わからない

問16　今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。（それぞれ○は１つ）

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない
１．あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	5
２．現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	5
３．女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	5
４．仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	5
５．管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	5
６．退職して仕事に就かない	1	2	3	4	5
７．女性も管理職として活躍している	1	2	3	4	5
８．女性の管理職の部下には、なりたくない	1	2	3	4	5

現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問17　女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。（それぞれ○は１つ）

	とても重要だと思う	まあ重要だと思う	重要だと思わない	わからない
１．女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4
２．女性社員・職員の採用拡大	1	2	3	4
３．非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善	1	2	3	4
４．在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4
５．出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入	1	2	3	4
６．企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4
７．女性特有の健康課題への配慮	1	2	3	4

離職されている方におたずねします。

問18　再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。（○は１つ）

１．正規の社員・職員
２．派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員
３．パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）
４．その他〔　　〕

問 18 で「2.派遣・嘱託などの社員・職員」または「3.パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

問19　その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は３つまで）

１．家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから
２．正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから
３．仕事より家庭生活を優先したいから
４．時間外勤務や休日出勤を避けたいから
５．配偶者（特別）控除の範囲内で働きたいから
６．積極的に仕事に就くつもりがないから
７．その他〔　　〕

離職経験のある方におたずねします。

問20　離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（○は３つまで）

１．結婚	２．出産	３．育児	４．看護	５．介護
６．転職・起業	７．配偶者の転勤	８．健康上の理由	９．給料が少ない	10．定年退職
11．解雇等職場の都合	12．特に理由はない	13．その他〔		〕

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21　女性の職業生活における活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（○は３つまで）

１．家事・育児などと仕事の両立が難しい	２．女性が就ける仕事が限られている
３．活躍したいと思える仕事がない	４．活躍を望む女性が少ない
５．お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	６．結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い
７．上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	８．家族の理解が不十分
９．その他〔　　〕	10．わからない

問22　女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（○は３つまで）

１．女性の積極的登用	２．能力開発、自己啓発
３．働き方改革の推進	４．福利厚生の充実
５．賃金の男女平等	６．正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消
７．家族の理解や協力	８．職場の理解や協力
９．経営者・管理職の意識改革	10．女性自身の意識改革
11．育児・介護に関する制度の充実	12．ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人）
13．その他〔　　〕	14．わからない

問23　出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（○は３つまで）

１．離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	２．求人情報や就職ガイダンスの充実
３．再就職に関する相談体制の充実	４．再就職のための講座やセミナーの充実
５．子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	６．保育所などの保育施設の充実
７．その他〔　　〕	８．わからない

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。

問24　あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は１つ）

１．言葉も内容も知っている	２．言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	３．知らない

問25「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものをお選びください。（○は１つ）

１．「仕事」優先
２．「家庭生活」優先
３．「地域活動・個人の生活」優先
４．「仕事」と「家庭生活」をともに優先
５．「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
６．「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
７．「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問26　「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたの現実（現状）の生活に最も近いものをお選びください。（○は１つ）

１．「仕事」優先
２．「家庭生活」優先
３．「地域活動・個人の生活」優先
４．「仕事」と「家庭生活」をともに優先
５．「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
６．「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
７．「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問27　あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ○は１つ）

	主に自分がしている	自分と家族が同じ程度している	自分は手伝い程度している	していない
１．掃除	１	２	３	４
２．洗濯	１	２	３	４
３．食料品、日用品などの買物	１	２	３	４
４．食事のしたく	１	２	３	４
５．食事の後かたづけ	１	２	３	４
６．ごみ捨て	１	２	３	４

問28　あなたの平日の１日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は１つ）

１．0～1 時間未満　２．1～2 時間未満　３．2～3 時間未満　４．3～5 時間未満　５．5 時間以上

問29　あなたの休日の１日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は１つ）

１．0～1 時間未満　２．1～2 時間未満　３．2～3 時間未満　４．3～5 時間未満　５．5 時間以上

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問30　あなたは育児または介護をどの程度していますか。（それぞれ○は１つ）

	主に自分がしている	自分と家族が同じ程度している	自分は手伝い程度している	していない
１．育児（お孫さんを含む）	１	２	３	４
２．介護	１	２	３	４

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31　男性が「育児・介護休業制度」を利用する割合が女性より低いのは、どうしてだと思いますか。（○は３つまで）

１．主たる家計の稼ぎ手は男性だから
２．職場や同僚に迷惑がかかるから
３．上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
４．育児、介護は女性の方が向いているから
５．昇給、昇格に影響すると考えるから
６．その他〔　　〕
７．わからない

問32　今後、男女ともにワーク・ライフ・バランスを進めていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（○は３つまで）

１．男女の固定的な役割分担意識を改める
２．夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
３．労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
４．社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
５．働きやすい環境を整備するための情報提供、研修、講習会等を行う
６．相談しやすい窓口を設ける
７．官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
８．その他〔　　〕
９．特に必要なことはない
10．わからない

「地域社会」に関することでおたずねします。

問33　あなたが住んでいる地域では、自治会・ＰＴＡ・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。（それぞれ○は１つ）

	そうである	そうではない	わからない
１．自治会やＰＴＡの会長は、男性と決まっている	1	2	3
２．自治会やＰＴＡの責任ある役職は、ほとんどが男性である	1	2	3
３．役員選考や組織の運営事項は、男性だけで決めている	1	2	3
４．実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3
５．女性自身が責任ある役職に就くのを避けている	1	2	3
６．女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3

問34 あなたが住んでいる地域では、次の１から６の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。（それぞれ○は１つ）

	男性	女性	男性も女性も	わからない
１．自治会の役員活動	1	2	3	4
２．自治会の行事等の活動	1	2	3	4
３．ＰＴＡの役員活動	1	2	3	4
４．ＰＴＡの行事等の活動	1	2	3	4
５．育成会の役員活動	1	2	3	4
６．育成会の行事等の活動	1	2	3	4

問35　持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案・方針決定の場に、あらゆる世代の男女が、互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。（○は１つ）

※ 積極的改善措置(ポジティブ･アクション)
男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいいます。

１．役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※を導入すること

２．積極的改善措置（ポジティブ･アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること

３．地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと

４．女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること

５．女性が積極的に役職につく意識をもつこと

６．その他〔　　〕

７．わからない

問36　平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1．女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
2．市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
3．避難所などの運営に女性も参画できるようにする
4．防災や災害現場で活動する女性を育成する
5．日頃から地域の男女共同参画を進める
6．備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人障害者などの視点を入れる
7．日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする
8．性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境、物資、安全など）について知識を普及する
9．避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする
10．その他〔　　〕
11．特に必要なことはない
12．わからない

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37　身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）※として問題になっています。次にあげる行為は、ＤＶにあたる行為です。
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。（それぞれ○は１つ）

※DV（ドメスティック・バイオレンス）･･･配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為をいいます。

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない
1．刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す	1	2	3	4
2．なぐる、ける	1	2	3	4
3．物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4
4．髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4
5．大声で怒鳴る	1	2	3	4
6．メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4
7．職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3	4
8．「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4
9．何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
10．必要な生活費を渡さない	1	2	3	4
11．嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4
12．避妊に協力しない	1	2	3	4

問38　あなたはＤＶ(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をお選びください。(○はいくつでも)

１．ＤＶ相談ナビ
２．長野県女性相談センター
３．県警（警察安全相談窓口）
４．長野県児童虐待・ＤＶ２４時間ホットライン
５．みんなの人権 110 番
６．長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”
７．県警性被害犯罪ダイヤルサポート１１０
８．長野犯罪被害者支援センター
９．長野市福祉事務所（長野市役所こども総合支援センター内、篠ノ井支所内）
10．長野市男女共同参画センター
11．その他〔　　〕
12．相談できる窓口は知らない

問39　ＤＶ(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。(○は１つ)

１．どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
２．どんな場合でも人権侵害にあたると思う
３．人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
４．人権侵害にあたるとは思わない
５．わからない

問40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

１．メールによる相談ができる
２．ＬＩＮＥなどＳＮＳによる相談ができる
３．電話による相談ができる
４．通話料が無料
５．２４時間相談ができる
６．相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
７．同性の相談員がいる
８．匿名で相談ができる
９．弁護士など、法的知識のある相談ができる
10．臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談ができる
11．その他〔　　〕
12．特にない
13．わからない

「健康」に関することでおたずねします。

問 41　あなたは自分が健康だと思いますか。

１．健康だと思う

２．どちらかといえば健康だと思う

３．健康ではないと思う

４．その他〔　　〕

５．わからない

問 42　体調が悪い日はどのぐらいの割合でありますか。

１．体調が悪い日は基本的にはない

２．２～３か月に１回程度

３．月に１～２回程度

４．週に１～２日程度

５．週の半分以上

６．ほとんど毎日

７．その他〔　　〕

８．わからない

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 43　女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（○はいくつでも）

1．出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組

2．企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組

3．多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ

4．男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ

5．保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備

6．市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組

7．住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組

8．配偶者やパートナー間の暴力（ＤＶ）や性犯罪・性暴力などを無くすための取組

9．非正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援

10．高齢者・外国籍・障害者への支援

11．妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援

12．男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり

13．地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実

14．「女（の子）／男（の子）らしさ」にとらわれない、自分らしく生きるための教育の充実

15．男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実

16．その他〔　　〕

17．わからない

問 44　「男女共同参画」及び「働く場における女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

アンケート調査はこれで終了です。お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

問 44　「男女共同参画」及び「女性活躍推進」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
女性	25 歳～29 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	どうしても昔からの考え方で、男性が働きに出て女性が家事や育児をすることが根強く残っていると思います。 そのせいで時代が変わりつつある今でも、男性はこうあるべき、女性はこうあるべきというのが暗黙の了解になっていて自分が思う最善の選択ができていない気がしています。 完全な平等の実現はそう簡単なものではないと思いますが、できる環境作りは積極的に行っていくべきです。 これからの社会を変えるために少しずつでも自分でも動いて行けるようにしたいです。
女性	30 歳～34 歳	会社役員・経営者	社会や職場において女性の活躍は必要だとは思います。しかし、現実的には出産、育児、介護といった家庭との両立が厳しいと感じます。その中で女性活躍を進めるだけでは、ただ女性の負担が増えるだけなので、女性が社会で活躍できるためのベースとして賃金アップや柔軟な働き方選択ができるようにすること、官民ともに利用しやすいサポートの拡充などがあってからこそ、女性の社会での活躍が進むのだと思います。活躍したいと思う女性が少ないというよりも、そう思えるだけのベースが足りない現状と感じます（本来時短や非正規にしたいが収入を気にしてフルタイムを選択＝その時間働くだけで精一杯でより活躍したいとは気力体力ともに思えない）。 また、現在の行政のサポートや制度にもありがたいものや良いものが沢山あるのだとは思うのですが、情報が足りないと感じます。県や市の LINE も登録していますが、もっと「こういう制度があります」というのを発信していただけると良いのかなと思います。
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性は出産すると身体的に大変な思いをすると同時に、キャリアを考えると“仕事”よりも“子育て”を優先する方が多いと思います。また女性の経済的自立が難しい方への支援があれば、男性の経済面に依存しなくても生きていけるようになればいいなと思います。
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	1、形だけ女性が活躍するポジションをただ作られても迷惑。活躍できる状態になれるそもそもの基本的な土台作りが必要。働き方改革で残業ダメの風潮になったが、仕事量は変わっていなくて、時間だけが制限される迷惑な改革の二の舞にならないようにして欲しい。2、何でもかんでもハラスメントになる時代になり、いつまで経っても若い人はお客様扱い。下の世代に仕事も引き継げず権利だけ主張され、仕事量が増えるだけの中堅社員は給料も上がらず、仕事へのモチベーションも無くなっていく。出産後、職場や社会に復帰したいと昔は思っていたが、今の若者だけが優遇されるやりすぎの「ハラスメント」対策のせいで復帰したいと思えない。そんな社会の空気のせいで「女性活躍」と言われても中堅社員の年齢層には響かないと思う。
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	1 歳の男の子を育てています。4月より育休明けで時短社員で職場復帰しました。『保育園の洗礼』という言葉通り、保育園に入園してからやはりなにかしら風邪をひいていることがほとんどです。いまだに1週間休むことなく行けることの方が珍しい状態で、早退やお休みする日が多いです。息子の祖父母たちもまだ働いているため頼ることが難しく、今日は仕事が行けるのか？またお迎えの連絡がくるのではないかとソワソワする毎日です。職場でも急なお休みで迷惑をかけているため肩身が狭く、仕方がないことだと思っていてもこのまま仕事を続けるべきなのか？と葛藤しています。一人目なので保育料もかかります。お休みしていてもかかる保育料、すぐに無くなる有給、病児保育に預けるにもさらにお金はかかります。女性が子育てしながら仕事を続ける難しさを実感しています。長野市でも一人目無償化に動いているとのことですが、はやく無償化になれば嬉しいです。もしくは、入園したばかりのときは子供があまり通えないことがほとんどです。子が精神的にだけでなく、体力的にも慣れるまでの間、職場復帰までの時間を長く取れたり、保育料の負担が少し軽減されたり、なにかしらサポートがあるともう少し働きやすくなるのではないのかなと思います。
女性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性が活躍することのできる社会の実現はとても大切ですし、そんな社会で生きていきたいと思います。現在、女性の政治家や管理職が増えていますが、女性が政治家や管理職になるのがゴールではないと思います(女性の管理職、政治家を増やすという形だけ整えれば OK ではない)。女性が活躍したいのにできない状況をしっかり把握したり、実際に活躍し続ける体制

性別	年齢	職業	記入内容
			を考え続けることが大事だと思います。私自身も知らない法律がたくさんありました。私自身も勉強し続けないといけないなと感じました。
女性	30 歳～34 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性の負担を軽減するような仕組みづくり。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	“女性活躍”はとても大事なことだと思うが、意味をはき違えている職場の人がいると思う。例えば、「力仕事」などの身体的な違いがあるのに、“平等”と言ったり、家庭の事情もあるのに仕事は平等と言われて残業している人もいると思います。私が働いている会社は結婚や育児をしている人が、総合職から一般職になっていることが多く、自身もバリバリ働けないと思っているし、仕事だけが全てだと思っていないので、バリバリ働きたいとも思っていないからだと思う。また、まだ「育児は女性の仕事」とどこかでみんな思っているので、仕事と家事・育児と女性に負荷がかかっていることが多いと思う。育休から復帰して思ったのは、仕事以外でも保育園などに預けられる制度を強化してほしいです。休みの日も家事に追われて休みも休みじゃないという感じです。有休も自分が具合悪い日は取れなくて、自分が病院に行く時間はないなと思っています。子どもがまだ目をはなせない時期なので、家事もすすんでないです。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	そもそも社会全体の意識が変わらないと女性が職場において活躍するのは難しいと感じている。親世代、その前の世代からずっと受け継がれた「男は仕事、女は家のことをやる」という意識が少しずつ変わっていくと良いなと思っている。時間が必要だけど。
女性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	3 歳までは時短勤務があり、育児しながら働ける環境があるが、時短終了とともに育児しながらフルで働くことがむずかしくなる。時短終了で退職する人が多い。小学校に入ってからもプラザは 18 時半までしか預けられず、子育てしながらフルで働くことがまた困難になる。フルで働いていても就業時間が選べたり、せめて小学校低学年まで時短が使えたら、働くことが現実的になるのにと思う。法律や条例で整備してほしい。フルで働いた方が税収も多くなると思うので。前回も他のアンケートに答えましたが大変です。ギフト券 500 円だけでもいただけたら、真剣に答える人が増えるかと思いました。
女性	35 歳～39 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	産休、育休を取って仕事を復帰するのが当たり前になっているが、そもそも子育て、仕事は両立するのは大変です。私は仕事が好きで、夫の協力もあり、時短勤務をしながら 2 歳の子どもを保育園に預けながら仕事を続けていますが、毎日自分の時間もあまりなく、忙しいです。本当は幼稚園に行くまでは一緒にみたいという方もたくさんいるのではないでしょうか。しかし、男性の給料だけではやっていけない。大学のことまで考えると仕事を辞められない。それで仕事を続けている人も多いと思います。女性の活躍は確かに考えることかもしれませんが、そもそも女性は妊娠、出産もあり、男女平等というのは無理です。この考え方が少子化に結びついてきています。仕事もして、子育てもして、子どもの役員もして、色々女性に求めすぎです。女性が社会に出て活躍するより、大切なことがあると思います。キャリアを続けたい人、家庭に入りたい人、それぞれ尊重される社会であって欲しいです。
女性	35 歳～39 歳	家事専業者	アンケートに答えていくうちに幼い頃から、「女の子なんだから～」と言われ続けていた事を思い出し、とても嫌な気分になりました。親の世代（70 代）ももっと男女差別がひどかった時代なので、頭に刷り込まれて、子どもにも（私にも）「女の子なんだから～」と言っていたのは仕方ないかもしれないけれど、私の代でそれは終わりにしたいです。今は女性優先で男女平等により、女性の意見を多く取り入れてほしいです。今回のアンケートを意味のない物にしないでほしいです。お願いします。
女性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	昨今、「女性活躍」というワードを耳にする機会が多いが、職場において女性活躍＝女性管理職という単調な考え方は共感できない。実際に活躍できる女性が管理職になることは賛成だが、単に管理職の人数、割合を増やしていこうという方針は、いわゆる名ばかり管理職となり、結果、女性を苦しめたり、孤独にさせてしまうおそれがある。まずは男女関係なく評価されることが重要と考える。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	育児に関して。保育園、幼稚園に預けられたとしても、超過時間にお金がかかったり、そもそも職場で短時間勤務や子どもの体調不良による早退・欠席への理解が得られず肩身が狭い。さらに、短時間勤務にすると昇進しにくくなるし給料は減る、なのにやることは前と変わらず、残業できないから昼休みを削るという、割に合わない仕事をしているのを、市として改善してほしいし補助もしてほしい。
女性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	出産、育児を選択して仕事をしたい女性に配慮することは大切ですが、それを選択せず仕事を優先する女性の活躍とのバランスも考える必要があると思います。
女性	40 歳～44 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	ベースの教育環境を根っこから変革させる必要があると思う！
女性	40 歳～44 歳	無職	離職した女性が働きやすい環境や職場を増やして頂きたい。子どもの急な病気で休む場合もあると思うので、周りの理解があると仕事に就いても心配事は薄れて働きやすいかなと思います。持っている資格を生かせる職場をみつけてもらえるような相談窓口（メールや電話等で）があると便利かなと思います。
女性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	実生活においてはまだ無意識のうちに男女の役割（職場でも家庭でも）を決めつけてしまっているように思います。そして、それを望んでいる場合も少なからずあるように思います（例えば女性が事務員や受付係のような補助的な仕事を望む等）。社会全体の意識が男女平等に近づいた上で、性別に関わらず、各人が望む働き方や生き方を選択できる社会になったらいいと思います。
女性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	問 43 の 9 に関して、私は再婚するまで 1 人親でした。今のように給付や助けが多くはありませんでした。やっと乗り越えました。が今は少ない給与から未来の子どものためにと引かれていきます。あの頃助けてもらえなかったのに、今の人たちは一人親でなくても医療も給食も助けてもらえてる現状に憤り、悲しい。氷河期世代を救ってこそ未来のためにと考える人たちを増やせるのではないか思う。私は初任給 11 万で子どもができたら退職しなければいけなくて、女は酌、社長の横、そういう 20 代で男性も低賃金、サービス残業、そういう時代で、今は若い人のが給与多くて、氷河期の人は傷ついている。未来のためになど優しく前向きになれる価値感を持てるようその世代が上司や役職になって女性に他者に優しくなれるよう救って欲しいと思う。それとずっと思っているのは法定労働時間を変えるべきだと思う。全ての解決の第一歩だと思います。給与は下げず、時間を性別関係なく減らす。24 時間のうち、8 時間は仕事しろと決められていることが足枷だと思います。
女性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	お世話になります。職場では理不尽な思いをしております。それが男女の格差でもあり、派遣社員と正規労働者の賃金格差でもあり。25 年に渡り勤めてきました。正規社員より大変な仕事もしておりました。給料は年間で1／3と聞いています。17 年間勤めたところでメンタルを壊し、未だ薬なしでは生活ができない状況にあります。私が男であれば違っただろうと思います。シングルマザーで働く身であり、生活も苦しく、今後の生活を思うと不安しかありません。養育費も相手から貰えなくなり。とはいえ市からの助成金ももらえず（シングル用）。どうか「ひとり親家庭」のこともう少し考えてください。
女性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性が活躍するためには、女性特有の健康支援（生理、妊娠、出産後、更年期など）が必要だと思います。私は出産後体調が悪かったのですが、産後 1 ヶ月までしか健診がありません。その後の体調を相談できるサポートが充実したら、子育て、次の子の出産、社会復帰など良い循環になると思います。女性の特有の健康、身体への支援を進めていただきたいです。中学、高校生への支援も必要だと思います。
女性	45 歳～49 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性がなぜ職場で活躍しなければならないのかと言えば、結婚し自分の家庭がある場合は世帯収入を上げるためであり、自分らしく活躍したいからと思う率は少ない。女性が独身の場合は、自分が満足できるための旅行や、服、美容、食事などの趣味にお金をかけたいという理由が多い。男女共に、仕事でなくても活躍できる場はいろいろあるし、それが家事の場合もある。職場で活躍したい女性ももちろん存在するが、こんなに働きやすいのだ

性別	年齢	職業	記入内容
			から、女性もどんどん働くべきという考えが基本でできあがる制度は、日本の人口減少を加速させると思う。男性は男性らしく、女性は女性らしくというのは、つまり自分が自分らしくということになるはずである。
女性	45 歳～49 歳	無職	育児とフルタイム勤務を両立するには、親の負担もさることながら、子供の負担が大きすぎる。また、育児中で残業できないこと等、会社の了解は得られても、負担は全て現場任せになり、パートさんから反感をかうことになる。残業できないならパートになれと間接的に言われた。会社として制度を整えるのは大切であるが、具体的に人員を充てるなどのサポートがない限り、同じ現場の他の人に負担がかかり、結果的に仕事を続けていくのは難しくなる。外からは見えにくい問題だと思う。女性をパートとして安く雇用してきた経済の仕組みが、現在の少子化にもつながっているのではないか。
女性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	夫は家事育児にあまり協力的ではありません。子どもが小さい時、病気になっても仕事を休むのはいつも私でした。男性も子どもが病気の時はすぐに休めるような会社の雰囲気、会社側の協力が欲しい。出産、育児でキャリアをあきらめるのはいつも女性で、非常に不公平だと思う。
女性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	子どもが育てやすい社会にするには、“生む育てる側”も支援も大事だが、産休に入る時には、欠員を肩代わりする職員にも賃金を上がる工夫をしてほしい（介護職にはしない、一流企業がメイン）。不妊で子を育てる機会を得られず、ずっと働き続けてきた事は子どもを生み育ててはいないが、サポート側にまわってきたと考えている。「（不妊治療）妊活に協力しない」も問37 に付け加えてほしい。男性は女性の適齢期（妊娠）を知らなすぎる。いつでも産まれると思っている人が多い。
女性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	管理職になると責任が重くなるという事ばかりで、楽しさやり甲斐が見出せない。管理職になるという事の前向きな講習会を聞いてみたい。また、だれでも管理職になれるというのは違うと思う。どんなに学歴が良くても仕事が出来ても管理職の向き不向きはあると思う。そういう所を見抜けて見極められる、更に上の上司も必要だと思う。
女性	50 歳～54 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	私の住んでいる地区では、地域行事など女性が（台所仕事や）お酌をする文化が根強く残って、当然の役割のようになっています。この環境を変えたいとも思うと同時に、不利益になると長く住めなくなるかもと思ってたりして、一歩前にすすめません。
女性	50 歳～54 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性が社会へ出て活躍することはとても賛成ですが、体のつくりが男女違うので完全な男女平等は難しいと考えます。私は今更年期世代で、バリバリ働きたくても病院へ通ったり、それ以外の子どもの学校行事、子どもの通院等で正規職員になることが現在は難しい状況です。子育て世帯は急な体調不良で当日仕事を休むことがあり、それが職場では嫌がられるため、中々正社員になるのはハードルが高いです。職種にもよりますが、男性の方が給料が高いので、必然的に女性がパートや主婦を選ぶしかないのだと思います。現実は厳しいですね。
女性	50 歳～54 歳	その他	男女共に働く事に希望が持てる社会になる事を望みます。
女性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	HP が使いにくい。プロに頼むのかも知れないが選定ミス。資金に問題があるなら、そのことを考えてほしい。
女性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	共働きの子育て世代が安心して働ける環境が整備されればと思います。子どもが体調不良（インフル、コロナ等）で長期に休む場合、親も仕事を休まなくてはならない。その後、自分も子どもから感染した場合、一週間～10日くらい仕事を休むのは難しい。活躍の場も狭まる。職場の理解と病児保育等の環境がもっと進めばと思います。
女性	55 歳～59 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	同じ仕事をしてるのに、給料の差がありすぎるので、賃金の見直しを各企業で早急にやって頂きたいです。
女性	55 歳～59 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性の方が長生きします。平日のお昼にファミレスなど行くと、女性の集まりがとても多いです。時間も生活面もゆとりがあると思われます。そのようなあり余っているパワーを是非今現在育児など一人で苦労している若い人に分けてほしいと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	55 歳～59 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	男女関係なく、皆が働きやすく、楽しく生きられる世の中であってほしい。子どもの時からそういった考えを持てる世の中であって欲しい。
女性	55 歳～59 歳	家事専業者	現状は課題が多く、実際、理想ばかりである。大きな課題として社会環境が（仕事、家庭）整っていないと感じる。人対人としても、コミュニケーション能力不足であり、AIに頼る世の中である現状、親子関係、友達関係、職場、地域関係など不安ばかりです。どうしていくのか、どうしたらよいのか、〇〇関係の場での話し合いは必要であると感じます。安心して心豊かに自分らしく生きていける環境を願うばかりです。
女性	55 歳～59 歳	家事専業者	今働きながら育児、介護している女性はとても大変だと思う。皆が同じことをするのではなく、家庭に入ることも、バリバリ働くことも生き方として選べれば良いと思う。今は多少の男性の協力で頑張らねばならないのは女性。少しずつ社会も変わってきているが、仕事も家庭も地域の活動もバリバリやるのは難しいし、欲張りすぎる。
女性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	私の年代だと、日本国憲法の制定から 20 年以上経てから生まれたにも関わらず、身近な日常では「男尊女卑」が当たり前で、現在であれば新聞沙汰になるエピソードが普通にあり、「学習性無力感」に満ちていた。現在随分良い時代となり、私もその恩恵を受けているとは思うが、報道でもストーカー殺人事件、悪質ホストクラブ問題も被害者は女性が多く、日常的にも「平等」とは程遠いと感じる。
女性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性はその時その時に柔軟に対応した結果、住む場所、仕事、友人関係などが連続したキャリアにならない場合が多い。近頃は若い男性もそのようだ。同じ場所で長い歴史を守っている方々が、今通りすがりの人々でも一緒にいられる、今一瞬を大切に想ってくれたり、行政の方々がキャリアは積まれていないが、その時その時ひたすらに働いてきた人々を身体が動かない年齢になった時に切り捨てないよう、お願いしたい。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	時間がかかる事と思います。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	これからの時代は脈々と女性だけが家事をしていた時代を反省し、男女共に携わる意識ができてきている。例えば同じ農作業等をして帰って来ても、食事を作るのは女性。男性は TV を見て待つ。それが脈々と受け継がれ、今後は改善される事と期待します。家庭の中での立場（平等）が職場での働きやすさに繋がると感じる。逆に働くだけが仕事ではない。子育ても立派な仕事と捉える社会。個人的には 3 歳までは家で育てるのが望ましいと考えてる。なぜ保育所に預けてまでも働くのか。そこへの支援も必要か。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	性別ではなく、能力の有無で判断してほしいと思います。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	子育て中の父親、母親の役職について、雇用する側の考え方がどうなのかと思う事がある。子育て中の方たちとコミュニケーションをたくさん取って、どう働きたいのか、よく理解してほしいと思います。介護中の人も同様です。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	（小さな個人経営の会社です）男性は正社員として働き、女性は非正規社員の最低賃金です。せめて契約時間までは働かせてもらいたい。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	高市さんの活躍のように、まずは目に見える所から動きがあると励みになると思います。このアンケートで知ったことも沢山ありました。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	職場で自分が利用出来る制度を積極的に、職場の方から説明をするということを義務化して欲しいです。何の制度もそうですが、聞かなければ教えない、知らずに困っている事、人たくさんいる、あるのではないか。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	体力差、体格差、筋力差などあり、何でも平等にという訳にはいかないと思います。産む性、産まない性の違いもあり、よく検討し考えていかないと難しいことであると思います。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	田久保市長（伊東市）、小川市長（前橋市）のような事案は女性全体のイメージが悪くなる。権利の主張ばかりではなく、質の向上も重要であると思う。男、女ではなく、適材適所ではないでしょうか。ただ可能性のあるものの芽を摘むことはよくないです。
女性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性の社会参加に一番必要なのは、男性側の意識改革だと思います。女性を管理職として養成したり、女性比率を上げる目標を掲げていても、職場や地域にいる男性側の意識が全く変わらなかければ（受け入れ態勢が出来ていなければ）永遠に変わりません。性別に関係なく、生まれながらにして人は平等で、その中で学び、遊び、お互いに協働していくという意識が無ければ、本当の意味での男女共同参画はないと思います。習慣、風習、固定観念に捉われずに、男女が共に暮らしやすい社会になるまでは、まだ時間が掛かりそうですね。
女性	60 歳～64 歳	家事専業者	東京より地方は遅れていると感じます（何かと）。男性の考え方、職場の上司が古風だと思います。
女性	60 歳～64 歳	家事専業者	これからは日本の人口も減ってきて、男女総動員で働かないと今の経済は維持できていかないのでしょうか。でも、若い女性の中にも「結婚出産したら子供が大きくなるまでは一緒にいたい」と思っている人も私の周りにいます。必ず働きたい人ばかりではないので、そういう人にも優しい社会であって欲しいです。両親共働きでないと暮らしていけない今の社会は長く続いていかないと思います。余裕がなさすぎて子供が産まれても苦しい事だけなんて夢が無さ過ぎます。子供を育て上げてもう一度社会に出ようとする女性も受け入れやすいセミナーや体験などが職場にもあるといいですね。
女性	65 歳～69 歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	私の息子たちは、家事・育児に関してはかなり協力的だと思います。長男は家事をよく行ってますし（共働きなので）。次男（住まいは東京、会社は埼玉ですが）は会社のご理解のもと、10 ヶ月の産休（育休）を取る事ができました。少しずつではありますが、男性も家事育児に参加する事が今の世代では増えてるような気がします。
女性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	男女不平等のしきたりは根強く、なかなか解決できない問題だと思いますが、少しずつでもみんなが意識しながら、住み良い日々を過ごせたらと思います。色々と感じ、考えさせられる良い機会でした。
女性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	地域社会活動において、男女の役割分担ができていて、変化していくことに期待ができない。
女性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	育児、介護、家事などは「無償の愛」で行われるもの、「当たり前」のこととされがちで、心身ともに疲れてもケアする人をケアするしくみは見当たらない。
女性	65 歳～69 歳	無職	元職場でも女性の管理職が増えました。とても良いことですが、その分男性が出世しなくても女性がしてくれるという考えで何もしない？責任あることはしたくないという考えの方が多くなったと思う。男性の育児休暇は何もしないで休む方多く、奥さんの負担が多い。みんながそうではないが平等なんてどこをとってもないと思う。
女性	65 歳～69 歳	無職	社会の雰囲気が男女（性別）ではなく、人を人として相対していける世の中になることが大切かと思います。どこまで進んでも、世の中全部がそうなることはないと思っていますが、今も封建的な考えの方々は沢山いらっしゃる

性別	年齢	職業	記入内容
			し、社会の中で力のある高齢男性が多くいる現実を変えていくのは超難しい！一つ一つの家庭の力も大きいと思っています。男女平等の中で育つ子どもは男女平等を理解できると思います。
女性	70 歳以上	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	数字だけ、見た目だけの運動にしてほしくありません。長野市民は文化意識が低いです。夫婦で、家族で文化を楽しめる様になれば、心に余裕が生まれ、お互いを認めあえると思います。市はもっと文化にお金を使って下さい。
女性	70 歳以上	家事専業者	私は結婚する時に親族から反対され、父、母はお前の好きな人と結婚させたいけれど、回りがこんなに反対しているからと言われ、家をとび出しました。この時代でもまだ差別があるのかと思いました。私は主人の父母にとても大切にされました。私の人生は間違っていなかったと思う毎日です。子ども 3 人、孫 7 人、今はとても幸せです。
女性	70 歳以上	家事専業者	家事、子育てにおいて、やはり女性の担う役割は多いと思う。家族間、職場での理解、協力が大切です。金銭や心身に余裕がないと、人を思いやる優しさは生まれないし、殺伐とした社会になってしまいそうです。制度と個々の気持ち、難しいですが、皆が笑顔で毎日が送れますように願っています。
女性	70 歳以上	無職	男女共同参画への取り組みを、国、県、市で始めてより長い年月が過ぎていると思うが、その割には施策がなかなか進んでいないと感じます。より積極的に取り組んでほしいと思います。私自身も、それぞれ個人の意識改革が大事ですが、進みませんね。
男性	25 歳～29 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	「男女共同」とか「平等」とかという割に「女性が働きやすい」「女性が～」「女性が～」という質問ばかりが出てくる時点で実現は不可能だと思います。回答の選択肢に文句言っても仕方ないですが「女性を積極的に～～」は女性を見下してるように見えますし、現在管理職や役員に就いてる人は職場が積極的に女性を昇格させてくれたからとでも言いたいのでしょうか。それに世の中のあらゆる女性が不幸だと決めつけてるようにしか見えませんし、世の中の男性がなんの不自由もないかのような質問文ばかりだから回答に困ることが多く疲れました。少数なのは理解してますが、男女共に産休育休取れて復帰もできるようなある程度まともな職場にいる人間からすると選択肢に適当なものが用意されていない+その他もないような質問があるのが困りました。それと技術的なものに対してですが回答を取り消せない箇所が統計に影響を与えると思います。(問 30 はミスタッチによるもの。実際は身近にいない)企業のアンケートなら自由回答の欄は空白のままですが 2000 人のうちにあたってしまったのでどうせならと思い駄文を書かせていただきました。自治体ならもう少しフラットな質問を用意していただきたいです。
男性	25 歳～29 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	ひとり親や子育て世帯への支援は多いが、独身世帯への支援が少ない。税金を取られる一方で還元されない。全世帯に支援が欲しい。その中で女性はとか、ひとり親はとか、一部の話ばかり残念でならない。自分のことで精一杯です。
男性	30 歳～34 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男女共同参画に資する取り組みは多々あるかと思いますが、一定数女性を採用する、意見をとりいれることとする、等の政策は非常に消極的で意味がありません。数を平等にすることと男女共同参画は全く異なる思想だと思います。女性の再就職という面でいえば、出産や子育てで離職した女性の再就職をさせた企業に補助金を出してはいかがでしょうか。企業は喜んで採用しますし、女性の出産の不安を簡単に取り除くことができると思います。この案に対して不平等というなら、男性に対しても同じようにしてはいかがでしょうか。外国人を採用した企業に補助金が出せているのですから同じことは可能でしょう。むしろなぜ外国人採用に優先して補助金が使用されているのかは、不思議です。
男性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	アンケートの設問自体に男女差別のようなものを感じる。アンケートの目的がよくわからない。女性活躍推進を進めたいのか？単なる就業比率のデータではなく、女性から問題提起があったのか？それは大多数の女性からなのか？誰もが望むとおりに生きれる環境は必要だが、ごく少数派のマイノリティに振り回されて制度設計をし、圧倒的マジョリティに無駄に負担をかけるような事態にならないよう望む。このご時世、誰もが望めばそのように生きられる環境はどこかしらにあると思う。市として強制的に女性の就業比率

性別	年齢	職業	記入内容
			や管理職比率を高めたいのなら話は別だが、それは女性が望んでいることなのか？男女共同と女性活躍推進はイコールでは全くない。何の為に、どちらをやりたいのか、はっきりさせた方が良い。
男性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	育児が大変、かつ仕事も大変なので、両立はできない。
男性	35 歳～39 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性の育児休暇はスムーズに取れる、生活費などの支援も充実できればいいと思います（お母さん一人では限界があると同僚から聞いたことがあります）。管理職への登用は男女とか関係なく純粋に職を全うできるような能力のある方がなればいいと思います（なので積極的に女性の登用を進めるというワードはピンときません。やれる人を登用する。シンプルにこれでいいんだと思います）。
男性	35 歳～39 歳	その他	無理に女性ばかりを優遇するということではなく、社会全体がどんな人でも自分の生活に合わせて働いたり、活躍できる環境、意識づくりが重要と思います。そのために会社等が取り組むべきことや取り決めを作ることも必要と思います。
男性	40 歳～44 歳	会社役員・経営者	片方ばかり優遇しすぎても、それがまた差別を産む。
男性	40 歳～44 歳	会社役員・経営者	男、女といっている時点でマジでどうでもいい。まともな政治に期待します。平等は無理。男でも女でも！
男性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	意識改革や社会の構造は短期間で変えられるものではないと思うので、教育レベルから変えていき、次の世代が同じ意識を持ち、今の世代はそれを理解できるような社会づくりをお願いします。メディアも含む。男女は脳も違うのだから、それぞれの特性を活かせるような取り組みも必要と思われます。男女問わず、能力の高い人間は希少なので、そこを潰すような社会から脱却してほしい。
男性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	職場によって男社会、女社会のある会社があると思うので、どんな会社でも、皆平等になるとよいと思います。育休の取りやすさ、給料の対等、仕事時間の長さ、内容等。
男性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	私の職場では男女平等への取り組みが強くあります（上席が女性です）。働く上で、男性だから女性だからと感じたことはありません。ただ女性は月経があり、仕方のないことですが、仕事にムラが出ます。こちらもその事を分かった上で仕事は行いますが、その期間双方で気持ちよく仕事を行える取り組みは今後平等でいる中で不可欠になるのではないかと思われます。
男性	40 歳～44 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	アンケートが長いので途中で保存できるようにしてほしかった
男性	45 歳～49 歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	子育て世帯の友人の場合ですが、妻がフルタイムで働いた後、夕方保育園にお迎えに行き、帰ってからは怒涛の家事をこなして毎日が終わっていくと聞いています。女性の社会進出は本人が望んでいる場合と、共働きでないと生活が成り立たない場合があるかと思います。現状ではおそらく後者の方が多いかと思いますが、そうなると少しでも家事の時間を割り当てられるよう、短縮勤務などは必須かと感じます。男女平等の考え方に異論はありませんが、やはり男性と女性では与えられる役割に違いがあるのもまた事実です。全てを平等にするよりも、企業が社員の家事や育児、介護など各家庭の問題に寄り添いながら気持ちよく働ける社会作りができれば理想なのかなと感じています。
男性	45 歳～49 歳	会社役員・経営者	長野市は子どもの人口減に対しての取り組みをすることが先だ。女性も活躍したい人とそうでなく働かないと生活できない方があり、後者が圧倒的多数だ。働かなくても成人するまでの行政のサポートであれば、働かずに子育てに集中できる。無理に女性を共同参画で仕事に引っ張り出さずに、女性の持つ感性が活きる分野で活躍して貰えばいい。男性は子どもを産めない。女性は重い物を持つことが苦手だ。父性と母性も違う。共同参画はまだしも、平等は無理だ。それぞれの特性や感性を活かして、働く場、活躍する場があればいいだけで、行政がとやかく言う事じゃない。長野を出れば戻って来ない子どもが多い。仕事、賃金等々。給料が安くて、子どもを育てる為に女性も働きに出ているだけで、女性の社会進出は人口減による労働力不足をごまかす為のまやかしだ。本当に頑張っている女性の活躍と一緒にせず、民間に任せればいい。子どもを増やす政策を主導し、実行して欲しい。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	45 歳～49 歳	会社役員・経営者	女性活躍推進と共に、男性の社会的負担増や、サポートが重要視されていない。これでは少子化は避けられず、無気力な男性若者が増える。男女の役割やバランスというものも科学の知見から深く考えていくべきであり、今のやり方や世の中の方向性を見ると不安でもある。
男性	45 歳～49 歳	会社役員・経営者	まずは男女問わず経済的安定が必須だと思います。安心できる環境がなければ、自分自身を大切にできず、主体的に行動もできません。それができた上で主体的に関われる環境ではないでしょうか。この度はこの様な機会を頂きありがございます。私なりの回答させて頂きました。男女共同参画やワークワイフバランスなど様々な考えがあると思いますが、やはり先行きが不透明な現社会、経済的不安の内では、積極的な変化をなかなか受け入れないのでしょうね。地域市町村だけでなく国全体で経済が上向きになることを期待し、私自身も日々微力ながら、社会貢献して参りたいと思います。ご苦労様です。
男性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	企業、地域団体で男女共同参画や女性活躍等に取り組んでいるところが優遇される制度の推進を期待したい。人口規模の小さいムラ社会ほど、変革を強化していく必要がある。そのためには外からの働きかけを増やしていく必要があると思う。
男性	45 歳～49 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	実態として男女平等より女性優遇な政策なだけで、本来の女性への働き方とはやや異なる（一部の力強い声だけを取り入れた政策になっている）。
男性	45 歳～49 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	このアンケートについて年代別に、ある程度のデータの偏りがあると思います。その偏りや相関関係をもとに、今の長野市に必要な課題を順序立てて、行政主導で進めていただければと思います。 また、特定の施設に協力いただき、現場の声に寄り添った共同参画および活躍推進となることを願っています。
男性	50 歳～54 歳	自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）	質問に対する選択肢自体があまり男女の平等について、自らできていない人か作ったものに見えます。
男性	50 歳～54 歳	会社役員・経営者	地区行政に女性の参加が少ない気がします。女性が参加しやすい、したくなる様な環境作りが大事では。
男性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	育児休職制度がある会社が長野市内でどのくらいあるか？二人、三人と子どもが欲しい時、今までの会社のキャリアを続けていかれる職場環境があると良い！
男性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性が積極的にリーダーとなるような場を作ってほしい。実際に女性が先頭に立ちたいと思えるように。
男性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	社会への関わり方は人それぞれ考え方があると思います。私の職場での話ですが、自分の仕事には責任を持って対応して欲しいのですが、少しややこしいことになると「私は女性だからここまで頑張って仕事をする必要は無い」と考えている素振りが多くみて取れます。私自身は性別などに関わらず自分の能力を自分の好きな様に発揮できる社会がもっとも望ましいと考えており、本当に男女平等を実現する為には結局は個々の意識改革が最も重要だと思います。
男性	50 歳～54 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	「男女共同参画」について、女性に向き合う働きが重要なのはもっともだが、男性の私としては、この話題が「女性をもっとこうしないといけない」といわれているよう感じる。もっとフラットに、慣習であった女性の立ち位置に、男性が自然と同じ位置に立てるように意識できるようになれたらよいと思う。（女性の引き上げによる底上げでなく、ならし）
男性	55 歳～59 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	こういうアンケートをするべきか？ この内容で本当によいか? を精査したほうがよいと思います。前提を決めつけている傾向にあり、設問の多くが意識強要『思想ハラスメント』に該当しています。
男性	55 歳～59 歳	無職	スマホ（AI）中心の個の生活時代、他を思いやる心や気持ちを育めるようになる社会づくりをしないと変わらない。
男性	60 歳～64 歳	自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆	問 19 で述べたように、国家議員をはじめ、地方議員、マスコミ、そして社会全体が目先の利益や自己都合に走り、国家の大局を見通す力を持つ人材・偉人が少なくなった。本来、完璧な社会やシステムを短期間で実現することは不可能であるにもかかわらず、聖人君子を気取って重箱の隅をつつ

性別	年齢	職業	記入内容
		業、芸術家など）	くような姿勢が国全体にはびこっている。民主主義は概ね正しい仕組みだが、資本主義とセットで考える現状には修正が必要である。今の資本主義は、金権主義・利己主義・我田引水・ごね得を容認し、戦前に存在した互助互恵の精神が乏しく、弱者が割を食う構造になっている。そのため、資本主義を見直した「新しい資本主義」が求められる。イスラム社会や社会主義は誤っているように見えるが、どの社会も本来、生まれながらの差はなく、本人の才能や努力を認める仕組みを持っている。むしろ、民主主義が学び、尊重すべき点も存在する。男女の問題についても同様である。過剰な女性優遇には勘違いによる弊害が生じる一方、歴史的に染み付いた男尊女卑の価値観や制度の変容は確かに必要である。一例として、陸運事務所での申請手続きは、ほぼ三文判が不要になった。マイナンバー制度が機能し始めている以上、日本のハンコ文化についても取捨選択を進め、紙文書の低減、業務の効率化と経費の有効活用を図るべきである。そのうえで、浮いた予算を母子家庭、女性、高齢者、子どもなど、社会的弱者の支援へ回す発想が必要である。
男性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	長野市の HP は何かを調べるのに手間がかかり、調べづらい。
男性	60 歳～64 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男女の体格等の違いがある（出産は女性しかできない）ことを前提として何でも全て平等にというわけにはいかないと思うし、そのような意見には共感できない。ただ、男であれ女であれ、その人が「望み」、「行動」することを制限するようなことがあってはならないと考える。個人差だってあるのだから、全ての人が自分の望む生活、人生が送れるよう支援すべきと思う。
男性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	八十二銀行や信毎など、男しか代表にならない。女の人が家事をやって当然というCMを平気で流す。信毎は嫁が介護することを当然の美談として差別をつないでいく。何より若者を偏見だらけの長野県に縛り付けて、老人がやり散らかした後始末を押し付けようとする（長野県に帰ってこいという）のをやめさせる。そしてアンケートやっても、こういう意見はなかったことにされるのでしょう（アンケートとったというアリバイ作りに使われるだけ）。
男性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	労働不足の場所に、活躍できる職場の労働環境の改善し、人手不足の職場を減らす。社会全体の労働力強化。
男性	60 歳～64 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	権利と義務は表裏一体を周知することです。権利ばかり主張しても困ります。外国人施策も必要ですが、日本人がまず第一です。税金をきちんと納めているものがサービスを受けられる行政を期待します。
男性	65 歳～69 歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性、男性関わらず、個人の能力で生きる。働かざる者食うべからず。
男性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	行政も含めて各職場において、「ロールモデル」となるような女性をたくさん輩出して、若い女性スタッフが憧れるようになればと思います。
男性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	アンケート結果が生かされることを願っています。
男性	65 歳～69 歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	自治会などの行事等が人員不足で活動できなくなっているのが現状です。女性の方の積極的な参加を望みます。男性がすることという意識を変えていくような取り組みをして。お願いします。
男性	65 歳～69 歳	無職	男でも女でも活躍できる場所や、時があればいいと思う。共同参画にこだわる必要はない。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	65 歳～69 歳	その他	お互いの事、家庭、地域に気持ちが向くようすべてのこと（仕事、PTA 活動、地域活動）を削減していくというスタンスが基本。とにかく「やり過ぎ」が諸悪の根源なので、「やめる、やらない」を市が積極的に進めるべきだと思います。

令和８年９月発行

発行　　長　野　市

編集　　長野市地域・市民生活部　人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地　電話 026（224）5032（直通）

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計　　協同組合長野シーアイ開発センター